基本計画書

	基		本			計	画		
事	項		記		入		欄	備	考
計	画の区分	学部の学科	の設置						
フ 設	リ ガ ナ 置 者		カシン オオサカキョウイクタ		7				
フ	リ ガ ナ	オオサカキョウイクタ゛	የ ታ ን						
大	学の名称	大阪教育大	学(Osaka Kyo	oiku U	University)				
大	学本部の位置	大阪府柏原	市旭ヶ丘四丁	目69	8番地の1				
大	学 の 目 的	大阪教育大学 有為な教育者				あい学識と豊か	な教養をもつ人材特に		
新	設学部等の目的	の学校教員と て、探究心を 児・児童・生 とする。	して求められる もって新しい知	る基礎 印識や	性的素養と、常 ○技能を学び、	△校教育を取り 子どもの多様	姿勢を有し、これから 巻く環境の変化に応じ 性の理解のもと、幼 を養成することを目的		
	新設学部等の名称	修業 入学 年限 定員	編入学 収録 定 員 定		学位又 は称号	開設時期及 び開設年次	所 在 地		
	教育学部 [Faculty of Education]		年次人	人	(47) 万	年 月 第 年次			
新設学部	学校教育教員養成 課程 [Courses for School Teachers]	4 480	- 1	.920	学士 (教育学) 【Bachelor of Education】	令和6年4月 第1年次	大阪府柏原市旭ヶ丘四 丁目698番地の1 及び 大阪府大阪市天王寺区 南河堀町4番88号		
等の概要	学校教育教員養成 課程(夜間) [Courses for School Teachers(Evening Course)]	5 40	3年次 25	275	学士 (教育学) 【Bachelor of Education】	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	大阪府大阪市天王寺区 南河堀町4番88号		
	計	520	3年次 25 25	2195					
変	一設置者内における 更 状 況 定員の移行,名称の 更 等)	初等教育教員系 ※令和6年4月 (3年次編入 学校教育教員系 学校教育教員系		(廃. ・3年) 年4月 削 〔定 ₂	次編入学) ((5) (5) (6) (7) (7) (7)		
	新設学部等の名称		開設する授	_			卒業要件単位数		
教育		講義	演習	_	験・実習	計			
課程		485 科目	271 科目		110 科目	866 科目	124~138 単位		
	教育学部学校教育教員養成課程(夜間)	100 科目	49 科目	1	13 科目	162 科目	124 単位		

					<u> </u>			市	任教員等	Ţ.			兼任	<u> </u>
		学部	等の	名 称		教授	准教授	講師			計	助手	兼 任 教員等	
教員	新	教育学部学校	教育教	員養成課程		人 58 (63)	人 36 (37)	18 (18)	人 0	人	人 112 (118)	0 (0)	人 302 (302)	
組	設	教育学部学校	教育教	員養成課程	(夜間)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	0 (0		11 (11)	0 (0)	79 (79)	
織	分		章	†		61 (66)	41 (42)	21 (21)	0		123 (129)	0 (0)	(-)	
の	既	教育学部養護	教諭養	成課程		4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0		7 (7)	0 (0)	154 (154)	
概	設	教育学部教育	嘉働学	科		44 (47)	24 (24)	7 (7)	0 (0		75 (78)	0 (0)	285 (285)	
要	分		i i	+		48 (51)	26 (26)	8 (8)	0 (0		82 (85)	0 (0)	(-)	
		合		計		109 (117)	67 (68)	29 (29))	205 (214)	0 (0)	(-)	
		職		種		専	任		兼	任		言		
教員以		事 務		職	員		151 (151)	人	86 (86	5)	人	23 (23	37)	
外の		技術		職	員		9 (9)		5 (5)		1 (1	4)	大学全体
職員の		図 書 館	専	門 職	員		9 (9)		14	1)		2 (2	3)	
概要		そ の 他	<u>h</u> 0	か職	員		1 (1)		(2:)		(2	2)	
			計				170 (170)		12 (12	6)		29 (29		
校		区 分		専	用	共			共用す。 学校等(の専用		Î		大学全体
		校舎敷地			9, 161 m²			m²) m²		29, 161 m²	
地		運動場用地			7, 723 m ²			m²) m²			借用面積: 2,409㎡
		小 計			6, 884 m²			m²) m²		36, 884 m ²	借用期間:1年
等		その他			9, 785 m ²			m²) m²		79, 785 m ²	(毎年更新)
		合 割	r	—————————————————————————————————————	6,669 ㎡ 用	共	用	m²	共用する	る他の			16, 669 m² †	
	1	交 舎	ŀ		1, 469 m ²			m²	学校等) m²			大学全体
					8, 742 m²)		(0r				m²)		78, 742 m ²)	
		講義室		演習		実験	室腎実		f報処理:			語学学		
教皇	室等	1	125 室		16 室		154	室 (*	補助職員		全 () (補助職員	2室 到 0人)	大学全体
					新設学部等					室	Ĭ.	数		
専	任	教 員 研 究	-	教育学部学									122 室	
	1			教育学部学	校教育教員 学術雑		程(夜間)	1		I	ı	11 室	
図	新設	学部等の名称		図書 ち外国書〕 冊	〔うち外』		電子ジャ〔うちタ		<i>//</i>	覚資料 点	機械	器具点	標本点	W Im W I = - d i
書・設		学部 教育教員養成		4 [217, 940] 64 [217, 940])	22, 529 [7, (22, 529 [7,		3, 816 (3, 816 (3, 816) :	19, 561) 9, 561)	1	0 (0)	0	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数
備	課程		971, 06	4 [217, 940]	22, 529 [7	, 234)	3,816	3, 816) :	19, 56	1	0	0	
<u> </u>			(971, 00	64 [217, 940])	(22, 529 [7,	234])	(3, 816 () (19	9, 561)		(0)	(0)	
	2]書館		面積	8, 335 m	2	閲覧四			4 Х		可能 502,700	冊数	
				面積	o, 000 III				人外のス	ポーツ			,	大学全体
	包	上 育館			7, 629 m	2	野球						クレー7面)	
						-								

		区分	開	設前年度	第1年	欠 第 2	年次	第3年	次 第 4	年次	第5年次	第6年次	
	経費	教員1人当り研究	_		_	-	_		-	_	_	_	
経 費				$\overline{}$	_	-	_	_	-	_	_	_	
見積	り積り	図書購入		_	_	-	_	_	-	_	_	_	
及 技 方	維 法	設備購入	費	_	_	-	_	_	-	-	_	_	国費による
の概		E1人当り	第1年		第2年次	第	3年次	第	4年次	第5年	年次	第6年次	
	j	納付金	_	千円	- 千	·円	- 千	円	- 千円		千円	- 千円	
		上納付金以外の			Ę				_				
	大 学	の名称		教育大学	الاد الم		314	/ -	<u> </u>	BB ≥n.	_		
	学部	等の名称	修業 年限		編入学 定 員	収容 定員		位又 称号	定 員超過率	開設 年度	所	在 地	
			年	人	年次	人			倍			原市旭ヶ丘 98番地の	
					人						1		
											攻) 大阪	程及び専 府大阪市天 河堀町4番	
	教育学部	ß							1.02				
	4T1 878 ±44	· 本业是美上细和	,	CO	0	0.40	224 1	(*L->-)\(\dagger)	1 05	T -400 F F	. * o /= *	- 1- In	
	初寺教	育教員養成課程	4	60	0	240	子士((教育学)	1.05	平成29年度	※3年沙	くより	
	初等教育	教員養成課程 (夜間)	5	40	3年次 25	275	学士((教育学)	0. 97	平成29年度	*		
	学校教	育教員養成課程	4	420	0	1680	学士((教育学)	1.03	平成22年度	Ē		
既	養護教	汝諭養成課程	4	30	0	120	学士((教育学)	1.00	昭和51年度	E		
設	教育協	岛働学科	4	350	0	1400	学士 ((教育学)	1.01	平成29年度	Ē		
大学等	特別支持	爰教育教員養成課程	4	_	-	_	学士((教育学)	-	昭和63年度	Ę		平成29年度より 学生募集停止
の 状	教養等	学科	4	_	-	_	学士	(教養)	-	昭和63年度	E		平成29年度より 学生募集停止
況	第二部人	小学校教員養成課程	5	-	-	_	学士((教育学)	-	昭和29年度	*		平成29年度より 学生募集停止
													于工务采行工
	教育学研	开 空科											
	高度教	育支援開発専攻	2	50	0	100	修士((教育学)	1.06	令和3年度	₹ ※ 柏原及	び天王寺	
	健康和	斗学専攻	2	-	-	-	修士	(学術)	-	平成5年度	*		令和3年度より 学生募集停止
	芸術式	大化専攻	2	_	_	_	修士	(芸術)	_	平成7年度	Ē		令和3年度より
													学生募集停止
	連合教職	线実践研究科											
	宣帝 类	效職開発専攻	2	150	0	300	老行的4.6%	:(専門職)	0. 72	亚战97年单	- ※抗百刀	なび天王寺	
	同及名	双眼用光导火	Δ	190	U	300	学 义和联刊参 1	_ (守门嘅)	0.72	十八27年月	が他界が	くい人工ザ	

制制 教育基本法 (昭和22年法律第25号) 及び学校教育法 (昭和22年法律第26号) に基づいて、それぞれ学校教育を行い、学部・大学院等における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、学生の教育実習の実施に当たる。

名称		設置年月		莫等
2H 41,	// LL/U	₩ L T / 1	土地	建物
附属天王寺小学校	大阪府大阪市阿倍野区松崎町1-2-45	昭和26年4月	11, 735 m²	6, 086 m²
附属池田小学校	大阪府池田市緑丘1-5-1	昭和26年4月	25, 464 m²	8, 813 m²
附属平野小学校	大阪府大阪市平野区流町1-6-41	昭和26年4月	28, 028 m²	6, 313 m²
附属天王寺中学校	大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88	昭和26年4月	(天王寺 キャンパス	13, 092 m²
附属高等学校(天王寺校舎)	>√18×113 /√18×1111 /√1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	昭和31年4月	に含む)	10, 032111
附属池田中学校	大阪府池田市緑丘1-5-1	昭和26年4月	.53 101 m²	14, 539 m²
附属高等学校(池田校舎)		昭和31年4月	55, TOT III	14, 009 III
附属平野中学校		昭和26年4月		12, 045 m²
附属高等学校(平野校舎)	大阪府大阪市平野区流町2-1-24	昭和47年4月	31, 938 m²	12, 040111
附属幼稚園		昭和26年4月		1,816 m²
附属特別支援学校	大阪府大阪市平野区喜連4-8-71	昭和41年4月	10, 357 m²	3, 548 m²

(注)

附属施設の概要

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合,「計画の区分」,「新設学部等の目的」,「新設学部等の概要」,「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず,斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとすること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「一」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人 大阪教育大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
大阪教育大学			
教育学部			
初等教育教員養成課程	60	3年次	240
初等教育教員養成課程(夜間)	40	25	275
学校教育教員養成課程	420	-	1,680
養護教諭養成課程	30	-	120
教育協働学科	350		1,400
計	900	25	3, 715
大学院教育学研究科			
高度教育支援開発専攻	50	-	100
大学院連合教職実践研究科			
高度教職開発専攻	150		300
計	200		400

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	 令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
				大阪教育大学				
				教育学部				
	60	-	240	初等教育教員養成課程	0	-	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
		3年次						
間)	40	25	275	初等教育教員養成課程(夜間)	0	0	<u>0</u>	令和6年4月学生募集停止
								3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止
	420	-	1,680	<u>学校教育教員養成課程</u>	<u>480</u>	-	<u>1,920</u>	学部の学科の設置(届出)
				************************	40	3年次	055	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
				<u>学校教育教員養成課程(夜間)</u>	<u>40</u>	<u>25</u>	<u>275</u>	学部の学科の設置(届出)
	30	-	120	養護教諭養成課程	30	-	120	
	350	_	1,400	教育協働学科	350	_	1,400	
	900	25	3,715	計	900	25	3,715	
				大学院教育学研究科				
	50	_	100	高度教育支援開発専攻	50	_	100	
				大学院連合教職実践研究科				
	150		300	高度教職開発専攻	150	_	300	
	200		400	<u></u> 計	200		400	
				~,				

		 教 育	課	程		等		の		根			日本 <u>原</u> 要	主業規	R格A	4 縦型)
(教育	育学部学校 <u>教</u>	(教) 月 (育教員養成課程)		任王						你				(柏)	原キャ	ンパス)
					単位数	ζ	ž	受業形			専任教	数員等(の配置	1		
	科目	₩₩₩₩₩₩₩	#1 \V /r: \Va	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		/## # z .
	区分	授業科目の名称	配当年次						•		教					備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
教	導入科目	大学入門ゼミ	1前	1			0			17	8	7			兼1	
髪 数		小計(1科目)	_	1	0	0		_		17	8	7	0	0	兼1	
教育科基盤教		日本人の宗教観	1・2・3・4前		1		0								兼1	
3 PXX	術)	平安朝文学世界への誘い コンサートへの誘い	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		1		0								兼1	# 🖪
· 養科		和歌の表現世界を知る	1・2・3・4削		1 1		0	0							兼6 兼1	共同
目		読むための視点	1・2・3・4後		1		0								兼1	メディア
		ドイツ文学を読む	1 · 2 · 3 · 4前		1		0								兼1	
		芸術理論:フランス近代美学から	1 · 2 · 3 · 4後		1		0								兼1	
		民族と音楽:東南アジアを中心に	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		比較文学論	1・2・3・4後		1		0								兼1	
	N m3 0.461 0	ヨーロッパーフランスの窓から	1 · 2 · 3 · 4後	_	1		0								兼1	
	分野別科目 (国際と地	日本事情	1・2・3・4前		1		0								兼1	
	域)	国際関係論入門 Facilitate Westld I	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前 · 後		1 1		0								兼1 兼1	
		English World I English World II	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World III	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World IV	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World V	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World VI	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World VII	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World VIII	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World IX	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World X	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		世界の教授法・世界の教科書	1・2・3・4前		1		0			6					兼3	オムニバ
		日本古代文化史I 日本古代文化史II	1·2·3·4前 1·2·3·4前		1 1		0								兼1 兼1	
		日本近代文学読解入門I	1・2・3・4削		1		0								兼1	
		日本近代文学読解入門II	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		経済の目で見る地域と暮らしI	1・2・3・4前		1		0								兼1	
		経済の目で見る地域と暮らしII	1・2・3・4前		1		0								兼1	
		多言語実践プロジェクト	1・2・3・4後		1		0								兼2	
	分野別科目 (歴史と社	日本国憲法	1・2・3・4前・後	2			0								兼3	メディア
	会)	部落問題概論	1 · 2 · 3 · 4前		1		0				1					
		日本科学技術史概論	1・2・3・4後		1		0								兼1	
	分野別科目	近現代外交史 ダイバーシティと人権	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前 · 後	_	1		0				1				兼1	メディア
	(人間と生		1・2・3・4前・後	_	1		0				1				兼3 兼1	メ ソイノ
	活)	現場に活かすスポーツ実践論	1 • 2 • 3 • 4前		1		0								兼1	
		健康科学への招待	1・2・3・4前		1		0									オムニバ
		生活環境をさぐる	1 · 2 · 3 · 4後		1		0								兼4	オムニバン
		対人コミュニケーションの心理学	1・2・3・4後		1		0								兼1	メディア
		経済教育実践論	1・2・3・4前		1		0								兼1	
	分野別科目 (生命と環	生命と共生	1・2・3・4前		1		0								兼1	
	境)	地球と火舌	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		DNAを中心とした生命科学	1・2・3・4後		1		0								兼1	メディア
		地球と環境 ミクロの生物学入門	1·2·3·4後 1·2·3·4後		1 1		0								兼1 兼1	
		生物学と医学の出会い	1・2・3・4仮		1		0								兼1	
		暮らしの環境と地図	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		生物観察入門	1・2・3・4前		1		0								兼1	
	分野別科目	ベクトルとその応用を理解する	1 · 2 · 3 · 4前	_	1		0								兼1	
	(数理情報 と自然)	はかってなんぼー学校編	1・2・3・4前		1		0								兼1	メディア
	C 11 377)	科学常識を考える	1・2・3・4前		1		0								兼1	
		科学の基本	1・2・3・4後		1		0			1						
		体験しよう!かがく実験	1・2・3・4後		1		0								兼1	
I		論理と数理パズルI	1 • 2 • 3 • 4前	I	1	l	0	l							兼1	メディア

育	学部学校教	教 育 育教員養成課程)	課	程		等		の		根	Ŧ.	5	更	(柏「	原キャ	・ンパス
· 17	7 10 7 10 70	,			単位数	ζ	ž	受業形	į.		専任教	数員等の	の配置	(141	3	27.1%
	科目		777 No 6-24	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		144a - 444
	区分	授業科目の名称	配当年次						•		教					備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		論理と数理パズルII	1 · 2 · 3 · 4前		1		0								兼1	メディ
		データサイエンス入門	1・2・3・4後		1		0								兼1	
	分野別科目	AIとデータサイエンス キャリアデザイン	1・2・3・4後		1		0	*		-					兼1	※演習
	(教育と	教職キャリア形成論	1·2·3·4前·後 1·2·3·4後		1		0			1					兼1	メディ
	キャリア)	学校教育と著作権	1 · 2 · 3 · 4前		1		0			1					兼1	
		教育科学の基礎	1・2・3・4前		1		0				1					
		ことばと教育	1・2・3・4後		1		0			1						
		国際理解教育	1・2・3・4前		1		0								兼1	
		人間と道徳	1・2・3・4前		1		0			1					26. 1	
		教員のための数学 環境教育論	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		1 1		0			1					兼1	
		消費者教育論	1・2・3・4前		1		0			1					兼1	
		表現教育	1 • 2 • 3 • 4前		1			0		1	1				兼1	共同
		遊びとスポーツ	1・2・3・4後		1		0			1	1					
		教職実践論	1・2・3・4前・後		1		0			1						
		知的財産教育論	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		子どもの多様性と教育	1・2・3・4前		1		0			2	2				兼3	オムニ
		ことばの獲得と学習支援 探究型学習の実践と研究	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4後		1 1		0			1					兼3 兼2	オムニ 共同
		地域連携・人権フィールド入門	1·2·3·4版 1·2·3·4前		1		0			1	2				兼1	共円
		演劇的手法によるコミュニケーション演習I			1			0		1	_				兼1	
		演劇的手法によるコミュニケーション演習II	1・2・3・4前		1			0		1					兼1	
		企業と連携した専門職業人養成講座	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		大学生のための金融経済リテラシー	1 · 2 · 3 · 4後		1		0								兼1	
		アクティブ・ラーニング入門	1・2・3・4前		1		0	*		3	1				兼2	※演習、オム
	分野別科目	課題探究型STEAM教育 海外文化研究	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		1		0	0		1	2				兼1	
	(多様性と	「障害」者と人権	1・2・3・4前・後		1		0			1					兼1	メディ
	共生社会)	ジェンダーとセクシュアリティ	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	メディ
		共生社会論	1・2・3・4前		1		0								兼1	
		国際理解	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		多文化共生の社会をめざして	1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		外国人児童生徒教育	1 · 2 · 3 · 4後	3	1	0	0	_		1.5	10	0	0	0	兼2	
グ	英語	小計 (89科目) 英語 (T) Ia	 1前	1	87	0		0		15 1	10	1	0	0	兼77 兼4	
口	, ,,,,,	英語 (T) Ib	1後	1				0		1	1	2			兼4	
バ		英語 (T) IIa	2前・後	1				0		2					兼2	
ルサ		英語(T)IIb	2後		1			0							兼1	
教育	ドイツ語	ドイツ語Ia	1前		1			0							兼4	1
科目		ドイツ語Ib	1後		1			0							兼4	
Н		ドイツ語IIa ドイツ語IIb	2前 2後		1			0							兼1 兼1	
	フランス語	フランス語Ia	1前		1			0		 					兼4	
		フランス語Ib	1後		1			0							兼4	
		フランス語IIa	2前		1			0							兼1	
		フランス語IIb	2後		1			0		<u> </u>					兼1	
	中国語	中国語Ia	1前		1			0							兼6	
		中国語Ib	1後		1			0							兼6	
		中国語IIa 中国語IIb	2前 2後		1 1			0							兼1 兼1	
	外国語コ		4100		1										W.T	
	ミュニケー ション	外国語コミュニケーション	2前・後	2				0				1			兼3	
	韓国語	韓国語Ia	1前		1			0							兼1	
		韓国語Ib	1後		1			0							兼1	
		静団託 II。	0 =		1											
		韓国語IIa 韓国語IIb	2前 2後		1 1			0							兼1 兼1	

(#	· 李尚如尚拉粉	教 育 育教員養成課程)	課	程		等		の		根	ŧ	5	要	/ 	百七 にいいパフ	
(名	(百子部子校教			1	単位数	r	*	受業形]	能	1	恵任老	数員等の	の配置	(什么)	原キャンパス	.)
					十匹勿		1.	X-X-11/1	実		41174	X A T				
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准数	講	助	助	備考	
	四月			修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手		
									習							
	体育科目	小計 (22科目)	1 **:	6	17	0				2	1	2	0	0	兼24	
	件月行日	スポーツ実技a スポーツ実技b	1前 1後	1 1					0	2	3	1 1			兼10 共同 兼11 共同	
		小計 (2科目)	一	2	0	0	1	_	O	2	3	1	0	0	兼12	_
	情報活用科目	情報活用基礎Ⅰ	1前	1	Ť	_		0		1	2	1			兼12	
		情報活用基礎II	1前	1				0		1	2	1			兼12	
		情報活用基礎III	1後	1				0		11	4	3			兼3	
+/1.	*/. ##\ +* ##\ *\	小計 (3科目)	_	3	0	0		_		12	6	4	0	0	兼15	
教職	教職基礎科目	特別支援教育の実践	1前・後		1		0			1	1	2			兼2	
教		人権教育の基礎	2前・後	1	1		0			2	1				¥ :1	
育科		発達障害教育論 小・中一貫教育概論	2前 3前		1		0			3					兼1	
目		人権教育の実践	3後		1		0			1						
群		小計(5科目)	-	1	4	0	Ť	_		4	2	2	0	0	兼3	\neg
	教職専門科目	教育総論	1前・後	1			0			1					兼4	
		教職へのとびら	1前	1			0			15	7	7			兼1 オムニハス・##	(-#g)
		発達と学習の心理学	1前・後	2			0			1	1				兼3	
		特別支援教育の基礎	1前・後	1			0			1	1	2			兼2	
		学校の役割と経営	2前・後	1			0			4					兼1	
		学校安全	2前・後	2			0								兼4	
		教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)	2後		1		0				2				兼2	
		教育方法論 ICT活用の理論と方法	2後 2前・後		1 1		0				2 2	2			兼2 兼1	
		生徒指導論	2前・後		1		0					4			兼4	
		進路指導論	2前・後		1		0								兼4	
		道徳教育論	3前・後	2			0								兼3	
		総合的な学習の時間の指導法	3前・後	1			0					1			兼1	
		特別活動論	3前・後	1			0					1			兼1	
		教育相談の理論と方法	3前・後	1			0			1					兼2	
		幼児理解と教育相談	1前		2		0			1					兼1	
		幼児教育指導法	2後		2		0				١.				兼1	
		基本小・中学校教育実習 基本小学校教育実習	3通 4通		5 5				0	8	4	3			兼1 兼1	
		基本小子仪教育美習	4通		3				0	8	4	3			兼1	
		基本高校教育実習	3・4通		3				0	8	4	3			兼1	
		併修中・高校教育実習	4通		3				0	8	4	3			兼1	
		基本特別支援学校(特支)教育実習	3通		4				0	8	4	3			兼1	
		基本特別支援学校(聴覚)教育実習	3通		4				0	8	4	3			兼1	
		基本特別支援学校(視覚)教育実習	3通		4				0	8	4	3			兼1	
		併修特別支援学校(特支)教育実習	4通		3				0	8	4	3			兼1	
		教職実践演習(小・中・高)	4通	2	40	0		<u> </u>		56	33	17		0	*** *****	
	フラッグシップ	小計 (27科目) ダイバーシティと教育	 1前	15 1	43	0	0	_	1	58 2	34 5	18	0	0	兼30 兼1 メディ	ア
	指定科目	現代社会と子どもの権利	1前	1			0			4	1				兼1 メディ	
		多様な子どもとインクルーシブ教育	1前・後	1			0			4	3	2			兼1 メディ	
		外国人の子どもの理解と支援	1前・後	1			0			_					兼1 メディ	
		教職のための省察入門	1前	1			0			7	4	2			兼1	
		教科横断と探究学習I	2前		1		0			1		1			兼2	
		教育データの活用I	2前		1		0			1		1				
		ファシリテーターとしての教員I	2後		1		0			1		1			兼1	
		学習者中心の授業デザインI	2後		1		0			1	1				兼1	
		教職専門性と省察	2通	1	1		0				1	l .			24.0	
		教科横断と探究学習II	3前		1		0			1		1			兼2	
		教育データの活用II ファシリテーターとしての教員II	3前 3後		1 1		0			1 1		1 1			兼1	
		学習者中心の授業デザインII	3後		1		0			1	1	1			兼1	
		小計 (14科目)	- Jily	6	8	0		_	<u> </u>	18	11	6	0	0	兼7	_
	保育内容指導法		2後	<u> </u>	2		0				İ				兼1	\neg
	科目	環境の指導法	2前	1	2	I	0			I					兼1	

 为育学部学校教	教 育 『育教員養成課程》	課	程		等		の		根	¥	3	要	(本白 「	原キャ	, ンパス)
以日子叩子仪的	日 扒 貝 皮 灰 杯 性 /			単位数	t	ž	受業形	態		専任教	数員等(の配置	(10)	л · г	·
科目				\	-1-	-44	\.	実	101	×//	-44	n!	n.i		
区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
	表現の指導法Ⅰ	2通		1		0	*	B						兼2	※演習、オムニ
	表現の指導法II	2後		1		*	0		1						※講義
	人間関係の指導法	2前		2		0			2					兼3	オムニバ
	言葉の指導法	2前		2		0								兼1	
初等教科教育法	小計 (6科目)	- o o # %	0	10	0			1	3	0	0	0	0	兼8	
科目	初等国語科教育法(書写を含む。) 初等社会科教育法	2・3前・後 2・3前・後		1 1		0			1 2		1			兼1 兼2	
	算数科教育法	2・3前・後		1		0			4	1				兼3	
	初等理科教育法	2・3前・後		1		0			1	1	1			AICO	
	生活科教育法	2前・後		1		0				1				兼1	
	初等音楽科教育法	2・3前・後		1		0				2	1			兼1	
	図画工作科教育法	2・3前・後		1		0			1	1				兼2	
	初等家庭科教育法	2・3前・後		1		0			1					兼3	
	体育科教育法	2・3前・後		1		0			1	5	2			37	オムニノ
	初等英語科教育法 小計(10科目)	2・3前・後	0	1	0	0	L		9	10	6	0	0	兼2	
中等教科教育法	小計 (10科日) 中等国語科教育法I		0	10	U	0	<u> </u>		2	10	U	U	0	兼15	
科目	中等国語科教育法II	2後		2		0			2						
	中等国語科教育法III	3前		2		0			1						
	中等国語科教育法IV	3後		2		0			1					兼1	
	中等英語科教育法I	2前		2		0			2						
	中等英語科教育法II	2前・後		2		0			2						
	中等英語科教育法III	3前		2		0			1						
	中等英語科教育法IV	3前		2		0					1				
	中等社会科(地歴)教育法I	2前		2		0			1						
	中等社会科(公民)教育法II	2後		2		0								兼1	
	中等社会科(地歴)教育法III	3前		2		0			,					兼1	
	中等社会科(公民)教育法IV 数学科教育法I	3後 2前		2 2		0			1					兼2	
	数学科教育法II	2後		2		0			1					兼2	
	数学科教育法III	3前		2		0			1					AK2	
	数学科教育法IV	3前		2		0								兼1	
	中等理科教育法I	2前		2		0					1				
	中等理科教育法II	2後		2		0			1						
	中等理科教育法III	3前		2		0								兼1	
	中等理科教育法IV	3後		2		0					1				
	保健体育科教育法I	2前		2		0					1				
	保健体育科教育法II	2後		2		0					1				
	保健体育科教育法III	3前		2		0				1					
	保健体育科教育法IV 技術科教育法I	3後 2前		2 2		0				1 1					
	技術科教育法II	2後		2		0				1					
	技術科教育法III	3前		2		0			1	1					
	技術科教育法IV	3前		2		0			1						
	中等家庭科教育法I	2前		2		0								兼1	
	中等家庭科教育法II	2後		2		0			1						
	中等家庭科教育法III	3前		2		0			1						
	中等家庭科教育法IV	3後		2		0								兼1	
	中等音楽科教育法I	2前		2		0					1				
	中等音楽科教育法II	2後		2		0				1					
	中等音楽科教育法III	3前		2		0					1				
	中等音楽科教育法IV	3後		2		0	\•/			1					् अ± तत
	美術科教育法I	2前		2		0	*		1	1					※演習
	美術科教育法III 美術科教育法III	2後 3前		2 2		0			1	1 1					
	美術科教育法III 美術科教育法IV	3制 3後		2		0			1	1					
	書道科教育法I	3前		2		0			1	1					
	書道科教育法II	3後		2		0			1						
	情報科教育法I	3前	1	2		0		I	II ^	I	1				

(考	数音学部学 参数	教 育 『育教員養成課程》	課	程		等		の		根	ŧ	3	更	(杜 「	原キャ	ンパス)
\4	人日子明子汉教	□ 办只及/AMI±/			単位数	(掺	受業形!	ik		専任教	対員等の	の配置	\u00e4	W 1 1	J. 17/
	科目			21	\##.	<u> </u>	>##)r#2	実	+/.	VI.	>#r	nt.	nı.	1	
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		情報科教育法II	3後		2		0		Н	1	1					
		工業科教育法I	2後		2		0								兼1	隔年
		工業科教育法II	2後		2		0								兼1	隔年
	MALLE A L	小計 (46科目)	_	0	92	0		_		14	6	5	0	0	兼11	
	学校インターン シップ科目	教職インターンシップI	2通		2				0	8	4	3			兼1	
		教職インターンシップII 特別支援学校インターンシップ	3通		2 2				0	8	4	3			兼1	
		連携協働活動演習	3通 4通		1			0	0	8	4	3			兼1 兼10	
		幼児教育インターンシップ	2通		2				0	1	4	J			兼1	共同
		学校インターンシップ体験	2通		2				0	4	2				兼1	719
		小計 (6科目)	_	0	11	0		_		11	6	3	0	0	兼11	
専	幼稚園教育専門	幼児教育実践総論	1前	Ť	2		0			1				-	兼3	オムニバス
攻専	科目	ピアノ表現演習I	1前		1				0		1				兼1	
門		ピアノ表現演習II	1後		1				0		1				兼1	
科		表現指導基礎演習I	2前		1				0		1				兼1	オムニバス
目群		表現指導基礎演習II	2後		1				0		1					
- 11		幼児教育研究調査法I	2前		1		0	*		1						※演習
		幼児教育研究調査法II	2後		1		*	0		1						※講義
		就学前の教育学	2後		2		0			1					兼2	オムニバス
	经代本组列口	小計(8科目)	_	0	10	0		_		2	1	0	0	0	兼7	
	領域専門科目	幼児と健康	1前		1			0		1					兼2	オムニバス
		幼児と人間関係	1後		1			0		2	,	1			兼2	オムニバス
		幼児と環境 幼児と言葉	1後		1			0		1	1				兼2	オムニバス
		幼児と言葉 幼児と表現I	1前 1後		1 1			0		1	1				兼2	オムニバス
		幼児と表現II	1後		1			0		1	1					
		小計 (6科目)	- T (X	0	6	0		_		4	2	1	0	0	兼8	
	小学校教科専門	国語(書写及びICTの活用を含む。)	1・2前・後	1			0			3		-		-	兼1	
	科目	社会(ICTの活用を含む。)	1・2前・後	1			0			5	1				兼3	オムニバス
		算数(ICTの活用を含む。)	1・2前・後	1			0			2					兼1	
		理科 (ICTの活用を含む。)	1・2前・後	1				0		1		2				
		生活 (ICTの活用を含む。)	1・2前・後	1							1	1				※演習
		(IN/NO D 00 /		-			0	*				1				次(供百
		音楽(ICTの活用を含む。)	1・2前・後	1			0	*			1	1			兼2	次便百
			1・2前・後 1・2前・後					*	0	1					兼2 兼2	
		音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。)	1・2前・後 1・2前・後	1				*		1 3					兼2 兼2	オムニバス
		音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。)	1・2前・後 1・2前・後 1・2後	1 1			0		0	3					兼2 兼2 兼3	
		音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。)	1・2前・後 1・2前・後	1 1 1 1			0	*		3 2	1	1			兼2 兼2 兼3 兼2	オムニバス
	冰	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目)	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後	1 1 1	0	0	0			3 2 17		1 1 5	0	0	兼2 兼2 兼3	オムニバス
	次世代教育専攻 共通科目	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 大計(10科目) 学校におけるICT活用	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 — 1後	1 1 1 1	1	0	0			3 2 17 1	1	1 1 5 1	0	0	兼2 兼2 兼3 兼2	オムニバス
		音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後	1 1 1 1 1 10	1 1		0	0 -		3 2 17 1 1	3	1 1 5 1 1			兼2 兼2 兼3 兼2	オムニバス
	共通科目	音楽 (ICTの活用を含む。) 図画工作 (ICTの活用を含む。) 家庭 (ICTの活用を含む。) 体育 (ICTの活用を含む。) 英語 (ICTの活用を含む。) 小計 (10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計 (2科目)	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後	1 1 1 1	1 1 2	0	0			3 2 17 1 1 1	3 0	1 1 5 1 1 2	0	0	兼2 兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
		音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 大語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後 - 1前	1 1 1 1 1 10	1 1 2		0 0	0 -		3 2 17 1 1 1 5	3	1 1 5 1 1			兼2 兼2 兼3 兼2	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 大語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後 - 1前 2後	1 1 1 1 1 10	1 1 2		0 0 0 0 0	0 -		3 2 17 1 1 1	3 0 6	1 1 5 1 1 2			兼2 兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 大語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後 - 1前	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2		0 0	0 -		3 2 17 1 1 1 5	3 0	1 1 5 1 1 2			兼2 兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 六計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後 - 1前 2後 2前	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2		0 0 0 0 0 0	0 -		3 2 17 1 1 1 5	3 0 6 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 六計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後 - 1前 2後 2前 2前	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2			0 -		3 2 17 1 1 1 5	3 0 6 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽 (ICTの活用を含む。) 図画工作 (ICTの活用を含む。) 家庭 (ICTの活用を含む。) 体育 (ICTの活用を含む。) 英語 (ICTの活用を含む。) 大語 (ICTの活用を含む。) 小計 (10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計 (2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 ダイバーシティと教育行政	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 - 1後 2後 - 1前 2後 2前 2前 2後	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2			0 -		3 2 17 1 1 1 5	3 0 6 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。)	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 2後 2 1前 2後 2前 2前 2後	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1			0 -		3 2 17 1 1 1 5 1	3 0 6 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 ダイバーシティと教育行政 心理学実験 世界の心理学研究	1・2前・後 1・2前・後 1・2前・後 3前・後 2後 - 1前 2後 2前 2前 2前 26	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1		0 0 0 0 0 0 0	0 -		3 2 17 1 1 1 5 1	1 3 0 6 1 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 ダイバーシティと教育行政 心理学実験 世界の心理学研究 心理学の問題探究	1・2前・後 1・2前・後 1・2後 3前・後 2後 2 1前 2前 2前 2前 2後 2前 2後 2 2 2 3 4 4 4 5 6 6 7 7 8 7 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1			0 -		3 2 17 1 1 1 5 1	3 0 6 1 1 2	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 世界の心理学実験 世界の心間題探究 現代社会と道徳的価値 道徳思想の探究	1・2前・後 1・2前・後 1・2・後 3前・後 2後 一 1後 20前 22前 22前 22前 226 21前 226 21前 226	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2			0 -		3 2 17 1 1 1 5 1	3 0 6 1 1 2	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 世界の心理学実験 世界の心理學等研究 心理学実験 世界の心問題探究 現代社会と道徳的価値 道徳思想の探究 道徳教育のための道徳性発達心理学	1・2前・後 1・2前・後 1・2・後 一 1後 2後 一 1前 2前 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 26 21 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2			0 -		3 2 17 1 1 5 1 1 3	3 0 6 1 1 2	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1	オムニバス
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。) 図画工作(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。) 体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の社会学的探究 世界の心理學実験 世界の心理問題探究 現代社会と道徳的価値 道徳思想の探究 道徳教育のための道徳性発達心理学 学校教育と子ども文化	1・2前・後後 1・2前・後後 1・2・6 1・2・6 1・2・7 1・2・8 1・2・8 1・2・8 2・9 2・9 2・9 2・9 2・9 2・9 2・9 2・9	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1			0 -		3 2 17 1 1 5 1 1 3 1 1	3 0 6 1 1 2	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1	オムニバス共同
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。)図画工作(ICTの活用を含む。)家庭(ICTの活用を含む。)体育(ICTの活用を含む。)英語(ICTの活用を含む。),并(10科目)学校におけるICT活用インクルーシブ教育実践論小計(2科目)教育科学入門教育の哲学的探究共生する社会と教育方法学教育の社会学的探究共生する社会と教育方法学教育の社会学的探究が工理学家験世界の心間題探究現代社会と道徳的価値道徳思想の探究道徳教育のための道徳性発達心理学学校教育と子ども文化発達の科学	1・2前・後 1・2前・後後 1・2・後後 1後後 一 1後後 一 16後 2前 2前 26 26 21前 26 26 26 21前 26 26 26 26 26 26 26 26 26 26	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2			0 -		3 2 17 1 1 5 1 1 3	3 0 6 1 1 2 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1	オムニバス共同
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。)図画工作(ICTの活用を含む。)家庭(ICTの活用を含む。)体育(ICTの活用を含む。)英語(ICTの活用を含む。)小計(10科目)学校におけるICT活用インクルーシブ教育実践論小計(2科目)教育科学入門教育の哲学的探究共生する社会と教育方法学教育の社会学的探究共生する社会と教育方法学教育の社会学的探究が一シティと教育行政心理学実験世界の心問題探究現代社会と道徳的価値道徳思想の探究道徳教育のための道徳性発達心理学学校教育と子ども文化発達の科学行動と学習の科学	1・2前 1・2前 ・後後 1・2・ 1・2・ 1・2・ 1・2・ 1・2・ 2・3前 2・2・ 2・2・ 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2			0 -		3 2 17 1 1 5 1 1 3 1 1	3 0 6 1 1 2	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼11 兼1	オムニバス共同
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。)図画工作(ICTの活用を含む。)家庭(ICTの活用を含む。)体育(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。) 英語(ICTの活用を含む。)小計(10科目) 学校におけるICT活用 インクルーシブ教育実践論 小計(2科目) 教育科学入門 教育の哲学的探究 共生する社会と教育方法学 教育の哲学的探究 共生する社会学的探究 共生する社会学的探究 世界の心理學実験 世界の心問題探究 現代社会を通徳的任題を通徳を面的理解 道徳教育のための道徳性発達心理学学校教育と子ども文化 発達の科学 行動と学習の科学 対人心理の探究	1・2前····································	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2			0 -		3 2 17 1 1 5 1 1 3 1 1	3 0 6 1 1 2 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1 兼1	オムニバス共同年年年年年
	共通科目教育探究コース	音楽(ICTの活用を含む。)図画工作(ICTの活用を含む。)家庭(ICTの活用を含む。)体育(ICTの活用を含む。)英語(ICTの活用を含む。)小計(10科目)学校におけるICT活用インクルーシブ教育実践論小計(2科目)教育科学入門教育の哲学的探究共生する社会と教育方法学教育の社会学的探究共生する社会と教育方法学教育の社会学的探究が一シティと教育行政心理学実験世界の心問題探究現代社会と道徳的価値道徳思想の探究道徳教育のための道徳性発達心理学学校教育と子ども文化発達の科学行動と学習の科学	1・2前 1・2前 ・後後 1・2・ 1・2・ 1・2・ 1・2・ 1・2・ 2・3前 2・2・ 2・2・ 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前 3前	1 1 1 1 1 10	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2			0 -		3 2 17 1 1 5 1 1 3 1 1	3 0 6 1 1 2 1	1 1 5 1 1 2			兼2 兼3 兼2 兼16 兼1 兼1	オムニバス共同

(共		教 育 育教員養成課程)	課	程		等		の		根	ŧ	5	更	(太白「	百土ム	ンパス)
(3)	(月子叩子仪教	月狄貝袞以际性/			単位数	[掺	受業形	態		専任参	対員等の	の配置	(10)	ホイヤ	·
	科目		77 No 6-14	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		644 - de
	区分	授業科目の名称	配当年次						•		教					備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		教育探究演習II	3前		1			0		4	1				兼1	
		教育探究演習III	3後		1			0		1	5	1			兼1	
		教育探究演習IV	3後		1			0		4	1				兼1	
		道徳授業の実際 先進的生徒指導論	3前 3前		2		0			1					兼1	
		先進的授業開発論	3後		1			0		1					兼2	
		STEAMとカリキュラムデザイン	3後		1		0	*		1						※演習
		心理学研究のための統計法演習	3後		1			0							兼1	
		心理学研究のための研究法演習	3後		1			0							兼1	
		ダイバーシティ時代の学校と社会	3・4前		2		0			1	1					
		子どもとつくる教育方法学	3・4後		2		0				1					
		ダイバーシティと学校経営	3・4後		2		0								兼1	r= f-
		心理学の最前線Ⅰ	3・4前		2		0			1						隔年 隔年
		心理学の最前線II 職業指導	3・4前 3・4後		2 2		0			1					兼1	神干
		世界の道徳教育	3・4後		2		0				1				W.I	
		教育探究ゼミナールI	4前		1			0		5	6	1			兼1	
		教育探究ゼミナールII	4後		1			0		5	6	1			兼1	
		小計 (36科目)	_	0	55	0		_		6	6	1	0	0	兼8	
	ICT教育コース	情報倫理	1前		2		0					2				オムニバス
	専門科目	情報処理演習	1前		2			0				1				
		情報と職業	1後		2		0					1				
		教育メディアの表現	1前		2		0					1				
		線形代数学a	1前		2		0	*			1					※演習
		微分積分学a	1前		2		0	*		1						※演習
		線形代数学b	1後		2		0	*			1					※演習
		微分積分学b 計算機科学	1後		2 2		0	* *		1						※演習 ※演習
		計昇機件子 データサイエンスI	2前 2後		2		0	*		1	1					※ 供省
		プログラミングとグループワークI	2前		2			0			1				兼1	
		プログラミングとグループワークII	2後		2			0		1					AKI	
		情報理論	2前		2		0								兼1	
		プログラム言語	2後		2		0			1						
		教育メディアの技術	2後		2		0					1				
		代数学a	2前		2			0		1						
		代数学b	2後		2			0		1						
		幾何学	2後		2		0	*							兼1	※演習
		解析学a	2前		2		0				1					
		解析学b	2後		2		0	\•/			1)/- 1	\•\ >\+\ \\
		距離空間 情報通信ネットワーク	2前		2 2		0	*			1				兼Ⅰ	※演習
		ICTを活用した教材開発	3前 3前		2		0	*			1	1				※演習
		ICTを活用した学習環境構築	3後		2			0			1	1				次 供 白
		データサイエンスII	3前		2			0			1					
		データ構造とアルゴリズム	3前		2		0			1	1					
		ロボット教材とプログラミングA	3前		1		1	0							兼1	
		ロボット教材とプログラミングB	3後		1			0							兼1	
		システムソフトウェア	3後		2		0			1					İ	
- 1		情報通信ネットワーク演習	3後		2			0			1				İ	
		ソフトウェア設計・開発	3後		2		0				1				İ	
		データベース演習	3後		2		*	0			1				İ	※講義
		確率・統計概論	3前		2		0			1					İ	
		コンピュータ	3後		2			0		1					İ	
- 1		ICT課題研究I	4前		1			0		1	2	1			İ	
		ICT課題研究II ICTを活用した教育支援	4後		1 2			0		1	2	1			İ	
		小計 (37科目)	4後 —	0	70	0	-	_	<u> </u>	3	3	1 2	0	0	兼3	
Į			-	· U	1.17	· V	-					. /.		v	- 30° -)	i .
ŀ	国語教育コース	小学校教科内容(国語)	1後		2		0			1					Alko	

	教育	課	程		等		の		根	Ŧ	Ī	要			
(教育学部学校教	対育教員養成課程) ┃			単位数	'n	#	受業形態	惟	I	亩仁素	数員等の	の配置	(柏)	京キャ	ンパス)
				平仏多	Ì	1)	(未)()	実		寺山和	以貝守	が配直			
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
			修	択	由	義	習	実	授	授	師	教	手		
1	国語学概論B	1後		1		0		習	1						
	国文学概論A	1後		1		0			1						
	国文学概論B	1後		1		0			1						
	漢文学概論A	1前		1		0			1						
	漢文学概論B	1前		1		0			1						
	国語科教育入門A	1前		1		0			1						
	国語科教育入門B	1前		1		0			1						
	国語学特論A	2前		1		0			1						
	国語学特論B	2前		1		0			1						
	国文学特論A	2前		1		0			1						
	国文学特論B 書道概論I(書写を中心とする。)	2前 2前		1 1		0			1	,					
	書道概論II(書写を中心とする。)	2削 2後		1				0		1					
	国語科資質・能力開発論Ⅰ	2前		2		0				1	1				
	国語科資質・能力開発論II	2後		2		0			1		1				
	国語学講義IA	3前		1		0			1						
	国語学講義IB	3前		1		0			1						
	国語学講義II	3後		2		0			1						
	国文学講義IA	3前		1		0			1						
	国文学講義IB	3前		1		0			1						
	国文学講義II	3後		2		0			1						
	国語科授業実践論	3前		2		0					1				
	小中連携国語科学習開発論	3後		2		0			1						
	国語教育実践演習I	3前		2			0		5		1				
	国語教育実践演習II	3後		2			0		5		1				
	国語学研究I	4前		2			0		1						
	国語学研究II	4後		2			0		1						
	国文学研究I	4前		2			0		2						
	国文学研究II	4後		2 2			0		1						
	国語教育学研究I 国語教育学研究II	4前 4後		2			0		1						
	国語教育ゼミナール[4版 4前		1		*	0		1 5		1				※講義
	国語教育ゼミナールII	4後		1		*	0		5		1				※講義
	小計 (35科目)	- TIX	0	50	0	^	_		6	1	1	0	0		◇ 冊 抄
英語教育コース		1前	Ť	2	Ť	0			1				Ť		
専門科目	Introduction to British and American Literature	1前		2		0								兼1	
	Integrated English I	1前		2			0							兼1	
	比較文化論	1後		2		0								兼1	
	Speech Communication in English I	1前		2			0							兼1	
	Speech Communication in English II	1後		2			0							兼1	
	英語音声学II	1後		2		0			1						_
	英文法研究	2後		2		0	_		1					l	メディア
	Integrated English II	2前		2		\. •/	0				1			兼1	*/ =#+ \
	小学校教科内容 (英語)	2後		2		*	0		,					兼1	※講義
	中等英語科授業研究	2前		2		0	*		1	,					※演習
	応用言語学 Advanced Communication I	2後 2前		2 2		0	0			1				兼1	
	Advanced Communication I Advanced Communication II	2削 2後		2			0							兼1	
	英語科評価論	2版		2		0	- ×		1					W.I	※演習
	小学校英語科授業研究	2前・後		2		0			1					兼2	*****
	History of British and American Literature	2前		2		0								兼1	
	Introduction to English Linguistics I	2前		2		0								兼1	
	Introduction to English Linguistics II	2後		2		0								兼1	
	英語学研究I	3前		2		0			1					l "	
	英語学研究II	3後		2		0			1						
	Advanced Communication III	3前		2			0							兼1	
	Advanced Communication IV	3後		2			0							兼1	
	TEFL Studies	3前		2			0			1					
1	英語教育学研究I	3前	1	1			0	I	1			I			

(#	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	教 育 育教員養成課程)	課	程		等		の	1	根	ŧ	5	要	(1 61)	百七に	ンパス)
(子)	以日子叩子议议	月孜貝袞以硃任/			単位数	ζ	ž	受業形]	態		専任教	数員等(の配置	(10)	ホイヤ	· 2/\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\
	科目					,			実			- 11				
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		英語教育学研究II	3後		1			0	В			1				
		英語教育学研究III	3前		1			0		1						
		英語教育学研究IV	3後		1			0		2						
		英語教育学研究V	3前		1			0			1					
		英語教育学研究VI	3後		1			0				1				
		英語教育学研究VIII	3前		1			0		2	1	1				
		英語教育学研究VIII 英語教育セミナーI	3後 4前		1			0		2 3	1 1	1 2				
		英語教育セミナーII	4後		1			0		3	1	2				
		Academic Writing	4後		2			0		0	1	2			兼1	
		小計 (35科目)	_	0	60	0		_	ı	3	1	2	0	0	兼7	
	社会科教育コー	小学校教科内容(社会)	1後		2		0			2	1					オムニバス
	ス専門科目	地誌概論	1後		2			0							兼1	
		世界史概説	1後		2		0								兼1	
		社会学	1後		2		0			1						
		経済学	1後		2			0							兼1	
		哲学の基礎	1後		2			0		1					** 1	
		自然地理学の基礎	1後		2			0							兼1	
		人文地理学の基礎 地理学概論	1後 2後		2 2			0		2					兼1	オムニバス
		日本史概説	2前		2		0			4	1					7 4-7.7
		法律学	2後		2			0			1				兼1	
		政治学	2後		2			0							兼1	
		倫理学の基礎	2後		2			0		1						
		歴史探究の基礎	2後		2		0	*			1					※演習
		社会調査	2後		2			0		1						
		西洋思想概論	2後		2			0		1						
		倫理学諸問題	2前		2		0			1						
		社会科教育学基礎論	2後		2		_	0							兼1	
		人間と宗教	3後		2		0			1	١.					共同
		社会科基礎演習I 社会科基礎演習II	3前 3後		2 2			0		9	1 1					共同共同
		自然地理学特講	3後		2			0		9	1				兼1	共円
		人文地理学特講	3後		2			0							兼1	
		地理探究の基礎	3後		2		0	*		1					7114-	※演習
		日本史特講I	3後		2			0							兼1	
		日本史特講II	3後		2			0							兼1	
		東洋史特講	3後		2			0							兼1	
		西洋史特講	3後		2			0							兼1	
		社会学特講	3後		2			0		1						
		哲学諸問題	3後		2		_	0		1						√
		公民科探究	3後		2		0	*		1						※演習
		社会科発展演習I 社会科発展演習II	4前 4後		1			0		9	1 1					共同共同
		小計 (33科目)	4仮	0	64	0		_	<u> </u>	9	1	0	0	0	兼13	六円
	数学教育コース	小学校教科内容(算数)	1後	Ť	2	Ť		0			1	Ť	Ť	Ť	/IK10	
	専門科目	線形代数学a	1前		2		0	*			1					※演習
		線形代数学b	1後	1	2		0	*			1					※演習
		微分積分学a	1前		2		0	*		1						※演習
		微分積分学b	1後		2		0	*		1						※演習
		代数学a	2前	1	2			0		1						
		代数学b	2後	1	2		_	0		1					l	
		距離空間	2前	1	2		0	*								※演習
		幾何学	2後		2		0	*							兼1	※演習
		解析学a 解析学b	2前	1	2		0				1					
			2後	1	2		0			l	1					
		確率 • 統計概論	り計		()		()			1						
		確率・統計概論 コンピュータ	2前 2後		2 2		0	0		1 1						

(*	 数套学或学坛数	教 育 (育教員養成課程)	課	程		等		の		根	ŧ	5	要	(t	百七ム	ンパス)
(3	以月子叩子仪仪				単位数		挡	受業形態	態	1	専任教	対員等の	の配置	(10)	ホイヤ	ンハス)
	fN II								実							
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
\vdash		解析学c	3前		2		0		百		1					
		確率論	3前		2		0	*		1	-					※演習
		算数・数学教育論	3前		2		0				1					
		代数学I	3後		2			0							兼1	
		代数学II	3後		2			0							兼1	
		幾何学Ⅰ	3後		2			0							兼1	
		幾何学II 解析学I	3後 3後		2 2			0							兼1 兼1	
		解析学II	3後		2			0							兼1	
		応用数理I	3後		2			0							兼1	
		応用数理II	3後		2			0							兼1	
		数理探究	3前		2			0							兼1	
		数学演習a	4前		1			0		4	2					
		数学演習b	4後		1			0		4	2					
	珊 到粉杏豆。?	小計 (28科目)	- 1 2/:	0	54	0	_			4	2	0	0	0	兼5	
	理科教育コース 専門科目	物理学IA 化学IA	1前 1前		1 1		0			1	1					
		生物学IA	1後		1		0			1						
		地学IA	1後		1		0			1						
		小学校教科内容(理科)	1後		2			0		1		1				
		物理学IB	1前		1		0				1	_				
		化学IB	1前		1		0			1						
		生物学IB	1後		1		0			1						
		地学IB	1後		1		0			1						
		科学のための数学	1前		2		0								兼1	
		物理学IIA	2前		1		0			1						
		化学IIA	2前		1		0				1					
		生物学IIA	2後		1		0			1	1					
		地学IIA 物理学実験I	2後 2後		1		0		0	1	1 1					共同
		化学実験 [2前・後		1				0	1	1					共同
		生物学実験Ⅰ	2前・後		1				0	1	-					共同
		地学実験I	2前・後		1				0	1	1					オムニバス
		物理学IIB	2前		1		0			1						
		化学IIB	2前		1		0				1					
		生物学IIB	2後		1		0			1						
		地学IIB	2後		1		0				1					
		力学	2後		2		0								兼1	
		電磁気学 無機化学入門	2前 2前		2 2		0			1					兼1	
		物理化学	2前		2		0								兼1	
		動物科学	2前		2		0			1					NK1	
		植物科学	2前		2		0			1						
		気象学	2前		2		0			1						
		天文学	2前		2		0				1					
		地球学	2前		2		0								兼1	
		物理学III	3後		1		0				1					
		化学III	3前		1		0				1				31.	メディア
		生物学III	3前		1		0								兼1	
		地学III 熱力学	3前 3前		1 2		0			1					兼1	
		然刀子 物理学実験II	3削 3前		1				0	1	1				飛Ⅰ	
			3後		2		0			1	1					
		化学実験II	3後		1				0		1					
		生命科学	3前		2		0			1						
		生物学実験II	3前		1				0	1						
		地学野外実習	3前		1				0	1	1					
		理科ゼミナールI	4前		1			0		5	3	2				共同
1		理科ゼミナールII	4後		1			0		5	3	2				共同

(教育学部学校考	教 育	課	程		等		の		栶	ŧ	-	要	(柏「	原キャ	ンパス)
(教育于即于汉东	(日祝良度)从标任/		I	単位数	ζ	抄	受業形態	態		専任教	数員等(の配置	(10)	ж¬ (<i>211</i> 2)
科目			.iv	選	自	講	定	実験	教	νÆ	講	助	Hh.		m. la
区分	授業科目の名称	配当年次	必				演	•		准 教			助		備考
			修	択	由	義	習	実 習	授	授	師	教	手		
	小計 (44科目)	_	0	58	0		_		6	3	2	0	0	兼7	
技術教育コース専門科目	小計 (44科目)		修 0	択 588 1 1 2 1 1 2 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 2 2 2 1 1 1 2 2 2 1 1 1 2 2 2 1 1 1 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	0 0	* OOOOO**** OOOO **** OOOOOOOOOOOOOOOO	習 - ***** () * * () -	実	授 6 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2	授	60000000000000000000000000000000000000	教 0	0 0	兼1 兼1 兼1 兼1	※※※※※※※※※オ井※※共※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※共※共※共※共※共※※共※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※<!--</td-->
	被服学II 住居学I 住居学演習I(製図を含む。) 住居学演習II 保育学I 保育学II 小学校教科内容(家庭) 家族関係学II 被服製作実習II 被服製作実習II 食物学I(栄養学及び食品学を含む。) 食物学II 調理学実習II 保育学実習II 保育学実習II 被服学III 住環境と安全	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1			0 0	00 0000	1 1 1 1 1 1 1 1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	

数育学部学 校数	教 育 育 育 育 育 育 育 () 育 () 育 () 育 () 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有	課	程		等		の		根	ŧ	5	要	(柏「	原キャ	・ンパス
VEVI [44 [E1X	17.700000000000000000000000000000000000			単位数	ζ	挖	受業形	態		専任教	数員等(の配置	(10%		2
科目			2/	\##.	ń	⊋#k)de	実	344	744-	⊋#k	DJ.	DJ.		
区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験・	教	准教	講	助	助		備考
			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
	保育学III	2前		1		0			1						
	生活機器論(情報処理を含む。)	2前		2		0	*							兼1	※演習
	家庭科基礎演習	3後		1			0		4						共同
	被服学実験	3前		2				0	1						
	被服製作実習III 食物学III	3前 3前		1 1		0		0	1 1						
	食物学実験	3前		2				0	1						
	調理学実習III	3前		1				0	1						
	環境安全論	3後		2		0								兼1	
	保育学演習	3前		2			0		1						
	家庭科教育学演習	3前		2			0		1						
	生活研究論I	3後		1		0			1						
	生活調査研究法Ⅰ	3後	1	1		0	_							兼1	
	家庭科発展演習Ⅰ	4前		1			0		4						共同
	家庭科発展演習II 生活研究論II	4後 4前		1 1		0	0		4						共同
	生活调查研究法II	4前		1		0			1					兼1	
	小計 (40科目)	-	0	48	0	0	_	l	4	0	0	0	0	兼7	
保健体育コース		1後		1		0			1				-	2014	
専門科目	運動生理学II	1後		1		0			1						
	衛生学及び公衆衛生学I	1後		1		0				1					
	衛生学及び公衆衛生学II	1後		1		0				1					
	水泳	1前		1				0						兼2	
	器械運動	1後		1				0			1			兼1	
	体つくり運動	1前		1		_		0						兼1	
	スポーツ教育原理	1後		2		0				1					
	スポーツ社会学	1後		2		0				1				¥1	
	体育指導法演習 運動学I	1前 2前		2			0				1			兼1	
	運動学II	2前		1		0					1 1				
	学校保健I	2前		1		0				1	1				
	学校保健Ⅱ	2前		1		0				1					
	陸上競技	2前		1				0		1				兼1	
	ダンス	2後		1				0						兼2	
	ソフトボール	2前		1				0						兼1	
	剣道	2前・後		1				0	1						
	柔道	2後		1				0		1					
	スポーツ心理学	2前	1	2				0			1				
	スポーツマネジメント論	2前		2		0			l .					兼1	
	体育史	2前		2		0			1						
	武道指導論 スポーツコーチング論	2後 2後		2 2		0			1	1				兼1	
	スポーツコーテンク論 保健体育学研究各論演習A	3前		1			0		2	5	2			兼1 兼5	
	保健体育学研究各論演習B	3後		1			0		2	5	2			兼5	
	小学校教科内容(体育)	3後		2		0			2	4	2			兼5	
	サッカー	3前		1				0						兼1	
	バスケットボール	3前	1	1				0		1					
	バレーボール	3前		1				0						兼1	
	スキー実習	3通		2				0	1						
	学校と地域スポーツ	3後	1	2		0								兼1	
	スポーツと栄養	3前		2		0			1						
	発育発達学	3後		2		0	_		1					ļ ,	
	保健体育学ゼミナールⅠ	4前	1	1			0		2	5	2			兼5	
	保健体育学ゼミナールII	4後		1			0		2	5	2			兼5	
	ハンドボール	4後		1				0						兼1	
	ラグビー	4後	1	1				0						兼1	
	テニス	4後		1				0	II		1				

(数否学如学长型	教育	課	程		等		の		根	ŧ	3	要	(1 4.)	百七い	, , ९ ७ \
(叙月子部子仪教	(育教員養成課程) 			単位数	(ž	受業形態	Ŀ		専任教	数員等の	の配置	(作出)	ホナヤ	ンパス)
科目			24	\##.	<u> </u>	=##)r-b-	実	+/.				nı.		
区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
音楽教育コース	ソルフェージュ	1前		1			0			1					
専門科目	創作表現I	1前		1			0			1					
	演奏基礎 (こえ)	1後		1			0				1				
	ピアノ伴奏法	1前		1		_	0		i					兼1	
	音楽学Ⅰ	1後		2		0								兼1	
	小学校教科内容(音楽)	1前		2		0				1				26 1	
	管絃(雅楽)I アンサンブル指揮法	1前 2前		2			0			,				兼1	
	演奏基礎(ピアノ)	2前		1 1			0		i	1	1				
	(ロググ) 合唱指導法 (混声) I	2前		1			0		i		1				
	合唱指導法(混声)II	2後		1			0		i		1				
	合奏Ⅰ	2前		1			0		i					兼1	
	演奏表現(こえ)I	2前	1	1			0		l					兼1	
	演奏表現(こえ)II	2後	1	1			0		l					兼1	
	演奏表現(ピアノ)I	2前	1	1			0		l		1			兼1	
	演奏表現(ピアノ)II	2後	1	1			0		l					兼2	
	創作表現II	2後	1	1			0		l	1					
	合奏II	2後	1	1			0		l					兼1	
	音楽教育学	2前		2		*	0		i		1				※講義
	和楽器アンサンブルI	3前		1			0		i					兼1	
	スコアリーディング	3前		1			0		i	1					
	音楽学II	3前		2		0			i					兼1	
	演奏表現(こえ)III	3前		1			0		i		1				
	演奏表現(こえ)IV	3後		1			0		i		1			.,	
	演奏表現(ピアノ)III	3前		1			0		i		1			兼1	
	演奏表現(ピアノ)IV	3後		1			0		i	١, ١	1			兼1	
	創作表現III	3前		1			0		i	1					
	創作表現IV 同声合唱I	3後 3前		1			0		i	1	1				
	同声合唱II	3後		1 1			0		i		1 1				
	合唱指導法(混声)III	3前		1			0		i		1				
	合唱指導法(混声)IV	3後		1			0		i		1				
	舞台表現演習(伝統音楽を含む。)	3後		2			0		i		1			兼1	オムニバス
	和楽器アンサンブルII	3後		1			0		i					兼1	
	合奏III	3前		1			0		i					兼1	
	合奏IV	3後		1			0		i					兼1	
	音楽教育学研究各論演習I	4前	1	1			0		l	2	3				
	音楽教育学研究各論演習II	4後	1	1			0		l	2	3				
	音楽教育実践演習	4前	1	2			0		l	1	1				
	合唱指導法(混声)V	4前	1	1			0		l		1				
	合唱指導法(混声)VI	4後	1	1			0		l		1				
	同声合唱III	4前	1	1			0		l		1				
	同声合唱IV	4後	1	1			0		l		1				
	和楽器アンサンブルIII	4前	1	1			0		l					兼1	
	和楽器アンサンブルIV 合奏V	4後 4前	1	1			0		l					兼1 兼1	
	合奏VI	4削 4後	1	1 1			0		l					兼1	
	小計 (47科目)	41友	0	54	0		_		0	2	3	0	0	兼7	
美術・書道教育	小学校教科内容(図画工作)	1後	Ť	2	Ť		0		ř	2	Ť	Ť		AIN I	
(美術)コース	絵画・彫刻表現基礎A	1前	1	1			l	0	l	1					
専門科目	絵画・彫刻表現基礎B	1前	1	1				0	1						
	デザイン・工芸表現基礎A	1後	1	1				0	l	1					
	デザイン・工芸表現基礎B	1前	1	1				0	l					兼1	
	日本美術史概論	1前	1	2		0			l	1					
	デッサン論	1前	1	2		0			1						
	図法	1前	1	2			0		l					兼1	
1	絵画・彫刻表現研究A	2後	1	1		Ī		0	l		1			兼1	
	10 / 0 / 0 / 0 / 0 / 1 / 0 · ·														
	絵画・彫刻表現発展研究A	2後		1				0		1	1				

(‡	数 育学部学校数	教 育 (育教員養成課程)	課	程		等		の		根	ŧ	5	更	(ね「	直土お	ンパス)
/1	7 H T W T IX #	日 教員長 及 除住 /			単位数	ζ	抄	受業形態	態		専任教	対員等の	の配置	(14))K-1 1	<i>371</i> ,7
	科目			N	\da	自	講	冷	実験	教	\H-	講	助	П÷		
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選			演	•		准 教			助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		絵画・彫刻表現発展研究B	2後		1				0	1						
		デザイン・工芸表現研究A	2前		1				0		1					
		デザイン・工芸表現発展研究A デザイン・工芸表現研究B	2後 2前		1 1				0		1				兼1	
		デザイン・工芸表現発展研究B	2後		1				0						兼1	
		美術理論I	2前		2		0				1					
		材料研究A	2前		2			0							兼1	
		材料研究B 日本東洋美術史	2前 2後		2 2			0			1				兼1	
		美術科応用研究I	3前		1		0		0	2	1 3					
		美術科応用研究II	3後		1				0	2	3					
		デザイン・工芸史	3前		2		0			1					兼1	オムニバス
		美術表現の基礎	3前		2			0							兼1	
		絵画基礎演習	3後		4			0		١,					兼1	
		彫刻演習 コミュニティとアート	3後 3後		2 2			0		1 1						
		デザイン演習	3後		2			0			1					
		工芸制作I	3後		1				0						兼1	
		工芸制作II	3後		1				0						兼1	
		美術史演習I	3後		2			0			1				37	
		美術史演習II 美術理論II	3前 3前		2 2		0	O **			1 1				兼1	※ 演習
		美術科発展研究[4前		1			*	0	2	3					本供日
		美術科発展研究II	4後		1				0	2	3					
		小計 (35科目)	_	0	54	0		_		2	3	0	0	0	兼8	
	美術・書道教育 (書道) コース		1前		1				0		1					
	専門科目	楷書法研究I 小学校教科内容(書写)	1前 1後		1 2			0	0	1 2	1					オムニバス
		国文学概論A	1後		1		0			1	1					720/17
		国文学概論B	1後		1		0			1						
		漢文学概論A	1前		1		0			1						
		漢文学概論B	1前		1		0			1						
		書道概論I(書写を中心とする。)	2前		1				0		1					
		書道概論II(書写を中心とする。) 中国書道史	2後 2前		1 2		0		0	1	1					
		日本書道史	2後		2		0			1						
		行書法研究I	2前		1				0	1						
		草書法研究I	2前		1				0	1						
		書道と文字学I	2前													
		まざったシェ			2			0		1						
Ī		書道文化論I 楷書法研究II	2前		2			0	0	1						
		書道文化論I 楷書法研究II 行書法研究II							0 0							
		楷書法研究II	2前 2後		2 1					1 1						
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II	2前 2後 2後 2後 2後 2後		2 1 1 1 1			0	0	1 1 1	1					
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習	2前 2後 2後 2後 2後 2後 2後		2 1 1 1 1 2			0	0	1 1 1 1	1				兼1	
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導	2前 2後 2後 2後 2後 2後 2後 2後		2 1 1 1 1 2 2			0	0 0 0	1 1 1 1	1				兼1	
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習	2前 2後 2後 2後 2後 2後 2後		2 1 1 1 1 2			0	0	1 1 1 1	1				兼1	
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導 漢字作品制作I	2前 2後 2後 2後 2後 2後 2後 3前		2 1 1 1 1 2 2 1		0	0	0000	1 1 1 1	1					
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導 漢字作品制作I 仮名作品制作I 書鑑賞論 篆書法演習	2前後後後後後後前前後 3前 3前		2 1 1 1 2 2 1 1 2 2		0	0 00 0	0000	1 1 1 1 1	1					
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導 漢字作品制作I 仮名鑑賞論 篆書法演習 隸書法演習	2前後後後後後後前前後前後 300000000000000000000000000		2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2		0	0 00	000 00	1 1 1 1 1 1 1 1	1					
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導 漢字作品制作I 仮名體論 篆書法演習 隸書法演習 漢字作品制作II	2前後後後後後後前前後前後後 3333333333333333333333333		2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1		0	0 00 0	000 00 0	1 1 1 1 1 1 1	1				兼1	
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導 漢字作品制作I 仮名鑑賞論 篆書法演習 隸書法演習	2前後後後後後後前前後前後 300000000000000000000000000		2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2		0	0 00 0	000 00	1 1 1 1 1 1 1 1	1					
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻法演習 板書実践指導 漢字作品制作I 仮名鑑賞論 篆書法演習 練書法演習 漢字作品制作II	2前後後後後後後前前後前後後後後後後後前前後前後後後後		2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1 1 2 2 1			0 00 0	000 00 0	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1				兼1	
		楷書法研究II 行書書法研究II 草書法研究II 仮名書法研究II 篆刻書演習 板書字作品制作I 香鑑書法演習 壽書法演習 壽書法演習 書書法演習 書字作品制作II 香輪道研究基礎I 書道研究基礎I	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		2 1 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1 1 2 2 2 1 1 2 2 2 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 2 1			0 0 0	000 00 00	1 1 1 1 1 1 1 1 1					兼1	
		楷書法研究II 行書法研究II 草書法研究II 仮刻書書法研究II 篆刻書実践制作I 仮名實論 漢字名作品制作I 書鑑書法演習 隸書法演習 漢字作品制作II 仮名作品制作II 書論研究基礎I	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		2 1 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1			0 00 0	000 00 00 0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1				兼1	

	 教 育	課	程		等		の		根	¥	5	要			
(教育学部学校教	(育教員養成課程)		1	117 (L. 187			MIC C	tale.	n			_ =====================================	(柏月	原キャ	, ンパス)
				単位数	<u> </u>	Ť	受業形	_		専任教	数員等(の配置			
科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
区分			修	択	由	義	習	実習	授	教授	師	教	手		
	書道自由研究II	4後		1				0	2	1					
	実用書式の研究	4前		2			0							兼1	
特別支援教育専	小計 (36科目)	-	0	50	0	_	_		5	1	0	0	0	兼3	
門科目	11771 X 1X 4X 13 NO HILL	1後		2		0			1					** 1	
	インクルーシブ教育システム基礎論	1前		2		0	\•/							兼1	√• ✓ > → ¬ ¬¬
	手話学習の基礎	1前		2		0	*							兼1	※演習
	点字指導法	1後		2		0	*			1				24.0	※演習
	障害理解教育論	2前		2		0								兼2	オムニバス
	視覚障害アセスメント論	2前		2		0	\•<		1						*\ \ \\ \\
	聴覚障害アセスメント論	2後		2		0	*		1						※演習
	視覚障害教育	2前		2		0				1					
	聴覚障害教育	2前		2		0			1						
	知的障害教育	2前		2		0					1				
	肢体不自由教育	2前		2		0			1						
	病弱教育	2前		2		0			1						
	視覚障害歩行指導法	2前		2		*	0		1						※講義
	言語指導法	2前		2		0								兼1	
	特別支援教育コーディネーター基礎論	2前		2		0								兼1	
	言語障害教育	2後		2		0					1				
	発達障害教育	2前		2		0					1				
	重複障害教育	2前		2		0			1						
	視覚障害心理	3前		2		0			1						
	視覚生理・病理	3前		2		0								兼1	
	聴覚障害心理	3前		2		0			1						
	聴覚音声生理・病理	3前		2		0			1					兼1	
	知的障害者の心理・生理・病理	3前		2		0				1				兼1	オムニバス
	肢体不自由者の心理・生理・病理	3前		2		0				1				兼1	オムニバス
	病弱者の心理・生理・病理	3後		2		0				2					オムニバス
	障害児アセスメント論	3前		2		0								兼1	
	病弱者の心理と健康行動学	3前		2		0				1					
	障害児のキャリア教育	3後		2		0								兼2	
	障害者の心理・生理・病理	3後		2		0			2	2	2				オムニバス
	特別支援教育実践論	3前		2		0			3	1	1				共同
	特別支援教育研究法	3後		2			0		5	3	2				共同
	視覚障害指導論	4前		2		0								兼2	オムニバス
	聴覚障害指導論	4前		2		0								兼1	
	知的障害指導論	4前		2		0								兼1	
	肢体不自由指導論	4前		2		0								兼1	
	病弱指導論	4前		2		0	*							兼1	※演習
	ユニバーサルデザイン授業論	4前		2		0	*							兼2	※演習、オムニバス
	発達障害指導論	4前		2		0	*				1				※演習
	特別支援教育ゼミナールI	4前		1			0		5	3	2				共同
	特別支援教育ゼミナールII	4後		1			0		5	3	2				共同
	小計 (40科目)	_	0	78	0		_		5	3	2	0	0	兼21	
学校図書館司書教	学校経営と学校図書館	2・3・4後		2		0								兼1	
諭資格取得科目	学校図書館メディアの構成	2・3・4後		2		0								兼1	
	学習指導と学校図書館	2・3・4後		2		0								兼1	
	読書教育と図書館	2・3・4前		2		0								兼1	
	情報メディアの活用	2・3・4後		2		0								兼1	メディア
	小計 (5科目)	-	0	10	0	Ħ	_	-	0	0	0	0	0	兼4	
卒業研究	卒業研究	4通	4			1	0		56	33	17				
	小計 (1科目)	-	4	0	0	t	_	-	56	33	17	0	0		
	合計 (782科目)	_	 	1106	0	 			60	36		0	0		
	1		51			<u> </u>			υU		18			兼281	
学位又は称号	学士 (教育学)		<u> </u>	位又	は学科	4の分	野			教	育学	・保育	学関係	系	
	ı							1							

	±/-		= ⊞	10		<i>₽</i> ₽				10	π	-			
(教育学部学校教	教 育教員養成課程)	育	課	程		等		の		根	t	ž	要	(柏原	[キャンパス)
					単位数		挖	受業形態	_		専任教	教員等 (の配置		
科目 区分	授業科目0	D名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
四月				修	択	由	義	習	実習	授	教 授	師	教	手	
卒業	要件	及び	履修	方	沒	i i			首	<u> </u>		授業期	開等		
卒業の要件は、 を修得した者につ	4年以上在学し、										期区分	•			2期
与する。											業期間 業時間	•			15週 90分
各学期に履修申記 修得した者につい	請できる単位数は ては、30単位)以		所定の単位を	優れた	こ成績	をもっ	って		1 "() (5)	(V) [X	**** IF	.,	l	•	,0,3
教職教職報報報報報報報報報報報報報報報報報報期期期期期期期期期期期期期期期期期	位 12単位 科目 8単位 3単位 2単位 25単位 15世位 10単位 10単位 2単位 10単位 2単位 2単位 41単位 2単位 2単位 41単位 2単位 41世位 41世位 41世位 41世位 41世 41世 41世 41世 41世 41世 41世 41世	位													
教養等等 1 単一 育	位 12単位 科目 8単位 位 3単位 2単位 28単位 指定科目 12単位 科目 10単位 科目 2単位 シップ科目 2単 科目 10単位 2単位 30単位	Ξ													
中等教科教育法	位 12単位 科目 8単位 立 3単位 2単位 26単位 指定科目 12単位 料目 7科目 2単 シップ科目 2単 2単位 48単位	:													

	教 育	課	程		等		の		相	T	5	要		
(教育学部学校教	育教員養成課程)	T		単位数	'n	#	受業形	能	I	亩仁麸	数員等(の配置	(柏原	原キャンパス)
科目		777 No 640 N	必	選	自自	講	演	実験	教	准	講	助	助	746 de
区分	授業科目の名称	配当年次	修	択	由	畫	習	実習	授	教授	師	教	手	備考
育コ教 事 自卒合 【教 教 教 フ 初 専 自卒合 【教 教 教 フ 初 中 東 自卒合 【教 教 教 フ 初 中 東 全 が と で まっ	12 12 12 12 12 12 14 14	芸教育、美術・書道	数	】	理科教の名	女子		图						
本情報教職職 2 単	位 3単位 2単位 25単位 指定科目 12単位 指定科目 10単位 シップ科目 2単位 科目 10単位 科目 32単位 単位※	で数を超えて修得し	,た以 ⁻	下の科	目とず	F								
る。 (ア)教養教育 (イ)教職教育 (ウ)専攻専門:	科目群(基盤教養科目を 科目群	·除く)	/ に 以	i ∨ノ作 [†]	дС 9									

$\overline{}$		 教 育	課	程		等		の		根			日本	王美ガ	見俗 A	4 縦型)
(=	新杏学 郊学坛数	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	砵	任		₹		0)		作	τ	3	女	(= :		・ャンパス
(9	以月子即子仪叙	. 月努貝食戍牀住/			単位数	r	#	受業形態	他	1	恵任素	教員等(の配置	(大.	工 寸 1	・ヤンハス
					平匹亥	Ì	1.	X X ///)	実		小口4	大貝子				
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准	講	助	助		備考
	区分	202011		修	択		羊	習	•	4552	教	師	±4.	-		VIII 3
				110	坎	由	義	首	実習	授	授	師	教	手		
教	教職基礎科目	幼小連携教育論I	3後	1			0			1		1				
職教		幼小連携教育論II	3後	1			0			1					兼1	
有		人権教育の実践	3後		1		0				1					
科		小計(3科目)	_	2	1	0		_		2	1	1	0	0	兼1	
目群	教職専門科目	道徳教育論	3前		2		0								兼1	
ит		総合的な学習の時間の指導法	3後		1		0					1				
		特別活動論	3後		1		0					1				
		教育相談の理論と方法	3前		1		0			1						
		幼児教育課程論	3前		2		0			1					兼1	
		基本小学校教育実習	3通		5				0	4	2				兼1	
		幼稚園教育実習	3通		5				0	4	2				兼1	
		併修中・高校教育実習	4通		3				0	4	2	,			兼1	
		教職実践演習(幼・小)	4通 —	2	00	0		0		5	4	1	0	0	兼11	
	フラッグシップ	小計 (9科目) 教育データの活用II		2	20	0				8	5	1	0	0	兼13	
	指定科目	教育アータの活用II 学習者中心の授業デザインII	3前 3後		1		0			1	,	1			¥:1	
		小計(2科目)	31友	0	1 2	0	0			1 2	1	1	0	0	兼1 兼1	
	初等教科教育法		3前・後	U	1	0	0	I			1	1	U	U	兼1	
	科目	算数科教育法	3前 後		1		0				1				JR.1	
		初等理科教育法	3後		1		0				1				兼1	
		初等音楽科教育法	3前		1		0				1				AIV.	
		図画工作科教育法	3前		1		0			1	_					
		初等英語科教育法	3後		1		0								兼2	
		小計 (6科目)	_	0	6	0		_		1	2	0	0	0	兼4	
専		表現指導演習I	3後		1			0			1				兼1	
攻専	科目	幼児教育分析演習	3前		1			0							兼2	オムニバス
門		幼児教育プロジェクト演習I	3前		1			0		2	1					共同
科		幼児教育プロジェクト演習II	3後		1			0		2	1					共同
目群		幼児臨床学	3後		1			0		1						
"		家庭地域連携の政策	3後		1		0								兼1	
		保育内容実践演習I(健やかなからだ)	3後		1			0							兼2	
		保育内容実践演習II(伸びやかなそうぞう)	3前		1			0							兼1	
		保育内容実践演習III(繋がりあうドラマ)	3前		1			0							兼2	
		保育内容実践演習IV(響きあうハーモニー)	3前		1				0		1				兼1	
		保育とダイバーシティ	3後		2		0			1					兼3	
		幼児教育実践研究I	3通		1			0			1					
		幼児教育実践研究II	3通		1			0		1					}/ *0	. 1. > 8 -
		表現指導演習II 幼児教育学特講	4通 4前		1 1		0	0		,	1				兼3 兼1	オムニバス
		幼児教育学科講 幼児教育探究演習I						0		1 2	1				飛1	
		幼児教育採先演習II	4前 4後		1 1			0		2	1					
		保育内容特講	4前		1			0			1					
		幼児教育実践研究III	4前		1			0		1	1				兼1	
		幼児教育実践研究IV	4通		1			0		1	1				兼1	
		小計 (20科目)	-	0	21	0		_		2	1	0	0	0	兼18	
	小学校教科専門	英語(ICTの活用を含む。)	3前	1	1		0								兼1	
	科目	小計(1科目)	_	1	0	0		_	_	0	0	0	0	0	兼1	
	系列専門科目	教育学研究Ia	3後		1			0							兼1	
1	1	教育学研究Ib	3後		1			0							兼1	
					1 1	I		0				1			l	
		教育学研究IIa	3前		1											
		教育学研究IIa 教育学研究IIb	3前 3前		1			0				1				
		教育学研究IIb 応用行動分析学a	3前 3前					0							兼1	
		教育学研究IIb 応用行動分析学a 応用行動分析学b	3前 3前 3前		1										兼1	
		教育学研究IIb 応用行動分析学a 応用行動分析学b 心理学研究法a	3前 3前 3前 3前		1 1		0	0							兼1 兼1	
		教育学研究IIb 応用行動分析学a 応用行動分析学b 心理学研究法a 心理学研究法b	3前 3前 3前 3前 3前		1 1 1		0	0							兼1 兼1 兼1	
		教育学研究IIb 応用行動分析学a 応用行動分析学b 心理学研究法a	3前 3前 3前 3前		1 1 1			0							兼1 兼1	

	 教 育	課	程		等		の		相	I	-	要		
(教育学部学校	教育教員養成課程)					,							(天)	王寺キャンパ
				単位数	ζ	打	受業形!	_		専任	教員等	の配置	1	
科目	 授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
区分	1文条行口の石が	配当千八	修	択	由	義	習	実	授	教授	師	教	手	VIII 45
			115	扒	ш	我	百	習	1文	1文	Þili	叙	+	
	学校インターンシップI	3通		2				0	5	4	1			兼11
	ものづくり教育研究a	3前		1			0			1				
	ものづくり教育研究b	3前		1			0			1				
	ICT教育の実践研究a	3後		1			0			1				
	ICT教育の実践研究b 国語科学習指導研究a	3後		1			0		1	1				
	国語科学習指導研究b 国語科学習指導研究b	3前 3前		1 1			0		1 1					
	社会科学習指導研究a	3前		1		0			1					兼1
	社会科学習指導研究b	3前		1		0								兼1
	英語科学習指導研究a	3前		1			0							兼1
	英語科学習指導研究b	3前		1			0							兼1
	数学入門a	3前		1			0			1				
	数学入門b	3前	1	1			0		I	1				
	数学・数学教育演習a	3後	1	1			0		I	1				
	数学・数学教育演習b	3後	1	1			0		I	1				
	理科の実験Ia	3後	1	1		0			I					兼1
	理科の実験Ib	3後	1	1		0			l					兼1
	音楽科学習指導研究a	3後	1	1		0			I	1				
	音楽科学習指導研究b	3後	1	1		0			I	1				
	図画工作科学習指導研究a	3後		1			0		1					
	図画工作科学習指導研究b	3後		1			0		1					
	体育科学習指導研究a	3後		1			0							兼1
	体育科学習指導研究b	3後		1			0							兼1
	学校保健学a	3後		1		0								兼1
	学校保健学b 生活科学a	3後		1		0								兼1
	生活科学b	3前 3前		1 1		0								兼1 兼1
	課題研究I	4前		1			0		3	3	1			兼8
	課題研究Ⅱ	4後		1			0		3	3	1			兼8
	学校インターンシップII	4前		2				0	5	4	1			兼11
	理科の実験IIa	4前		1		0				1	1			兼1
	理科の実験IIb	4前		1		0								兼1
	小計 (42科目)	_	0	44	0		_		5	4	1	0	0	兼13
卒業研究	卒業研究	4通	4	0	0		0		5	4	1			兼11
	小計(1科目)	_	4	0	0		_		5	4	1	0	0	兼11
	合計 (84科目)	_	9	94	0		_		11	7	2	0	0	兼35
学位又は称号	学士 (教育学)	•	芦	2位又	は学科	4の分	野			教	育学	 保育 	学関係	 係
卒	業要件及び		方) <u> </u>	±.		Ī					明間等		
<u>'</u>	、4年以上在学し、各専攻・コ					立数		1 学年	この学		42 42 147 .	列印子		2期
	ついて、教授会の議を経て学長							1 学其						15週
与する。		(/=:))	. IN Z-t-		_					-	.		
	宇請できる単位数は、26単位		慢れ7	こ成績	をもっ	って		1 時限	め授	業時間	1			90分
修侍した有につ	いては、30単位)以下とする。													
【幼小教育専攻	幼児教育コース】													
教養教育科目群														
導入科目 1 基盤教養科目														
	15年位 :育科目 8単位													
体育科目 2	単位													
情報活用科目														
教職教育科目群														
教職基礎科目 教職専門科目														
フラッグシッ	プ指定科目 6単位													
	法科目 10単位													
学校インター 専攻専門科目群	ンシップ科目 2単位													
	: :門科目 25単位													
領域専門科目	6 単位													
小学校教科専	門科目 10単位													

(教育学部学校教	教 育教員養成課程)	育	課	程		等		の		相	X		要	(天:	王寺キャンパス)
					単位数	(哲	受業形態	焦		専任	教員等	の配置		
科目区分	授業科目の	の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	備考
教	学校教育コース】 位 15単位 8単位 8単位 3 単位位 12単位 25指科シッ単位 10単位 2 単位 10単位 14単位 ※ 要 (基盤教育 14単位 2 単位 14単位 14単位 14単位 2 単位 14単位 14単位 14単位 2 単位 14単位 14単位 14単位 14単位 14単位 14単位 14単位 1	≜位 この単位数を表 養科目を除く)	召えて修得し	た以「	下の科	目とす									

女育	学部学校教	教 育 育教員養成課程(夜間))	課	程		等		の		根	Ĺ	3	要			
173		I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			単位数	t	ħ	受業形態	Ŀ		専任教	 負等の	の配置	•		
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分	(文条件日の名称)	配ヨ午次	修	択	由	義	習	・実	授	教授	師	教	手		佣石
					1/2	Щ	表	Ħ	習	100	1又	th	秋	子		,
	導入科目	大学入門ゼミ	1前	1				0		1		1		0		
基	分野別科目	小計(1科目) 文学入門a	- 1・2・3・4・5後	1	0	0	0			1	0	1	0	0	兼1	
盤	(思索と芸	文学入門b	1・2・3・4・5後		1		0								兼1	
教美	術)	芸術a	1 • 2 • 3 • 4 • 5前		1			0							兼1	
養科		芸術b	1 • 2 • 3 • 4 • 5前		1			0							兼1	
目	分野別科目		1 • 2 • 3 • 4 • 5後	_	1			0							兼1	
	(国際と地		1 • 2 • 3 • 4 • 5後		1			0							兼1	
	域)	大阪学a	1 • 2 • 3 • 4 • 5前		1			0		1						
		大阪学b	1 • 2 • 3 • 4 • 5前		1			0		1						
	分野別科目	日本国憲法	1・2・3・4・5後	2			0								兼1	メディ
	(歴史と社 会)	人文・社会科学入門a	1・2・3・4・5後	:[1		0								兼1	
		人文・社会科学入門b	1・2・3・4・5後		1		0								兼1	
	分野別科目	ダイバーシティと人権a	1・2・3・4・5前	1			0								兼1	メディ
	(人間と生 活)	ダイバーシティと人権b	1 · 2 · 3 · 4 · 5前	1			0								兼1	メディ
		心理学入門a	1 · 2 · 3 · 4 · 5後		1		0					1				
	V B III I I	心理学入門b	1・2・3・4・5後	1	1	ļ	0	<u> </u>		-		1	 		.57:	
	分野別科日	生物の情報	1・2・3・4・5前		1		0								兼1	
	境)	生物の情報は	1・2・3・4・5前		1		0								兼1	
		健康と科学a	1 • 2 • 3 • 4 • 5後		1		0					1				
	分野別科目	健康と科学b 数学概論a	1 • 2 • 3 • 4 • 5後	_	1		0			1		1				
	(数理情報	数字概論a 数学概論b	1 · 2 · 3 · 4 · 5後 1 · 2 · 3 · 4 · 5後		1 1		0			1						
	と自然)	身の回りの科学a	1・2・3・4・5後		1		0			1					兼1	
		身の回りの科学b	1 • 2 • 3 • 4 • 5後		1		0								兼1	
	分野別科目	大阪の教育実践a	1 · 2 · 3 · 4 · 5通		1			0				1			W.I	
	(教育と	大阪の教育実践b	1 • 2 • 3 • 4 • 5通		1			0				1				
	キャリア)	キャリア教育a	1 • 2 • 3 • 4 • 5後		1		0								兼1	メディ
		キャリア教育b	1 · 2 · 3 · 4 · 5後		1		0								兼1	メディ
	分野別科目	身体表現とコミュニケーションa	1 · 2 · 3 · 4 · 5後		1		0								兼1	
	(多様性と 共生社会)	身体表現とコミュニケーションb	1・2・3・4・5後		1		0								兼1	
	// 1111/	ジェンダーとセクシュアリティa	1・2・3・4・5後		1		0								兼1	
		ジェンダーとセクシュアリティb	1・2・3・4・5後		1		0								兼1	
		小計 (31科目)	_	4	28	0				2	0	2	0	0	兼11	
グロ	英語	英語IA	1前	1				0			1				兼1	
1		英語IB	1後	1				0			1				兼1	
バル	ドイツ語	英語II(外国語コミュニケーション)	2前・後	2	! .	}	├	0	-	-	1	-	├	<u> </u>	兼1	
教	ドイノ㎡	ドイツ語IA ドイツ語IB	1前		1			0							兼1 	
育		ドイツ語II ドイツ語II	1後 2前		1 1			0							兼1 兼1	
科目	中国語	中国語IA	1前	 	1	1	\vdash	0	1			 	\vdash	1	兼1	
	. —	中国語IB	1後		1			0							兼1	
		中国語II	2前		1			0							兼1	
	韓国語	韓国語IA	1前	İ	1	l l		0							兼1	
		韓国語IB	1後		1			0							兼1	
		韓国語II	2前	L	1		L	0					L		兼1	
	国際協働学	国際協働学習	2前・後	1				0							兼3	
	習	小計 (13科目)	-	5	9	0		_	<u> </u>	0	1	0	0	0	兼8	
	体育科目	スポーツ実技Ⅰ	1前	1			\vdash	l	0		1	1	,	<u> </u>	兼1	
		スポーツ実技II	1後	1					0			1			兼1	
		小計 (2科目)	— —	2	0	0	H			0	0	1	0	0	兼1	
情	報活用科目	情報活用基礎I	1前	1	Ť	Ť		0		Ť	Ť		Ť	Ť	兼1	
		情報活用基礎II	1前	1				0							兼1	
		情報活用基礎III	1後	1				0		1	1	1				
		小計 (3科目)	-	3	0	0		_		1	1	1	0	0	兼1	
	職基礎科目	人権教育の基礎	3後	1	1	1	0						1	1	兼1	

(考) 古学部学校 为	教 育 育教員養成課程(夜間))	課	程		等		の		根	ŧ	5	要		
(3.		自教員長及除住(区間))			単位数	ζ	ž	受業形態	態		専任教	数員等の	の配置		
	科目			21	\da	ń	⊋#k	3eter	実	344-	7 44	⊋#k	DI.	DI.	
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
育		発達障害教育論	3前		1		0								兼1
科		保育と子ども	3後		1		0								兼2
目群		人権教育の実践	4後		1		0								兼1
	基 聯市田利口	小計 (5科目)	_	1	4	0		_		0	1	0	0	0	兼4
	教職専門科目	教職へのとびら	1前	1			0				1				兼1
		教育総論 特別支援教育の基礎	2前・後 2前	1 1			0				1 1				
		学校の役割と経営	3前・後	1			0				1				兼2
		発達と学習の心理学a	3前	1			0					1			兼1
		発達と学習の心理学b	3後	1			0					1			兼1
		ICT活用の理論と方法	3前	1			0								兼1
		生徒指導論	3前	1			0								兼1
		進路指導論	3後	1			0								兼1
		教育相談の理論と方法	3前・後	1			0								兼1
		学校安全a	4前	1			0								兼2
		学校安全b 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)	4前 4後	1 1			0								兼2 兼1
		教育課程論(カリキュラム・マネシメントを含む。) 道徳教育論a	4仮 4前・後	1			0				1				兼1
		道徳教育論b	4前・後	1			0				1				兼1
		総合的な学習の時間の指導法	4後	1			0				-				兼2
		特別活動論	4後	1			0								兼2
		教育方法論	4後	1			0								兼1
		教育実習I	4通	2					0						兼7
		教育実習II	5通	3					0						兼7
		教職実践演習(小)	5通	2				0		3	5	3			兼10
	フラッグシップ	小計 (21科目) ダイバーシティと教育	-	25	0	0		_		3	5	3	0	0	兼24
	指定科目	現代社会と子どもの権利	1前 1前	1 1			0				1 1				
		多様な子どもとインクルーシブ教育	1前	1			0				1				兼1
		外国人の子どもの理解と支援	1後	1			0								兼1
		教職のための省察入門	1前	1			0				1				兼1
		教科横断と探究学習I	2前	1			0								兼4
		教育データの活用I	2前	1			0								兼2
		ファシリテーターとしての教員I	2後	1			0								兼3
		学習者中心の授業デザインI	2後	1			0								兼3
		教職専門性と省察	2通	1			0								兼1
		学習者中心の授業デザインII	3後 —	1	0	0	0			0	2	0	0	0	兼3
	初等教科教育法	小計 (11科目) 初等国語科教育法 (書写を含む。)	 3前・後	11	0	0	0	_		1	Z	0	0	0	兼12
	科目	初等社会科教育法	3後	1			0			1					兼1
		算数科教育法	4前・後	1			0								兼1
		初等理科教育法	3前・後	1			0					1			兼1
		生活科教育法	2前・後	1			0								兼1
		初等音楽科教育法	4前・後	1			0								兼2
		図画工作科教育法	3前・後	1			0								兼1
		初等家庭科教育法	4前・後	1			0					_			兼1
		体育科教育法	4前	1			0				1	1			
		初等英語科教育法 小計 (10科目)	3前・後	10	0	0	0			1	1	2	0	0	兼1 兼9
	学校インターン				, ,	, ,	\vdash	l	_				U	V	
	シップ科目	学校インターンシップ体験	2通	2					0	3	5	3			兼10
#	小学林华拉士四	小計 (1科目)	-	2	0	0	_			3	5	3	0	0	兼10
専攻	小学校教科専門 科目	国語a(書写及びICTの活用を含む。)	1後	1			0			1					
専		国語b(書写及びICTの活用を含む。) 社会。(ICTの活用を含む。)	1後	1			0			1					羊 9
門科		社会a(ICTの活用を含む。) 社会b(ICTの活用を含む。)	1前・後 1前・後	1			0								兼2 兼2
目		算数a(ICTの活用を含む。)	1削・後 1前・後	1			0			1					兼1
群		算数b (ICTの活用を含む。)	1前・後	1			0			1					兼1
		理科a(ICTの活用を含む。)	1前・後	1			0					1			
1 1		生作a(IUIの佰用を百む。)	1削・俊	1	l	l	\cup	l		I		1			

(粉杏类如类块类	教 育 收育教員養成課程(夜間))	課	程		等		の		根	ŧ	B 3	要			
(教育于即于仪务	《月狄貝袞风硃钰(牧间))			単位数	ζ	哲	受業形	態		専任教	数員等の	の配置			
科目			必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		III. la
区分	授業科目の名称	配当年次						•		教					備考
			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
	理科b (ICTの活用を含む。)	1前・後	1			0 0					1				
	生活a(ICTの活用を含む。) 生活b(ICTの活用を含む。)	2後 2後	1 1			0			1 1		1 1			兼2 兼2	
	主名b(ICIの活用を含む。) 音楽a(ICTの活用を含む。)	2版 2前・後	1					0	1		1			兼1	
	音楽b (ICTの活用を含む。)	2前・後	1					0						兼2	
	図画工作a (ICTの活用を含む。)	2前・後	1					0						兼2	
	図画工作b(ICTの活用を含む。)	2前・後	1					0						兼2	
	家庭a(ICTの活用を含む。)	2前・後	1			0								兼1	
	家庭b (ICTの活用を含む。)	2前・後	1			0								兼1	
	体育a (ICTの活用を含む。)	2前	1					0			1			兼1	
	体育b (ICTの活用を含む。)	2後	1					0			1			兼1	
	英語a(ICTの活用を含む。)	3前	1			0				1					
	英語b(ICTの活用を含む。) 小計(20科目)	3前 —	20	0	0	0	L	L	3	1	2	0	0	兼13	
系列専門科目	か計 (20科目) 教育学研究Ia		20	1	U	\vdash	0		J	1		U	U	W19	
	教育学研究Ib	3後		1			0			1					
	学校インターンシップI	3通		2				0	3	5	3			兼10	
	ものづくり教育研究a	3前		1]	0							兼1	
	ものづくり教育研究b	3前		1			0							兼1	
	社会科学習指導研究a	3前		1		0			1						
	社会科学習指導研究b	3前		1		0			1						
	数学・数学教育研究a	3後		1			0		1						
	数学・数学教育研究b	3後		1			0		1						
	理科の実験Ia	3後		1		0					1				
	理科の実験Ib	3後		1		0					1				
	学校保健学a	3後		1		0								兼1	
	学校保健学b	3後		1		0								兼1	
	生活科学a	3前		1		0								兼1	
	生活科学b	3前		1		0								兼1	
	教育学研究IIa 教育学研究IIb	4前 4前		1 1			0							兼1 兼1	
	次月子切光110 応用行動分析学a	4前		1			0			1				秋1	
	応用行動分析学b	4前		1			0			1					
	心理学特講a	4後		1			0			1				兼1	
	心理学特講b	4後		1			0							兼1	
	心理学研究法a	4前		1		0								兼1	
	心理学研究法b	4前		1		0								兼1	
	学校インターンシップII	4前		2]		0	3	5	3			兼10	
	国語科学習指導研究a	4前		1			0							兼1	
	国語科学習指導研究b	4前		1]	0							兼1	
	英語科学習指導研究a	4後		1]	0			1					
	英語科学習指導研究b	4後		1		_	0			1					
	理科の実験IIa	4前		1		0					1				
	理科の実験IIb	4前		1		0					1			34 .	
	音楽科学習指導研究a	4後		1		0								兼1	
	音楽科学習指導研究b 図画工作科学習指導研究a	4後 4後		1		0	0							兼1 兼1	
	図画工作科学習指導研究b	4後 4後		1			0							兼1	
	体育科学習指導研究a	4後 4後		1]	0				1			\r\1	
	体育科学習指導研究b	4後		1]	0				1				
	課題研究Ⅰ	5前	1	1]	0		3	3	2			兼7	
	課題研究II	5後	1				0		3	3	2			兼7	
	小計 (38科目)		2	38	0		_		3	5	3	0	0	兼12	
学校図書館司書教	学校経営と学校図書館	2・3・4後		2		0								兼1	
諭資格取得科目	学校図書館メディアの構成	2・3・4後		2		0								兼1	
	学習指導と学校図書館	2・3・4前		2		0								兼1	
					i	. '	1	1	ī						
	読書教育と図書館	2・3・4前		2		0					ļ i			兼1	
	読書教育と図書館 情報メディアの活用 小計 (5科目)	2・3・4前 2・3・4後		2 2		0			0						メディア

	教	育	課	程		等		の		根	T	<u> </u>	要		
(教育学部学校教	育教員養成課程 	(夜間))		<u> </u>	単位数	'n	ź	受業形態	能	1	恵任表	教員等(の配置		
科目区分	授業科目	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助助	助	備考
上 ガ				修	択	由	義	習	· 実 習	授	教 授	師	教	手	
卒業研究	卒業研究		5通	4				0		3	5	3			兼10
	小計 (1科目)		-	4	0	0		_		3	5	3	0	0	兼10
£	計 (162科目)		_	90	89	0		_		3	5	3	0	0	兼79
学位又は称号	学	士(教育学)		学	位又	は学科	の分	野			教	育学	・保育	学関	係
卒	英 要 件	及び	履修	方	沒	 去						授業期	明間等		
	5年以上在学し、								1 学年	三の学	期区分	}			2期
を修得した者につ	いて、教授会の詞	義を経て学長7	が卒業を認定	し、当	学士の	学位を	2授				業期間	•			15週
与する。 各学期に履修申	請できる単位数に	ま. 26単位(声	新定の単位を	優れた	- 成績	をもっ	って		1 時 🛭	見の授	業時間	II .			90分
教刊 目 ッ 報 日 ッ 報 日 ッ 報 日 ッ 報 日 ッ 報 日 ッ 教 ター 日 ッ 教 ター 日 ッ 教 クー 年 日 の 学 攻 小 系 由 業 計 124 世 日 教 教 専 の 会 の に の の の の の の の の の の の の の の の の	位 15単位 15単位 8単位 3単位 3単位 3単位位 3単位位 11単位 3単位位 11単位 10単位 21 12単位 21 21 21 21 21 21 21 21 21 21	単位 ての単位数を刺 髪科目を除く)		た以ヿ	下の科	目とす	r								

		教	育	課	程		等		の		根	ŧ	15	更			
(孝	有学部初等教	育教員養成課程)	【既設】												;	柏原キ	テャンパス
						単位数	ζ	挖	受業形態	態		専任教	数員等(の配置			
	科目	ISS AMPLE OF THE	. h #1.	Tall be vi	N	188	台	÷±.	冷	実	#/+) <i>H</i> -	⊋±±.	ph.	П÷		/++
	区分	授業科目の)名称	配当年次	必	選	自	講	演	験・	教	准教	講	助	助		備考
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
教	分野別科目(思	日本人の宗教観		1・2・3・4前		2		0								兼1	
養基	索と芸術)	平安朝文学世界への		1 · 2 · 3 · 4前		2		0								兼1	
礎科		コンサートへの誘い 和歌の表現世界を知		1·2·3·4通 1·2·3·4後		2 2			0							兼6 兼1	共同・集中
目		和歌の表現世界を知 読むための視点	10	1・2・3・4後		2		0								兼1	メディア
		ドイツ文学を読む		1·2·3·4前		2		0								兼1	
		芸術理論:フランス	、近代美学から	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		民族と音楽:東南ア	ジアを中心に			2		0								兼1	
		比較文学論 ヨーロッパーフラン	ノフの変から	1·2·3·4後 1·2·3·4後		2 2		0								兼1 兼1	
	分野別科目(国		イベの心から	1・2・3・4版		2		0								兼1	
	際と地域)	国際関係論入門		1・2・3・4前		2		0								兼1	
		English World I		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World II		1 · 2 · 3 · 4前		1		0								兼1	
		English World III		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World IV English World V		1·2·3·4前 1·2·3·4前		1 1		0								兼1 兼1	
		English World VI		1 • 2 • 3 • 4前		1		0								兼1	
		English World VII		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World VIII	[1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World IX		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World X 世界の教授法・世界	の舞り書	1·2·3·4前 1·2·3·4前		1 2		0								兼1 兼7	オムニバス・集中
		日本古代文化史I	トの叙代音	1・2・3・4前		1		0								兼1	オムーハ人・乗中
		日本古代文化史II		1·2·3·4前		1		0								兼1	
		日本近代文学読解入	、門I	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		日本近代文学読解入		1・2・3・4後		1		0								兼1	
		経済の目で見る地域 経済の目で見る地域	_	1·2·3·4前 1·2·3·4前		1		0								兼1	
		経済の日 C見る地場 多言語実践プロジェ		1・2・3・4削		1 2		0								兼1 兼2	
	分野別科目(歴		- / 1	1・2・3・4前・後	1			0								兼2	メディア
	史と社会)	部落問題概論		1・2・3・4前		2		0								兼1	
		日本科学技術史概論	Ħ	1・2・3・4後		2		0								兼1	
	分野別科目 (人	近現代外交史 ダイバーシティと人	1/4	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前 · 後	_	2	-	0								兼1	メディア
	間と生活)	現代社会学の方法と		1・2・3・4前・後	_	2		0								兼1	<i>//1/</i>
		現場に活かすスポー		1 • 2 • 3 • 4前		2		0								兼1	
		健康科学への招待		1・2・3・4前		2		0								兼3	オムニバス
		生活環境をさぐる		1・2・3・4後		2		0									オムニバス
		対人コミュニケーシ 経済教育実践論	/ョンの心理学	1 · 2 · 3 · 4後 1 · 2 · 3 · 4前		2 2		0								兼1 兼1	メディア
	分野別科目(生			1・2・3・4前		2	-	0								兼1	
	命と環境)	地球と災害		1・2・3・4後		2		0								兼1	
		DNAを中心とした生1	命科学	1・2・3・4後		2		0								兼1	メディア
		地球と環境		1・2・3・4後		2		0								兼1	
		ミクロの生物学入門 生物学と医学の出会		1·2·3·4後 1·2·3·4前		2 2		0								兼1 兼1	
		生物子と医子の田芸 暮らしの環境と地図		1・2・3・4削		2		0								兼1	
		生物観察入門		1・2・3・4後		2		0								兼1	
	分野別科目(数理性報に白然)	ベクトルとその応用	を理解する	1・2・3・4前		2		0								兼1	
	理情報と自然)	はかってなんぼー学	兰校編	1・2・3・4前		2		0								兼1	メディア
		科学常識を考える		1・2・3・4前		2 2		0								兼1	
		科学の基本 体験しよう!かがく	実験	1·2·3·4後 1·2·3·4後		2		0								兼1 兼1	
		論理と数理パズルI		1・2・3・4前		1		0									メディア
		論理と数理パズルII	I	1 · 2 · 3 · 4前		1		0									メディア

			教	育	課	程		等		の		根	ŧ	-	要			
(孝	育	学部初等教	育教員養成課程)	【既設】		1						n					柏原二	キャンパス
							単位数		ž	受業形	_	ļ	専任教	数員等(の配置			
		科目	授業科目の)名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	[区分	DATE OF	s.H.M.	HL -1 1 00	修	択	由	義	習	実	授	· 教 授	師	教	手		nm - 2
						113	1/1	Ħ	我	白	習	1ヌ	1又	וום	叙	Ť		
	分野	7別科目(教 : キャリア)	キャリアデザイン		1 • 2 • 3 • 4前		2		0								兼1	メディア
	,, ,	,	教職キャリア形成器 学校教育と著作権	Ĥ	1·2·3·4後 1·2·3·4通		2 2		0								兼1 兼1	集中
	i		教育科学の基礎		1・2・3・4通		2		0								兼1	来中
	1		ことばと教育		1 • 2 • 3 • 4後		2		0								兼1	
	1		国際理解教育		1・2・3・4前		2		0								兼1	
	1		人間と道徳		1・2・3・4前		2		0								兼1	
	1		教員のための数学		1・2・3・4前		2		0								兼1	
	1		環境教育論		1・2・3・4前		2		0								兼1	
	1		消費者教育論		1・2・3・4前		2		0								兼1	
	1		表現教育		1・2・3・4通		2			0							兼3	オムニバス・集中
1	ı		遊びとスポーツ 教職実践論		1・2・3・4後		2		0								兼2	
	ı		教職実践論 知的財産教育論		1·2·3·4前 1·2·3·4後		2 2		0								兼1 兼1	
	ı		知的財産教育論 子どもの多様性と教	か音	1・2・3・4後		2		0								兼7	オムニバス・集中
	1		ことばの獲得と学習		1・2・3・4通		2		0								兼4	オムニバス・集中
	ı		探究型学習の実践と		1・2・3・4億		2		0								兼2	オムニバス
	1		地域連携・人権フィ		1 • 2 • 3 • 4通		2		0								兼4	集中
	1		演劇的手法によるコミュニ		1 · 2 · 3 · 4前		1			0							兼2	
	1		演劇的手法によるコミュニ	ケーション演習II	1・2・3・4前		1			0							兼2	
	1		企業と連携した専門	職業人養成講座	1・2・3・4後		1		0								兼1	
			大学生のための金融網	経済リテラシー	1・2・3・4後		1		0								兼1	
	総合	基盤教養科 目	資料・情報利用法		1・2・3・4後		2		0								兼1	
	合科	П	アクティブ・ラーニ		1 · 2 · 3 · 4通		2		0	*							兼6	※演習、オムニバス
	目		データサイエンス入		1・2・3・4後		1		0								兼1	
			AIとデータサイエン		1・2・3・4後		1		0	*							兼1	※演習
		多様性理解	課題探究型STEAM教 海外文化研究	月	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4通		2		0	0		 					兼4 兼1	集中
		科目	「障害」者と人権		1・2・3・4崩		2		0								兼1	未 ナディア
			ジェンダーとセクシ	/ュアリティ	1 • 2 • 3 • 4前		2		0								兼1	メディア
			共生社会論		1・2・3・4前		2		0								兼1	
			国際理解		1 · 2 · 3 · 4後		2		0								兼1	
			多文化共生の社会を	どめざして	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			障がい者支援入門		1・2・3・4前		2		0								兼1	メディア
			外国人児童生徒教育	î	1・2・3・4後		2		0								兼2	
			小計 (91科目)		_	4	154	0		_		0	0	0	0	0	兼101	
共通	Ē	言語科目	英語 (T) Ia		1前	1				0							兼2	
基	ı		英語 (T) Ib 英語 (T) IIa		1後	1 2				0							兼2	
礎科	ı		央語(I)IIa 英語(T)IIb		2前 2後		2			0							兼2 兼1	
目	ı		英語(I)III ドイツ語Ia		1前		1			0							兼4	
	1		ドイツ語Ib		1後		1			0							兼4	
	1		ドイツ語IIa		2前		2			0							兼1	
	1		ドイツ語IIb		2後		2			0							兼1	
	ı		フランス語Ia		1前		1			0							兼4	
	ı		フランス語Ib		1後		1			0							兼4	
1	ı		フランス語IIa		2前		2			0							兼1	
	ı		フランス語IIb		2後		2			0							兼1	
1	ı		中国語Ia		1前		1			0							兼6	
	ı		中国語Ib		1後		1			0							兼6	
	ı		中国語IIa 中国語IIb		2前 2後		2 2			0							兼1 兼1	
	ı		中国語110 外国語コミュニケー	-ション	2版 2前	2				0							兼3	
	ı		韓国語Ia		1前		1			0							兼1	
	ı		韓国語Ib		1後		1			0							兼1	
	ı		韓国語IIa		2前		2			0							兼1	
,	ii.		韓国語IIb		2後		2			0							兼1	
					_	6	26	0	1	_		0	0	0	0	0	兼22	

(教	有学部初等教					等		の		根	t	3	要			
		育教員養成課程)【既設】								1					柏原二	Fャンパス
					単位数	ζ	抄	受業形態	_		専任教	対員等の	の配置	ī		
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分	以来打自 <i>切</i> 有机	HL I T IX	修	択						教					VM · J
				15	170	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
	体育科目	スポーツ実技a	1前	1					0						兼8	共同
		スポーツ実技b	1後	1					0						兼12	共同
1 }	ICT科目	小計(2科目) ICT基礎a	1 ***	2	0	0		_	1	0	0	0	0	0	兼13	メディア
	101771	ICI基礎a ICT基礎b	1前 1後	4	1			0		1					飛4	メソイノ
		ICT基礎c	1後		1			0		1	1					
		小計 (3科目)	_	2	2	0		_		1	1	0	0	0	兼4	
耈	汝職基礎科目	特別支援教育の実践	1前・後		1		0								兼2	
		人権教育の基礎	2前	1			0								兼2	
		発達障害教育論	2前		1		0								兼1	
7 =	ラッグシップ指	小計 (3科目)	-	1	2	0	_	_		0	0	0	0	0	兼5	, — —
	アックンツノ指 定科目	ダイバーシティと教育 現代社会と子どもの権利	1前 1前	1			0								兼2 兼2	メディア メディア
		多様な子どもとインクルーシブ教育	1前	1	1		0									オムニバス、メディア
		外国人の子どもの理解と支援	1前		1		0								兼1	メディア
		小計 (4科目)	_	2	2	0		_		0	0	0	0	0	兼15	
教	教職専門科目	教育総論	1後	2			0								兼1	
職関		教職入門	1通	2			0			2	1	1			兼2	オムニバス・共同 (一郎) ・集中
連		学校の役割と経営	2前	2			0								兼2	
科目		学校安全	2前・後	2			0								兼2	
		発達と学習の心理学	1前	2			0								兼1	
		特別支援教育の基礎	1前・後	1	_		0								兼2	
		幼児教育指導法	2後		2		0								兼1	
		幼児理解と教育相談	1通		2		0			1					兼1	オムニバス・集中
		教育課程・方法論 ICT活用の理論と方法	2後 2前		2 1		0								兼1 兼2	
		生徒指導・進路指導論	2前		2		0								兼2	
		小計(11科目)		11	9	0			<u> </u>	2	1	1	0	0	兼17	
1	保育内容指導法	健康の指導法	2後		2		0						Ť		兼1	
	科目	環境の指導法	2前		2		0								兼1	
		表現の指導法Ⅰ	2通		1		0	*							兼2	※演習
		表現の指導法II	2後		1		*	0		1						※講義
		人間関係の指導法	2前		2		0			2					兼3	オムニバス
		言葉の指導法	2前		2		0								兼1	
		小計 (6科目)	_	0	10	0		_		3	0	0	0	0	兼8	
1	初等教科教育法 科目	生活科教育法	2後		2		0								兼1	
	11.6	図画工作科教育法	2前・後		2		0								兼2	
		初等家庭科教育法 体育科教育法	2後		2 2		0								兼2	
		小計(4科目)	2後	0	8	0	0	<u> </u>		0	0	0	0	0	兼2 兼7	
ż	学校インターン	幼児教育インターンシップ	2通	0	2	0		1	0	1	0	0	0	0		集中
	シップ科目	学校インターンシップ体験	2通		2				0	1	1					集中
		小計 (2科目)	_	0	4	0		_	Ü	2	1	0	0	0	兼6	<i>A</i> C 1
		幼児教育実践総論	1通		2		0			1						集中
攻専	科目	表現指導基礎演習I	2前		1				0		1				兼1	
門		表現指導基礎演習II	2後		1				0		1					
科		幼児教育研究調査法I	2前		1		0	*		1						※演習
目		幼児教育研究調査法II	2後		1		*	0		1						※講義
		就学前の教育学	2後		2		0			1					兼2	オムニバス
		ピアノ表現演習Ⅰ	1前		1				0		1				兼1	
		ピアノ表現演習II	1後	1	1	_	<u> </u>	<u> </u>	0	_	1	_	<u> </u>		兼1	
-	領域車田利口	小計 (8科目)		0	10	0	<u> </u>	_	1	2	1	0	0	0	兼7	生士
	領域専門科目	幼児と健康	1通		1			0		1		1			兼2	集中
		幼児と人間関係	1後		1			0		2	1	1			兼2	
		幼児と環境 幼児と言葉	1後		1			0		1	1				兼2 兼2	集中
		幼児と言葉 幼児と表現I	1通 1後		1			0		1	2				ポ 乙	未丁
		ツィノロ ニ タスンロエ	1後	I	1	I		0		Ī						

	教	育	課	程		等		の		根	ŧ		更			
(教育学部初等教	育教員養成課程)	【既設】													柏原キー	ャンパス
					単位数	(抒	受業形態	焦		専任教	数員等(の配置			
科目区分	授業科目	の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	教授	准教授	講師	助教	助手	備	持
	小計 (6科目)			0	6	0			習	4	3	1	0	0	兼8	
小学校教科専門	国語I (ICTの活用	を含む)	 1前・後	0	1	U	0			4	3	1	0	U	兼4	
料目	国語(書写)II(ICTの 社会(ICTの活用を 算数(ICTの活用を 生活(ICTの活用を 音楽(ICTの活用を 図画工作 I(ICTの 家庭(ICTの活用を 体育I(ICTの活用 体育II(ICTの活用 理科(ICTの活用 連科(ICTの活用を 小計(12科目) 学校経営と学校図	の活用を含む。) た含む。) た含む。) た含む。) た含む。) が活用を含む。) が活用を含む。) た含む。) を含む。) を含む。)	1 前 1 前 1 前 1 前 1 前 1 前 1 前 1 前 1 前 1 前	0	1 2 2 2 2 1 1 2 1 2 1 1 2 1 1 8 2 1 1 8 2	0	00000	** -	0 00 00	0	0	0	0	0	兼3 兼3 兼3 兼1 兼3 兼2 兼2 兼5 兼4	- ムニバフ - ムニバフ : 同 : 同
論資格取得科目	学校図書館メディ 学習指導と学校図 読書教育と図書館 情報メディアの活 小計 (5科目)	書館	2後 2後 2通 2後 — —	0 28	2 2 2 2 10 261	0	0 0 0			0 4	0 3	0	0	0	兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 メ 兼4	ディア
学位又は称号	学位又は称号 学士(教育学				位又	は学科	の分	野			教	育学	• 保育	学関係	系	
卒 第	英 要 件	及び	履修	方	沒	Ė						授業期	朋間等			
	請できる単位数に		所定の単位を	優れた	こ成績	をもっ	って		1 学年	三の学:	期区分	}			2 学期	
修得した者につい	ては、30単位)」	以下とする。							1 学期	明の授	業期間	1			15週	
									1 時限	の授	坐 日 日	1			90分	

		教	育	課	程		等		の		根	ŧ	5	要			1/1/4/2
(孝	收育学部初等 教	育教員養成課程)	【既設】												天	王寺キ	Fャンパス
			2.7247.2			単位数	ζ	抄	受業形	態		専任教	数員等(の配置			
	AN EL									実		I	I				
	科目 区分	授業科目の	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
					修	択	由	義	習	実	授	授	師	教	手		
	教職基礎科目	/		- //				0		習							
	汉城 医使行口	幼小連携教育論I 幼小連携教育論II		3後	1	1		0			1 1		1			兼1	
		人権教育の実践		3後		1		0			1					兼1	
		教職のためのデータ	タサイエンス	3前		1			0							兼1	
		小計(4科目)		-	1	3	0		_		2	0	1	0	0	兼3	
教職	教職専門科目	道徳教育論		3前		2		0								兼1	
関		特別活動論(総合的な学習の時		3後		2		0					1				
連科		教育相談の理論と対	5法	3前		2		0			1					37	2.3
目		幼児教育課程論 基本小学校教育実習	ΣI	3前		2 5		0			1	,					オムニバス 集中
		基本小子校教育美语 幼稚園教育実習	∃i .	3通 3通		5 5				0	1	1 1				兼5 兼5	集中
		教職実践演習(幼・	· /\)	4通	2	0			0		5	4	1				集中
		小計(7科目)	-17	-	2	18	0		_	1	5	4	1	0	0	兼17	* I
	初等教科教育法	初等国語科教育法(書写を含む。)	3後		2		0								兼1	
	科目	初等社会科教育法		3前		2		0								兼1	
		算数科教育法		3前		2		0				1					
		初等理科教育法		3後		2		0								兼1	
		初等音楽科教育法		3前		2		0				1				.,	
		初等英語科教育法		3後		2	0	0	<u> </u>		_		0	0		兼2	
専	幼稚園教育専門	小計(6科目) 表現指導演習I		3後	0	12 1	0		-		0	2	0	0	0	兼5 兼1	
攻専	科目	表現指導俱首1 幼児教育分析演習		3前		1			0			1				兼2	
専門		幼児教育ガ析領目	ケト演習Ⅰ	3前		1			0		2	1				AK2	共同
科		幼児教育プロジェク		3後		1			0		2	1					共同
目		保育内容実践演習I(カ	いらだとリズム)	3後		1			0			1				兼1	
		保育内容実践演習II(い	のちとつながり)	3通		1			0							兼2	集中
		保育内容実践演習III(3前		1			0							兼1	
		保育内容実践演習IV(3前		1			0							兼2	
		保育内容実践演習V(3前		1			0			1				兼1	#
		幼児教育実践研究I 幼児教育実践研究I		3通 3通		1			0		1	1					集中
		切児教育美政研先1 保育とダイバーシラ		3通		1 2		0			1 1					兼3	集中
		表現指導演習II	· -1	4通		1			0		1	1				兼3	本 1
		幼児教育学特講		4前		2		0			1	1				兼1	
		幼児教育探究演習I		4前		1			0		2	1					
		幼児教育探究演習I	I	4後		1			0		2	1					
		保育内容特講		4前		2			0			1					
		家庭地域連携の政策		4後		2		0	_							兼1	
		幼児教育実践研究I		4前		1			0		1	1				兼1	
		幼児教育実践研究I 幼児臨床学	V	4通 3通		1 2		0	0		1 1	1				兼1	集中
		小計(21科目)		- 3.囲	0	26	0	0	_		2	1	0	0	0	兼19	未生
	小学校教科専門	英語 (ICTの活用を	含む。)	3前	Ť	2	Ť	0				<u> </u>	Ť	-		兼1	
	科目	小計(1科目)		_	0	2	0		_		0	0	0	0	0	兼1	
	系列専門科目	課題研究I		4前		1			0		3	3	1			兼8	
		課題研究II		4後		1			0		3	3	1			兼8	
		教育学研究I		3後		2			0							兼1	
		教育学研究II	- 3	3前		2		_	0				1			24.	
		メディア・エデュケ	アーション	3後		2		0								兼1	
		応用行動分析学 学校臨床心理学		3前 3前		2 2		0	0		1					兼1	
		心理学特講		3後		2			0		1					兼1	
		心理学研究法I		3前		2		0								兼1	
		心理学研究法II		3後		2		0			1						
		学校インターンショ	ップI	3通		2				0	5	4	1			兼11	
		学校インターンシッ	ップII	4前		2				0	5	4	1			兼11	集中

	教	育	課	程		等		の		根	ŧ	5	要			
(教育学部初等教	育教員養成課程)	【既設】												天	王寺キャン/	パス
					単位数	(挖	受業形態	態		専任教	数員等(の配置			
科目 区分	授業科目の	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考	
				修	択	由	義	習	· 実 習	授	教 授	師	教	手		
	ものづくり教育研究	筅	3前		2			0			1					
	ICT教育の実践研究		3後		2			0			1					
	国語科学習指導研究	筅	4前		2			0		1						
	社会科学習指導研究	名I	3前		2		0								兼1	
	社会科学習指導研究	牟II	4後		2			0							兼2	
	数学入門		3前		2			0			1					
	数学·数学教育演習	9	3後		2			0			1					
	自然の研究		3前		2		0								兼1	
	理科の実験Ⅰ		3後		2		0								兼1	
	理科の実験II		4前		2		0								兼1	
	音楽科学習指導研究	笔I	3後		2		0				1					
	音楽科学習指導研究	笔II	4前		2		0				1					
	図画工作科学習指導	尊研究	3後		2			0		1						
	図画工作科学習指導	掌演習	3前		2			0		1						
	体育科学習指導研究	宅	3後		2			0							兼1	
	学校保健学		3後		2		0								兼1	
	生活科学		3前		2		0								兼2	
	英語科学習指導研究	筅	4後		2			0							兼1	
	小計 (30科目)		<u> </u>	0	58	0		_		5	4	1	0	0	兼18	
卒業研究	卒業研究		4通	4				0		5	4	1			兼11	
	小計(1科目)		_	4	0	0		_		5	4	1	0	0	兼11	
1	合計 (70科目)	_	_	7	119	0		_		5	4	1	0	0	兼45	

	教	育	課	程		等		の		相	死	3	要		
(教育学部初等教	(育教員養成課程)	【既設】												天	王寺キャンパス
					単位数	ζ	ž	受業形	態		専任教	教員等の	の配置		
科目 区分	授業科目の	の名称	配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	備考
 学位又は称号	学。	上 (教育学)		22	 位又	け学系	しの分	田文	習		数	育学 ·	• 促杏	学即位	<u> </u>
		及び	履修	方			TV))]	±1				授業期		十月1	不
	* 安 件 4年以上在学し、						方数		1 学年	この学	期区を		川則守		 2 学期
を修得した者につ									- '		業期間	•			15週
与する。 各学期に履修申	請できる単位数に	は、26単位	(所定の単位を	優れた	こ成績	をもっ	って		• • • •		業時間	•			90分
修得した者につい	いては、30単位)以	人下とする。													
專 專 專 專 專 專 專 專 與 與 與 與 中 與 與 中 與 與 中 與 中 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之 之	は位 位 位 立 単位 24単位 24単位 10単位 24単 10単位 6単位 6単位 6単位 10単位 10単位 10単位 10単位 2単位 10単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2														

			教 育	課	程		等		の		根	ŧ	12	更			
(孝	数育:	学部初等教	育教員養成課程(夜間))【問														
						単位数	(擅	受業形態	態	専任教員等の配置						
科目区分		科日			`.	>==		-44) and a	実	ועב						
			授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
教	公照	別科目(思		1・2・3・4・5後		2		0		省						兼1	
養基	索と芸術)		芸術	1・2・3・4・5前		2			0							兼1	
礎	分野別科目(国		異文化理解とコミュニケーション	1・2・3・4・5後		2		0	*				1				※演習
科目	際と地域)		大阪学	1 · 2 · 3 · 4 · 5前		2		-	0		1						集中
		『別科目(歴 』と社会)	日本国憲法	1 · 2 · 3 · 4 · 5後	2	2		0								兼1 兼1	メディア
	_	別科目(人	人文・社会科学入門 ダイバーシティと人権	1 · 2 · 3 · 4 · 5後 1 · 2 · 3 · 4 · 5前		2		0								兼1	メディア
	プ野別科目(A 間と生活)		心理学入門	1·2·3·4·5後		2		0					1			7114.2	, , , ,
			生物の情報	1・2・3・4・5前		2		0								兼1	
	命と環境) 分野別科目(数 理情報と自然)		健康と科学	1・2・3・4・5後		2		0					1				
				1 • 2 • 3 • 4 • 5後		2		0			1					34. ·	
			身の回りの科学 大阪の教育実践	1 · 2 · 3 · 4 · 5後 1 · 2 · 3 · 4 · 5通		2		0	0		-		1			兼1	集中
		*別科日(教 : キャリア)	キャリア教育	1・2・3・4・5通		2		0					1			兼1	乗中 メディア
	総		ゼミナール	1・2・3・4・5前	1	Ť			0		1		1			>118.4	
	合科	目	言語表現とコミュニケーションI	1 · 2 · 3 · 4 · 5後		1			0							兼1	
	目		言語表現とコミュニケーションII	1・2・3・4・5後		1			0							兼1	
			データサイエンスI	1・2・3・4・5前		1		0								兼1	
			データサイエンスII	1・2・3・4・5前		1		0	*								※演習
		多様性理解	身体表現とコミュニケーション ジェンダーとセクシュアリティ	1 · 2 · 3 · 4 · 5後 1 · 2 · 3 · 4 · 5後		2		0								兼1 兼1	
		科目	障がい者支援入門	1 • 2 • 3 • 4 • 5前		2		0								兼1	
			アジア文化理解	1 • 2 • 3 • 4 • 5前		2		0								兼1	
			小計 (23科目)	-	5	36	0		_		2	0	3	0	0	兼15	
共通基礎	言語科目		英語IA	1前	1				0			1				兼1	
			英語IB	1後	1				0			1				兼1	
礎科			英語IIA (外国語コミュニケーション)	2前	1				0			1				兼1	
目			英語IIB(外国語コミュニケーション) ドイツ語IA	2後 1前	1	1			0			1				兼1 兼1	
			ドイツ語IB	1後		1			0							兼1	
			ドイツ語IIA	2前		1			0							兼1	
			ドイツ語IIB	2後		1			0							兼1	
			中国語IA	1前		1			0							兼1	
			中国語IB	1後		1			0							兼1	
			中国語IIA	2前		1			0							兼1	
			中国語IIB 韓国語IA	2後 1前		1 1			0							兼1 兼1	
			韓国語IB	1後		1			0							兼1	
			韓国語IIA	2前		1			0							兼1	
			韓国語IIB	2後		1			0							兼1	
		U-20 -	小計 (16科目)	_	4	12	0		_		0	1	0	0	0	兼5	
	1	体育科目	スポーツ実技Ⅰ	1前	1					0			1			兼1	
			スポーツ実技II 小計 (2科目)	1後 -	2	0	0			0	0	0	1	0	0	兼1 兼1	
		ICT科目	ICT基礎a	 1前	2	, ,	U	1	0		0	U	1	V	U		メディア
		* *	ICT基礎b	1通	1				0		1	1	1			>11×±	
			小計(2科目)	_	3	0	0		_		1	1	1	0	0	兼1	
	教職	基礎科目	人権教育の基礎	3後	1			0								兼1	
			特別支援教育の実践	2前		1		0				1					
			インクルーシブ教育論	3前		1		0				1				₩.	
			発達障害教育論 保育と子ども	3前 3後		1 1		0								兼1 兼2	
			保育とすども 人権教育の実践	3 仮 4 後		1		0								兼2 兼1	
			教職のためのデータサイエンス	4前		1			0							兼1	
			小計 (7科目)	-	1	6	0		_	•	0	1	0	0	0	兼5	
-				•		-	-	•			-	-		-	_		

		教育	課	程		等		の		根	ŧ	5	要			
(孝	教育学部初等 教	育教員養成課程(夜間))【月	既設】	ı											ı	
					単位数	t	挖	受業形	_		専任教	数員等(の配置	1		
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分			修	択	由	義	習	実	授	教 授	舗	教	手		•
				15	3/ (4%	П	習	1/	1/	14.19	•	,		
フ	ラッグシップ科 目	ダイバーシティと教育	1前	1			0				1					
		現代社会と子どもの権利 小計(2科目)	1前 —	2	0	0	0	<u> </u>	l	0	1	0	0	0		
教	教職専門科目	教職入門	1前	2			0				1				兼1	
職関		教育総論	2前	2			0				1					
連科		特別支援教育の基礎	2前	1			0				1				26.0	
目		学校の役割と経営 発達と学習の心理学	3前・後 3前・後	2 2			0					1			兼2 兼1	
		ICT活用の理論と方法	3前	1			0					1			兼1	
		生徒指導・進路指導論	3前	2			0								兼1	
		教育相談の理論と方法	3前	2			0								兼1	
		学校安全	4前	2			0								兼2	
		道徳教育論	4前・後	2			0				1				兼1	
		特別活動論 (総合的な学習の時間の指導法を含む。) 教育課程・方法論	4後 4後	2 2			0								兼2 兼1	
		教育実習[4通	2					0						兼7	集中
		教育実習II	5通	3					0						兼7	集中
		教職実践演習 (小)	5通	2				0		3	5	3			兼10	集中
	har belong to the state of	小計 (15科目)	_	29	0	0				3	5	3	0	0	兼24	
	初等教科教育法 科目	MARININAM (B) COS. /	3前	2			0			1					26.4	
		初等社会科教育法 算数科教育法	3前・後 4前	2 2			0								兼1 兼1	
		初等理科教育法	3前・後	2			0					1			兼1	
		生活科教育法	2前	2			0								兼1	
		初等音楽科教育法	4前・後	2			0								兼2	
		図画工作科教育法	3前	2			0								兼1	
		初等家庭科教育法	4前	2			0					١.			兼1	
		体育科教育法 初等英語科教育法	4前 3前・後	2 2			0				1	1			兼1	
		小計(10科目)	- 5 円・1支	20	0	0				1	1	2	0	0	兼9	
	学校インターン	学校インターンシップ体験	2通	2					0	3	5	3			兼10	集中
	シップ科目	小計(1科目)	_	2	0	0		_		3	5	3	0	0	兼10	
攻	小学校教科専門 科目	国語(書写を含む。)(ICTの活用を含む。)	1後	2			0			1					27	
専	11.6	社会(ICTの活用を含む。) 算数(ICTの活用を含む。)	1前・後	2 2			0			,					兼2 兼1	
門科		理科 (ICTの活用を含む。)	1前・後 1前	2			0			1		1			飛1	
目		生活 (ICTの活用を含む。)	2後	2			0			1		1			兼2	
		音楽I(ICTの活用を含む。)	2後	1					0						兼1	
		音楽II(ICTの活用を含む。)	2前・後	1					0						兼2	
		図画工作I(ICTの活用を含む。)	2前・後	1					0						兼2	
		図画工作II(ICTの活用を含む。) 家庭(ICTの活用を含む。)	2前	1 2					0						兼2 	
1		家庭(ICIの活用を含む。) 体育I(ICTの活用を含む。)	2前 2前	1			0		0			1			兼1 兼1	
1		体育II (ICTの活用を含む。)	2後	1					0			1			兼1	
1		英語(ICTの活用を含む。)	3前	2			0				1					
		小計(13科目)	_	20	0	0		_		3	1	2	0	0	兼13	
	系列専門科目	課題研究Ⅰ	5前	1				0		3	3	2				集中
		課題研究II	5後	1	0			0		3	3	2				集中
1		教育学研究I 教育学研究II	3後 4前		2 2			0							兼1 兼1	
		メディア・エデュケーション	3後		2		0								兼1	
		応用行動分析学	4前		2			0			1				<u> </u>	
		学校臨床心理学	3前		2		0								兼1	
		心理学特講	4後		2		_	0				1				
		心理学研究法I	3前		2		0					1				
1		心理学研究法II 学校インターンシップI	4後 3通		2 2		0		0	3	5	3			兼1 兼10	
1		学校インターンシップI 学校インターンシップII	4前		2				0	3	5 5	3			兼10	
1	I	丁以コマノ ママソノ11	#HI	I		I	I	I	\cup	ll ³		I	I	I	NK I U	>k 1'

育教員養成課程(夜間))【即 授業科目の名称 授業科目の名称 学校インターンシップIII ものづくり教育研究 国語科学習指導研究I 社会科学習指導研究I 社会科学習指導研究I 英語科学習教育研究II 英語科学習教育研究II 世科の実験II 理科のの東研究I 理科のの研究習指導研究I 理科のの研究習指導研究I 音楽科学習指導研究I 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学 (30科目)	无設 配 5前前前後後後前後前後前後前後後後前後前後前後後後前後前後前後前後前後前後前後	必修	単 選 択 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	自由	*	演習 〇〇〇〇	態実験・実習○	教 授 3 1 1	事任	講	助教	助手	#10 集· #1 #1	
学校インターンシップIII ものづくり教育研究 国語科学習指導研究 社会科学習指導研究I 社会科学習指導研究II 英語科学習指導研究I 数学・数学教育研究I 数学・数学教育研究I 理科の実験II 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	5前前前後後後後前後前後前後前後前後 4000 4000 4000 4000 40		選択 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	自	講義	演習〇〇〇〇	実験・実習	授 3 1 1	准教授 5	講師 3	助		兼10 集 兼1 兼1	
学校インターンシップIII ものづくり教育研究 国語科学習指導研究 社会科学習指導研究I 社会科学習指導研究II 英語科学習指導研究I 数学・数学教育研究I 数学・数学教育研究I 理科の実験II 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	5前前前後後後後前後前後前後前後前後 4000 4000 4000 4000 40		択 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		。	習 0000	験 ・ 実 習	授 3 1 1	教授 5	師 3			兼10 集 兼1 兼1	
ものづくり教育研究 国語科学習指導研究I 社会科学習指導研究II 社会科学習指導研究II 英語科学習指導研究I 数学・数学教育研究II 理科の実験II 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導研究 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3前前前後後後後前後前後前後前後前後 4 3 4 3 4 5 1 4 4 3 4 4 3 4 4 3 4 4 3 4 4 4 3 4 4 4 3 4 4 4 4 3 4	修	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	由	0 0000	0 0 0 0		3 1 1 1	授 5	3	教	手	兼1	中
ものづくり教育研究 国語科学習指導研究I 社会科学習指導研究II 社会科学習指導研究II 英語科学習指導研究I 数学・数学教育研究II 理科の実験II 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導研究 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3前前前後後後後前後前後前後前後前後 4 3 4 3 4 5 1 4 4 3 4 4 3 4 4 3 4 4 3 4 4 4 3 4 4 4 3 4 4 4 4 3 4		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0000	0 000		1 1		1			兼1	中
国語科学習指導研究 社会科学習指導研究I 社会科学習指導研究II 英語科学習指導研究I 数学・数学教育研究I 数学・数学教育研究II 理科の実験I 理科のの実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導研究 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4前前後後後前後前後前後前後前後 41 41 41 41 41 41 41 41 41 41 41 41 41		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0000	0 000		1	1				兼1	
社会科学習指導研究I 社会科学習指導研究I 英語科学習指導研究I 数学・数学教育研究I 数学・数学教育研究II 理科の実験I 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究I 音楽和学習指導研究I 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3前後後後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0000	0 0 0		1	1					
社会科学習指導研究II 英語科学習指導研究 数学・数学教育研究II 理科の実験II 理科の実験II 理科の研究 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4後 4後 3 4 3 4 3 4 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0000	0		1	1					
英語科学習指導研究 数学・数学教育研究I 数学・数学教育研究II 理科の実験I 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究I 図画工作科学習指導研究 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4後 3 4 3 4 3 4 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0	0			1					
数学・数学教育研究I 数学・数学教育研究II 理科の実験I 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3後 4前 3 4前 3 4 5 6 4 6 4 6 4 6 4 6 4 6 4 6 4 6 4 6		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0	0			1				兼1	
数学・数学教育研究II 理科の実験II 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4前 3後前 4前 4 5前 4 4前 4 4 3 4 6		2 2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0	_							兼1	
理科の実験I 理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3後 4前 3前 4後 5前後 4前 4 4 3 4 6		2 2 2 2 2 2 2 2		0 0 0	0		1					兼1	
理科の実験II 自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4前 3前 4後 5前 4 4前 3後 4後		2 2 2 2 2 2		0 0 0								雅1	
自然の研究 音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3前 4後 5前 4後 4前 3後 4後		2 2 2 2 2		0									
音楽科学習指導研究I 音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4後 5前 4後 4前 3後 4後		2 2 2 2		0					1	Ī			
音楽科学習指導研究II 図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	5前 4後 4前 3後 4後		2 2 2							1				
図画工作科学習指導研究 図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4後 4前 3後 4後		2 2		0	1							兼1	
図画工作科学習指導演習 学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	4前 3後 4後		2			\circ							兼1	
学校保健学 体育科学習指導研究 生活科学	3後 4後					0							兼1 兼1	
体育科学習指導研究 生活科学	4後				0								兼1	
生活科学			2		0	0				1			秋 1	
	2 計		2		0					1			兼2	
1.01 (2044 日)	3前 —	2	56	0				3	5	3	0	0	兼17	
学校経営と学校図書館	2後		2	0	0			3	J	0	0	- 0	兼1	
					_									中
			2		0								兼1	
小計(5科目)	_	0	10	0		_	•	0	0	0	0	0	兼5	
卒業研究	5通	4				0		3	5	3			兼10	
小計(1科目)	_	4	0	0		_		3	5	3	0	0	兼10	
計(127科目)	_	94	120	0		-		3	4	4	0	0	兼71	
学士 (教育学)		当	位又	は学科	の分	野			教	育学	・保育	学関係	系	
要 件 及 び	履修						•		-	授業期	朋間等			
							1 学年	の学	期区分	}			2 学期	
いて、教授会の議を経て学長か	『卒業を認定	し、言	学士の	学位を	上授		1 学期	の授	業期間				15调	
唐できる単位数は、26単位(P	所定の単位を	優れず	- 成績	をも~	o 7									
ては、30単位)以下とする。	17517	10×401	一八八八只	٠٠٠.			∓ ≒仕协	、*/7]又 :	木町目	ı1	<u> </u>		5073	
を間コース】 単位 立立: 単位 目 2単位 29単位 29単位 シップ科目 2単位 シップ科目 2単位														
	学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 読書教育と図書館 情報メディアの活用 小計 (5科目) 空業研究 小計 (1科目) 計 (127科目) 学士 (教育学) 要 件 及 び 5年以上在学し、各専攻・学長かって、教授会の議を経て学し、 情できる単位数は、26単位(月できる。 は、30単位)以下とする。 を間コース】 単位 単位 9単位 料目 20単位 ソップ科目 2単位	学校図書館メディアの構成 2後 学習指導と学校図書館 2通 読書教育と図書館 2通 青報メディアの活用 2後 小計 (5科目) - 空業研究 5通 小計 (1科目) - 学士 (教育学) 要 件 及 び 履 修 5年以上在学し、各専攻・コースの卒業にいて、教授会の議を経て学長が卒業を認定 まできる単位数は、26単位 (所定の単位をでは、30単位)以下とする。 を間コース】 単位 2単位 9単位 料目 20単位 料目 20単位 料目 20単位	学校図書館メディアの構成 2後 2通 2通 2通 2通 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 2 3 2 3	学校図書館メディアの構成 2後 2 2 3 2 3 2 3 3 4 2 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4	学校図書館メディアの構成 2後 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	学校図書館メディアの構成 2後 2 ○ ○ ○ ☆ 図書館メディアの構成 2通 2 ○ ○ ☆ 読書教育と図書館 2 ○ ○ ○ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆	学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 記画 2	学校図書館メディアの構成 2後 2 ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	学校図書館メディアの構成 2後 2 0 日本 2 0 日	学校図書館メディアの構成 2後 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	学校図書館メディアの構成 2後 2 ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	学校図書館メディアの構成 2後 2 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	学校図書館メディアの構成 2後 2 0 0	学校図書館メディアの構成 2後 2 0

(用紙 日本産業規格A4縦型)

		教	育	課	程		等		の		根	ŧ	10/2	要			
(孝	有学部学校教	育教員養成課程)	【既設】														
						単位数	ζ	挖	受業形	態		専任教	数員等の	の配置			
	科目	授業科目の	夕新	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分	1又未行口。	2 和 4 か	癿コ午扒	修				習			教	師	, ,			VIII 4-5
					1	択	由	義	省	実習	授	授	師	教	手		
教養	分野別科目(思 索と芸術)	日本人の宗教観		1・2・3・4前		2		0								兼1	
基	ポ C 云 附)	平安朝文学世界への		1・2・3・4前		2		0								兼1	北日 佐山
礎科		コンサートへの誘い 和歌の表現世界を知		1·2·3·4通 1·2·3·4後		2 2		0	0							兼6 兼1	共同・集中
目		売むための視点	H . J	1・2・3・4後		2		0								兼1	メディア
		ドイツ文学を読む		1・2・3・4前		2		0								兼1	
		芸術理論:フランス				2		0								兼1	
		民族と音楽:東南ア	ジアを中心に			2		0								兼1	
		比較文学論 ヨーロッパーフラン	ノフの宛から	1·2·3·4後 1·2·3·4後		2 2		0								兼1 兼1	
	分野別科目(国		スの心から	1・2・3・4前		2		0								兼1	
	際と地域)	国際関係論入門		1・2・3・4前		2		0								兼1	
		English World I		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World II		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World III English World IV		1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		1 1		0								兼1 兼1	
		English World V		1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World VI		1・2・3・4前・後		1		0								兼1	
		English World VII		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World VIII	Į.	1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World IX		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		English World X 世界の教授法・世界	1の新科書	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		1 2		0			5					兼1 兼3	オムニバス・集中
		日本古代文化史I	1V/4X/11 E	1・2・3・4前		1		0			5					兼1	7 24 7 SET
		日本古代文化史II		1・2・3・4前		1		0								兼1	
		日本近代文学読解入	門I	1・2・3・4後		1		0								兼1	
		日本近代文学読解入		1・2・3・4後		1		0								兼1	
		経済の目で見る地域 経済の目で見る地域	_	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		1 1		0								兼1 兼1	
		多言語実践プロジェ		1・2・3・4後		2		0								兼2	
	分野別科目(歴	日本国憲法		1・2・3・4前・後	2			0								兼3	メディア
	史と社会)	部落問題概論		1・2・3・4前		2		0				1					
		日本科学技術史概論	Ħ	1・2・3・4後		2		0								兼1	
	分野別科目(人	近現代外交史 ダイバーシティと人	権	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前 · 後	_	2	-	0				1				兼1	メディア
	間と生活)	現代社会学の方法と		1・2・3・4前	_	2		0				1				兼1	2717
		現場に活かすスポー	-ツ実践論	1・2・3・4前		2		0								兼1	
		健康科学への招待		1・2・3・4前		2		0								7.11	オムニバス
		生活環境をさぐる		1・2・3・4後		2		0									オムニバス
		対人コミュニケーシ 経済教育実践論	/ョンの心理学	1·2·3·4按 1·2·3·4前		2 2		0								兼1 兼1	メディア
	分野別科目(生			1 • 2 • 3 • 4前		2		0								兼1	
	命と環境)	地球と災害		1・2・3・4後		2		0								兼1	
		DNAを中心とした生	命科学	1・2・3・4後		2		0								兼1	メディア
		地球と環境 ミクロの生物学入門	3	1・2・3・4後		2 2		0								兼1 兼1	
		生物学と医学の出会		1·2·3·4後 1·2·3·4前		2		0								兼1	
		暮らしの環境と地図		1 • 2 • 3 • 4後		2		0								兼1	
		生物観察入門		1・2・3・4後		2		0								兼1	
	分野別科目(数 理情報と自然)	ベクトルとその応用		1・2・3・4前		2		0								兼1	,
		はかってなんぼー学 科学常識を考える	- 校編	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		2 2		0								兼1 兼1	メディア
		科子吊畝を考える 科学の基本		1・2・3・4削		2		0			1					北1	
		体験しよう!かがく	実験	1・2・3・4後		2		0								兼1	
		論理と数理パズルI		1 • 2 • 3 • 4前		1		0								兼1	メディア
		論理と数理パズルI	Ι	1 · 2 · 3 · 4前		1		0								兼1	メディア

			教	育	課	程		等		の		根	ŧ	17	要			
(孝	汝育:	学部学校教	育教員養成課程)	【既設】	I	1	N/ /I. W/			- Mo 6	ale:	1	+12	7	_ =====================================			
							単位数		抄	受業形態	実		専任教	数員等の	の配置			
		科目 区分	授業科目の	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准	講	助	助		備考
		<u> </u>				修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手		
	分野	別科目(教	キャリアデザイン		1・2・3・4前		2		0		習						-	メディア
	育と	キャリア)	教職キャリア形成語	前	1 · 2 · 3 · 4後		2		0			1					NK1	2.7.47
			学校教育と著作権		1・2・3・4通		2		0								兼1	集中
			教育科学の基礎		1・2・3・4前		2		0				1					
			ことばと教育 国際理解教育		1 · 2 · 3 · 4後 1 · 2 · 3 · 4前		2 2		0			1					兼1	
			国际理解教育 人間と道徳		1・2・3・4前		2		0			1					林1	
			教員のための数学		1·2·3·4前		2		0								兼1	
			環境教育論		1・2・3・4前		2		0			1						
			消費者教育論		1・2・3・4前		2		0								兼1	
			表現教育 遊びとスポーツ		1·2·3·4通 1·2·3·4後		2 2		0	0		1 1	1 1				兼1	オムニバス・集中
			教職実践論		1·2·3·4版 1·2·3·4前		2		0			1	1					
			知的財産教育論		1 • 2 • 3 • 4後		2		0			1					兼1	
			子どもの多様性と教	效育	1・2・3・4通		2		0			2	2				兼3	オムニバス・集中
			ことばの獲得と学習		1・2・3・4通		2		0			1					兼3	オムニバス・集中
			探究型学習の実践と		1・2・3・4後		2		0				0				兼2	オムニバス
			地域連携・人権フィ 演劇的手法によるコミュ		1・2・3・4通		2		0	0		1 1	2				兼1 兼1	集中
			演劇的手法によるコミュニ		1・2・3・4前		1			0		1					兼1	
			企業と連携した専門	職業人養成講座	1 · 2 · 3 · 4後		1		0								兼1	
	f.1)	and the beauty	大学生のための金融	経済リテラシー	1・2・3・4後		1		0								兼1	
	総合	基盤教養科 目	資料・情報利用法		1・2・3・4後		2		0								兼1	
	科目	1	アクティブ・ラーニ データサイエンス <i>】</i>		1 · 2 · 3 · 4通 1 · 2 · 3 · 4後		2		0	*		3	1				兼2 兼1	※演習、オムニバス
	Н		AIとデータサイエン		1・2・3・4後		1		0	*								※演習
			課題探究型STEAM教	育	1・2・3・4前		2		0			1	2				兼1	
		多様性理解 科目	海外文化研究		1 · 2 · 3 · 4通		2			0		1						集中
		TIH	「障害」者と人権	. 711= .	1・2・3・4前		2		0								7111	メディア
			ジェンダーとセクシ 共生社会論	/ユノリアイ	1 · 2 · 3 · 4前 1 · 2 · 3 · 4前		2 2		0								兼1 兼1	メディア
			国際理解		1・2・3・4後		2		0								兼1	
			多文化共生の社会を	とめざして	1・2・3・4前		2		0								兼1	
			障がい者支援入門		1・2・3・4前		2		0					1				メディア
			外国人児童生徒教育	Î	1 · 2 · 3 · 4後		2		0			- 1.4	10	-	0	0	兼2	
共	-	言語科目	小計 (91科目) 英語 (T) Ia		 1前	4	154	0		0		14	10	1	0	0	兼78 兼3	
通	'		英語(I)Ia 英語(T)Ib		1後	1				0		1	1	2			兼3	
基礎			英語 (T) IIa		2前	2				0		2					兼1	
科目			英語 (T) IIb		2後		2			0							兼1	
П			ドイツ語Ia		1前		1			0							兼4	
			ドイツ語Ib ドイツ語IIa		1後 2前		1 2			0							兼4 兼1	
			ドイン語IIa ドイツ語IIb		2後		2			0							兼1	
			フランス語Ia		1前		1			0							兼4	
			フランス語Ib		1後		1			0							兼4	
			フランス語IIa		2前		2			0							兼1	
			フランス語IIb 中国語Ia		2後		2			0							兼1 兼6	
			中国語Ia 中国語Ib		1前 1後		1			0							兼6	
			中国語IIa		2前		2			0							兼1	
			中国語IIb		2後		2			0							兼1	
			外国語コミュニケー	ーション	2前・後	2				0				1			兼3	
			韓国語Ia		1前		1			0							兼1	
			韓国語Ib 韓国語IIa		1後 2前		1 2			0							兼1 兼1	
			韓国語IIb		2後		2			0							兼1	
			小計 (21科目)		_	6	26	0		_		2	1	2	0	0	兼22	

٠٠ ٠٠٠ - د ١١٠ عليه الله ١	教育	課	程		等		の		相	ŧ	į	要			
(教育学部学校	教育教員養成課程)【既設】			単位数	ά	ħ	受業形	態		専任教	数員等	の配置			
4 1 D								実							
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
体育科目	スポーツ実技a	1前	1					0		3	1			兼10	共同
	スポーツ実技b	1後	1					0	2	1	1			兼11	共同
	小計(2科目)	_	2	0	0		_		2	3	1	0	0	兼12	
ICT科目	ICT基礎a	1前	2				0							兼14	メディア
	ICT基礎b	1後		1			0		1					.,	
	ICT基礎c	1後		1			0		9	3	3		0	兼3	
■ 教職基礎科目	小計(3科目)	0 並 . 然	2	2	0		_		10	3	3	0	0	兼17	
狄城圣诞行口	人権教育の基礎 小・中一貫教育概論	2前・後 3前	1	1		0			2 3	1					
	特別支援教育の実践	3前・後		1		0			1	1	2			兼2	
	発達障害教育論	2前		1		0			1	1				兼1	
	人権教育の実践	3後		1		0			1					W.I	
	教職のための英語	3前		1			0		1		2			兼1	
	教職のためのデータサイエンス	3前		1			0		Ĭ		آ ا			兼1	
	小計 (7科目)	-	1	6	0		_		4	2	4	0	0	兼5	
フラッグシップ打		1前	1	Ť	Ť	0			2	5	┢	Ť	Ť	兼1	メディア
定科目	現代社会と子どもの権利	1前	1			0			4	1				兼1	メディア
	多様な子どもとインクルーシブ教育		1			0			4	3	2			兼1	
	外国人の子どもの理解と支援	1前・後	1			0								兼1	メディア
	小計(4科目)	_	4	0	0		_		10	8	2	0	0	兼4	
教 教職専門科目	教職入門	1前	2			0			15	7	5				共同
職 関	教育総論	1前・後	2			0			1					兼4	
連	発達と学習の心理学	1前・後	2			0			1	1				兼3	
科	学校の役割と経営	2前	2			0			4					兼1	
目	道徳教育論	2・3前・後	2			0								兼3	
	生徒指導•進路指導論	2前・後	2			0								兼4	
	学校安全	2前・後	2			0								兼4	
	特別活動論 (総合的な学習の時間の指導法を含む。)	3前	2			0					1			兼1	
	教育相談の理論と方法	3前・後	2			0			1					兼2	
	特別支援教育の基礎	1前・後	1			0			1	1	2			兼2	
	ICT活用の理論と方法	2前・後	1			0								兼5	
	教育課程・方法論	2後	2			0		_		2				兼2	
	基本小学校教育実習	3通		5				0	8	4	3			兼1	集中
	基本中・高校教育実習	3通		5				0	8	4	3			兼1	集中
	併修小学校教育実習	4通		3				0	8	4	3			兼1	集中
	併修中・高校教育実習 また特別支援学校(株式)教育実習	4前・後		3				0	8	4	3			兼1 	集中集中
	基本特別支援学校(特支)教育実習 基本特別支援学校(聴覚)教育実習	3通 3通		4				0	8	4	3			兼1 兼1	集中
	基本特別支援学校(視覚)教育実習	3通		4				0	8	4	3			兼1	集中
	一	3通 4通		3				0	8	4	3			兼1	集中
	教職実践演習(小・中・高)	4通	2				0		55	31	15			AIV.1	集中
	小計 (21科目)	-	24	31	0		_		55	31	15	0	0	兼31	×1× 1
初等教科教育	法 初等国語科教育法(書写を含む。)	2・3前	Ť	2		0			3	1	1			兼1	オムニバス
科目	初等社会科教育法	2・3前・後		2		0			2					兼2	
	算数科教育法	2・3前・後		2		0			Ĭ	1				兼3	
	初等理科教育法	2・3前・後		2		0			1		1				
	生活科教育法	2前		2		0			Ĭ	1				兼1	
	初等音楽科教育法	2・3前・後		2		0			Ĭ	1	1			兼2	
	図画工作科教育法	2・3前・後		2		0			1	1				兼2	
	初等家庭科教育法	2・3前・後		2		\circ			1					兼3	
	体育科教育法	2・3前・後		2		0			1	5	2				オムニバス
	初等英語科教育法	2・3前・後		2		0			2		1			兼2	
	小計 (10科目)	_	0	20	0				11	10	6	0	0	兼16	
中等教科教育 科目	法 中等国語科教育法I	2前		2		0			2						
가 ^가 티	中等国語科教育法II	2後		2		0			2						
	中等英語科教育法I	2前		2		0			2						
	中等英語科教育法II	2前・後	1	2		0			2						
	中等社会科(地歴)教育法I	2前		2		0									

		教	育	課	程		等		の		根	ŧ	5	要			
(孝	教育学部学校教	育教員養成課程)	【既設】	_	1						1						
						単位数		挡	受業形態			専任教	女員等(の配置			
	科目	授業科目の	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
	区分				修	択	由	義	習	・実	授	教 授	師	教	手		
					,_				I	習	,^	1/~	14-14		,		
		中等社会科(公民)	教育法II	2後		2 2		0								兼1	
		数学科教育法I 数学科教育法II		2前 2後		2		0			1					兼2 兼2	
		中等理科教育法I		2前		2		0			1		1			AK2	
		中等理科教育法II		2後		2		0			1						
		保健体育科教育法I		2前		2		0					1				
		保健体育科教育法I	I	2後		2		0					1				
		技術科教育法I		2前		2		0				1					
		技術科教育法II		2後		2		0				1					
		中等家庭科教育法Ⅰ		2前		2		0								兼1	
		中等家庭科教育法目		2後		2 2		0			1		1				
		中等音楽科教育法I 中等音楽科教育法I		2前 2後		2		0				1	1				
1		中寺百架科教育伝I. 美術科教育法I	1	2版		2		0			1	1					
		美術科教育法II		2後		2		0	*		1	1					※演習
		工業科教育法Ⅰ		2後		2		0								兼1	隔年
		工業科教育法II		2後		2		0								兼1	隔年
		中等国語科教育法I	II	3前		2		0			1						
		中等国語科教育法I	V	3後		2		0			1					兼1	
		中等英語科教育法I		3前		2		0			1						
		中等英語科教育法I		3前		2		0					1				
		中等社会科(地歴)		3前		2		0								兼1	
		中等社会科(公民)	教育法IV	3後		2		0			1						
		数学科教育法III 数学科教育法IV		3前 3前・後		2 2		0			1					兼1	
		中等理科教育法III		3前		2		0								兼1	
		中等理科教育法IV		3後		2		0					1			NK1	
		保健体育科教育法I	II	3前		2		0				1					
		保健体育科教育法I	V	3後		2		0				1					
		技術科教育法III		3前		2		0			1						
		技術科教育法IV		3前		2		0			1						
		中等家庭科教育法I	II	3前		2		0			1						
		中等家庭科教育法I		3後		2		0								兼1	
		中等音楽科教育法Ⅰ		3前		2		0					1				
		中等音楽科教育法[V	3後		2		0			1	1					
		美術科教育法III 美術科教育法IV		3前 3後		2 2		0			1 1	1 1					
		書道科教育法I		3前		2		0			1	1					
		書道科教育法II		3後		2		0			1						
		小計(44科目)		_	0	88	0		_		14	5	4	0	0	兼11	
	学校インターン	教職インターンシッ	ップI	2通		2				0	8	4	3			兼1	集中
	シップ科目	教職インターンシッ	ップII	3通		2				0	8	4	3				集中
		教職インターンシッ		4通		2				0	8	4	3				集中
		特別支援学校インタ	マーンシップ	2通	_	2				0	8	4	3				集中
亩	小学校教科専門	小計 (4科目) 国語I (ICTの活用な	· 会 t 。 \	1.0前.浴	0	8	0		_		8	4	3	0	0	兼1	
攻	小子仪教科等门 科目	国語I(ICTの活用を 国語 (書写) II(ICTの		1・2前・後 1・2前		1 1		0		0	3	1				兼1 兼1	
専門		社会(ICTの活用を		1・2前・後		2		0			5	1					オムニバス
科		算数(ICTの活用を		1・2前		2		0			2	1				兼1	
目		理科(ICTの活用を		1・2前・後		2			0		1		2				
		生活(ICTの活用を		1・2前		2		0	*			1				兼1	※演習
		音楽(ICTの活用を	含む。)	1・2前・後		2		0				1	1			兼2	
1		図画工作 I (ICTの活	舌用を含む。)	1・2前		1				0	1					兼2	
1		図画工作 II (ICTの)		1・2後		1				0		1				兼2	
1		家庭(ICTの活用を		1・2前		2		0			3					7111	オムニバス
1		体育I (ICTの活用を		1・2後		1				0			1				共同
		体育II(ICTの活用		1・2前		1				0		1	1				共同
		英語(ICTの活用を	舌む。)	3前・後		2			0		2					兼2	

, , ,	学和 宗 + + * *	教 育	課	程		等		の		相	旡	-	要			
(百-	子部子仪多	₹育教員養成課程)【既設 <u>】</u> ■			単位数	ţ	ł	受業形態	態		専任	教員等	の配置			
	科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
-	区分	及来作品の名が	配コーバ	修	択	由	義	習	主実	授	教授	師	教	手		C- HI
				19	J/C	щ	抄	н	習	JX	JX	Hilb	权	7		
	兴长松大	小計 (13科目)	_	0	20	0	_	_		18	6	5	0	0	兼23	_
コー	学校教育 コース	教育科学入門	1前		2		0			4	2				兼1	オムニバ
ス		教育学研究法 心理測定と評価の基礎	1後 2前		2 2		0	0		1	2					オムニバ
専門		教育哲学	2 後		2		0			1 1						
科		教育史	2前		2		0			1					兼1	
目		教育方法学	2後		2		0				1				NK1	
		教育社会学	2前		2		0				1					
		教育行政学	2後		2		0				_				兼1	
		心理学基礎実験	2前		2				0		1				7114-	
		心理学統計法演習	2後		2			0		1						
		心理学文献講読	2後		2			0			1					
		心理学問題研究	2後		2		0			3	2				兼1	オムニノ
		道徳的価値論	2後		2		0				1					
		道徳的行為論	2前		2		0			1						
		西洋道徳思想史	2後		2		0								兼1	
		道徳性発達心理学	2前		2		0								兼1	
		教育哲学演習Ia	3前		1			0		1						
		教育哲学演習Ib	3後		1			0		1						
		教育哲学演習IIa	4前		1			0		1						
		教育哲学演習IIb	4後		1			0		1						
		教育方法学演習Ia	3前		1			0			2	1				
		教育方法学演習Ib	3後		1			0			2	1				
		教育方法学演習IIa	4前		1			0			2	1				
		教育方法学演習IIb	4後		1			0			2	1				
		教育社会学演習Ia	3前		1			0			1					
		教育社会学演習Ib	3後		1			0			1					
		教育社会学演習IIa	4前		1			0			1					
		教育社会学演習IIb	4後		1			0			1					
		教育行政学演習Ia	3前		1			0							兼1	
		教育行政学演習Ib	3後		1			0							兼1	
		教育行政学演習IIa	4前		1			0							兼1	
		教育行政学演習IIb	4後		1			0							兼1	
		心理学研究法演習Ⅰ	3前		1			0		1					26.4	
		心理学研究法演習II	3後		1			0							兼1	
		道徳授業論	3前		2		0			1	,					焦山
		道徳教育学演習Ia 道徳教育学演習Ib	3前 3後		1			0			1					集中
		道徳教育学演習IIa	5仮 4前		1 1			0			1 1					
		道徳教育学演習IIb	4後		1			0			1					
		道徳教育方法学演習Ia	3前		1			0		1	1					
		道徳教育方法学演習Ib	3後		1			0		1						
		道徳教育方法学演習IIa	4前		1			0		1						
		道德教育方法学演習IIb	4後		1			0		1						
		心理学特殊実験演習Ia	3・4前		1			0		1	2				兼1	隔年
		心理学特殊実験演習Ib	3・4後		1			0			2				兼1	隔年
		心理学特殊実験演習Ic	3・4前		1			0		2					7114-	隔年
		心理学特殊実験演習Id	3・4後		1			0		3						隔年
		心理学特殊実験演習IIa	3・4前		1			0			2				兼1	隔年
		心理学特殊実験演習IIb	3・4後		1			0		Ĭ	2					隔年
		心理学特殊実験演習IIc	3・4前		1			0		3]				""	隔年
		心理学特殊実験演習IId	3・4後		1			0		3						隔年
		教育思想	3・4前		2		0			1						
		教育社会史	3・4後		2		0			Ĭ					兼1	
		学校教育方法論	3・4後		2		0			Ĭ	1				<u> </u>	
		社会の構造と教育	3・4後		2		0			Ĭ					兼1	
		教育行政・経営論	3 • 4前		2		0			Ĭ					兼1	
		心理学特殊講義I	3・4前		2		0	l		Ĭ			l			隔年・集

		教 育	課	程		等		の		根	ŧ	-	要			
(教育	学部学校教	で育教員養成課程)【既設】			単位数	(ž	受業形態	態		専任教	数員等(の配置			
	科目								実	141		-11				
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		心理学特殊講義II	3・4前		2		0								兼1	隔年・集中
		発達心理学	3・4後		2		0			1						隔年
		学習心理学	3・4前		2		0				1					隔年
		教育社会心理学	3・4前		2		0								兼1	隔年
		教育臨床心理学	3・4後		2		0				1				27	隔年
		職業指導	3・4後		2		0			,					兼1	
		東洋道徳思想史 道徳教育制度史	3・4後		2 2		0			1	,					
		担愢教育制度史 小計(65科目)	3・4後 —	0	96	0	0			5	6	1	0	0	兼12	
	国語教育	小学校教科内容(国語)	 1後	U	2	U	0			1	U	1	U	U	水12	
	コース	国語科内容構成演習(小中)	3・4前		2			0		5		1				オムニバス
		国語科内容構成演習(中等)	3・4前		2			0		5		1				オムニバス
		国語学概論	1後		2		0			1						
		国文学概論	1後		2		0			2						
		漢文学概論I	1前		2		0			1						
		漢文学概論II	1後		2		0			1						
		国語学特論I	2前		2		0			1						
		国語学特論II	2後		2		0								兼1	
		国文学特論I	2前		2		0			2						
		国文学特論II	2後		2		0			1					兼1	
		書道概論I(書写を中心とする。)	2前		2				0		1				兼1	
		書道概論II(書写を中心とする。)	2後		2		_		0		1				兼1	
		解釈学概論	1前		2		0			2						
		解釈学特論	2前		2			0		,		1				
		国語科表現教育論 国語学講義 I	2後 3前		2 2			0		1						
		国語子講義II	3後		2		0			1 1						
		国工学講義 [3前		2		0			2						
		国文学講義II	3後		2		0			1						
		解釈学講義	3前		2		0			1		1				
		文学教育実践論	3後		2			0		1						
		国語学研究I	4前		2			0		1						
		国語学研究II	4後		2			0		1						
		国語学演習I	4前		2			0		1						
		国語学演習II	4後		2			0		1						
		国文学研究I	4前		2			0		2						オムニバス
		国文学研究II	4後		2			0		1						
		国文学演習I	4前		2			0		2						
		国文学演習II	4後		2			0		2						
		解釈学研究	4前		2			0		1						
		解釈学演習I	4前		2			0		2						
		解釈学演習II	4後		2			0		2						
		国語教育学研究	4後		2			0		1		,				
		国語教育学演習I 国語教育学演習II	4前 4後		2 2			0		1 1		1 1				
		小計(36科目)	41友 —	0	72	0		_		6	1	1	0	0	兼3	
	英語教育	小学校教科内容(英語)	1後	0	2	0	*	0		- 0	1	1	0	0		※講義
	コース	英語科内容構成演習(小中)	3後		2		^~	0		1		1			N/I	オムニバス
		英語科内容構成演習(中等)	3前		2			0		1	1	1				オムニバス
		英語音声学I	1前		2		0			1	1					
		英語音声学II	1後		2		0			1						
		英米文学講読	1前		2		0								兼1	
		オーラル・コミュニケーション中級Ⅰ	1前		2			0							兼2	
		オーラル・コミュニケーション中級II	1後		2			0							兼2	
		比較文化論	1後		2		0								兼1	
		英文法研究	2後		2		0			1						メディア
		英米文学研究	2前		2		0								兼1	
		ライティング中級Ⅰ	2前		2			0		l		1		Ī	兼1	メディア

		教育	課	程		等		の		根	ŧ	5	要			
(教育	学部学校教	(育教員養成課程) 【既設】 			単位数	(抄	受業形態	態		専任教	数員等の	の配置			
	科目								実				l			
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		ライティング中級II	2後		2			0	Ħ			1			兼1	メディア
		Speech Communication in English I	1前		2			0							兼1	
		Speech Communication in English II	1後		2			0							兼1	
		Introduction to British and American Literature	2前		2		0								兼1	
		応用言語学	2後		2		0				1					
		Introduction to English Linguistics I	2前		2		0								兼1	
		Introduction to English Linguistics II	2後		2		0								兼1	
		グローバル言語学入門 オーラル・コミュニケーション上級I	2後 2前		2 2		0								兼1	
		オーフル・コミュニケーション上級II	2倒 2後		2			0							兼1 兼1	
		Introduction to UK and US Area Studies I	2前		2		0								兼1	
		Introduction to UK and US Area Studies II	2後		2		0								兼1	
		英語科評価論	2前		2		0	*		1						※演習
		英語学研究I	3前		2		0			1						
		英語学研究II	3後		2		0			1						
		学習英文法論	3前		2			0		1						
		ライティング上級I	3前		2			0							兼1	
		ライティング上級II	3後		2			0							兼1	
		中高英語科授業研究I	2前		2		0	*							兼1	※演習
		中高英語科授業研究II	3前		2		0	*		1						※演習
		小学校英語科授業研究	2前・後		2		0	_							兼2	
		第二言語習得論	3前		2			0			1	1				
		発展教職英語 I	3前		1			0				1				
		発展教職英語II	3後		1		0			1	,					
		英語学演習I 英語学演習II	4前 4後		2 2			0		1 1	1					
		大叫子供目11 アカデミック・ライティング	4後		2			0		1	1				兼1	
		英語教育学演習Ⅰ	4前		2			0		2		2			W.I	
		英語教育学演習II	4後		2			0		2		2				
		小計 (41科目)	-	0	80	0		_		3	1	2	0	0	兼12	
	社会科教育	小学校教科内容(社会)	1後		2		0			1	1				兼1	オムニバス
	コース	社会科内容構成演習 (小中)	3後		2			0		5	1					
		社会科内容構成演習(中等)	3後		2			0		6						
		地誌概論	1後		2		0								兼1	
		人間と社会	1後		2		0			1					.,	
		世界史概説Ⅰ	1前		2		0								兼1	,
		世界史概説II 哲学の基礎	1後		2 2		0			,					兼1	メディア
		哲学の基礎地理学概論	1前 2後		2		0			1 2						オムニバス
		日本史概説I	2後		2		0				1					7 4 - / / /
		日本史概説II	2前		2		0				1					
		法律学	2後		2		0				1				兼1	
		政治学	2後		2		0								兼1	
		倫理学の基礎	2後		2		0			1					l "	
		西洋思想概論	2前		2		0			1						
		自然地理学の基礎	1後		2		0								兼1	
		人文地理学の基礎	1後		2		0								兼1	
		日本経済論	1後		2		0								兼1	
		考古学	2前		2		0									隔年
		民俗学	2前		2		0								兼1	隔年・集中
		社会調査	2前		2		0			1						
		社会学特講	2後		2		0			1						
					2			1	Ī	1	1	Ī	i		Ī	1
		コミュニケーションと社会	2前							1					1 .	作 中
		グローバル経済文化論	2通		2		0								兼1	集中
		グローバル経済文化論 国際経済論	2通 2後		2 2		0								兼1	集中
		グローバル経済文化論	2通		2		0	0		1						集中

,.	** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	教育	課	程		等		の		根	₹		要			
(3	教育字部字校教	(育教員養成課程) 【既設】			単位数	(ħ	受業形態	態		専任教	数員等(の配置			
	科目								実							
	区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		日本史特講I	3前		2		0		B						兼1	
		日本史特講II	3前		2		0								兼1	
		東洋史特講	3前		2		0								兼1	
		西洋史特講	3前		2		0								兼1	
		歴史講読I	3前		2			0			1					
		歴史講読II	3後		2			0			1					
		地理学実習	3前		1				0	1						
		地理学野外実習	3通		2				0	2					37	オムニバス・集中
		自然地理学特講	3後		2		0								兼1	
		人文地理学特講	3後		2		0								兼1	
		政治学特講 社会学基礎演習I	3前 3前		2 2			0		2					兼1	
		社会学基礎演習II	3後		2			0		2						
		社会学調査実習	3前		1				0	2						共同
		経済学特講	3通		2		0			2					兼1	集中
		哲学基礎演習	3後		2			0		3					AK1	* 1
		哲学諸問題	3前		2		0			1						
		倫理学基礎演習	3前		2			0		3						
		日本思想史	3後		2		0								兼1	
		応用倫理	3前		2		0								兼1	
		社会科教育学研究I	3前		2		0			2						
		社会科教育学研究II	3後		2		0			2						
		社会科発展演習I	4前		2			0		9	1				兼1	
		社会科発展演習II	4後		2			0		9	1				兼1	
	W N 14	小計 (52科目)	_	0	102	0		_		9	1	0	0	0	兼19	
	数学教育コース	小学校教科内容 (算数)	1前		2			0			1					
		算数科・数学科内容構成演習	3後		2			0			1				兼1	
		数学科内容構成演習	3前		2			0		1					兼1	*\ \\
		線形代数学A	1前		2		0	*			1					※演習
		線形代数学B	1後		2		0	*			1					※演習
		代数学A	2前		2 2			0		1						
		代数学B	2後		2			0		1						
		微分積分学A 微分積分学B	1前 1後		2		0			1 1						
		幾何学A	2前		2		0			1					兼2	
		幾何学B	2後		2		0								兼2	
		解析学A	2前		2		0				1				AK2	
		解析学B	2後		2		0				1					
		確率・統計	2後		2		0			1						
		コンピュータ	2後		2			0		1					兼1	
		代数学I	3前		2		0								兼1	
		代数学II	3後		2		0								兼1	
		代数学III	3前		2			0		1						
		幾何学I	3前		2		0								兼1	
		幾何学II	3後		2		0								兼1	
		解析学Ⅰ	3前		2			0							兼1	
		解析学II	3後		2			0							兼1	
		解析学III	3前		2		0				1				1	
		応用数理I	3前		2		0								兼1	
		応用数理II	3後		2		0								兼1	
		確率論Ⅰ	3前		2		0	*		1					21.	※演習
		Society5.0に対応する数学教育論	3前		2		0								兼1	#
		数理探究	3前		2		0	_							兼1	集中
		代数学演習I	4前		2			0		1						
	1 1	代数学演習II	4後		2			0		1						
		级/US / A 20 I						/ \								
		幾何学演習I 幾何学演習II	4前 4後		2 2			0			1					

/ +/L -/ -	- 224 40 224 11 4/1	教	育	課	程		等		の		相	旡	į	要			
(教育	育字 部字 校教	₹育教員養成課程 ┃ ┃)【既設】			単位数	ζ	ł	受業形!	態		専任	教員等	の配置			
	科目 区分	授業科目	目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		備考
					修	択	由	義	習	実習	授	教授	師	教	手		
		解析学演習II		4後		2			0		l	1					
		応用数学演習I		4前		2			0		1						
		応用数学演習II		4後		2			0		1						
		数学教育学演習I		4前		2			0		2	1					
		数学教育学演習II	I	4後		2			0		2	1					
		小計(38科目)		_	0	76	0				4	2	0	0	0	兼9	
	理科教育	小学校教科内容		1後		2			0				1				
	コース	理科内容構成演習	引 (小中)	3通		2			0		5	3	2				共同
		理科内容構成演習	引 (中等)	3通		2			0		4	3	2			兼1	共同
		物理学I		1前		2		0			1	1					
		物理学II		2前		2		0			1	1					
		物理学III		3後		2		0								兼1	
		化学I		1前		2		0			1						メディア
		化学II		2前		2		0				1					メディア
		化学III		3前		2		0				1					メディア
		生物学I		1後		2		0								兼1	
		生物学II		2後		2		0			1						
		生物学III		3前		2		0								兼1	
		地学I		1後		2		0			1						
		地学II		2前		2		0				1					
		地学III		3後		2		0			1						
		物理学実験I		2後		1				0	1	1					共同
		化学実験I		2前		1				0	1	1					共同
		生物学実験I		2前		1				0	1					兼1	共同
		地学実験I		2後		1				0	1	1				兼1	オムニバフ
		科学のための数学	5	1前		2		0								兼1	
		力学		2後		2		0								兼1	
		電磁気学		2前		2		0			1	1					隔年
		初等量子論		2前		2		0								兼1	
		物理学実験II		3前		1				0	1	1					
		無機化学入門		2前		2		0								兼1	
		物理化学		2前		2		0								兼1	
		基礎有機化学		2後		2		0								兼1	
		植物系統分類学		2通		2		0								兼1	集中
		動物系統分類学		2後		2		0								兼1	
		動物発生学		2後		2		0								兼1	
		分子遺伝学		2後		2		0								兼1	
		野外植物実習		2通		1				0	1					兼1	集中
		天文学		2前	1	2		0			I	1					
		気象学		2前		2		0			1						l
		地球学		2通	1	2		0			I					兼1	集中
		地学野外実習I		2通		1				0	1						集中
		地学野外実習II		2通		1				0		1					集中
		熱力学		3前		2		0								兼1	
		反応有機化学		3後		2		0				1					
		物性化学		3前		2		0									隔年・集中
		高分子化学		3後		2		0								兼1	隔年
		有機化学実験		3後		1				0	I	1					
		多様性生物学		3後		2		0			1						
		生物学実験II		3前		1				0						兼1	
		生物学実験III		3前		1				0	1						
		臨海実習		3前		1				0	1					兼1	共同・集団
		宇宙物理学		3前		2		0				1					
		地学教育論		3前		2		0								兼1	
		地学特論		2通		2		0			I					兼1	集中
		理科ゼミナール		4通		2			0		5	3	2				共同・集中
		小計 (50科目)		_	0	88	0		_		6	3	2	0	0	兼21	

コース 会 作 コ オ 集 要	育教員養成課程) 【既設】 授業科目の名称 校業科目の名称 木材加工学I 金属加工学I 青報基礎I(実習を含む。) 工学基礎 工業数学I 木材加工学実習 関図I	配当年次 1後 1前 1後 1後	必修	選択	自	持講	受業形態	実		専任教	女員等(の配置			
区分 技術教育 オコース 名 情	木材加工学I 金属加工学I 青報基礎I(実習を含む。) 工学基礎 工業数学I 木材加工学実習	1後 1前 1後 1後				講	油								
区分 技術教育 オコース 名 情	木材加工学I 金属加工学I 青報基礎I(実習を含む。) 工学基礎 工業数学I 木材加工学実習	1後 1前 1後 1後				講	Yani			N//.	346		- 11		
コース	金属加工学I 青報基礎I(実習を含む。) 工学基礎 工業数学I 木材加工学実習	1前 1後 1後	修	択			154	験	教	准教	講	助	助		備考
コース	金属加工学I 青報基礎I(実習を含む。) 工学基礎 工業数学I 木材加工学実習	1前 1後 1後			由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
盘 作 二 二 才 妻 妻	青報基礎I(実習を含む。) 工学基礎 工業数学I 木材加工学実習	1後 1後		2		0		*	1						※実習
コ コ オ 豊 豊	工学基礎 工業数学 I 木材加工学実習	1後		2		0				1					
コ オ 豊 豊	工業数学I 木材加工学実習			2		0		*		1					※実習
オ 集 歩	木材加工学実習			2		0	*			1					※演習
集		1後		2		0	*			1					※演習
數		2後		1				0	1					兼1	共同
4		2前		1		0	*			1					※演習
		2後		1		*		0		1				¥1	※講義 共同
#	金属加工学実習 幾械工学I	2前 2前		1 2		0		0		1				兼1 兼1	共同
	幾械工学II	2後		2		0								兼1	
	電気工学I	2前		2		0			1					W.I	
	電気工学II	2後		2		0			1						
	電気工学実験	2後		1				0	1						
	は培Ⅰ(実習を含む。)	2前		1		*		0	1					兼1	※講義
	版培II	2後		1		*		0							※講義
	青報基礎II	2前		2				0		1				2114-	74(11742
ž	支術科内容構成演習	3・4後		2			0	_	2	2					共同
ブ	木材加工学II	3前		2		0		*	1						※実習
₹	幾械工学実験	3前		1				0		1				兼1	共同
5	プログラミング入門	1後		2		0	*							兼1	※演習
	工学概論	1前		2		*	0		1						※講義
]	Γ業数学ΙΙ	1前		2		0				1					
ŧ	支術科内容論	1後		2		0			2	2					オムニノ
官	電磁気学	2前		2		0			1	1					隔年
信	電子情報工学I	3前		2		0	*			1					※演習
冒	電子情報工学II	3後		2		0	*		1						※演習
1	データ処理	2前		2		0								兼1	
	木材加工学III	3後		2		0		*	1						※実習
	金属加工学II	3前		2		*		0		1					※講義
	金属材料学	3後		2		0				1					
	材料力学	3後		2		0				1					隔年
	幾械設計	3後		2		0		*		1					※実習・
	電子計算機	3前		2		0		*		1					※実習・
I	青報処理	3後		2		0	\•/		1						隔年
	制御・情報工学	3前		2 2		0	*		1					¥1	※演習・
	職業指導 小計 (37科目)	3後 —	0	66	0	0	L		3	3	0	0	0	兼1 兼8	
	小学校教科内容(家庭)	1前		2	0	0			1	Ü	0	0	U	NK0	
7 — 7	家庭科内容構成演習 (小中)	3前		2			0		3						オムニノ
	家庭科内容構成演習 (中等)	3前		2			0		3						オムニノ
<u>#</u>	生活経営学(家庭経済学を含む。)	1後		2		0								兼1	
初	坡服学Ⅰ	1後		2		0			1						
f [±]	主居学	1後		2		0								兼1	
ſ	主居学演習(製図を含む。)	1後		2			0							兼1	
任	呆育学I	1前		2		0			1						
1	家族関係学	1前		2		0								兼1	
初	坡服製作実習I	1後		2				0	1						
	食物学I(栄養学及び食品学を含む。)	1前		2		0								兼2	
	調理学実習I	1後		2				0	1						
	呆育学実習(家庭看護を含む。)	1前		2				0						兼1	
	生活研究論	3後		2		0								兼1	
	主環境と安全	2後		2		0								兼1	
	生活機器論(情報処理を含む。)	2前		2		0	*								※演習
	生活経営学演習I	3前		2			0							兼1	
	生活経営学演習II	4後		2			0							兼1	
	坡服学実験Ⅰ 坡服学実験Ⅱ	3前 4後		2 2				0	1 1						

ᅔᇭᇷᆇᄔᄳ	教育 (2011年)	課	程		等		の		根	t	<u> </u>	要			
育字部字校教	育教員養成課程)【既設 <u>】</u>			単位数	ά	ž	受業形]	態		専任教		の配置			
科目	極拳な口がたな	#1 V/ Fe V/	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助		/±±: ++
区分	授業科目の名称	配当年次				神		•		教					備考
			修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
	被服学II	3後		2		0								兼1	
	被服製作実習II	3前		2				0	1						
	食物学実験I	3前		2				0	1						
	食物学実験II	4後		2				0	1						
	食物学II	3前		2		0			1						
	調理学実習II 環境安全論	3前 3後		2 2		0		0	1					¥:1	
	保育学II	3後		2		0								兼1 兼1	
	保育学演習I	3前		2			0		1					M.I	
	保育学演習II	4後		2			0		1						
	家庭科教育学演習I	3前		2			0		1						
	家庭科教育学演習II	4後		2			0		1						
	生活演習Ⅰ	3後		2			0		4						共同
	生活演習II	4前		2			0		4						共同
	生活調査研究法	3前		2		0								兼1	
In 64 11 J	小計 (35科目)	_	0	70	0	ļ	_		4	0	0	0	0	兼12	
保健体育コース	小学校教科内容(体育)	3後	1	2		0	_		2	4	2			兼4	オムニ
	体育科・保健体育科内容構成演習	3後		2			0			1				24.0	
	水泳 器械運動	1前 1後		1				0			1			兼2 兼1	
	帝恢連動 体つくり運動	1仮 1前		1 1				0			1			兼1	
	運動生理学	1後		2		0		0	1					水工	
	衛生学及び公衆衛生学	1後		2		0			1	1					
	保健体育学概論	1前		2			0		2	5	2				オムニ
	陸上競技	2前		1				0						兼1	
	ダンス	2後		1				0						兼2	
	ソフトボール	2前		1				0						兼1	
	運動学	2前		2		0					1				
	学校保健	2前		2		0				1					
	保健体育学研究各論演習I	3通		2			0		2	5	2			兼5	
	保健体育学研究各論演習II	4通		2			0		2	5	2			兼5	
	剣道	2前・後		1				0	1						
	柔道	2後		1				0		1				.,	
	サッカー	3前		1				0						兼1	
	バスケットボール	3前		1				0		1				* 1	
	バレーボール ハンドボール	3前 4後		1 1				0						兼1 兼1	
	ラグビー	4後		1				0						兼1	
	テニス	4後	1	1				0			1			兼1	
	スポーツ教育原理	1後	1	2		0				1	-			211.12	
	スポーツ社会学	1後	1	2		0				1					
	スポーツ心理学	2前	1	2		0					1				メディ
	スポーツマネジメント論	2前	1	2		0								兼1	
	体育史	2前		2		0			1						
	体育指導法演習	1前		2			0							兼1	
	武道指導論	2後	1	2		0			1	1					オムニ
	スポーツコーチング論	2後	1	2		0		_	l .					兼1	#- 1
	スキー実習	3通	1	2				0	1					3£.,	集中
	部活動と生徒指導	3前	1	2		0								兼1	
	学校と地域スポーツ スポーツと栄養	3後	1	2 2		0			1					兼1	
	スポーツと宋養 発育発達学	3前 3後	1	2		0			1 1						
	保健管理論	3板 4後	1	2		0			1						
	小計 (37科目)	41友	0	60	0		_		2	5	2	0	0	兼14	
音楽教育	小学校教科内容(音楽)	1前	"	2	,	0				1				AL14	
コース	音楽科内容構成演習	3後	1	2		Ŭ	0			1	2				オムニ
	ソルフェージュI	1前	1	1			0			1	-				
Ī	ソルフェージュII	1後	1	1			0		I	1	I			l	1

(牧本学知学);	教育	課	程		等		の		相	¥	<u>-</u>	要		
(教育子部子校	教育教員養成課程)【既設】			単位数	ζ	抄	受業形	態		専任教	数員等(の配置		
科目	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	教	准	講	助	助	備考
区分	12条件日の石が	配当午饭	修	択	由	義	習	美	授	教授	師	教	手	VH 45
						4.4		習	.^	.~			ľ	
	演奏基礎(こえ)I 演奏基礎(こえ)II	1前 1後		1 1			0				1 1			
	ピアノ伴奏法	1前		1			0							兼1
	音楽学IA	1後		2		0								兼1
	音楽学IB	2後		2		0								兼1
	合唱指導法I	2前		1			0				1			
	合唱指導法II	2後		1			0				1			
	合唱指導法III	3前		1			0				1			
	演奏基礎(ピアノ)I	2前		1			0				1			
	演奏基礎(ピアノ)II	2後		1			0				1			
	合奏I	2前		1			0							兼1
	合奏II	2後		1			0							兼1
	アンサンブル指揮法	2前	1	1		_	0			1				
	音楽教育学I	2前	1	2		0					1			¥.1
	音楽教育学II	3後	1	2		0								兼1
	和楽器アンサンブルA	3前		1			0							兼1
	和楽器アンサンブルB	3後		1			0							兼1
	和楽器アンサンブルC 和楽器アンサンブルD	4前		1			0							兼1
	和栄益アンザンノルD 創作表現I(編曲法)	4後		1			0			1				兼1
	創作表現II (アナリーゼ)	1前 2後		1 1			0			1 1				
	創作表現III	3前		1			0			1				
	音楽教育実践演習	4前		2			0			1	1			
	混声合唱I	3前		1			0			1	1			
	混声合唱II	3後		1			0				1			
	舞台表現演習(伝統音楽を含む。)	3後		2			0				1			
	スコアリーディングI	3前		1			0			1				
	スコアリーディングII	3後		1			0			1				
	音楽学II	3前		2		0								兼1
	音楽教育学演習I	4前		1			0			1	1			
	音楽教育学演習II	4後		1			0			1	1			
	演奏表現 (こえ) I	3前		1			0							兼1
	演奏表現(こえ)II	3後		1			0							兼1
	演奏表現(ピアノ)I	2前		1			0				1			兼1
	演奏表現(ピアノ)II	2後		1			0							兼2
	演奏表現(こえ)III	3前		1			0				1			
	演奏表現(こえ)IV	3後		1			0				1			
	演奏表現(ピアノ)III	3前		1			0				1			兼1
	演奏表現(ピアノ)IV	3後		1			0				1			兼1
	演奏表現演習AI	4前	1	1			0				1			
	演奏表現演習AII	4後	1	1			0				1			
	演奏表現演習BI	4前	1	1			0				1			
	演奏表現演習BII	4後	1	1			0			,	1			
	創作表現演習I 創作表現演習II	4前	1	1			0			1				
	創作表現演首11 管絃(雅楽)I	4後 1通	1	1 2			0			1				兼1 集中
	官私(征采)1 合唱指導法IV	3後		1			0				1			水1 未十
	合唱指導法V	4前		1			0				1			
	合唱指導法VI	4後	1	1			0				1			
	合奏III	3前	1	1			0				*			兼1
	合奏IV	3後	1	1			0							兼1
	合奏V	4前	1	1			0							兼1
	合奏VI	4後	1	1			0							兼1
	創作表現IV	3後	1	1			0			1				
	音楽学III	3前	1	2		0	1							兼1 集中
	混声合唱III	4前	1	1		1	0				1			
	混声合唱IV	4後	1	1			0				1			
	小計 (61科目)	-	0	72	0	 	_		0	2	3	0	0	兼9

		教	育	課	程		等		の		根	ŧ	<u> </u>	要			
(教育	学部学校教	育教員養成課程)	【既設】	T	<u> </u>	単位数	ά	ł	受業形	熊		専任裁	教員等(の配置			
	4N D									実							
	科目 区分	授業科目0	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
					修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		小学校教科内容(図	図画工作)	1後		2			0	В		2					
	教育(美術)コース	図画工作科・美術科	斗内容構成演習	3・4前		2			0		1	2					オムニバス
	kill) . S.	造形表現AI		1前		2				0		1					
		造形表現BI		1前		2				0	1						
		造形表現CI		1後		2				0		1					
		造形表現DI		1前		2		0								兼1	
		美術史A		1前		2		0				1					
		造形表現AII		2後		1			0							兼1	
		造形表現AIII		2後		1			0			1					
		造形表現BII		2後		1			0		1						
		造形表現BIII		2後		1			0		1						
		造形表現CII		2前		1			0			1					
		造形表現CIII		2前		1			0			1				.,	
		造形表現DII		2後		1			0							兼1	
		造形表現DIII		2後		1			0							兼1	
		美術理論I		2前		2		0				1					
		美術史B		2後		2		0				1				37	
		デザイン・工芸史		3通		2		0			1					兼1	オムニバス・集中
		デッサン論		1前		2		0			1					26.4	#
		図法		1通		2			0								集中
		材料研究A		2通		2			0								集中
		材料研究B		2前		2			0			,				兼1	# 由
		美術理論II		2通		2		0				1				26. 4	集中
		美術表現の基礎		3前		2			0							兼1	
		自由研究・絵画Ⅰ		3通		2			0		,	1					
		彫刻演習 コミュニティとアー	1	3後		2 2			0		1						
		コミュニティとノー 自由研究・彫刻I	- 1	3後		2			0		1						
				3通		2			0		1	1					
		デザイン演習 自由研究・デザイン	/ . T#I	3後		2			0			1					
		日田研究・ブリイン 工芸制作I	✓ • ⊥ <u></u>	3通 3後								1				並 1	
						1				0						兼1	
		工芸制作II		3後		1				0		,				兼1	
		美術史演習I		3後		2 2			0			1				₩ 1	# 由
		美術史演習II	Δт	3通		2			0			1 1				兼1	集中
		自由研究・美術理論自由研究・美術教育		3通 3通		2			0		1	1					
		自由研究・美術教 F 自由研究・絵画II	月子1	3通 4通		2			0		1	1					
		自由研究・ 自由研究・ 彫刻II		4通		2			0		1	1					
		自由研究・デザイン	/ . 丁生II	4通		2			0		1	1					
		自由研究・美術理論		4通		2			0			1					
		自由研究・美術教育		4通		2			0		1	1					
		小計(41科目)	4 7-11	-	0	72	0		_		2	3	0	0	0	兼8	
	美術・書道		事写)	1後		2	Ť		0		2	1			_	AIKO	オムニバス
	教育(書	書道科内容構成演習	/	3前		2			0		2	1					オムニバス
	道) コース	仮名書法演習I	-	1前		2			0			1					
		楷書法演習		1後		2			0		1						
		国文学概論		1後		2		0			2						
		漢文学概論I		1前		2		0			1						
		国語学概論		1後		2		0			1						
		解釈学概論		1前	1	2		0			2						
		書道概論I(書写を「	中心とする。)	2前	1	2		1		0		1				兼1	
		書道概論II(書写を		2後		2				0		1				兼1	
		中国書道史	, 20 /	2前	1	2		0		<u> </u>	1	l -				,,,,*	
		日本書道史		2後	1	2		0			1						
		漢字作品制作論演習	al I	3前	1	2		<u> </u>	0		1						
	I	仮名作品制作論演習		3前	1	2			0		1					兼1	
			→ -	9111	1		1	1	\sim	1	II .	Ī	1	1		/II/ T	1
		書鑑賞論		3後		2		0			1						

		教育	課	程		等		の		根	ŧ	<u>-</u>	要			
(孝	教育学部学校教	育教員養成課程)【既設】	1		単位数	r	*	受業形	能	1	恵任者	か昌等の	の配置			
	eu				TE. 30	Ì	1.	<i>(**///)</i>	実		0 17-4					
	科目 区分	授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准教	講	助	助		備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手		
		草書法演習	2後		2			0	百	1						
		仮名書法演習II	2前		2			0			1					
		篆刻法演習	2後		2			0							兼1	
		篆書法演習	3前		2			0		1						
		隷書法演習	3後		2			0		1						
		漢字作品制作論演習II	3後		2			0		1					.,	
		仮名作品制作論演習II	3後		2			0							兼1	
		書論研究	3前		2		0			1						
		書道自由研究I 書道自由研究II	4前		2			0		2	1					
		青週日田研究II 実用書式の研究	4後		2 2			0		2	1				¥:1	
		小計(27科目)	4前 —	0	54	0		_		7	1	0	0	0	兼1	
	特別支援教育恵	特別支援教育総論	 1後	0	2	0	0			1	1	0	0	0	兼3	
	門科目	知的障害者の心理・生理・病理	3通		2		0			1	1				兼1	オムニバス・集中
		肢体不自由者の心理・生理・病理			2		0				1				7111	オムニバス・集中
		視覚障害教育	2前		2		0				1				NK1	
		聴覚障害教育	2前		2		0			1	1					
		知的障害教育	2前		2		0			1		1				
		肢体不自由教育	2前		2		0			1		_				
		病弱教育	2前		2		0			1						
		障害者の心理・生理・病理	3後		2		0			2	2	2				オムニバス
		特別支援教育実践論	3前		2		0			3	1	1				共同
		発達障害教育	2前		2		0					1				
		視覚障害心理	3前		2		0			1						
		視覚生理・病理	3通		2		0								兼1	集中
		聴覚障害心理	3前		2		0			1						
		聴覚音声生理・病理	3通		2		0			1					兼1	集中
		障害児アセスメント論	3前		2		0								兼1	集中
		病弱者の心理・生理・病理	3後		2		0				2					オムニバス
		病弱者の心理と健康行動学	3前		2		0				1					
		視覚障害指導論	4通		2		0								兼2	オムニバス・集中
		聴覚障害指導論	4通		2		0								兼1	集中
		知的障害指導論	4通		2		0								兼1	集中
		肢体不自由指導論	4通		2		0								兼1	集中
		障害児のキャリア教育	3後		2		0									オムニバス
		病弱指導論	4前		2		0	*								※演習
		インクルーシブ教育システム基礎論	1通		2		0									集中
		障害理解教育論	2通		2		0								兼2	オムニバス・集中
		視覚障害アセスメント論	2通		2		0	\• <u>/</u>		1						集中
		聴覚障害アセスメント論 点字指導法	2後		2 2		0	*		1	,					※演習 ※演習
		点于指导伝 視覚障害歩行指導法	1後 2通		2		O **	*		1	1					※講義
		院見障告少17拍等伝 言語指導法	2前		2		0			1					兼1	~ 再我
		三 前 指 导 伝 手 話 学 習 の 基 礎	1通		2		0	*								※演習
		宇前子自の基礎 特別支援教育コーディネーター基礎論	2通		2		0	^~								集中
		ユニバーサルデザイン授業論	4通		2		0	*								※演習・オムニバス
		発達障害指導論	4前		2		0	* *				1			/11/2	※演習
		重複障害教育	2前		2		0			1		1				- NOH
		言語障害教育	2後		2		0			1		1				
		障害児研究法I	3前		2		1	0		5	3	2				共同
		障害児研究法II	4後		2			0		5	3	2				共同
		小計 (39科目)	-	0	78	0		_	•	5	3	2	0	0	兼21	
	-	学校経営と学校図書館	2後		2		0								兼1	
		学校図書館メディアの構成	2後		2		0								兼1	
学	校図書館司書教	学習指導と学校図書館	2後		2		0								兼1	
詣	資格取得科目	読書教育と図書館	2通		2		0								兼1	集中
		情報メディアの活用	2後		2		0								兼1	メディア
			_	0	10	0		_		0	0	0	0	0	兼4	

	教	育	課	程		等		の		根	X	1	要			
(教育学部学校教	育教員養成課程) 	【既設】		ı	N/ / L N/	,		5 MA 6	tule	1					ı	
				<u> </u>	単位数	ζ.	ž	受業形態	態実	 	専任教	双 員等	の配置	ı	4	
科目 区分	授業科目の	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	験	教	准	講	助	助		備考
四月				修	択	由	義	習	実	授	教 授	師	教	手		
	1.30								習							
卒業研究	卒業研究 小計(1科目)		4通	4	0	0		0		55 55	31 31	15 15	0	0		
	計 (785科目)			47	1351	0		_		55	31	15	0	0	兼29	5
学位又は称号	I	: (教育学)					半の分			00			- 保育			7
	· ·		屋 版				キッカ	到							床	
卒業の要件は	美要件4年以上在学し、	及 び 各 <u>専</u> 攻・コ	履 修 ースの卒業に	方 必要力		去 の単作	立数		1 学石	ニの学	期区分		明間等		2 学期	Ħ
を修得した者につ	いて、教授会の議										業期間	•			2 子兒 15调	
与する。 - 各学期に履修申	請できる単位数は	2.6単位(所定の単位を	優わ き	- 成績	をなっ	って			-	来期 業時間				90分	
- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ては、30単位)以		ルルインギルで	DE 401	二八八八貝	٠٠٠ ت			т 1441)	スマノ1文	未时间	ป]		ョリブ	
専 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	29単位 20単目 20単目 20単目 20単目 20単目 20単目 20単目 18単単位 20単目 32単位 位位立 単目 20単目 20単目 18位 26単位 20単目 18位 表美術 426単位 25単位 25単位 25単位 25単位 25単位 25単位 25単位 25	· 文育、社会科	教育、数学教 各コース)】	育、尹	里科教	育、『	家政									
本音 は は は は は は は は は は は は は	立 単位 目 2単位 29単位 科目 20単位 科目 4単位 科目 18単位 22単位															

	教	育	課	程		等		の		根	T	5	要		
(教育学部学校教	育教員養成課程)	【既設】													
					単位数		擅	受業形態	態		専任教	数員等(の配置		
科目 区分	授業科目	の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	教	准教	講	助	助	備考
				修	択	由	義	習	実習	授	授	師	教	手	
共通基礎科目 言語科目 8単 体育科目 2単 ICT科目 3単位 教職基礎科目 4 フラッグシップ 教職関連科目 教職専門科科 教職科科育法	ん 位立 単位 日 2単位 29単位 科目 8単位 シップ科目 2単 48単位	单位													

				業	———— 科	目	の	概	要	
(孝	汝育:	学部学校教育教員	養成課程)		_					柏原キャンパス
		科目 区分	授業和	科目の名称			講義等の内容			備考
教養教育科目群		導入科目	大学入門ゼ	ï	レポートの言 また、各専リ ループワーク ことで、批判 ン能力を向_	書き方を含むア 女の専門分野に クや発表等のア 則的思考力やニ	プカデミックライ に関する導入的な アクティブラーニ ロミュニケーショ 全で主体的に学る	ティング等 内容への理 ングを通じ ン能力、フ	情報の利用方法や をについて学ぶ。 となる。グ に理解を深める。グ にで理解を深める。 でレゼンテーショ の、今後4年間の	
	基盤教養科目	分野別科目(思 索と芸術)	日本人の宗	教観	内に潜む宗教 できるよう! 私たちが普覧	数観を再認識し こする。 没何気に触れて	、宗教一般に対	けする自身の 1に、日本人	より、私たちの)スタンスを反省 、の宗教観がどの	
	I		平安朝文学	世界への誘い	深める。 平安時代のこ て説いていく	文学について、 く。また、これ	『竹取物語』と	:『枕草子』 原氏物語』と	について理解を を主に取り上げ の関わりや文体	
			コンサート	への誘い	楽を中心とで 各回で提示さ	するコンサート される小レポー 出がある。年間	・の意義について -ト課題の提出及	「考察できる び年度末の	こ、クラシック音 ようになる。 まとめのレポー ので履修には注	
			和歌の表現	世界を知る	る。 ・百人一首! ・和歌の基础 ・『源氏物記 る。 平安朝文学!	こ採られた和器 遊知識を修得し 語』などの散文 こついて、百人	なについて理解を 、、和歌の歴史に な作品における和 、一首に採られて	:深める。 こついて理解 I歌の利用の 「いる王朝部	ての理解を深め すする。 か在り方を理解す 大人の和歌に注目 時代の和歌にも	
			読むための	視点	樹『羊をめく 視点から作品 層的なものる	ぐる冒険』等の 品にアプローチ とするとともに	日本の近現代文 することによっ	で学作品を取って、文学作い つて、文学作い つの多角的に	ころ』、村上春 zり上げ、多様な E品の読み方を重 捉えるための視 つる。	
			ドイツ文学	を読む	ができるよう J・W・ゲーラ 『ベニスにダイツ近代文章	うになる。 テ『イタリア糸 死す』、『ファ 学の到達点を拐	己行』、『ファヴ ・ウスト博士』 <i>の</i> なる。	7スト』、と)テクストを	読みながら、ド	
			芸術理論: 学から	フランス近代美	て果たせずい 考察が散りに に、そのまれ でないこれる ではこれる	これの これの たった。 これの たったれた でれた でれた でれた がは ない でな がは はな がな にない はな がな はな がな はな がな にい にい にい にい にい にい にい にい にい にい	いし、その全著作 、ベルクソン型 系的に導き出す い従来のベルク 知覚の美学」と	には豊かな デ学の統一的 ことができ ソン美学の して扱われ の美学」とし	る。ベルクソン F究では、これが して来たが、本講 して捉え直し、東	
			民族と音楽 中心に	: 東南アジアを	ワ島(インド 化・グロー/	ーネシア)および バリゼーション	ドマレー半島の事	写例をとりあ -カルな音楽	・ーシア)、ジャ ッげ、開発・近代 ※活動とそれに関	
			比較文学論		きるようになる 島崎藤村、は、日本文学)に切り打	なる。 ゲーテ、森鷗タ 学) との接触に 石かれた地平を	トらの作品を取り こよって、日本文 探査する。	上げ、ドイ C学(あるい		
			ヨーロッパ から	ーフランスの窓	から知り、 ら日本と比較 る。 フランスとい	ヨーロッパの中 致することで、 ハう国を、社会	『心国としてのプ 異文化理解、多	プランスの役 女化共生の 芸術といった	芸術などの側面 計割を理解しなが 視点を身につけ ・多角的な観点か ・を提示する。	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育教員	養成課程) T							柏原キャンパス
科目 区分	授業科	料目の名称			講義等の内	可容		備考
分野別科目(国際と地域)	日本事情		ず、文化 て、その で、文化	とという概念を	比判的に捉え直 基づいて現代日 ハう営みに対す	すための視点を 本文化の諸側面	とを目指す。ま と提示する。そし 面を見ていくこと 日本文化を自ら	
	国際関係論力	人門	2) 国際 教科書と 歴史〔原 て学ぶ。 授業が始	際政治の諸問題 こして ジョセ 京書第10版] 』 台まるまでに教		スを養う。 ニアほか著『E 、国際政治の歴 箇所を読んでお		
			and the and other music. African gospel I way out influencis designote tal and worlup to he	African and a er musical ger It shows the people and the music has been of nowhere. ced the music gned to assisking, present kshops. This eaving a better	African Americances that have intense and dene struggles and their connect We also look of the past at students in their students in their connect when the students in the st	an influence been born frep relationsh nd traumas an tion to ances k at how gosp nd of today. developing being skills, t designed to iew, while fo	ips between d how music and tors and their el music has This course tter listening, hrough lectures open students cusing on	
	English Wor	·ld I	ペリそそこまたこニをこれがにから、にコグにコー・ベーーをこれでは、ロー・ベーーをこれがにからない。	だからない。 とないないない。 とないないないでは、 ではいるでは、 ではいるでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	その他の他の をと音楽がする をといるののの の介の の介の の介の の介の の介の の介の ののの ののの ののの ののの のののの のののののののの	マンルに対する ・ウマ との間のついま で 祖先 一 との しの しの しの しの しの しの しの しい しい で こく こく こく いい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	な影響を与えてき Eがより良いリス ンポートのスキル に焦点を当てなが	
	English Wor	·ld II	and the better lecture to having analysin このった、いまので、またののでは、いまのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	rapies. It is listening, no s and workshop ng a better w ng critical ースでは、学生 構義やワークシ 又り方、レポー	also designed te taking and so. This cours: orld view. It thinking skill こ基本的な心理 コップを通じてトのスキルを身	to help stud reporting ski e helps to op is also focus s. 学的方法と治療 、学生がよりほに付けられるよ	lls through en students' up ed on improving 療法を紹介しませいリスニング、 ように設計されて	
	English Wor	·ld III	This cliabout moscenes: underst. To help artists, the end underst. このクラためにレクラスで影響力の映画監督	ass will introvies and vist from many famand the techn students under the course anding of how ラスでは、映画な基本的なで基本的なで表れたテンある動きのシ	duce the basi- duce the basi- ual storytellic pus and influe eques presente- erstand the te- lirectors, to e students wil movies work. やビジュアルス キ彙を紹介しま クニックを組入しま ーンを見ていき ーリーを伝える	c vocabulary ng. We will b ntial moves t d in class. chniques used tell stories l have a deep トーリーテリン す。 するのに役立っ ます。	needed to talk e watching o help us by visual with images. By	

		授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学	校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
科目 区分		授業	科目の名称			講義等の内	內容		備考
		English Wo	orld IV	about mo scenes f understa このクラ	ovies and visu from many famo and the techn: スでは、映画		ng. We will be ntial moves to d in class. トーリーテリン	e watching	
				クラスで 影響力の	が提示されたテ)ある動きのシ	ーンを見ていき	するのに役立つ ます。	o、多くの有名で	
]	English Wo	orld V	activiti The stud English are expe improve	ies, quizzes, dents will der on topics re- ected to part their communi		up presentation ability to convironment and class discussion the four	ons. communicate in d society. They sions and	
				クイズ、 環境と社 る能力を 4つの学	最終的なグル 会に関連する 示してもらい 習分野(話す	ます。 クラスの	ーションで構成 て英語でコミュ)ディスカッシ 読む)でコミュ	されます。 ニケーションす	
		r. 1:1 w	. 1 L VI	activiti The stud English are expe improve	ies, quizzes, dents will der on topics re- ected to part: their commun:		up presentation ability to on the convironment and class discussion the four in	ons. communicate in d society. They sions and	
		English Wo	rid vi	イズ、最 English 語でコミ ディスカ	終的なグルー World Vに続い ュニケーショ リッションに参	ププレゼンテー いて環境と社会に ンする能力を示 加し、4つの学	ションで構成さ 関連するトピ してもらいます 習分野(話す、	ックについて英	
			11,000	reading activiti pair wor	and speaking ies not only t rk. Review of	rified through activities. The teacher centers past lessons, luded for cont	hese will be o ed, but also and preparat:	dynamic in group and	
		English Wo	orld VII	ティビテ これらは もダイナ	イを通じて明る は教師中心の活! マラックな活動	確になります。 動だけでなく、	グループワーク	パーキングのアク パーキングのアクロークで ないます。	
				reading activiti pair wor	and speaking ies not only a rk. Review of	rified through activities. The teacher centered past lessons, luded for cont	hese will be dead, but also and preparat	dynamic in group and	
		English Wo	orid VIII	ティビテ これらは もダイナ	イを通じて明 は教師中心の活! マミックな活動	確になります。 動だけでなく、	グループワーク	パーキングのアク パやペアワークで いまれます。	
	ļ	Fnølisk ₩∽	orld IV	look at in Japar Class ti	print media, n. ime will cons:	on the mainstro television, activities of lectures to be On Demand.	dvertisers, ans, group work,	nd the Internet	
		English Wo	oria iX	刷メディ す。	ア、テレビ、)	流メディアに焦 広告主、インタ	ーネットについ	いて見ていきま	
				授業時間す。]は、講義、グ	ループワーク、	および最終テス	トで構成されま	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
教育学部学校教育 科目		 巻科目の名称			講義等の内	1容		柏原キャンパ 備考
区分	English W	orld X	look at p in Japan. Class tim test. この授業に す。 日本 て見ていき	rint media, e will consi は、日本のオル の印刷メディ きます。	st of lectures シタナティブ メ ア、テレビ、広	dvertisers, al s, group work ディアに焦点 告主、インタ	nd the Internet , and a final	
	世界の教持書	受法・世界の教科	子達の学を出て、 (13大の 中点 (13大の 中点 (13大の 中点 (13大の 中点 (15大の 中) (15大の 中) (15十の 中) (15十の 年) (151の 年) (1510 年) (1	は は は は は は は は は は は は は は	対象の必要性がいるための一助な者が行われていた。 (行く)。 (同回)。 (1) (がポールの消費・ (表)、諸外国の筆 (本)、一次の視点に、 (で)、「一次の視点に、「一次の視点に、」	高まっている。 として,本講 いるのか,いく 者教育について 算方法について る。 ついて担当する	担当する。	オムニバス
	日本古代之	文化史I	(36高価 橋 6 付 の 4 の よ の よ の よ の よ の よ の よ の よ の よ の よ	登・201米澤 留学生による名 までの文化に は な る。さらには り と 、 科学技 性 と と し に り と り も り と り た り た り た り た り た り た り た り た り た	1,日本文化史 日本文化を分 !との構造の違	址遠/4回) 教科書の紹介に 事項(平安時代 の流れを理解す 折することに関い いを考察するこ	(共同) こついて担当す ことの連続性) に ることができる 引心を広げ,経済	
	日本古代ス	文化史II	続性、室町 文化史のデ 化を分析す 造の違いを	丁・江戸時代と だれを理解する けることに関心 と考察すること ける連続性と	の連続性)に ことができる かを広げ,経済 ができる。	ついて理解する ようになる。さ 史、政治史、科	鎌倉時代との連 るとともに、日本 らには、日本文 学技術史との構 化を分析する手	
	日本近代3	文学読解入門I	本語の応えいるケ文作品の応さいます。	解力を向上させでいる。 できる受講ではかる高さはからいまでいる。 されたいでは、 かいでは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	るとともに、運 ると日本発表とも本語及 る口を明確高的な記 、表現面で 、表現で 、表現で 、表現で 、表現で 、本現に 、本現に 、本現に 、本現に 、本現に 、本現に 、本現に 、本現に	日常的な場面で 用能力を	でび、文学的な日本語で使用する日本語の日本語の日本語の日本語の日本語の日本語の日本語の日本語の日本語の日本語の	
	日本近代江	文学読解入門II	げこるミ芥な発を作のさ二龍、やざいと。ュ川く表めでは、やざいとがない。	り主題を捉える きる高度な日本 こは受講者によ シニント 会表現などの言 会 会 を 積極的に耳 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	※語の読解力やだるロ頭発表やはでいたのでは、 ※回りのでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、できる。 では、できるでは、できるでは、できる。 では、できるでは、できるでは、できる。 できるでは、できるでは、できるでは、できる。 できるでは、できないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	語表現にも着に、も着に、も着に、も身になり、も身になりない。 対論なこといい。 はことのでで、 はことで、 にたまでも にたまなる。 にたまなる。 になる。 にも着いてできれた。 になる。 にな。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 にな。 になる。 になる。 になる。 にな。 にな。 になる。 になる。 になる。 にな。 になる。	し理解を深める けることができ 大きによるコート よる。 ここの主題だけで頭 よいる。また口頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭 まびまして頭	
	経済の目 ^っ しI	で見る地域と暮ら	地域を経済の基本的な講義ではほうを取り」	者から考えてみ よ視点について ∃本の地域(者 上げながら、♯	くることを目標 「学んでいきま」 『道府県・市町』 『域の特色につ	としています。 す。 村)に関わるさ いて経済的な側	のること、そして Iでは地域分析 まざまなトピッ 側面を中心として かな内容です)。	

/ */L ** 356 **P 356 1 + */L ** */L	授	業	科	目	Ø	概	要	# F *
(教育学部学校教育教 科目 区分		斗目の名称			講義等の内	可容		柏原キャンパス 備考
	経済の目でし	見る地域と暮ら	ながらこと 講義 では らん と 経済とい	さらに日本にて、そして地域を 具体的な地域に 地域の経済的な	ついて、具体的 と経済から考え こ関わるさまざ は側面を中心に 可歩的な内容で	Tu Tu Tu Tu Tu Tu Tu Tu	内容を引き継ぎ こして理解をすす 目標としていま と取り上げなが いきます(ただし よらしやすさとは	
	多言語実践:	プロジェクト	て(と方外各のしな議後状受講のでで、と方外各のしな議後状で講覧をする。 はで把生がの々では、こので把生生がでいる。 は、このでは、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	社会が Pevelop nable Oevelop とすきでもないすきないで かけいで で かけい で も は り で も は り し で の と が し で り は り し で う さ り で う は 的 し で う に が り で う に が り し で う に が り し で う に が り し で う に が り で う に う に う に う に り に り た り と ら を り た り と ら と ら ら と ら ら と ら ら と ら ら と ら と ら と	5 ment)の が とのの が とのの のかけ がための がための のかけ では、ための のの のの留は では、いり がいり がいり がいり がいり がいり がいれて がし がいれて がいれて がいれて がしれて がしれて がしれて がしれて がしれて がしれて がしれて	の方では かう が が が が で が の が の が の が の に 関 は 語 が の に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に は に な に な に な に な に な に な に な に な に な に は に な に な に な に な に る ら に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る ら に る ら に る る る に る る る る る る る る る る る る る	理解を深めるこ 等)と正規生の両 E規生の日本語以	
分野別科目(周 史と社会)	日本国憲法		かという 人権や統 ながら解	ところから丁雪 治の仕組みに~	軍に説明する。 ついて、裁判例 易や社会で生じ	その後、日本国 や現実社会の重	のような法である 国憲法が保障する 助向等を例に挙げ について考える	
	部落問題概	倫	場面でどすでという にたるより お落問るこ	のように対処するのか、人に対処するのか、人に対して、学生ひとになることを発 になることを発 は日本社会の相とはこの社会を 現状、そして	↑べきか、部ますしてどりがのがられてどりできます。 ・りひき目標とする。 はなど考えることでは、 ・深く考えることでは、 ・深く考えることでは、 ・深く考えることでは、 ・深く考えることでは、 ・深く考えることでは、 ・深く考えることでは、 ・の	問題に関する言 に部類に関する言 分自身で考え 係した問題で とでもある。	客差別が生起した 言説を どのよう 対えるのかといっ て意見を述べら っり、この問題を 本講義では、そ について、概論	
	日本科学技行	淅史概論	だけでは 法も試し	なく, 地理学∉ たい。狭隘なE)手法である空	間の分析,科学 陥ることのなレ	時間を分析する 対抗を社会の手 いように東アジア き察する。	
	近現代外交!	史	・20世紀会・20世紀事・20世紀を踏できる2つの世日本の外	・思想などの 前半の日本外 たうえで、自 たうえで、自 た た うえで、自 が た う た う え で 、 も ろ え で 、 も ろ え で 、 も ろ え で 、 も ろ く る ら る ら る と ろ ら ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る	をと国際秩序の 要因を踏まえた をと国際秩序の かの立ち位置を って国際秩序が	構造的把握と設 展開について、 明らかにして意 大きく変転した たのか。政治・	さまざまな解釈 気見を述べること こ20世紀前半に、 経済・社会・軍	
分野別科目 (ノ 間と生活)	ダイバーシ	ティと人権	ンド型ですること 刻までに システム	行い、moodlek になる。moodl 行う予定である) を使ってジャ	ご教材をアップ eへの資料のア る。毎回の授業	してそれを視聴 ップは、授業退 終了後にmoodl レポート)の携	授業はオンデマ 恵したり読んだり 園の前の土曜日夕 e(eラーニング &出を求める。受	
	現代社会学の	の方法と実践	る。また きるよう この授業 観点から	、社会学の基本 になる。 では、社会学の 講義する。社会	x的な概念や考 ○基本的な考え ☆学における理	え方について、 方を「社会を理 論と経験、質的	できるようにな 一定の説明がで 世解する」という か研究と量的研究 に即して解説を	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育	学部学校教育教員 科目 区分		科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
		現場に活か論	すスポーツ実践	する。スポ て、理解す る。 スポーツ文 知識を、本	ポーツがもたら けるとともに実	す身体の変化に 践的なパフォー あるスポーツ の側面から概	こ関する基本的 ーマンスに関す 実践者の実践力 現していく。	要と課題を理解 な事項につい る課題を理解す を高めるための	
		健康科学へ	の招待	本識そと健考例様で(講(人す(教会を関する対象で、報便達関もな異康に、172概で、171義に対象で、161急を対象で、148系で、164条系で、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系系が、144系列様では、144系列様のは、144系	と を で で で で で で で に で で に で で に で で に で で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で で に で で で で で で で で で で で で で	関する様々な から進んで主体 ついて、データ 間題りするに がみ、同 をげます。 鉄也/1回本 る。 供・移植、運動 る。	トピックを通じ 本的に考えられ タを示し、受講 思考を深めます 自身の主張を構 回) (共同)	て、基礎的な知 るようになるこ 生には主体的に 。 築する方法とし 等について担当	オムニバス
		生活環境を	さぐる	生活、住生 を取り上け (オムニノ (182西川 食生活飛台 心の健康に (150永井 衛生行政、 (126碓田	E活、健康の諸 げて解説/全15 でス方江/を15 章に/5回) 果題に一2回 でンいて担 でいて主担/4 産業保健と 電業保健と を習子/4回)	課題について約回) 当する。 る。 可) 校保健についっ	総括的、あるい	活における、食 は特定のテーマ る。	オムニバス
		対人コミュ心理学	ニケーションの	点からと響がて関係を関係を関係を関いた。	っえ直し、自ら を受けている でより円滑なも でのでが大動 での対人場	の行動及び他表 かについて考え のとするための を、「社会的な 面における相互	ちの行動がどの える機会とする。 アー助とする。 存在としての個 互作用という視	互作用という視 ような要因に 。これによって 人」、つまり、 点からとらえ、 ンの考え方を解	
		経済教育実	践論	員・NPO職 カリキュラ 社会参画教 シティズン ング等々20	員等)を志す学 ラム・マネジメ 対育(経済教育) ンシップ、エー 030年代の社会	生が、子どもさ ントの戦略スプ の理論・実践を ジェンシー、こ 参画としての経	と経済の架け橋 キルを獲得する を概観する。	、ウェルビーイ する。	
	分野別科目(生 命と環境)	生命と共生		概に(・(・き)・で(・れ生に念考1生2)物)物。)生る)解。のて後ので知りとなり解。のでした。 成解ののでした。 はいない はいない はいない はいない はいい はいい はいい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	見 見 し 関 の に に に に に に に に に に に に に	て、生物として、 識と理解を深め、 で、、 で、、 では、では、では、 では、では、では、 では、では、では、では、 では、では、では、 では、では、では、 では、では、では、 では、では、では、 では、では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、では、 では、	での人の生き方 か、共生の概念様々な課題へ が、人類の生き や口頭で説得力 場係まで「共生	、共生の新たなについて主体的を説明できる。 主体的に応用で 方について考察 を持って伝えら 」をキーワード くめのグループ	

育学部学校教育教員	授	業	科	目	Ø	概	要	柏原キャンパ
再字部字校教育教身 科目 区分		科目の名称			講義等の内	內容		備考
	地球と災害		解する。地球球では、 地球である。学れでは、 地球である。 地球である。 地球である。 地域である。	を題材にして科 こる様々な自然 。 際に起きた災害	学の基礎的な 現象の中から の例を挙げな 科学の知識や	方法論を習得す ,特に災害に関 がら,防災につ	関係する内容を中	
	DNAを中心と	した生命科学	たが『生り メといい。 連した「I 身近で最い 解説する。	物』を習わなか ーポイントを中 DNAを中心とした 新のトピックス	った学生」を 心に用いて、 と生命科学」に も取り入れ、	対象として授業 それぞれの回の こついて講義す 映像などを用い	「る科目』を習っ 後を行う。レジュ うトピックスに関 る。できるだけ いて分かりやすく 切にして、細か	
	地球と環境		かについ 次に、現 いて学ぶ。 その後、 恵につい	て学ぶ。 在の地球環境の 。	成立を理解すを与える要因	るために、地球 について、それ	りに、科学とは何 球環境の歴史につ れぞれの災害と恩	
	ミクロの生物	勿学入門	史」をは 「人間に、 産業利用」 子組換えた、目に」	」などを題材に やエネルギー獲	に、「地球環見」、「人と 講義をおこな 得などの現在 生き物の様子	境における微生 微生物の攻防」 う。産業利用に 進行形の技術も	生物の役割」、 、「人間による ご関しては、遺伝	
	生物学と医学	学の出会い	礎についた。 iPS細研究や、 紹介する。	て、医療介護福 田胞やES細胞なる スタッフとして 。これらの知見 までの過程や最	祉専門学校で どの幹細胞研究 勤務する大学 を通して生命	の指導経験を基 門の発展で注目 病院での実際の 現象を理解し、	全など生物学の基 なに解説する。ま される再生医療)研究現場を一部 身近にある薬が 歳を深めることを	
	暮らしの環境	竟と地図	読み取る。まないのでは、またのでは、またののでは、いまでは、いまでは、いまでは、いまでは、いまでは、いまでは、いまでは、いま	力を養う。これを養う。これを養うの。これでない。これではなる。これではないの解提にないではないでは、一次の表がどのない。これでは、一次の表がどのない。これでは、一次の表がといいます。これでは、一次の表が、一次の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人	に加え、地図 具体的には、 ②近代中する。 ・力を獲得につる。 ・力を獲得する。 ・地形図の ・地形図の ・地形図の	を使い他者に比 ①地図の概念と 一般図・主題図 ③地域の変容を る。④デジタル 変化や政治性の 方法を教授した	いら様々な情報を 地域の概要を説明 と歴史表現法を知 と地図のの利用法を り の観点から解説す と大地図を用いて で、自然現で に大地図を用いて	
	生物観察入門	明	り、観察うに対している。	分類して名前 しているキャン	を知り基礎生 パス内のあり らよいかわか び実践する。 あったが、生	態を知ることで ふれた動植物す らない、といっ 特に、高校で生	本を知ることである。毎日のよけるほとんど名前にとんど名前にとれる前のは一下のは一下のは一下のは一下のは一下のは一下のできる。 またいと おきまいと しんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はいと しゅうしゅう はいという はいしょう はいという はいしょう はいしょう はいいん はいいん はいいん はいいん はいいん はいいん はいいん はいい	
分野別科目(数 理情報と自然)		その応用を理解	いる。特に は、 なり なな で 利 が で 力 が た だ た た た た た た た た た た た た た た た た た	に、物理学(力 トルとその演算 な数学的道具で 。 としては、高校 電磁気学など)	学・電磁気学を用いて現象 ある。本講義 の微積分の知 を理解したい しながら、そ) ・工学・物質を記述し、理解では、ベクトルでは、ベクトルである でおっている で十分である 考える方には、 れぞれの項目を	¥するための不可 レとその応用につ	
	はかってなん	んぼ-学校編	際、基準を	が重要なこと、 で理解できるこ 受講者からの質	環境の変化を と、などを様	含む、様々な自 々な演示実験を	以により判断する 日然現象を「はか ☆紹介しつつ、講 ることで理解を深	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育教) 科目 区分		科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
	科学常識を	さ考える	材として 材との を を が 後 の が、 そ 分れ、 そ	薬、色、毒物で もなまえて準備を まない準備・ ないすが興味を 各自が呼にと のテーマについ	あるダイオキシのに解している。 のは、実験は、ないでは、 のにないでは、	レンなどを科学 色(蛍光物質 などを体験する を重点的に行う こに3~5人程 インターネッ	日する。身近な題 さ的、あるいは社 (1) にの合成実験 か。特に実験する 。 と度のグループに ・トや図書からの で見や分析が重要	
	科学の基本	S.	合し,電の り,我々り 発展に貢 たり発明 る。 最後に授	磁気学が誕生し は日常的に電気 献した科学者た をしたときの実	た。ファラデーを使う生活へと を使う生活へと ちを中心として 験を再現しなか 現象やエネルコ	- による電磁誘 : 大きく変化し て, 彼らが新し バら, 追体験的	た。電磁気学の い現象を発見し	
	体験しよう	・!かがく実験	本講義では実験を含む行うことは	は「文系・非実む「かがく実験 む「かがく実験 により基本的な に関する理解を	。 験系」の学生を 教室」であり、 実験操作法の習	かがく実験と 習得から自然現	に化学と物理の : それらの解説を 記象の観察法や原 ぶら自然科学の認	
	論理と数理	LパズルI	て、論理的思 とで身に 方をどの。	的に説明すると 考は、問題を解 つく。本講義で	はどういうこと くだけでなく、 は、問題が解り ば、人に理解し	こなのかを学ぶ 人に分かりや けることを主と してもらえるか	っすく説明するこ :せず、その解き いということに重	
	論理と数理	LパズルII	テーションを学ぶ。 論理的思 とで身に 方をどの	考は、問題を解 つく。本講義で	、論理的に説明 くだけでなく、 は、問題が解り ば、理解しても	月するとはどう 人に分かりや けることを主と ららえるかとい	いうことなのか っすく説明するこ :せず、その解き いうことに重きを	
	データサイ	'エンス入門	・デヒ確テのデンス率のでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	項を授業ンの 質を授業ンス構定 が想を分析である がないない。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといる。 でいるといるといる。 でいるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといる。 でいるといるといるといるといる。 でいるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい	用語がわかる て学ぶ。 ぶ 値, 四分位数な 学ぶ	よどの意味を理	旦解する	
	AIとデータ	/ サイエンス	し、デー サービス AIとデー とを理解 ス例を題	を通じて、AI技 タサイエンスは できる事例を示	活用した分析力 術の特徴と予測 、身近なあらい す。私たちがE 誰しもがAIやラ	方法を学ぶ。ま 則・分類の実践 ゆる活動に深く 日々利用してい データサイエン	た、具体的なAI 例を学ぶ。 関係しているこ いる様々なサービ ノスを利用する時	講義8時間 演習8時間
分野別科目 (参育とキャリア)		゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	そのい、解た目業・大学を発見し、標は提出がある。	を意味します。 実現するために (業するため) (業ないないないないないで からでしまないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	キャストーキャンストー	(ンとは、 集業や 生と たいせる たいせる にいせま にいせま にいせま にいせま にいせま にいま でいま にいま でいま にいま でいま にいま でいま にいま でいま でいま でいま でいま にいま でいま にいま でいま にいま でいま にいま にいま にいま にいま にいま にいま にいま に	自分自身を深く 計論を学びます。 生活を送るため Moodleから発信	
	教職キャリ	ア形成論	それぞれで 支援やキ 階、など	の教職経験につ	いての話を聞く の教育課題、若	く。幼小中高の 岩手からベテラ	1一として招き、)学校段階、特別 ;ンまでの年齢段 いて理解を深め	

		授	業	科	目	の	概	要			
(教育	学部学校教育教	員養成課程)						柏原キャンパス		
	科目 区分	授	業科目の名称		講義等の内容						
		学校教育	と著作権	にの ネスの生	一様ない。 一様ない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	行うものであっ 影響を及ぼすよう 著作権を含む知的 てはもとより、	意識する必要のです。 では、一般では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	Dなかった著作物 著作物の流通ビジ こい高まる中で、 はたちに対する資 こ対応できる資質 いてどのようなで、 召介したうえで、			
		教育科学	の基礎	に (1) (2) 現代 のの 現現 また、 ジョン のの の で り また、 ジョン に り り り り り り り り り り り り り り り り り り	【下の事柄につ 】代の教育現象 こまざまな教育 は判的な思考方 な育と社会の関 ♪析方法につい	いて習得する。 の社会的な背景/ 諸現象を分析する 法について考える 係について考える て考える。 まえてディスカ	こついて理解する視点を獲得する よる るトピックを耳	-			
		ことばと	教育	幼児期か 概観する (2)学	いら小学校高学 ○。 ○習の基礎とし		達の様相と、そ 育て高める授業	との時期の課題を 後の在り方を、言			
		国際理解	教育	communic projects group di assignme into the presenta project; groups t コスは カラ課題が カラ課題が 学生は ブルー	eation skills cation skills classes wi iscussions, and se curriculum. ation, and pa chroughout th 英語で行われ な英語語講義と 構案したのグループ プレター作成プ	、ディスカッシ: ニケーションス: 長いグループデッ。 は、カリキュラっ プビデオプレゼン ロジェクトに参加	Tor discussion of the control of t	ns and group s and longer lass e incorporated up video er-writing in small プロジェクトにた。			
		人間と道	徳	現代社会を根拠にからの場合にある。これでは、いいのでは、いい	においては価 して正しいこ の道徳的判断 つかの道徳的 」・多角的、批 道徳的価値を大	と・正しくない、 をその根拠ととす な価値を具体的に 判的に考察を加っ	いるといわれることを判断して もにあら上げて、 これうえで、 えたを確認し、 近かを確認し、	て見直してみた 倫理学の観点か 厚度、自分がどの 首徳の問題と自分			
		教員のた	めの数学	、板に連も一とる限可集のので数た日数屋非の単のであるの見等との算合との関係との第一との限可能を表現のである。	2年する。 2年する。 2年では、ここに、 2年では、 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では 3年では	れる諸概念を理といる。 が数学とお皿の関係の 理からバナットへ がからがかいかいない 想のなことが ななら、 ないとでの とでの といての 基本的 いいての まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいてい まいて まいて	解するのに、『日常での論理の系。 タルスキーの過 との理の理解。実 ることの理解の実 ること理解する。無	逆理が出てくるこ 女の集合から眺め ヒルベルトの無 無限の中に段階、			

(教育学部学校教育	授	業	科	目	Ø	概	要	柏原キャンパス
(教育子師子校教) 科目 区分		科目の名称			講義等の内	容		備考
	環境教育諸	Д	ICTを活用 る。 この授業 ジェクト 法で伝え	用してメッセー では、主にグル に取り組む。誰 るかを決めて実	ジにし、他者に シープワークで! Éに、どのよう!	伝えたり共有 環境メッセーシ なメッセージを こアイディアを	を、どのような方 を出し合い、プロ	
	消費者教育	育論	メージマ て解説す から明ら	ップに沿った内 る。消費生活机 かにするととも	7容、学校教育に 1談員の経験を基	こおける消費者 基に消費者被害 炎事例を多く耳	肖費者教育体系イ 皆教育などについ 唇の現状をデータ 取り上げる。グ る授業も行う。	
	表現教育		理解でき 学生主導 ス (状況 実行する	るよう各分野のによる企画「こ によりオンライ中で作業過程や を成立させるた)授業を展開する どもフェスタ」 (ンコンテンツ) でふりかえりをご	る。 にて、子ども を立案、実行 通して、協働力	と、実技を通して ち向けの体験ブー すを補佐する。 り、子ども理解、 と身につける環境	共同
	遊びとスオ	ヾ ーツ	持ってい も子ども ポーツを (「遊び	る社会的・教育 の体力に関連す 体験し、その組	了的機能を講義しる運動遊びや2 と験をもとに遊び	します。授業で スポーツの原点 びを創作し共有	がとスポーツが では、遊びの中で 気に近いニュース 有し体験します レープワークを組	
	教職実践諸	Â	する考察 求するる。学 指導をや 繋がる「	の深化とともに びの展開」に向 作成・交流する 業力等の「教育 社会的関係力」 識社会で活躍す	、人間関係を相関係を相関である。 ことにより、領域では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	構築するために 本の授業づくり 実践力を養う。 数師,子ども. 対して判断する	5中で、教職に対 こ大切なことを探 りについて、学習 保護者と協働し 5「意思決定力」 3働的な学びによ	
	知的財産参	女 育論	けて、現 等学産に 的財昨年今 の教いで のかてい財産 知的財産 や、各	行の学習指導等、おいて、おいて、おいて、おいて、おいて、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	照領では、中学校 工業科、商業科 つる。 いる「知財創造者 として、理論研究 でので、教員が ³ でを生かして、名	交技術・家庭系 対などでは、学 教育」ではなき 党や実践的な考 平易に解説した 各校種・教科に	示され、それを受 科技術分野や、高 学習指導要領に知 さらに新しい教科 さら研究が進 会 を大きない。 、 大きない。 、 大きない。 大きない。 大きなない。 大きなな、 大きなな、 大きなな、 大きなな、 大きなな、 大きなな。	
	子どもの多	8様性と教育	はテ的たく多介(74歳のほと)がの景助か性なム貴な大の(子で)を(子で)を(子で)を(子で)を(子で)を(子で)を(子で)を(子で)を	虐ども一そ知らバーを野多田生 虐牛ら行きを達を子を持たってのる学ス泉学治様真保裕待美み行多様を達を子特のでが大了 1 之/ 1 大がもっ保で行/回と/ 1 大が長崎で本た/ 1 大が長崎で大力を発力を登れる。 1 大がりまった。	でも支援できる。 達をどうる。 達を接っている。 というでは、 をできる。 をで。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をでをでをできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる	を かり かり かり かり かり で かい かり で かい かり で かい で で で で かい で で で で かい で で かい で で で で	まである。 虐待と か、性多様な にイン文化 場でらに対応に対応に対応に対応 の様に、 の様は、 の様は、 の様は は、 の は い は い は い る と の は の は る の に る の に る の に が で ら の に が で ら の に が で ら に う で ら で ら で ら で 。 は 。 し 、 し る と 。 し る と る と る 。 と る と る ら 。 と る ら 。 と ら 。 と ら 。 と ら 。 と ら 。 と ら 。 と ら 。 と ら 。 と ら 。 と 。 と	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	「教員養成課程) 「)						柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	容		備考
	ことばのタ	獲得と学習支援	活る特導具きるまも日本踏 () に法体る日た理本語ま オ高・火を的段本、解語指え ム高・火を導て ニ橋・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・大田・	るためにで、生きが生活が深段のは、で生いでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	齢期の言語発達の 外国にルーツのも 教科指導型)に 留意点を解説し、	る支援の種類と 力や学力を獲得 きない段階から 時の日本語 り特徴とそのつ ある児童生、具体 の を は の も は の は は の り り り り の り の り の り の り の り の	方法を理解す させるための指 ある程度理解でが まと教科につなが まずきについて に対して等事例を を培う。	オムニバス
			(175年) (175年) (175年) (175で。125で、125で、125で、201と担高) (175年)	計 祐希子/4 計 祐希子/4 計 福寿/4回い 神 智善力の本に 科指導型日本語 本語の発 器 千昌/2回本語の。 本語る。 登、175櫛弓 共同当する。	日本語(発音・2 (i) 様性、在籍学級の 語指導の方法等に (i) 日本語教室での日 ・ 祐希子、125日	文法・語彙)」 の教科指導の中 こついて担当す 日本語指導の方 日井 智美、20	等について担当で日本語力を育る。 法と実践等につ 1米澤 千昌/	
	探究型学	習の実践と研究	学んだ後 ザイン附 見学を の 日に所	,附属高校でるために必要に 高校各校舎(業期間内の平 定の回数見学	こよる講義を通し 行われている講義を選出 な要件を、今か~ 天王寺校は一様 日またしたが出ートと を授業内で発表す	銭例を見学し, −プ討論等を通 田校舎, 平野校 复数回設定する としてまとめる	探究型学習をデ じて考究してい 舎)で行う授業 ので,いずれか	共同
	地域連携入門	・人権フィールド	携・協働 育などに を行う。	,地域と連携 関する基本的 Well-being(ざす取り組み, ② した人権学習の ? な学習を行い, ~ 冨祉)の視点から こついて考える。	カリキュラムデ それに基づくフ ら,課題を抱え	ザインや基礎教 ィールドワーク	
	演劇的手がケーション	法によるコミュニ ン演習I	想ま日体れズワすグて演像す本的る、一。ル行技の一つのでである。 一きのでものですがいきのでいた。 のはシ国を プま基	どを学び、コ コミュニケーの 、作優教育タニ アのドラマ教育 中心に、よる ワークによる である「役	方法」を応用して ミュニケーション ション不安が間間 世界標準フスキイン・・・ 人の身体性に合え 実技を行った後い 実技を行った後い を体験できる」 「状況を を体験できるよ	作力の向上を 種になっている 技の文法・デ・ メステム」の基 メスデュケーシ・ っせた身体操法 こ、簡単な解説 品を生きる」「	図ることができ 現状を鑑み、具 ッサン"といわ 本エクササイ ョン/DIE)の らも体験できま をしながら進め 相手と交流す	
	演劇的手次ケーション	法によるコミュニ ン演習II	ぶ学日体れズワすグて演ぶ、人にロ英ク 一きのにからない。 一きのだったり かいだまの かいだい はっかい しょい ひまを プま基	方法」を応用 ミュニケーケー ミュニュニケーケーの アのドラマー アのドラマー のドラマトー アークに マークに マークに スを マークに スを マークに マークに スを マークに スを マークに スを マークに スを マークに スを マークに スを マークに スを マークに スを スを スを スを スを スを スを スを スを スを スを スを スを	ユニケーションル して、感情表現。 ロン能力会が間見 ション不安で・ 世界アス・イン・ (人の身体性に合え 大の身体性に合え 実技を行った後 を体験できる」 「状況を を体験できる」	・相手との交流で と図ることがでる 夏にの文ム・の を生めな文法・の がでる ガンスデュケー 大ンエデュター 簡単な解説 でな解説 でを生きる」「	・想像力などを きます。 現状を鑑み、具 リサンクササイ ョン/DIE)の も体験できま をしながら進め 相手と交流す	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育	学部学校教育教員	養成課程)		1					柏原キャンパス
	科目 区分	授業科	料目の名称			講義等の内	容		備考
		企業と連携し 養成講座	した専門職業人	ICT活用プとで、教本学連携 を学っている。 を学れている。 を対している。 とで、教 を必ず、 を必ず、 を必ず、 を必ず、 を必ず、 を必ず、 を必ず、 をといる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。	育のデジタル 企業の担当者か 関する最新の 育のデジタル	る実践的な方法 なに対応する実践 がストスピース とピックや各企 な踏まえたICI をレクチャー	や利活用の諸 浅的課題解決力 か一として講演 業の取り組み等 活用力向上の する。またグル	事例等を学ぶこ 力を身につける。	
		大学生のた& デラシー	めの金融経済リ	し目計プ最のす、人のす、人のでは、人のでは、人のでは、人の水業融計	知識を活用して るものです。こ 資産形成、そし	で適切な判断が の授業では、 いて金融トラブルの、自立した社会 ララシーの習れ は下のとおりです。 は下のとなりにつける について理解しる	できる能力を見たます。 を融企業にいてという。 を発していて社会を制す。 ます。 ます。 ます。		
		アクティブ・門	・ラーニング入	は に す で に り で の で の で の の の の の の の の の の の の の	、算数(数学) ついて講教を行る。 が表す/2回) ブ・ラーニンク 林蜂/3回) 「育における回)」 おけるアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、 はでアクラー、	、理科、社会、 (すう。班活動を) () () () () () () () () () (英語における 取り入れ、対言 ハて担当する。 ニングについて グについて担当 こついて担当す ブ・ラーニンク	に担当する。 当する。 ける。 がについて担当す	オムニバス 講義16時間 演習14時間
		課題探究型S	TEAM教育	に取り組 STEAM教育 教育を実 STEAM教育 体験して	むことができる 育の基本的事項 践的に活動する 育の基本を講義 もらいます。ラ などを関連させ	。 について理解し ことができる。 した後、グルー 「ザイン思考をF	、他者と協働 プワークでST 取り入れて、系	て実際に課題探究 して実際にSTEAM EAM教育の実践を 科学、技術、芸 した探究活動に取	
	分野別科目(多様性と共生社会)	海外文化研究	لرو	(書法学 校見学、 をなで持 分で持つ	院)の協力の「 現地学生とのな 機会を提供する についての見解	に実施する海 三流を通じて、 三流を通じて、 この。中国書家・ 『な直接学ぶ機会 になっている。 での考え方に	外体験と書道・ 文化や教育、を 画家に筆法や書 会を提供し、当 こ加えて異文(学、山東芸術学院 ・水墨画研修、学 士会事情への理解 書に対する精神的 学生たちが従来自 とを体験させ、ク	
		「障害」者と	と人権	もとのま多にとき障形して私らまな題らす者の困たゆな課意、。問授	っている人のになる人のになる人のになっている人のになっている人のになる常識を問りれているのでは、人のになる。 おいま はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	問題で、そのように で、のでしまで、 でし、社会する にしていまでは、 にしていまでは、 にしていまでは、 にしていまでは、 にしたいまでは、 にしたいまでは、 にした、 にしていまでは、 にしていまでは、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	ううと 大き に、を を に、 たい た	は(機能開発を表して、 (機能理解的は、 (機能理解的は、) 障する社会を基本問題会のを要替的なのののは、 というないで、 まないののは、 できれないで、 というないで、 まないでいで、 まないでいで、 まないでいで、 まないでいで、 まないでいで、 まないでいでいでいで、 まないでいでいでいでいでいでいで、 まないでいでいでいでいでいでいで	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育	学部学校教育教員	員養成課程)							柏原キャンパス
	科目 区分	授業	 (科目の名称			講義等の内	內容		備考
		ジェンダーティ	ーとセクシュアリ	解い 受 基 学 性 者 に の で の よ の は の の は の の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の の は の の は の に の は る の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の に の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は る の は る の は る は る は る は る は る は る は る は る る は る は る は る は る は る は る は る は る は る は る る る る る る る る る る る る る	、LGBTQ、セクで 校や教信 を製作 を選択しているのかりは ではない。 では、これでは、 では、 では、 でと、 にない。 にな、 に、 にない。	シュアルハラスでの指導経験をこともに、ジェミルら世界を記したのラスのでいたないたな性のありまな様のをして、多様なの性のは気度を身につけ	メントの理解る シとに一・可要報る シ捉え直び等をしている。 大きないが、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 大きないいでは、 でいるのでいるのでは、 でいるのでいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでいる。 でいるのでは、 でいるのでいるのでは、 でいるのでは、 でいるのでいるのでいるのでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでいるでいるでは、 でいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるで	・ /ティブな考え方 /できる。 pいて理解し、加	
		共生社会計	倫	もいそて要析その「創まつに授、での、で・し承共造たいし業ニとし「いす解て認生に、てま全に、てま全・ので、し、の共のでは、から、のでは、いった。	から作り上げて う。 会生と 会」生に 会」生は 会、生生で 会、生生で をして でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でいる。 とし、 のので、 でいる。 とし、 とし、 とし、 とし、 とし、 とし、 とし、 とし、 とし、 とし、	きを展望すると、 をでいないかが とに「共生」が とない諸問題した。 とお諸問題したものである。 とさ考えて様々ないであると、 で向けい、までは、 では、カーをできる。 ・マーク・シャルワーク	き社会(当為概要的法律)を発表している。 まれいい ない はいいい にない ない にない ない がい がい がい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい	[念) と言ってよ	
		国際理解		る言語や 人学生 見な ような する。ま	文化の人々とお留学生等の多な換をとおして、ミュニケーショた、グループリ	を触する機会が に化クラスであ 身近な事例か ロンが必要か具 フークやディス	増えている。こり、担当教員は り、担当教員は ら異文化理解を 体的に考えるよ カッションを行	活において異なの授業も、日本なが、一次では業も、日本なが、日本なが、一からでは受いないに、では、これでは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次	
		多文化共生	生の社会をめざし	タートし も、2014 教育課程 社会情勢	た。労働者(プ 年1月文科省道 」編成が認め	て人) の移動に 毎知によって日 かれるようにな ず景と歴史、特	伴う子どもたち 本語学習を組み った。本講義で	的対応策》がス の課題について ら込んだ「特別の は以上のような 」理念の歴史	
		外国人児童	童生徒教育	子どもに 1) 異文 第二言語 するとと	対する日本語教 化のなかで育っ 習得のメカニン	対育の必要性が う子どもの教育 (ことそのため) でもにとって効	高まっている。 課題について理 に必要な教育支	が増えており、 この授業では、 2かを深め、2) 接について検討 授法について理	
グローバル料	英語	英語(T)	Ia	スクを中 語を「使 る。なお	心に授業を進ぬ う」ことで授業	っていく。教員 きが進められる	による講義では ため、積極的な	中に含まれるタ なく、学生が英 参加が必須であ 勘案して、日本	
教育科目		英語(T)	Ib	中に含ま なく、学 参加が必	れるタスクを 生が英語を「仮	中心に授業を進 きう」ことで授 る、授業言語は	めていく。教員 業が進められる	ストに従って、 による講義では ため、積極的な クの難易度等を	
		英語(T)	IIa	の育成に アメリカ 材に、リ	主眼を置く。 の学生向けニュ スニング力と	ュース番組"CNN E信力を鍛える	10" から厳選 とともに、実際	式見を発信する力 された記事を題 そのニュースを視 日本的に英語で進	

(数套	学部学校教育教員	授	業	科	目	Ø	概	要	柏原キャンパス
(叙月	子部子校教育教 科目 区分		科目の名称			講義等の内	容		備考
		英語 (T) I.	Ib	テーショ て、英語 日本文化 ション力	通して、他者の	ールプレイ、ラション能力の向 た題材を使って るとともに、当	ディスカッショ 向上を図る。 て、英語による 学生同士のペア	ンなどを通し	
	ドイツ語	ドイツ語Ia		の約半分 ど)がで 演習形式 レーニン	を習得し、簡単 きるようになる で4つの技能	な会話(自己終 。 (読む・書く・聞く 全員が積極的に	召介、買い物、 (・話す)をバ こ授業に参加す		
		ドイツ語Ib		して、12 その後は 強化に努 演習形式 レーニン	月実施のドイツ 、ドイツ語検定 める。 で4つの技能	語検定4級に合 3級レベルへ向 読む・書く・聞く 全員が積極的に	合格できるレベ 向けてさらに文 く・話す)をバ に授業に参加す	中心に学ぶ。そ ルまで学習し、 法知識・語彙の ランスよくト ることが求めら	
		ドイツ語IIa	a	授業は、 分にトレ	演習形式で音影 ーニングする。	、日本語訳、網 また、知識の気	東習問題の解答 営着と語彙力強	て行う。毎回の などを通じて十 a化のために、ほ る級の対策も行	
		ドイツ語III	b	み目ばをで毎をもない。 大標、正き回通をであるのじ	収集でき、かつ うにすることで 業は、演習形式	。 イツ語検定2級 語のインタージ 一般的な内容の ある。 で音読、日本語 ングする。また) への橋渡し、 ネット・サイト カドイツ語を聞 吾訳、聞き取り た、知識の定着		
	フランス語	フランス語	Ia	ンス語で 秋期にフ 身につけ フランス	会話をすること ランス語検定詞 る。	ができる。 験 5 級に合格す 高めるために、	けることを目指	いて簡単なフラ し,基礎知識を と、それに基づ	
		フランス語	Ib	で会話を	することができ ランス語検定記 語の運用能力を 教える。 の合格のため、	る。 験で5級が取得 高めるために、	导できるよう, 基本的な文法	i単なフランス語 基礎知識を身に さと、簡単な会話 ・スト」に練習問	
		フランス語	IIa	科書を使 仏検4級	用する。コミョ ・3級(あるV	ニケーション は準2級) 受験	(会話) 的な内 検準備に役立つ	習に特化した教 容は扱わない。 授業であると同 備という側面も	
		フランス語	IIb	課 予のか成身が成身が	、12課分を選ん 提とし、学生の 練習問題の答を ト用紙に、行間 書をプリントア ンで添削し、終	で購読する。 発表中心の授業を持参すること を2行ずつ空に ウトして持参し 業時に提出。	業を行う。毎回と(A 4 サイズのけて書いてくるしても良い)。	はかたもの。全20 旧指定された範囲 のルーズリーフ 。パソコンで作 授業中に学生自 では準備をしてく	

教育学部学校教育教員	授 養成課程)	業	科	目	Ø	概	要	柏原キャンパス
科目 区分		目の名称			講義等の内	容		備考
中国語	中国語Ia		て何にグ視でが現るが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	ニケーションが り返し練習する ことを目標とす 練習を通じて、 な材を活用し、本	図れるようにすことにより、 ことにより、 る。 学生が積極的に 文の読解、文記 る。 グループ級	「ることを目技 を音・文法の基 に授業に参加す よの理解、及び	礎をきちんと身	
	中国語Ib		提平に中グ視じますなけ語一覚基では、検ブ教礎	。 章を書き、話す 初級レベルのコ 定4級程度の語 練習を通じて、 材を活用し、本	ことができる。 ミュニケーショ と文法力を身 学生が積極的に 文の読解、文治 る。グループ総	こう中国語のま コンが図れる。 に付ける。 こ授業に参加で よの理解、及び		
	中国語IIa		する。文 イントの に中国語	法を習得した上 勉強を通して、	で、会話・作文 中国語の理解力 みを目指す。 ま	て・閲読による ひと正しい表現 また、授業は都	复雑な表現を勉強 3語句・表現のポ 見力を養う。さら 対科書の内容をめ 舌題にする。	
	中国語IIb		な表現を 句・表現 を養う。	勉強する。文法 !のポイントの勉 さらに中国語検	を習得した上で 強を通して、中 定準4級/4級を	ご、会話・作 ² P国語の理解 目指す。 また	提に、より複雑 な・閲読による語 りと正しい表現力 と、授業は教科書 ながりをも話題に	
外国語コミュニ ケーション	外国語コミュ	ニケーション	楽を使っ ミニ教育 る。	を中心に授業を た穴埋め問題、 実習なども行う ループで行う活	ストーリーテリ 。授業一回につ	リング、学生に つき大体一章の	りペースで進め	
韓国語	韓国語Ia		己紹介や 文字とそ	一週間の学習活 の読み方を説明 の作り方と発音	動などの内容を し、書き、読む	と書き、話する 練習を行な	页りができる。自 ことができる。 う。それから、基 覚えてやり取りす	
	韓国語Ib		ることが 韓国語Ia	でき、簡単な説	明文や手紙文を 、尊敬形などの	と書くことが7	り作り方と、発音	
	韓国語IIa		してやり 韓国取る 教科 で い で い で い で い で に て の の れ り た し て し て り て り て り て り て り て り て り て り て	取りをすること 、韓国語Ibで身 言文に養育をに 、 東本に 東本に 東本に 東本に 東本に の の の の の の の の の の の の の	ができる。 んだことを基に に付ける練習 間問題を解いて が起きるところ 練習問題を何ら 確認をする。	こして、文法 と行なう。 こくる。 朝鮮 こくを確かめ、 をを確かめ、 をも書いて覚え		
	韓国語IIb		できる。手紙を現を説をする。	簡単な文章の内書くことを書し、文を書し、文を書いまでは読み、 一丁寧に読み、表記さるところを	容を理解するこ る。韓国語IIa 習とやり取りす 習問題を解いて 確かめ、抑揚に	ことができ、記に続き、様々 に続き、様々 rる練習を行れ てくる。CDを終 に気をつけて何	及りをすることが 免明文、報告文や な表現と文法事 なう。 最り返し聞いて発い 可度も読み、書い 学について確認を	
国際協働学習	国際協働学習		めったとっていることをっているとっている学をでいる。	を目指す。全8년 ン(文献紹介) 学ぶ。そして、 ら出身国の社会 ける、あるいは	1のうち、最初 とディスカッシ 続く3回では、 、文化、そして 海外の協定大学 に教育をテーマ	の5回は受講生 ションを通じて 世界中から来 ご学校 学の教員、情報 さいとし、	ている教員研修 こついて講義(英 Eたちとオンライ 共有および意見交	

		授	業	科	目	の	概	要		
(教	(育学部学校教育教	員養成課程)							柏原キャンパス	
	科目 区分	授業	美科目の名称			講義等の内	容		備考	
	体育科目	スポーツ須	実技a	を動かす。 マナーを: ソフトバ	各自の身体能力を知り、個々の状態に適した身体活動量を判断し、他を動かす運動の楽しさを知る。また、スポーツを行う上でのルールマナーを学び、実践できるようになる。 ソフトバレーボールやバドミントンの実践を通して、生涯スポーツして運動に親しむ能力を培う。					
		スポーツ될	実技b	た体力を スポーツ 理解し実 各球技の	今後のスポーツ 実践できる。ま 践できる。 スポーツ実践を	体験に活かし, た,スポーツを 通して,体力の	生涯スポーツ を行うためのマ の向上を図り,	表を通して獲得し くとして継続的に マナーやルールを 各種スポーツの よい動き」を意識	共同	
-	情報活用科目	情報活用基	甚礎Ⅰ	わち,大 仕組み, それらを ることを 本学にお ラシーに	学のICT環境や 情報セキュリテ 他者に説明でき 目標とする。 けるICT環境の	メディアリテラ ィ対策等の基準 ることをPCを 舌用に関して習	シー, PCやイ 本的なテーマに 舌用した実習を 得した後,基	けること、すなンターネットのこかで理解し、 こついて理解し、 ご通して身につけ でいな情報リテ PC活用能力の向		
		情報活用差	基礎II	実践力を 用につい 本学が利	身につけること て,実習を通じ 用可能なクラウ こついて,クラ	を目標とする。 て様々な表現 ド環境を俯瞰	具体的に, ク 方法の獲得を目 した後, 受講者	徳の発展的な活用 ・ラウド環境の活 目標とする。 が間で交流可能な 力の向上を図る		
		情報活用基	基礎III	データ活, AIやデー 得した後, 理を行う。 析やプロ	タの利活用事例 、表計算による 。最終的にAIの	、社会におけ やAIの公平性, データ分析や 活用やデータ 法を習得し、	るAIの活用にて ELSI個人情報 プログラミンク サイエンスを題 データ活用の事	Dいて取り扱う。 B保護について習 でによるデータ処 類材に、データ分 事例をグループで		
教職教育科目群	教職基礎科目	特別支援者	教育の実践	もの教育 ASD児) の また、障 おける実 発達障害 指導につ	について、通常 D理解と指導を 害理解教育やコ 践的課題を中心	の学級で学ぶき 中心に概説する。 ニバーサルデー に解説する。 中心に、特別する。	発達障害児(Al 。 ザインの授業等 なニーズのある	等、通常の学級に 5子どもの理解と		
		人権教育の	の基礎	本を培では、要の別で理解を	おける人権教育 社会と個人の関 とされる人権に これまでの体験 、子どもの生活	の歴史と実践しわり、子どもの関わる基礎知識や学習をベース 背景についての講義とグルース	を学ぶことによ かとらえ方なと 識や実践的指導 スの一な姿を通じ、 の考察を通じ、	ロ教育をはじめ日 こり現代への視点 ご、現代の教育現 算力を培う。 こ、人権教育と 人権教育に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		
		発達障害都	教育 論	と支援の もの自立 う、講義	内容・方法にて と支援のあり力	いて解説する。 について具体的 スカッション	さらに、発達 的方策を述べる を組み入れて行	っる子どもの指導 を障害のある子ど うことができるよ うう。授業におい つ考察を行う。		
		小・中一貫	貫教育概論	た今後推注 にも、に見い たので方法 この授業 その必要	進されようとし 阪府内にもます てみると、地域 論で整理するこ では、このよう	ています。そ ます増加してい により違いやり とができない。 な小中一貫教 ありようについ	して、その地域 います。しかし 寺徴があり、必 多様な内容が含 育の現状につい	きされており、まな なや学校は全国を とがまれているでした。 とがまたでは組みののもいて、 ではいるではないるでは、 ではなななななななななななななななななななななななななななななななななななな		
		人権教育の	の実践	における 障の必要 現代の教 受講生の 別の現状 て理解を	人権教育の歴史性、集団づくり 性、集団づくり 育現場で必要と これまでの体験 、子どもの生活	と実践を踏まれの観点と手法、の観点と手法、される具体のないではまないではまましていては、 講義とグルース	え、子どものと 人権学習の編 な実践的指導力 スの一つとして の考察を通じ、	はじめ日本国内 たらえ方、学力保 属成と展開など、 可を培う。 て、人権教育につき 人権教の、毎時間 いに進め、毎時間		

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教	員養成課程)						柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	容		備考
教職専門科目	教育総論		目 育 解 す お る よ る 講 義 も る よ る 講 義 れ る は る よ る よ る は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	値、教育の内: 法規、健康・ とによって、 ダイバーシテ まず、人間と 教育の根底に	安全、人権・福祉 教職に対する関心 イ社会における。 教育とのかかわり ある基本的な考え 校・家庭・地域	・評価、教師係 此など)を歴史 心を広げて、現代 学校教育に対す のを人間学的・ えを考察する。	(教育の報、教育の意義・教育とものがのができる。 をおいる。 とのがいる。 はのがいる。 をはるがいる。 をはるがいる。 をはる。 をはる。 をはる。 をいる。 でいる。	
	教職への	とびら	等すど習るの (保導)(保育)(場別でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	でをなこ社に バー社実 仕野専合体け バー・ 大きなこれに バー・ 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの	数職への意 が表 が表 が表 が表 があま があま があま があま を で のか変 一 いのか変 一 いのか変 一 いのか変 一 いのか変 一 いのので のので のので のので のので のので のので のの	高め、教師としい。 市になるため、世界の仕事の仕事の企業としてのの心様 と当す有一/1 皆支援等についします。 が対している。 がががしる。 がががしる。 がががががががががががががががががががががががががががががががががががが	、て担当する。 関係、幼稚園教諭	オムニバス・共 同 (一部)
	発達と学	習の心理学	学意 本関理変つ理援で幼と概組等 業る的すとなのる・そすりにい助き児、説明さ児、よいのる・そのよりのる・そのよりのもののののでは、	つい (1) では (他る。 期と基では、 期と基では、 一般では、 一を、	F期を含む人間 P	連携のもとで働く 間の心理的発達に でを入りのをから行動で とでがいまでがいまでがいますが、 とで考えるでいるできますが、 とで考えるできませい。 とで考えるできませい。 とで考えるできませい。 とで考えるできませい。 とで表しい。 とでは、 といいでは、	
	特別支援	教育の基礎	組みを理 育の対象 障害とは 念や仕組	解する。障害を となる児童生 何か,特別支 みを解説した	観・人間観につい 徒の教育支援の野 援教育やインクノ	いて理解を深め 見状と課題を理 レーシブ教育に で学ぶ特別な考	ご関する制度の理 対育的ニーズのあ	
	学校の役割	割と経営	くりに向 現代の学 題克服の について	けた意欲と視, 校が直面してい 道筋を学ぶと 実践的に学ぶ。	点を身につける。 いる課題についる ともに、課題克服	て講義と演習に 最を支える学校 也域との連携及	り、未来の学校づ こより整理し、課 なの経営の在り方 なび協働について	
	学校安全		下で過去 について めの効果	に発生した事件 理解する。その 的な教育教材	牛・事故・災害 の後、児童・生徒	事例から得られ まの安全実践能 戈方法と教職員	優と、学校の管理 ルた教訓の重要性 巨力を育成するた 員の危機対応能力	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教	有学部学校教育教員	養成課程)		T					柏原キャンパス
	科目 区分	授業和	科目の名称			講義等のほ	勺容		備考
		教育課程論 ム・マネジ む。)	(カリキュラ メントを含	理解し、領を考察を考えた。本授業との歴史と	学習指導要領の する。その特徴 具体的なカリキ は、教育課程の	変遷をはじめ各学 ショラム編成を きまして にんりゅう こう でんしょう でんしん でんしん はんしん ともに、 具体	今日の教育改革 校の実情や子と 提起することが のあり方の観点 的な実践事例	を基本的な知識を を教育実践の特 されたちの実態を いできる。 こから、教育実践 (教育課程、指導	
		教育方法論		められる。微を表表を提起で、	資質・能力を育する。その特徴 することができ は、教育課程の 原理を講ずると	成するための をはじめ子ど る。 意義及び編成 ともに、具体	教育の方法及び もたちの実態を のあり方の観点	理解し、今日求 教育の技術の特 かまえた指導技 がら、教育実践 教育課程、指導	
		ICT活用の理	単論と方法	経緯や意 した学習	義、理論、今後 指導や児童生徒	の方向性を理 によるICTを注	解する。教員に 舌用した学習な	て,その歴史的 こよるICTを活用 どについて、講 飲的な学修を進め	
		生徒指導論		な生徒指置 導法を明 1: を 1: を 1: な 2: に い い い い り に り に り に り に り に り に り に り	導実践を共同で づけを理解しな かにしていく。 における生徒指 ける	分析すること がら、生徒指 導上の諸問題 事象に対する	を通して、教育 導を構想し、実 に関する理論的	ともに、先駆的 課程上の生徒指 践する視点と方 」・実践的な知識 と具体的に構想す	
		進路指導論		な進路位 導法を 重な 重な は で は で は で は で は で は で は で に の に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に に に に に に に に に に に に	導実践を共同でなければ、 がにしていないではいく。 における 進路 におる でのあばないである。 がら、進路指	分析することがら、進路指導上の諸問題 子どもや不登	を通して、教育 導を構想し、実 に関する理論的	ともに、先駆的 課程上の進路指 践する視点と方 」・実践的な知識 とにも想像力を につける	
		道徳教育論		まえて学道徳に必	習指導案を作成 要な基礎的知識	させることで と基本的技能	、道徳教育なら	習指導要領をふびに特別の教科 では、講義内では さる。講義内では さも図る。	
		総合的な学 法	習の時間の指導	や役割を のたる時間実践に 総合の方法に 例をして指	理解するととも 指導案並びに評 的力量を培う。 学習の時間の意 について、先行 一プごとに読み	に、実践事例 価の方法を構 義、目標およ 実践をがらい の・実践的に	の検討を通してを想し、見通してを び内容、歴史や めながら探究し ディスカッショ でくることを通	程における歴史 、総合的な学習、 もって指導にあ か指導法並びに評 を 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	
		特別活動論		解すると 評価 う別 別 が と に 計画 等を ま に に に に に に に に に に に に に	ともに、実践事法を構想し、見 法を構想し、見 の意義、目標お 先行実践を読み 読み深めながら	例の検討を通 通しをもって よび内ないないない。 歴 深 がななないないないないと につくること	して、特別活動 指導にあたる実 史や指導法並び 究していく。先 ション等を通じ	歴史や役割を理 かの指導案並びに 践的力量を培 がに評価の方法に 行事例をグルー て協働して指導 計景にある理論	
		教育相談の:	理論と方法	題に適切はより、 は 関い は 見 と り 見 と り 見 の 対 ま り 見 の 利 が ま り ま か 利 が ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま か ま	に対処するには 果的な対応を行 ・生徒の 達目標子・ともの でいるともの がいいる はいでしていい はいて はいて はない はいて はいい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	, 状況を理論 う必要がある ・発達的諸問 指導と援助に リングを含む る	的にとらえ, 理 。こうしたこと 題の理解と援助 ついて, 心理学	□方法を学ぶ。 本の基礎的な理論 〒う子ども援助の	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	效育学部学校教育教員	養成課程))						柏原キャンパス
	科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	容		備考
		幼児理解。	と教育相談	か事難やの提(しス的時で項し専「供授、トな間に失く、事を知を	諸問題の理解に、学ケースを 学ケースの連携は、 ケースの連携がいいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	ついて、臨床的が かける。 かける。 かける。 かける。 かける。 かける。 かける。 かいで学る いで学る と し りま し りま し りま き と し し と き に し し し し し し し し し し し し し し し し し し	いつ全体的な 田識の 報で、デ まる。 で で で で で で で で で で で で で	音等との関係ななる 理解のもずれる でする。 をする。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
		幼児教育	指導法	て進前導いる違中保後仲と幼者にた、め半・で」点盤育半間、児がおデ幼るの援学「及の指の関具教臨いィ	児。講助び参び講導講係体育機では、加りでは、動教の基本が、加問義の前で生活場の応いが、動物の応いが、大切をは、大力をでは、動物のでは、動物のでは、大力をでは、大力をでは、大力をできるが、大力をできる。 しょう しょう しょう しょう しょう しょう はい しょう しょう しょう しょう しょう しょう はい しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	な 教 が は か が は か が か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が ら か が か が	すけい ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	、資質く理・」を表して、 で「導く理・」を、解して、 ででは、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	
		基本小・「	中学校教育実習	上・実をて4 リン別6施指・・実 認習上・実をて4 リン別6施指・・実 認習の前前習い学頃業クと動頃 業教 習週 後終習て題	「年をた習:観対実・: 参員 間 指了前の では、	実育・現る。実育・現る。実育・現る。大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	事 を	構する。 習での経験や成果 での実習に イー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー	

	授	業	科	目	の	概	要			
育学部学校教育	教員養成課程))						柏原キャンパ		
科目 区分	授美	業科目の名称		講義等の内容						
	基本小学村	交教育実習	・実 をて4 リン別6施 指 ・ ・実 認習事習実きの月授スス活月)授導 実3 事習実し課前前習い学頃業クと動頃 業教 習週 後終習て題指年をた習:観対実・: 参員 間 指了前,を	り組む。実習終了後に事後指導を受講する。 ・事前指導 実習前年度11月頃:「教育実習体験発表会」 実習を終えた上回生とグループワークを行い,実習での経験や成果 をきいたり,質問をした後,自分の現状をふりかえって,実習に向け ての学習課題をまとめて目標を立てる。 4月頃:「教育実習オリエンテーション」 授業観察・子ども観察の方法と記録の取り方,情報セキュリティ、 リスク対応、メンタルヘルスとアンガーマネジメント、コンプライア ンスと実習参加の心得、多様な子どもに関わる教育・人権・福祉、特 別活動・生活指導 および生徒指導等についての講義を受ける。 6月頃:「教育実習オリエンテーション」(附属学校園において実 施) 授業参観、参観の記録の作成を中心とする講義を受ける。 指導教員と面談し、実習準備の確認を行う。						
	基本中学科	交教育実習	り・実をて4 リン別6施指・・実認習組事習実きの月授スス活月)授導実2 事習実し課む前前習い学頃業クと動頃 業教 習週 後終習て題を指年をた習:観対実・:参員 間 指了前,を	実導度終り課「察応習生「 観と の 導後の質明習 11え,題教・,参活教 ,面 実 11下間確終 月た質を育子メ加指育 参談 習 月回にに 7 頃上間ま実どンの導実 観し 等 頃生答して (重生しめオ観ル得よオ 記実) 行 「一グた卒」で、「一生しめオ観ル得よオ 記実	事後 指導 発	「る。 そ会」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「大きない」 「ない。 「な、 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「な、 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「ない。 「な、 「な、 「な、 「な、 「な、 「な、 「。 「。 「。 「。 「。 「。 「。 「。 「。 「。	、, コンプライア 人権・福祉, 特 を受ける。 変園において実 をける。 を対る。			

	授	業	科	目	Ø	概	要		
(教育学部学校教育	教員養成課程)						柏原キャンパス I	
科目 区分	授美	業科目の名称		講義等の内容					
	基本高校	教育実習	取・実をて4 リン別6施指・・実認習り事習実きの月授スス活月)授導実2 事習実し課組前前習い学頃業クと動頃 業教 習週 後終習で題の場合をできません。 一般対象のでは、一般対象のでは、一般対象のでは、	。導度終り課「察応習生「観と の 導後の 等とれてり 第一次 11 下 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1 に 1	事を受発 発	書 まさる。 まな方 とうなる まな方 とうなる まなり まなり まなり まなり まなり まなり まなり でからいのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでので	を園において実 とける。 か経験や成果を確 できなかった学		
	併修中・ⅰ	高校教育実習	上・実習い業 導 署間 変指年実観 貴・実週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週 後週	習に取り組む。 導度4月頃:「差施) , 参観の記録の と面談し, 実習 実習等を行う。	対育実習オリエン の作成を中心とで 習準備の確認を行	/テーション」 する講義を受け すう。			
	基本特別:教育実習	支援学校(特支	習・実 をて4 お6て 指・・実 認習に事習実きの〜授よ月実授 導 実3 事習実し課に事習実きの〜授よ月実授 導 実3 事習実し課し 後終習て題	組導度終り課頃察徒「観との導後の等と行うとなると言語が、 はと の 導後の では、	後に 事体 を で で で で で で で で で で で で で	を受講する。 と 表 か ま さ と で 表 か だ と か か り 方 、)経験や成果を確 こできなかった学		

	授業		科	目	Ø	概	要		
(教育学部学校教育教員	員養成課程) 							柏原キャンパス	
科目 区分	授業科目の	名称		講義等の内容					
	事前指導を受講した上で、特別支援学校で3週間(14日間習に取り組む。実習終了後に事後指導を受講する。 ・事前指導 実習前年度11月頃:「教育実習体験発表会」 実習を終えた上回生とグループワークを行い、実習でのをきいたり、質問をした後、自分の現状をふりかえって、ての学習課題をまとめて目標を立てる。 4~5月頃:「教育実習オリエンテーション」 授業観察・子ども観察の方法と記録の取り方、特別活動および生徒指導等についての講義を受ける。 6月頃:「教育実習オリエンテーション」(聴覚支援学校施) 授業参観、参観の記録の作成を中心とする講義を受ける指導教員と面談し、実習準備の確認を行う。 ・実習 3週間の実習等を行う。 ・実習 3週間の実習等を行う。 ・事後指導 実習終了後:「教育実習体験発表会」 実習が了後:「教育実習体験発表会」 実習がの下回生とグループワークを行い、実習での経験 認して、質問に答えたりアドバイスをした後、十分にでき 習課題を明確にして卒業までの課題とする。								
	基本特別支援学校教育実習	(視覚)	習・実 をて4 お6施 指 ・ ・実 認 取前前習い学5業び頃 業 教 習週 後終習て取前前習い学5業び頃 業 教 習週 後終習て	組導度終り課項察徒「観との導後の出導度終り課項察徒「観との導後の関係」11元 (11元 (11元 (11元 (11元 (11元 (11元 (11元	後に すが	受講する。 会」 会」 会」 ををを シリカ。 は で う。 は う。 で う。 は う。 で う。 で う。 で う。 で	4日間以上)の実習での経験や成果って、実習に向け 川活動・生活指導 受学校において実 とける。		
	併修特別支援学校教育実習	(特支)	習・実をて4 お6で 指・2 ・前前習い学5業び頃施業 教 習間 後 智間 後 間 後 質 の 質 は の の が が が が が が が が が が が が が が が が が	組 尊度終り課項察徒 割 と 実	育実習体験発表力状 を発力のでのででは、 を目すり方は、 を目すりででするですが、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	会」 を行い,実 ををふりかえ。 ョ取り方,特別 る。 」(附属特別 する講義を受			

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教」 科目		到日の夕秋			建学体の中	u tiz		柏原キャンパス
区分		選挙目の名称	に付けた 課題を補 し、第3	上資質能力につい 捕い、発展させ、 3 ブロックにおい	ハて自己分析し、 るために第2ブロ	をおこない、4 成果と課題を コックの「ミニ との面談を通し	-講座」を受講 ンて教職実践演習	
フラッグシップ指 定科目		/ティと教育	的理念を の姿を想 た、ダイ 摂(社会	と概説する。多想定しながら、 イバーシティ教	策性を認めあうす 受講者ひとりひる 育がめざす、子る 現する学校教育の	は生社会の構成 とりの理解と体 どもの多様性お	ぶよび、社会的包	
	現代社会と	こ子どもの権利	具体的に にはどの のかられる おける子 に子ども 行使主体	には、子どものが ひようなものが きぶとともに、 こきたのかをある とどもたちの諸 いの身体と心の なとなる子ども	あり、子どもの材 現代社会における まえつつ概観を5 権利を理解する。 安全を保障)を守	念は何か、また 権利がどのの権利 る子がする。また 理解らにとして、 る大人として、子と	こ、子どもの権利 に守られてきた 川がどのように捉こ、現代の学校に どもの権利(特 、さらに権利の ごもの心身を脅か	
	多様な子とシブ教育	ぎもとインク	で特に連イのイ(イ等(代の(代育(代ル(障る(特担(イて(イの)が成しク機クム令が、代令(代の(代育(代ル(障る(特担(イて(イの)が成しク機クは、103クつ湯が多で、代育(代ル(障る(特担(イで(イス)が多い。(では、1030年間の)が関で、一、世間を外には、100年間の、100	を対象ない。 を対象なが一理一バ技・で、 を対象なが一理一バ技・で、 を関いるというで、 を対象な数式/ で、 を支な織数る数式/ を対すが方雄数す一窓い、 の美子 裕異 昭ブ 、 なが、 をで、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	知と学され、 知と学が理象取8 (1) よ (1) 害当に離担回身等に がいンもを 常 籍 (1) 虚の ク と でくクた理 の す (1) 虚の ク の 形 (1) で、 ク た理 の す (1) 虚の ク の 形 (1) で、 ク た理 の す (1) で、 ク た理 の す (1) で、 の の で、 の で、 の で、 の で、 の で、 の で、 の で	かとものを表し、 おともののです。	ない子どもとが共と 対員や関係機関と。 ほか関係の的事での学級における 対する制度における 対する制度のが表する概要 シクルーシブ教育 ・シクルーシブ教 ・スでのインク	オムニバス
	外国人の子 援	そどもの理解	徒の学習 て、教職 と支 ために必 国籍や日 り巻く教	習上又は生活上は 競員や関係機関、 必要な、基礎的 日本語力の程度 致育課題を取り	の困難を理解し、 保護者と連携し な知識や支援方法 を問わず、外国ノ	個別の教育的 とながら組織的 とを理解する。 人児童生徒等や 爰の政策動向や	り児、児童及び生 ウニーズに対し ウに対応していく ウその保護者を取 P事例、指導関係	
	教職のため	かの省察入門	個別具体 教師へと はどうし	本的な学校現場 立場を転換し、 たらいいのか		売けるための素 て自分らしく学 と、学校現場⊄	○地を形成する。○び始めるために○実際的体験や自	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育: 科目 区分) 業科目の名称			講義等の内	7容		柏原キャンパス 備考
	教科横断	と探究学習I	活の課題を経験は特別である。	を探究する学 、教科等横断 る。 見方・考え方 で育みたい能	びを実現するた と探究学習を指 を働かせて横断 力について知り、	めに、具体的に 尊するための基 的・総合的に学 、教科内及び考	て、実社会・実生 上探究のプロセス 基礎的な構想力を 全習することの意 対科等を横断する い職・技能を身に	
	教育デー	タの活用I	集,理解 ながら解 察を実習 性を具え	と分析の基礎 説するととも する。データ た測度を用い	について, 学校 に, 実際にデー 収集にあたって ることの重要性,	で取り扱う学力 タを分析し、そ の倫理的配慮や 数量データの	性的なデータの収 □調査を題材としてれをふまえた考り、妥当性・信頼 ○分布の広がりと こる方法などを取	
	ファシリ 教員I	テーターとしての	ファシリ それを踏	テーションの まえて具体的	理論的な背景、	基礎に関する矢 いてファシリラ	ーションを通し	
	学習者中	心の授業デザイン	の学習者 学びの関 育から学 本授業で と原理を	中心の授業へ 係にはどの投 習者中心の授 は、学習者中 講ずるととも	向けた学習観・うな構造と歴史に 業改善の原理に 心の授業デザイ	受業観の転換に 的な変遷説明でき ついの観点からき ・内容・方法か	教育実践の歴史 いら見た授業デザ	
	教職専門	性と省察	教員研修を実践し 教師(大) という問い 発達を促	の意義および ている。 人)として学 いのもと、教 す学習を支え	制度上の位置づ び成長していく: 師の発達と学習	けを理解し、考 ためには、どう についての理論 修制度について	「の学びを支える 対師としての学び したらいいのか ★、および教師の に理解を深め、実	
	教科横断	と探究学習II	多様な角 する様なが 等横の なが く く く く く く く く く く く く く く く く く く	度から俯瞰し を実現するた 探究学習をえた 見方のなたい能	て捉え、実社会 めに、具体的に 導するための発 を働かせて横断 力について知り、	・実生活・諸学 深究のプロセス 展的な構想力を 的・総合的に学 、教科内及び教	て、広範な事象を 本間の課題を探究 ・関の課題を探究 ・身に付ける。 ・習することの意 な科等を横断する ・技能を身に	
	教育デー	タの活用II	複数の測な配慮に	度について, ついて解説す	それが測定しう る。また,少数	る内容,実践的 データからの推	上めに利用可能な 力な活用,倫理的 結論や,データに すを含めて解説す	
	ファシリ 教員II	テーターとしての	ファシリ それを踏	テーションの まえて具体的 な議論の生成	理論的な背景、 な教育活動にお	基礎に関する知 いてファシリラ	列を理解し、教育 □識を学ぶ。 ニーションを通し ご立てる力や実践	
	学習者中 II	心の授業デザイン	学習者中 た授業を深 を対した を対した を を を が と が と が と が と が と が と う り た う り に り た り に り に り に り り に り に り り に り に	心の授ぶとととなる。 必にるる業でなるとと。 と過習ではととれる。 ととは者でなると、 ととは者でなる。 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、	る「主体的・対 標・内容・方法」 、学習者中心の 育評価に関する 心の授業デザイ	話的で深い学びに関する基礎的で深る基礎的に要業した。 受業職・技にのよりというできません。 対象では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ー目標・内容・方 き改善に向けての	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	文育学部学校教育教 員	養成課程)		,					柏原キャンパス
	科目 区分	授業科	・目の名称			講義等の内	容		備考
	保育内容指導法科 目	健康の指導法	i i	きとそかがりがある。	の発育や発達特性 わせた援助なる。 考慮して実でる。 考慮して実践したを は、、生涯はわた後 は、基本的な健康打発 発達の特性を理解 る。	子どもの生活に これらを理解 さるよう、発達な とめの基礎的知記 3運動全般の基本 旨導の理解と実践	即した指導(保 した上で幼児期 時性に応じた運 織を習得するこ 本的な動きの獲 銭方法について	(育)を考えるこ 間に必要な運動あ 動あそびを安全 とができる。 ほ得が著しい時期 学び、子どもの	
		環境の指導法	<u>.</u>	は、保するりもど子とに応	教育要領、保育所 育内容(教育内名 「環境」は「周囲 それらを生えている の好かので、そのだめの じて、そのための 助、教材研究のフ	字)として5つ0 目の様々な環境に 取り入れである。 、領域である。 いの育成が重要 ひねらい・内容の	の領域が示されている。 で好奇心や探究を うとの領域「環境である。 である。 である。 の理解を深める	、その1つであ 心をもってかか ら」観点から子 」においては、 め、子どもの発	
				領域「 ように ための	教諭として、幼科 表現」の基本的は、 なる。さらには、 基礎技能、保育者 、統合的な学習紀	印識を理解し、打 保育実践に関 るとしての指導	指導方法を考え する知識の理解 カ・チームワー	ることができる な広げ、指導の -ク・リーダー	
		表現の指導法I		う、演え を考りが (236遠 身体表現 (396柳	楽に合わせた動き習を組み入れた表 ることができる。 入れる。 カバステ式/全1 意藤 晶/5回) 現を豊かにする。 即田 紀美子/10 発達と身体表現、	と、幼児の身体 や多様な表現をハて担当する。	表現の指導方法		
		表現の指導法	žΙΙ	ういう 践しなか なかです	の表現の特性を ことかを基本に がら進めていく。 ついても理解し, 指導方法について している。	置き、実際に現場また、表現活動 表現活動の計画	易で行われてい 動を行うための 国をたて, 模擬	る活動内容を実 環境構成や関わ 保育を実践する	
		人間関係の指	分 導法	で、りすく考す46年のでは、 がすく考す46年のでは、 で、りすく考す46年のでは、 で、ので、で、で、で、で、で、ので、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	教び)。たをニ橋進藤教育と 要中、のしてと大徳・恵教育のをそりもが、大大・智賀等で、のしてと大徳・恵徳で、大大・智ので、大大・智徳で、大大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大	の姿(幼児同士は、 で観察したりいく、 それが、 を見かり、 を見かり、 を対したりのと を対した。 から、 はいいでは、 はいでは、 とっと。 はいでは、 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと	かかかわの表 対 大 大 で で が が が で で で で で で で で で で で で で	D児と教師のかか)もとで関わったたりつながりを 考えていく。そ そを深める。	オムニバス
		言葉の指導法	17	葉れ環文をの言葉言葉の指する	幼児の一般所は 得とれて りとないで りまえ点を はいて りまれる いで いで のいの しい で いい の い に い い に い に い に い に り い に の い い い り で り い で り い で り い で り い で り い で り い で り い で り い で り い の に の い の に り い り い り い り い り に り に り に り に り に り	葉の獲得に関する 言葉」の内容を 育環境とのの関連, 体のででは は ででである。 は に は に は に は に に に た い の の の の の の の の の の の の の の の の の の	る発達理論にへたを 解説すらにを 解説すらにを の検討る。環含の を加える保険の を を が を が を が を が を が を が を が を が を が	いて概観し、その 、児童文化、で 、児童文化、で 実践場をでいいで 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	

		授	業	科	目	の	概	要			
(教	育学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス		
	科目 区分	授業	科目の名称		講義等の内容						
	初等教科教育法科 目	初等国語和含む。)	斗教育法(書写を	ること 国語科(/ 読む 検討を)	を目的とする。 の目的や方法と ことなどの各領	いった原論から 域論を具体的な 終的には、国語	、聞くこと話す 国語教材の分析	視点を身につけ こと/書くこと 「や、授業記録の を際を構想するた			
		初等社会和	斗教育法	お擬目社え社の活動を	諸留意点を踏ま の実施を自立的 る。 の教育課程上の 学校社会科の学 授業を実施する 方をいかにとら	え、教材研究、 に行うことでする。 意義、特徴がででいる。 意義、特徴がでいる。 おいまでいる。 がいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	児童理解、学習 きる能力を身に に実践上の留意 案することがで 目標をいかに設い・構 をいかに選評価す	二会科授業実践に 指導案作成、模 指付けるための科 立点と課題を踏ま きる。 が定するか、児童 が成するか、学習 るかなどの点に			
		算数科教育	育法	明教し力算基は付ける分類を対する分類を対するのでは、を数では、なりでは、できないのでは、できないのでは、できないのでは、できないのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ことができる。 析や児童理解、 数科におけると につけることが の目標や内容等	授業設計など指 業構想や授業展 できる。 について講じる に基づいた授業 ・協働的な学修	導方法について開、授業評価な。 。 設計のための知を展開する。	とどの実践的指導 コ識及び技能を身			
		初等理科教育法		て実践の以上では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	活動を実際にお理料指導の標準を実際にお理科指導の標準を到外でできる材理とが、デシンので、計を機振授業の準備や、	こないながら、 解を促す。模擬 とする。 、主な内容とそ 。 か教科書やICT <i>O</i> なうことができ	グループワーク 授業や研究協議 の構成を理解し)活用、問題解る。	、教材研究として を取り入れつつ を実践的におこ 、学習指導案を 快の活動を取り の協議をすること			
		生活科教育	育法	たとびの材用標学材が用標学材析、といいまでは、	に、を強力を ・社会し子、 ・かに、大きのして作成で がで、がで、 がで、がでいてがです。 がでいてがでする。 ではいるできる。 がいで、	自然のようととと、 自自うとととない。 は自ることとで、 を関するに、 を関するに、 をでは、 でに、 をでいて、 をでいて、 でに、 でに、 でに、 でに、 でに、 でに、 でに、 でに	わりに気づきやいに気がいいに気がいい。 がけいに、意欲いいるはいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいで	考え、表現する			
		初等音楽科	斗教育法	の学習 業の体 導案を	指導案が作成で 験を通して、具	きるようになる 体的な授業像が キストにそって	ことをねらいと 描けるように講 講義を進め、学	て小学校音楽科: する。モデル授 : する。モデル授 ‡義する。学習指 幸習指導案の作成 で行う。			
		図画工作和	4教育法	グルー 画・指 者・学		究のテーマを設 擬授業を実践す 授業への改善点	定し、ICTを活り る。振り返りに				
		初等家庭科	斗教育法	するこ 小学校 評価方 した教	とができる。 「家庭」の教育 法について解説	意義、教科特性 する。児童の生 キュラム構想力	、目標、内容、 活実態や現代的 、授業設計力を	えた授業を提案 指導方法および 1な生活課題に即 ・身に付けること			

	授	業	科	目	の	概	要			
(教育学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス		
科目 区分	授業	(科目の名称		講義等の内容						
	体育科教育	育法	考こな まと育しれが まと育しての ででででいる。 にの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	と理解し、学習書 できた。 う目標をおよび内がいく。 い名。 ので、本 ので、本 ので、本 ので、本 ので、本 ので、本 ので、本 ので、本	平価と学習指導 る容についていて を存していてにになって、 なで容についていて を存し、して、 を対して、 がりまするで、 がりまるで、 はったでで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、 はったで、	過程の関係性に 訂された学習指 、個別運動領域 の学習指導の原 除く) ・ 亮和、107年 に指導事項につ 志 泉/3回)	こついての基本的ことでは、 こついて理解する 音導要領に基づきる。 は、保健性方についまする。 のいて担当する。			
	初等英語和	斗教育法	外との講テ講入授価り 国小教義イ生・業を取 手で材をごを慣を含り、	中・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	交の外 の外義 を の外義 を の外義 を の外義 を の外義 で のが のを のを のが のを のが のを のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	目標等時間では、医して、医して、医して、内間では、内間では、内間では、内間では、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	める。また、受			
中等教科教育法科 目	中等国語科教育法I		捉えるたれを確か 形式のり のうち、 わけ「 iii	とめに、具体的ないなものにするで フークショップで 「書くこと」、 倫理的文章教材」	な国語教材の分 ための国語科学 を行う。わけて 「話すこと聞	析の基礎をモラ 習指導案の作品 も、中等国語科 くこと」、「読 、教材分析の複	の構造と系統を がい的に示し、それがに模擬授業 対かでに模擬授業 がでいるですると がない。 はないでは、 はいいでは がいいでする。 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいいでは、 はいでは、 もっと もっと もっと もっと もっと もっと もっと もっと もっと もっと			
	中等国語和	斗教育法II	捉えるたれを確か 形式のワ 要な学習	とめに、具体的なものにする。 フークショップ 関領域である、	な国語教材の分 とめの国語科学	析の基礎をモラ 習指導案の作成 け、中等国語科 焦点を当て、巻				
	中等国語和	¥教育法III	体的に立 し行うこ 力が身に 中学校な	Z案できるように ことで、授業の第 こつく。 よらびに高等学れ 載・検討、模擬打	こなる。学習指 実際を体験し、 交における国語	導案の作成や榜 来るべき教育ま 科教育の実際に	実践の方法を具 複擬授業を繰り返 と習に対応できる こついて、学習指 に進めていく予			
	中等国語科	A教育法IV	初等教育 体的に構	育との有機的なi 構想するために、 ιているテーマ	小学校教材と	ゆる小中高連携 中学校教材との	「うにあたって、 「毎日語科教育を具 の共通した構造、 「並びに授業づく			
	中等英語和	斗教育法I	のい・理・に・語/るのい・理・に・語/るのい・理・に・語/るのいと	に向上を目指すする は は は は は は は に は に に に に に に に に に に に に に	とともに、授業 票とする (英語)の学習 票の設定、年間 /話すこと特徴に、 分野で、 が関する。 が関する。 が関する。 が関する。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	づくりに必要な 指導要領、教科 / 単元/各授業 くことの指導、文 関する指導に生か 授業指導に生か	を践的な指導技術 と以下の項目について は時間の指導計画 領域統合型の言 で字/語彙・表現 いすことができ より、授業指導に			
			生かすこ ・学習指 る。	とができる。 看導案の作成に	ついて理解し、	授業指導に生か	っすことができ			

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分		斗目の名称			講義等の内	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		柏原キャンパス 備考
	中等英語科	価の方法につり間であることであることであることである。 一手に生きのでは、 一手に生すである。 「ローチングルー・ では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	さとする。 なについて理解で 話でのインタラ の特性や習熟度					
	中等英語科	教育法III	日的課題に 関すが、 ・4 技きる教 ・4 大きる教 ・5 きる。	ついて理解す 設計の仕方 で模擬授業学校 して高声、語彙、	るとともに、 学び、いくつ 行い、指導力での指導と評 文法等に関す 化理解の意義	4技能、音声、 かの活動を実践 の強化を図る。 価を意識した内 る指導理論を理 、目的を理解し	著教育における今 語彙、文法等に まする。また後半 内容とする。 理解し、活動を設計で 、活動を設計で	
	中等英語科	教育法IV	習熟度への について 指導業では をでは をではの ではの ではの ではの のいて ではの のいて ではの のいこの について について について について について について について について	対応、第二言 解できる。 成し、模擬授 、主に指導法 特性・習熟度	語習得理論、 業ができる。 の歴史、教材への対応、第 た後半にはグ	測定・評価、国 研究、インタラ 二言語習得理論	7、生徒の特性・ 国内外の言語政策 ラクションの図り 論、測定・評価に 受業を行い、指導	
	中等社会科	(地歴)教育法1	構想・計画とは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	し、実践で1. 実はは、1. 論を理解動き 方法とすると 目標教育学の基	るようになる 中学によび これを では、2. 社会 は で と、ユニケー で と、理論を を 実践的に学	ために必要な基 高等学校におけ 科授業について ションの組織の 講義し、後半は び、それらがま	を地歴科の授業を 基礎的力量を身に ける社会科授業のこの視野を広げ、 の方法について知 は社会科授業で用 を際の授業でどの	
	中等社会科	(公民)教育法	し、実践育と 実教を の作成の の作成公 学び、 学び、 学習	きるようにな 目標と意義を の授業の実 法を習得する 的分野および	るために必要 理解した上で のための基礎 。 高等学校公民	な実践的力量を 、社会を共に形 的な力量を育成 科の授業づくり	を構想・計画 と身につける。公 が成する力を身に では、学習指導案 のための理論を と会科・公民科の	
	中等社会科 III	(地壓)教育法	実践に模目・地路ととという。 実践に模目・地路をきい、 を主いるか、、	る諸留意点を 業の表 のま の思歴、 の理歴え、 の理歴之、 の理歴を の は ま の は ま の と の と や 社 会 の 会 の も の も の も の も の も の も り も り り り り り り	踏まえ、教材 立的に行うこ 育課程上の意 及び地理歴史 を実施するに いかにとらえ に組織するか	研究、生徒理解とができる能力 義、特徴並びに 科の学習指導ま あたり、教材をいる あか、教材をし	地理歴史科授業 は、学習指導案作 は、学習指導案作 は、学習とは に実践上の留意点 に対して は標をいかに設定 いかに選択・構成 いかに評価する いる。	
	中等社会科	(公民)教育法	点を踏まえに を自会を を自会を を自会を を を を は会 を は 会 を と 会 と き と き き き き き り 、 と り く り く り く り く り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、	、教材研究、 行うことがで 民科の教育課程 、学習指導計 民科授業を実が あり方をいか 動をいかに組	生徒理解、学きる能力を身景上の意義、特画を立案するであたりにとらえるか、生活なった。	習指導案作成、 に付けるための でではでに実践 ことができる。 、学習目標を 、教材をいかに	能における諸留意 模擬授業の実施 科目である。 上の留意点と課 いかに設定する 選択・構成する かに評価するかな	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	育教員養成課程)		1					柏原キャンパス
科目 区分	授業	(科目の名称			講義等の内	容		備考
	数学科教育	育法I	学キ目数し等対し等が関ムが	する今日的課題 について考える リキュラムに の歴史的変遷を 外の学力調査を	国をふまえ、中学なことである。 あことを基ででいまる。 見する基でののない。 見ずし、 関連し、 関連の は、 関連し、 関連の は、 関連の と 関連し、 と は に は に に り に り に り に り に り に り に り に り	学校・高等学校 ようになる。ま 記識を得ること 教育の目標や内 を考察する。ま	とた,数学教育の こができる。 対容の変化を紹介 とた,中学校・高	
	数学科教育	育法II	内容,数 究ができ 理論的な 数学の学	学学習の基礎するようになる。 知識を得ること	型論,指導方法↓ また,数学教育 こができる。 5基礎理論につい	こ関する理論を 育の方法論につ	当まえ、数学科の と踏まえた教材研 いての基礎的・ この視点から教材	
	数学科教育	育法III	学科の指 体的に構 力量の形 中学校数	導計画,指導を 想することが 成を目指す。 学科の目標とP	方法,評価方法/ できる。中学校教	こついて考察し 数学科の指導に 具体的な授業	理解し、中学校数 レ、授業展開を具 に関わる実践的な き実践事例を分析 と行う。	
	数学科教育	育法IV	校数学科 を具体的 践的な力 高等学校	の指導計画, 持に構想すること 量の形成を目れ 数学科の目標と	旨導方法,評価だ さができる。高望 旨す。	方法について≹ 等学校数学科の て,具体的授業	と理解し、高等学 考察し、授業展開 力指導に関わる実 美実践事例を分析 と行う.	
	中等理科書	枚 育法Ι	れて学力 究活動の設 授業がの中 1) こ。学 2) ご さる。	テスト等の結り 事例を評価した 計できるように 項を到達目標。 校理科の目標、 者の理科学習の 活動について記	果から生徒の実践 とりする活動を記 こする。 こする。 主な内容とその つ実態を理解し、	態を分析的に記 通して、探究活 の構成を理解す 理科指導の原	プワークを取り入 売み取ったり、探 舌動を取り入れた 「ることができ 長望を持つことが と授業を設計する	
	中等理科書	炎 育法II	にこれら について 以下の事 1) ICTペ ことがで	を活用する構想の学習指導案で の学習指導案で 項を到達目標で やデジタル教科 きる。	見を立案し、学 っ作成し、協議 さする。	習指導案を作成 を通して、点格 て、活用のし	かたを理解する	
	中等理科泰	教育法III	見を反映 う。 検討すの事 1) ることが	させて学習指導の研究協議を通っの研究協議を通っている。項を到達目標の研究をおこないできる。	算案を作成し、 通して、模擬授業 さする。 い、その成果を	それを用いて 業をふりかえり 文映させて学習	う。教材研究の知 り族授業をおこな)、改善について 習指導案を作成す こおこなうことが	
	中等理科孝	教育法IV	で いかと か いかと 動 い り い り い り い り い り り り り り り り り り り	える。教科等特ともに指導計画向について理解を到達目標は ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	横断や発展的ない 面を立案する。 翼し、その知見る こする。 内な学習内容につ を通して改善する	学習内容についまた、教科等様を取り入れて指 を取り入れて指 ついて教材研究 ることができる	は理科指導についいて教材研究をお 関係のSTEAM教育 計算計画に反映さ でをおこない、指 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	

	授	業	科	目	の	概	要		
教育学部学校教育	「教員養成課程) 「							柏原キャンパ	
科目 区分	授業	(科目の名称		講義等の内容					
	保健体育和	斗教育法I	解するとできるよう 中学校及び 遷課程を超	ともに、学習持 うその理論的 び高等学校の付 踏まえて講じ	指導の方法につい 枠組みを理解する 呆健体育科の目	いて、適切に約 る。 票について、当 CT機器の活用	と踏まえ正しく理 組み立てることが 全習指導要領の変 方策を含めた学		
	保健体育和	斗教育法II	下、より! 保健体育科	具体的な授業 斗の学習指導	の活用方策を含	浅的な力量を身 方、学習者のみ			
	保健体育和	斗教育法III	い、実践 保健体育 (単元計画)	こ向けての力を い単元およで 画、時間計画)	を付けることが び、内容の特性の	できるようにす の違いに応じた 受業を行いなか			
	保健体育和	斗教育法IV	計 を 行 う び お お 活 よ ま ま え に し た に に に に に に に に に に に に に し に に し に し	方法を身に付け 内容について など、教材研究 解説する。また を授業設計と 業の実施とその ので、スカ	けるために、保保 解説すると情報にといると情報に関する情報を で、学習指導案を 学習指り返を通り アンションを通し アンションを通し	建体育科保健分 に を は で は で は で は す で に と と 提 成 る 。 授 ず し 、 理 解 し 、 理 解 し 、 理 解 し 、 で に が ま り で り で り で り で り で り で り で り で り で り	と想定した授業設 分野・保健科の用 なび教材の活用で強効果的 き設計に活用を受 、具体案を身に をで視点を身に付 に向上する。これ に設計の向上に取 を設計の向上に取		
	技術科教育	育法I	に具理・・・評・・・評・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	きる。 場面に 要業場で、 場面に 要素で、 要素で、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 の	定した授業設計・ 学力等の実態をを 要領に示された。 な内容並びに全化	へ向け下記のま見野に入れた打 見野に入れた打 下記の点を理角 本構造)教育観を具体的 基礎的な学習指導 受業設計の重要性		
	技術科教育	育法II	法、教材 後半は、 作成したま	・教具の意味; ペア(受講人数 教材を使用し [*]		算を行う。 グループ) で教 わせる。模擬技			
	技術科教育	育法III	案する。 を見据え ける時間	そして立案した た各内容や題 りまとまりで	た指導計画の発表 オのつながり、る	表・討論を通し さらには学年、 て検討・改善す	所観に基づいて立 いて、教科の目標 学期、単元にお ることで、3学		

/ 北 去 24 *n 24 +1 +1 -1	授業業	科	目	Ø	概	要	** *** °-
(教育学部学校教育 科目 区分	教員養成課程) 授業科目の名称			講義等の内	7容		柏原キャンパス 備考
	技術科教育法IV	上業至指を(技のな(・時の・的・) げをる導通(1)術内ら2)年の模名に他 学科客な学指分長の時生	田な学のでは、 田な学ででは、 でのに、 でのに、 でのに、 でのに、 でのに、 でのに、 でのに、 変を、ので、 でのに、 変を、ので、 でのに、 変を、ので、 でのに、 変を、ので、 でのに、 でのに、 変を、ので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でので、 でいる。 でいる。 でいる。 にし。 にし。 にし。 にしる。 にし。	はび授すと、 はび授す受い。 はで表す。 とする。 など、 など、 など、 など、 など、 など、 など、 など、	要となる数分材材材材料を 学 、通 適理 学 、通 適理 学 できる。 を できる という できる きゅう かんしゅう はんしゅう かんしゅう はんしゅん はんしん はんし	き、教職に就いた また、自分自身 数育的意義を論理 実践、分析と評	
	中等家庭科教育法I	について ど、学生 ングを導 交流やI(て解説する。グル 生による主体的・ 導入して授業を進	/一プディスカ 実践的な活動 」める。また、 見場の実態を路	ッションやワー を組み入れた万 言語活動の充写 皆まえた実地指	去および評価方法 - クショップな アクティブラーニ 実を図るグループ 導講師による授	
	中等家庭科教育法II	習指導案 する。 授業の到 ・中等家	その作成を通して	、指導計画を 及び評価方法	元に授業を実践 について理解す		
	中等家庭科教育法III	でよりよ 授業の到 ・中学校 きる。	にい授業が展開で 到達目標	きる授業設計 容を理解した	力と実践的指導 上で学習指導第	客や教材が作成で	
	中等家庭科教育法IV	えた授業 庭科にお 授業の到 中学校家	莨づくりを解説し おける評価のあり	、修正指導案 方を検討させ	に基づいた模 攅 る。	等の改善点をふま 桑授業を行う。家 画や教材を分析、	
	中等音楽科教育法I	校音楽科 学生が具 経験を生	斗の学習指導案が 具体的な授業像が 上かした模擬授業 と意識し、講義と	作成できるよ 描けるよう、 によってモデ	うになることを 授業映像や担当 ル授業を提示す	て中学校・高等学 とねらいとする。 当教員による教諭 ける。理論と実践 て進め、模擬授業	
	中等音楽科教育法II	材研究を班別 ができる。 「を踏まえた教	で行い、それに	って、中学校及び こ基づいた学習指 教材研究の提案 する。			
	中等音楽科教育法III	う、実際 実際 をに、 をに、 とをに、 と をに、 と き き ・ や ・ の っ る。 の っ る。 の う る。 の う る。 の う り る。 の り る。 り り り り り り り り り り り り り り り り り	祭に中・高の音楽 後した模擬授業実 カリキュラム編成 票 斗におけるカリキ 交・高等学校音楽	科カリキュラ 践を授業に組 のポイントを ュラム・マネ 科の年間カリ	ムを作成する派み入れる。学校 み入れる。学校 おさえる。 ジメントについ キュラムを作所	り理解が深まるよ 舌動、カリキュラ 交現場での経験を いて理解する。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育	育教員養成課程])						柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	內容		備考
			伴って授	業を分析し、批	比評できる。		5記録から根拠を ノ、模擬授業がで	
	中等音楽	科教育法IV	教育実習 析、授業 る。「授	評価を行うこと	を通して、授 三徒の思考過程	業評価の視点と	差観察、授業分 : 方法を学修す t、随時、この	
	美術科教	育法I	学習内容 業設計を 美術科の 学習内容	について理解す 行う方法を身に 教育目標等につ	「るとともに, ご付ける。 いては講義形 習を通して身に	具体的な授業場 式で,表現や鍋 付ける。後半で	₹質・能力および 景面を想定した授 鑑賞の活動とその では指導案作成と	講義22時間 演習8時間
	美術科教	育法II	鑑賞を指 ション、 践できる どをもと	作品選びの方法 よう支援する。 に鑑賞指導の力	ーつとして対話 まについて講義 対話型鑑賞の ず法についての	型鑑賞法を学る を行い、鑑賞指 実践から得られ 検討会を行う。)。 え。ファシリテー 台導を学生自ら実 ルた疑問・意見な グループごとに と作成、発表、検	
	美術科教	育法III	び学習内: 的な授業 美術科の:	容について深く 場面を想定した	、理解し,様々 上授業設計を行 いて講義で再	な学習指導理論 う方法を身にた 確認の後,題を	う資質・能力およ 命を踏まえて具体 けける。 け研究に基づく指	
	美術科教	育法IV	以下の実 ・課題・・ ・也者の・ 模擬授業 いてかれ	践的な能力を身明確に力を身明確にした授業 クな造形活動を活動を活動を 造形活動を柔い 技術を獲を通し と検討会をする。	けたつける。 美計画が立案出 と提案出来る。 なに見ることが ら。 短業立案はが がで業立案はが がで来、学習者	来る。 できる。 ・授業方法・詩 ループで行い、	・て見識を深め、 『価方法などにつ 授業者・評価者 歳討会での振り返	
	書道科教	育法I	法、また 単元(楷 元につい 後、良か	は、指導案の(書、仮名など) てグループ内で	F成などについ の課題を割り ご指導案を作成 気について議論	て講義する。 ク 振る。受講生に し、模擬授業を する。また、本	D目標、内容、方 ブループを作り、 は割り振られた単 と行う。模擬授業 を授業終了後に改 ・提出する。	
	書道科教	育法II	法、また 単元(草 元につい 後、良か	は、指導案の作 書・隷書など) てグループ内で	F成などについ の課題を割り ご指導案を作成 ほについて議論	て講義する。ク 振る。受講生に し、模擬授業を する。また、本)目標、内容、方 ゲループを作り、 は割り振られた単 と行う。模擬授業 に授業終了後に改 、提出する。	
	情報科教	育法I	標,内容 導方法に 具体的内: いう教科 う。また	を理解し,実際 ついて学ぶ。 容として,学習 の必要性の理角 ,教材研究,与	際に授業を担当 習指導要領をし 解,小中学校で 全習指導案の作	する状況に自ら っかりと読み解 の情報教育の明 成方法の基礎的	「情報」の教育目っを置き,その指字を置き,その指案を,「情報」と異されて握などを行うなままなりにつけることを目指	
	情報科教	育法II	成論、授品の表別では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	業の分析や授持を成して指導を成発では、するは 関発をはいるでは、は、 関ラティでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるでは、 できるできる。 できるでは、 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	終開発方法、指 日報子の授業は、指 日報学は、模様では、模様では、模様ではよる 日本の教育事様を 日本の教育を 日本の教育を 日本の教育を 日本の教育を 日本の教育を 日本の教育を 日本の教育を	導案の作成方法 りや学習指導に ープ単位(また 授業(マイクロ 育指導の実践力 踏まえICTやLM		

(松本)	当如尚扶<u>妆</u>本 类	授	業	科	目	Ø	概	要	拉原ナ いいごう
(教育	学部学校教育教 科目 区分		美科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
		工業科教育	育法I	的な知識る教育な な変質科表 に検討し	識,技術,課題を 方法,教育課程な や能力を形成する 教育の歴史,教育	を解決する能力の などを理解し、こ ることができる。 育の目的、教育の 後科教育のありこ	の習得を目指す 工業科教育の打 の方法と技術を 方を講義する。	こ必要となる基礎 す。工業科におけ 担い手として必要 を教育学的視点か 理解が深まりや 動的な学修とす	隔年
		工業科教育	育法II	能力の習 し、工業 主業科 し、今日	習得を目指す。 コ 業科教育の担い 号 教育の教育の方沿 日的な工業科教育 まりやすいよう,	C業科におけるま をとして必要なる なと技術や教育を なのあり方と現る	教育方法,教育 資質や能力を刑 環境を教育学的 生の課題と展望	を解決する実践的 育課程などを理解 形成することがで 内視点から検討 捏を講義する。理 反りいれた能動的	隔年
学	を校インターン シップ科目	教職インク	ターンシップI	した自 師 と 2 施 る。 3 ジ き で る。	の学修課題を受事の補助などをしずす。 多の前年度(1回	そけて、小・中学 しながらその課 回生時)10月に マシップ活動は、	学校で児童・生 関に向き合い、 事前指導として 履修前年度	習において見出 主徒と関わり、教 解決していくこ でガイダンスを実 (1回生)の2月 上おこなう。	
		教職イング	ターンシップII	シニ様伝2 実た3 施 シニ様伝2 実た3 施 る。 が を を は り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	児童・生徒と表す。 のかん、学級では、 がら、学級では、 がら、学級では、 を実習も事のでは、 がのの前にのでは、 でのがででのイング	課題を深めると 関わてを深端的の を深準備物の をで準備での がでを業準でくり 基本の理にでいる というでを届し にいるでは、 はいるで	ともに、基本体がをもに、基本体がをとり、これでは、一般ないでは、というないでは、また、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	実習の準備をお 本や児童・生徒の ど授業の準備を手 て理解を深める。 取組んだり、基本 爱をおこなう。ま	
		特別支援等シップ	学校インターン	の学童把まり2様振の3る度解校生握たの、なり課、の(2000年)の(200	を図りていた。教事のは、教事のと対ののと対のと対のと対のと対のと対のと対のと対のと対のと対のと対のと対のと対	表情にない。 表情にない。 大量にない。 大量にない。 大量にない。 大型にないない。 大型にないない。 大型にないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	旨 を は に や が は に や が に で が に で が に で に で に で が に で に で に に で に に に に に に に に に に に に に	世握 上 た い 特 の に の で を の で を で の で の で の の で の の の に の の の の の の の の の の の の の	
		連携協働活	舌動演習	な職能を携、協力	を伸長している勢 力して活動し、自 協働のあり方や活	数員養成課程の 目分の役割を担い	学生と教育協働 いながら学校5	育支援人材に必要 動学科の学生が連 見場の課題に取り ーム学校」モデル	
		幼児教育~	インターンシット	かた一般では、からないので、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	る場面以外の仕事 ための課題意識を 記録をとることで 究の場を紹介する 究をする際に生し	事についても理解を深める。 で、その記録から。その場で行る こ、た問題を解決していた。	解を深めるとと	とについて、解説	共同

		授	 業	科	目	Ø	概	要	
(孝	效育学部学校教育教員	養成課程)		1					柏原キャンパス
	科目 区分	授業	 と科目の名称			講義等の内	勺容		備考
		学校インク	ターンシップ体験	業参観や る。その 出席し、 なお、受	P授業補助など D際、説明会を 教職を目指す	の支援活動を通 含む事前・事後 者としての自覚	して教育活動の 指導や体験の報 を高め、教職へ	告会に合計5回	
専攻専門な	幼稚園教育専門科 目			通し、実 実践を見	実践につながる 見る際の着眼点	講義・実技指導	を行う。 際のポイント、	及び保育参加を 指導案を作成す く解説する。	
科目群		幼児教育等	実践総論	(46中橋 オリエン (278小 幼稚園の (217石 幼稚園参 (352橋	池 美里/4回 ウ生活、幼児の 川 順子/5回 対育の役割、教 之爪 美砂/4) よび授業のまと I) 発達の特性、教 I) 師の役割につい	師の役割について担当する。	. , = 0	オムニバス
		ピアノ表現	見演習I	に困らな 身につい なる。 幼稚園	ない、そして発 けた技術が様々 対論として必要 は保育で困らな	展できる内容を に応用でき、弾 な演奏技術を身	扱える演奏技術 き歌いも問題な につける。	マロピアノの使用 所が身につく。 くてきるように と性、音楽性など	
		ピアノ表現	見演習II	に困らな 身につい なる。 幼稚園	ない、そして発 けた技術を様々 対論として必要 は保育で困らな	展できる内容を に応用でき、弾 な演奏技術を身	扱える演奏技術 き歌いも問題な につける。	マピアノの使用 が身につく。 くできるように とくできるように	
		表現指導基	基礎演習I	様の幼楽マ (72加のまで) なぎ的で (72加のます) (351朴)	音楽を知り、表 対技能、基礎的 音楽表現活動を 高曲や簡易な作 やかけ足などの ニバス方式/全 素 あや子/10	な知識の向上を 伸ばすために必 曲の方法、コー 変奏、各種の楽 15回) ドネーム、リズ	ある。そこで本図ることを目的要な基礎知識をド奏による使った器などを使った	授業では、各自 Jとする。 理解する。 歌い、さらに	オムニバス
		表現指導基	基礎演習II	様々な音 指導基礎 指す。	音楽を知り、表 と演習Iをふまえ	現できる必要が	ある。そこで本 長させた知識、	*、保育者自身が *授業では、表現 技能の習得を目	
	主に、データの収集と「量的」な集計を学びます。 ・様々な調査手法についての解説をし、学生による質問紙調査をする。(文献、アンケート、インタビューを想定) ・アンケートの作成方法(オンライン)と倫理的配慮、データ入のフォームの作成における工夫・留意点を、グループごとの作成に即して指導する。何度も修正をするなかで、コツをつかめるよする。 ・インタビューに関しては、質問項目作成・精選までを行う。に調査を行うことはしない) ・データ収集は、原則として、ネット上のアンケートツールを用行う。							は、データ入力用 プごとの作成過程 つかめるように でを行う。(実際	講義8時間 演習8時間

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教	文育学部学校教育教員	養成課程)						柏原キャンパス
	科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	容		備考
		幼児教育	研究調査法II	の 作望の た() 調調.、加 4. 2 査オデ査(面と) 4. 3 査加 4.	を支子では、 を支子では、 を支子では、 の本となる。本となって、 なの一本は、 なの一本は、 なの一本は、 なの一本は、 ないのでは	の作業部分の支持する。中間発言を表表会の一個では、 するのででは、 するのででは、 でののででは、 でののででは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でいるが、 には、 でいるが、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	爰を行うために (10月)、及て けとてチェック た いる。 記 いる。 記 いる で が で が の が の が の が の の の の の の の の の の	こめに、質問紙調 作成への周辺的参	講義6時間 演習10時間
		就学前の	教育学	う。本担 る幼稚園 いて検言 (オムニ (46中村 保育原理 (212安 保育制 (279小	受業では、保育店 製教育要領 当大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工 大工	京理をどのよう(念的変遷、幼児 [5回] た指導についてす	こ考えてきた <i>の</i> 朝の発達と保育 旦当する。 呆育等について		
	領域専門科目	幼児と健康	康	いとてで的い (乳の185期) (196番) (196Φ)	盤と	技能を身に付けるようにを表して、心はいいいいでは、事例研究の意見を表別である。 を表え、他身に付ける。 を表え、他身に付ける。 を回り、 環境について担い。 は、事例である。 は、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、	5。特に、東をでいると は本のでは は本でである。 ででいると ででいると ででいると ででいると ででいると でいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でいる。	、く重要性につい どを通して、実践 て理解を深め合	
		幼児と人間	間関係	理特つ(43円社要担保)(158円 158円 158円 158円 158円 158円 158円 158円	が が が が が が が を に 田会 に の の に の の に の の に の に の の に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に の の に の の の の の の の の の の の の の	章すべき教育内容 集団との関係の中 8回) 光雄/1回) 関係について担当 ひろがりについっ 1) ・能力と人間関係 ・中で見られる人。 1) 社会情緒的発達	学に関する知識 中で幼児期の (共同) 当する。 て担当する。 系について担当 と関わる力ので 達について担当	しと関わる力が育 当する。 寄ちについて担当 当する。	オムニバス

		授	業	科	目	Ø	概	要			
(孝	教育学部学校教育教員	養成課程)		1					柏原キャンパス		
	科目 区分	授業科	∤目の名称			講義等の阿	勺容		備考		
		幼児と環境		徴象持い領職のに((幼(幼(ないに続いず、思つオ194とほどは、思つは19165と埋すがは195と埋すがは、1916を森髪埋すが、1918を表します。	らの幼児の発達にとっての意義を説明できる。幼児の認知的発達の特徴を踏まえた上で、物理的、数量・図形、生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育(ESD)などの現代的課題と幼児期において身近な環境と関わることの意義について説明できる。領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導基盤となる、幼児男の思考・科学的概念の発達、現代の幼児を取り巻く環境とその課題等について学ぶ。(オムニバス方式/全8回)(194岡部 舞/4回)幼児と自然環境について担当する。(165森岡 達史/2回)幼児と数について担当する。(71垣本 徹/2回)幼児とものづくりについて担当する。						
		幼児と言葉		け の は の は の は の は の は の は の は の は の は の に る に る に る に る に る に る に る に に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に に 。 に に に に に 。	マース ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ 本 ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	なげるために必くない。 ないにおける「 との言葉を育に付け のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、	要な基礎的知識言葉」の意義と 、言葉に対する る。 いて担当する。	をや表現を身に付ける。 機能を身に付ける。 ・機能をその習得 5感覚を豊かにす 5りかたについて	オムニバス		
		幼児と表現I		メージし 創造性・		E進する要因、 こする具体的方	また遊びを通し 法について実践	ンて幼児が感性・ 浅的に学び、最終			
		幼児と表現I	I	育事例を するため の発達と	と見ながら学んで かの造形遊びや環	ごいくと同時に 環境構成などに いて考え,子ど	, 幼児の感性や ついて解説する もたちが造形表	か内容や作品,保 №創造性を豊かに ら。また,子ども ₹現活動を支援す			
	小学校教科専門科 目	国語(書写及含む。)	と びICTの活用を	当する参 読み聞か の言語生	対員に必要な基本 いせや創作活動な	x的な知識や書 xど、さまざま 5とともに、国	字力を身につけな言語活動をと 話常識や「にほ	を校の国語科を担けさせる。また、 けさせる。また、 おして、受講生 まんご」の活用に ける。			
		社会(ICTの	活用を含む。)	法活 (61山科 (14会 (14会 (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14会) (14e) (14		とと教材作成方 才作成等にも触 B回) 裏 慎司、379 こついて担当の 四子/2回) こついて担当す 秀也、23小林	法が講義される れる。 水野 惠司/4 る。 る。 和美、55松本		オムニバス		
		算数(ICTの	活用を含む。)	1変数の質主と対して受力を表する。 1 変数の できる できる できる できる できる できる できる かいまる できる かいまる かいまる かいまる かいまる かいまる しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	5.	関する変化率の こついて理解す 算等について講 ICT 機器を使 いろな概念が	計算について、 る。 義をする。 う練習も兼ねて				

		···					要	
汶育学部学校教育教員 科目 区分	養成訂	課程) 授業科目の名称			講義等の内	內容		柏原キャンパス 備考
	理科	(ICTの活用を含む。)	意し,学 ICTを活力		位で行わせる。 客や学習者間で	での交流を促進す	-る。	
	生活	(ICTの活用を含む。)	スタート 果たす気 れるように 家と連携	カリキュラムに 割を考えられる けきの意義につい する。なお, ワ ま・協力しながら	関する議論を ようにする。 てワークショ ークショップ	通して,生活科 また,体験や経 ップを通して実 においては,適	が幼小接続期に 験のなかで生ま 感的に理解でき 宜,外部の専門	講義12時間
	音楽	(ICTの活用を含む。)	授業では いかに獲 幅広い視 らに第三	は第一に、楽譜に で得するかについ と野に立ち様々な に、楽曲を分析	関する諸規則 て理論・実践 時代・ジャン するだけに止	を知り、読譜・ 両面から講ずる。 ル・文化の音楽 まらず、鑑賞・	記譜のスキルを 。また第二に、 を比較する。さ 演奏・創作の各	
			る き る き る 。 四 と と 。 工 が の 造 り た 。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	に、表現活動の こで使用する材料 に、技術の習得 この表現や鑑賞の きる。 とかなる表現活動の が遊び、絵や立体さ が能を身につける ジタル教材やデ	指導方法や支 や用具など身まをめざし主体 楽しさを味わり 基礎となるさる。 せる。	援方法について 近な素材の種類 的な表現活動を い、造形的な資 まざまな表現技 作品制作を通し	考えることがで や特性を理解す することがで することがで することがで で まることがで で きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで きることがで まることがで まることがで まることが まるとが まるとが まるとが まるとが まるとが まるとが まるとが まる	
	家庭	(ICTの活用を含む。)	当こるで小れ((家(2生)6)上ので小れ((家(2生)4年)活山活いて、五小・東活山活いて、2生、1年)活山活いて、2生46)活石) (全生(218石)	 (職をもようとのではなりではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない	的な視座から。 具体的には、 徴を理解し、。 容のテーマ別は 構義を中心とし 回) 担当する。 。)。。。	家庭の位置づけ 、小学校の家庭 知識を深め、概 に、事例の紹介	と課題を捉える 科で取り扱われ 要と課題を説明 や実習を取り入	
	体育	(ICTの活用を含む。)	指導法を 業形態に 系、器械	・中心とした実技 こついては、全体 ば運動系、陸上運	指導を行うが、 で3回、グル・ 動系、水泳運	、必要に応じて ープ別で12回(講義も行う。授 体つくり運動	
	英語	(ICTの活用を含む。)	画を立て を多く取 せる。中	、導入・展開・ なり入れて授業を 1学校・高等学校	まとめの流れ 進め、その取 教師としての	を意識した模擬 り組みについて 指導経験を活か	授業などの演習 振り返りを行わ して、小学校英	
次世代教育専攻共 通科目	学校に	こおけるICT活用	れの場面 また、そ てシミュ	iで用いられる主 の機能特性やI(レーション的に	要な(教育) T環境改善につ	アプリケーショ oいて知見を広け	ンを紹介する。 げ、必要に応じ	
		生活 会 (本) 女 (本) 本 (本)		理科 (ICTの活用を含む。) 「CT学社 科 科 - で	理科 (ICTの活用を含む。) 小学校型品 と実験・観象小学技型名 生活 (ICTの活用を含む。) 小学校理科で特に理解が、させる。 生活科が誕生した歴史的、果たす役割を高義なおいいるよう連携・臨わ介する。 と話科が通りで変えられるが、 まずでは第一に、大体を関係では第一に、大体を関係では第一に、大体を関係して、 対体の場合を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) を音楽 (ICTの活用を含む。) を音楽 (ICTの活用を含む。) を音楽 (ICTの活用を含む。) を音楽 (ICTの活用を含む。) を変します。 などとして、技術を関値して、 表現、現活動では、 表現にできかな表しまでで、 表別の場合ととして、 技術を関値して、 表別ので、 のの、 のの、 のの、 を変します。 など、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 のの、 の	理科 (ICTの活用を含む。) 「ごを活用した実験・観察や智書所で、小学校理科で特に理解が必要な内容にさせる。 生活 (ICTの活用を含む。) 生活 (ICTの活用を含む。) 生活 (ICTの活用を含む。) 生活 (ICTの活用を含む。) 事業 (ICTの活用を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) 音楽 (ICTの活用を含む。) の (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) の (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) の (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。) を (ICTの活用を含む。)	原本	図科(ICTの活用を含む。) ICTを活用した実験・観解や学習者間での交流を保護する。 中で、大変生に演習させる。 生活科が誕生した歴史的音楽を概認するとともに、小1プログレットのよったの、テ生に演習させる。 生活科が選生した歴史的音楽を概認するとともに、小1プログレットのよったのようともに、公グタートカリキュス人に関する議論を通じて、生活科が効力機能制に関係できまった。 生活(ICTの活用を含む。) 文と連集・協力しなから活動を進めるとともに、「CTEA用した教材格示の方法と協介する。」 主楽には弊有の仕組があり、それを明記した記号が楽器である。本校室では第一に、実際に関すらは解別を知り、説語、記録のスルルをから、2を連集・協力しなから活動を進めるとともに、「CTEA用した教材格示の方法と協介する。」 前級い場群で立ち様から中するごは、実践画面から進度・動野からとされて、現場のではままり、議員・実践では、「金属工作」によまり、議員・実践では一体ので選手に、実現活動の指導方法や支援が造について考えることができる活動を通して、表検所には古味を総合的に理解することを目前、方な正常に、主に、まりまる。ことができる。 図画工作で使用する材料や利用及と見が立まればの整理を制するとともに、表現活動の指導方法や支援が造について考えることができる。 図画工作の表現や機質の楽しさを味わい、造形的な資質能力を高めるしたもに、表現活動の基準となると対では、「金の電かた変更高を大変対力を関係を制作を通して、思考的で表した。」 変態の意念を変更の音を変更の音を変更の音を変更の音を変更の音を変更の音を変更の音を変更の音

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	教育学部学校教育教員 科目 区分		科目の名称			講義等の内容			柏原キャンパス 備考
		インクルーシ	シブ教育実践論	はないけれど 集団を形成し を組織・運営 を取り上げな	も個別的な支 ている。この する必要があ	援を必要とする ような前提に立 るかを、幾つな また、その方向	の児童・生徒 とって、どの。 いの具体的な	学校には顕著で も通学し、学習 ような学習活動 教科学習の事例 教材開発や授業	
	教育探究コース専門科目	教育科学入門	间	ると共に,次の形成を促す とする分野に る。内容の理 活動も行う。	年度以降のよ ことを目標と もとづいて教 解を促進する また,毎回の	り発展的内容を する。講義では 育科学の基礎・ ため、回によっ	と理解・習得 は,担当教員だ ・入門に当ただってはグループ まえた課題を記	多角的に理解す する上での土き がそれぞれ専門 る内容を講義す プワークなどの 課し,それに取	
		教育の哲学的	 	を理解した上職 のついて会がとこれ 会がとこれ を り、そ すること と すること	で、コミュニ要的は思想をでいた。これが考では思想をできる。これではまではまでいた。これでは、いいできないできないできないできない。これには、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いい	ケーション能力である。そのだみ重ねて突まれて突まれて突まする み重なを探究する お子どもの素材 る子となって他者も	りを培い、共生 とめに人間がいい に学。具体ではいいに いなな とな で で で が い に が い に に が い に に が い に る に る に る に る に る に る に る に る に る に	、人間の多様性と 人している 多様性してを りにと本生生を りに、 真感にも は、、 もに も して 手 も の に が き い と の に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	
		共生する社会	会と教育方法学	様性に富む環境のなかで、 に、学校にお 生活経験は何 の関心を育み	境(ダイバー 人々が分断さ いてすべての かという問題 「社会づくり	シティ)に変(れることなく追 子どもたちにす を探究する。そ	としつつある。 連帯して共に生 は通に保障すっ この際、社会)」「自分され	き方や思想が多。 そのような環 生きていくため べき学習経験や ・他者・自分へ がし」にチャレ	
		教育の社会学	学的探究	ために、諸外学び、このことし、どのような革につる。	国との比較に 家族システス を通じて、現 に社会を形成いての議論に	おけるわが国の や経済システム 代の社会におい ・変革している 参画するための	つ学校や教育の などの関連にいて教育がどの いて教育がどの いかを理解 の知識の獲得	う。この目的の の特徴について のいで考えてゆ のようでは できるでは できるできる できるできる できる できる できる できる できる できる で	
		ダイバーシラ	ティと教育行政	い、教職員と もの貧困を手 にもダイバー ニュースにつ	しての役割を がかりにして シティの尊重	考えることがで 解説する。受詞 について検討で 事例的に教育吗	ごきるようにた 構者には、子 ごきる自治体に	発見する目を養なるため、子ど なるため、子ど どもの貧困以外 における課題や 提案ができるよ	
		心理学実験		法および科学は、心理学研基本概念を習すること、文授業各回にて	コミュニケー 究法の中でも 得すること, 献検索・文献 , 心理学の基	ションを学ぶと 実験法について 科学論文・レス 講読の基礎を習 本的な実験を考	こいうことでで て具体的な事だ ポートの書きた 習得することを 学生達を対象し	ことは科学的方法 とは科学的方の 大き といる。本ない 大の 大の 基礎 とり から といった といった といった といった といった といった といった といった	
		世界の心理等	学研究	理学の研究動 する。加えて 翻訳機能を活 修することの 的な見識を養	向の概要を, , 近年のAIの 用して例えば 少ない言語で う。また, 和	主に英語で書た 進歩により格員 スペイン語など 書かれた文献に 英間の翻訳を記	いれた文献を とにその性能が で、我が国の でも触れ、真 はすことで、	関する世界の心 読むことで把握 が向上したとしたは 中等教での国 動翻訳機能の いについて考え	
		心理学の問題	 短探究	虐待,発達の 的視点からど 達・臨床心理学 の講義を実施 との関連など	遅れなど学校 のようなアプ 学の各分野の専 し,それぞれ について説明	教育に関する様 ローチが可能が 可実である担 の領域の特色と	様々な問題に いを理解する。 当教員が,そ : 基本的な考: 毎回の講義内	的個人差,児童 対して,心理学 、教育・学習・発 ・れぞれ 1 - 2 回 え方,学校教 になった なった なった なった なった なった なった なった なった なった	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教	(員養成課程)		1					柏原キャンパス
科目 区分	授業	純科目の名称			講義等の内	内容		備考
	現代社会と	ご 道徳的価値	には、は る。 り で 受 講生	じめに道徳的 、学習指導要 容項目につい 各自の人生経 相互で批評し	価値の定義を他 領に示される道 て検討し、それ 験の自己分析を	の価値との関え 徳的諸価値とし ら道徳的諸価値 行う。そして、 社会における道	計する。具体的のから確認する。 で、道徳科で取るでではないがある。 で、道徳科で取らまたがかりにしまる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	道徳的行為	色の多面的理解	し、そこ となること かに入れ の形成プ	から道徳教育 とを意図して 、想像力や身 、総合的に道	における指導方 いる。具体的に 体性、習慣事象を 徳としてのデ	法の多様性につは、推論や判断情、環境や文化 理解していくこ	の多面的理解を促かなげていく端緒 がなば察はもちろことの関係まで視 となり関係までである。 ことを目指し、そ ・スカッションな	
	道徳思想の)探究	仏教、イ文とは大学により、	スラム教、キ 化的側面や地 を含めた文化 、相互理解や	政学的要因まで 的多様性とそこ 相互補完の可能 究的学習を重視	、神道といった 掘り下げて分析 に通底する普遍 性を探っていく	代表的な思想に 「し、国民性・民 画的要素を探究的	
	道徳教育 <i>0</i> 達心理学	つための道徳性発	について 討を進め に発達し く、子ど ついて理	考える上で基 る。道徳教育 ていきさいたさいたれ 解することな	礎となる道徳性 を展開するという られているの事象 ども重要である	発達に関する請 は、子どもの違 について見識を をどのように認 。これらの見韻	トの教材のあり方 有理論について検 直徳性がどのよう 注深めるだけでな 深めしているから 我や理解を深める よの教材分析を行	
	学校教育と	≃子ども文化	どもの興 関する興 た上で、	味・関心の変 味・関心がど 学習者中心の	遷を理解した上 こに、何にある	で、現代の子と のかを考察する て、学習者のモ	P的に概観し、子 さもたちの文化に らそれを踏まえ チベーションお き究する。	
	発達の科学	Ź	る発達科 の理解に 子ど・言語 を論じる	学の理論的基 結び付けられ 社会的な関係 発達・認知発 。文献や資料	礎を理解すると ることを目標と の中で発達する 達などの諸分野	ともに、学校でする。 ものとしてとら で得られた知見ならず、実際の	びそれを説明す の実際の子ども った、社会的発 しと支援のあり方 う子どもの行動・	原 在
	行動と学習	習の科学	し, また とする。 れにの の 民 く く けた	実生活や社会 大学を主要を 大学を 大学を 大学を 大学を 大学で 大学で 大学で 大学で 大学で 大学で 大学で 大学で 大学で 大学で	活動・教育活動 や社会活動・教 古典的条件づけ ・理論と研究の を追って論じる	を学んだ内容を 育活動にこれる ・諸様にこれる ・諸様もに、認 を はる はる は を は も に に る に る に る に る に る に る に る に る に る	全て理解・記憶 一元に解釈し、まいせることを目標を 一世ることを目標を 一ついてそれらの 一口いてそれらの のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは	隔年
	対人心理の)探究	究する社 を対象に ように 間, 児童 理学の観	会心理学の一 , 社会心理学 用できるか検 生徒と学級集 点から, 学級	分野である。こ 的な理論を学び 討する。そして 団がお互いに影	の講義では, 考, 実際の学校場, 学校で展開す 響し合う過程に	撃し合う過程を研 対員をめざす学生 動面の課題にどの つる,児童生徒 よ着目し,社会心 とにもとづく実践	隔年
	子どもの育助	うちとこころの援	に必要なる子に、 を子に、 体研究結	ことは何かを 様ななど問題につ らの踏まえ解き 果を読み解き	受講者とともに 不登校,子ども いて,心理学の のようにアプロ 解説する。また	考える。中でも その基本のなるとと を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		隔年

	授 業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分	教員養成課程) 授業科目の名称			講義等の内	內容		柏原キャンパス 備考
	教育探究演習I	まなめをとい実験等	バル社会およびタ 題を自り発見し、 基礎的知識の理角 指す。受講者は自 指導教員の指導の を行い、その成身 ことによって、制	その課題解決 な探究の態度 自分が関心を持 つ下で文献購読 見を発表し、議	のために科学的を、演習形式に った学校教育の や資料収集、 い 論し、振り返り	りに探究していく こより修得するこ ひ現代的課題につ 見地調査、観察・ りを行うことを繰	
	教育探究演習II	まなめといままない。実験等	バル社会およびタ 題を自ら発見し、 基礎的知識の理角 指す。受講者は自 指導教員の指導の を行い、その成 ことによって、訳	その課題解決。 解と探究の態度 目分が関心を持 つ下で文献購読 見を発表し、議	のために科学的 を、演習形式に った学校教育の や資料収集、 論し、振り返り	りに探究していく こより修得するこ り現代的課題につ 見地調査、観察・ りを行うことを繰	
	教育探究演習III	提案に現代の表別に実現に実現で、議	究演習Iと教育探 ついて、受講生そ 課題について、後 の課題解決の方法 能かを考え、さら 論を重ねていく。 教育に関する課題	されぞれが振り 演習の参加者同 とが、現在の学 っにその検証と 演習の最終段	返りを行った」 士で整理し、ま 校教育の現場に 評価をどのよう 階では、自分な	とで、学校教育の は有化を図る。次 こおいてどの程度 うに行うかについ が最も関心を持っ	
	教育探究演習IV	提案に 程っし、 理の どの は、 は、	究演習Iと教育探 ついて、指導教員 上で、学校教育の 共有化を図る。 かにおいてどの程度 うにおいてかにつる 分が最も関心を でとして確定する	しの指導の下で、 う現代的課題に なに、その課題を 変実現可能かを いて、議論を重い ないた学校教育	、受講生それぞのいて、演習の いて、演習の 解決の方法が、 考え、さらにそれていく。演習	ぞれが振り返りを り参加者同士で整 現在の学校教育 その検証と評価を 習の最終段階で	
	道徳授業の実際	概念ととこれ た た とと と と と と と と と と と と と と と と と と	i」を日常言語とし して捉え、それに しつつも、一方で に授業実道徳性の 、発達と道徳性の を中心に現場での き出しを増やす」	2件い指導法もご、教科化され、かれるという現ご諸相を意識しび指導助言の経	当然のことなれ 、検定教科書を 実のもとで授業 た実践構想を付 験からのフィー	がら多様なものと と使用した授業を 養を構築していく 弋表的教材の指導	
	先進的生徒指導論	不 寛 か か っ こ 熟 し え し え し れ し れ し れ し れ し れ り れ り れ り れ り し れ り れ り	地域での生活のないによって深く傷へいればなって深く傷をする。 の視点とと方視点とは 誘う指導の視点とを を通して、子では、それを を権利行使主体とについて考察して	ついているであ はに、学級や学 方法について、 ったちを権利行 こして育ててい	ろう子どもたち 校での生活に怠 、理論的かつ写 使主体として	っへの共感的な働 削造的に参加する 実践的に学ぶ。こ 享重しながらも、	
	先進的授業開発論	科学習 先進的	適化や協働性が重とは異なる、資質な授業モデルを引いまなる。 リキュラム開発の	重・能力の育成 手がかりにして、	を思考する授美 、その特質を理	養構想について、 里解するととも	
	STEAMとカリキュラムデ ン	科連携 で、幾 で るとと	断のコンセプトの のメカニズムを、 つかの実践モデバ もに、STEAMの有 まえて、学生グバ。	カリキュラム レの分析を通し 効性と可能性に	に位置づけなれて、理論と実践 こついて考察す	バら理解した上 桟の対応を確認す る。また、これ	講義15時間 演習15時間
	心理学研究のための統計 演習	統計手 的な統 用でき 分散分	「一タの活用に関す 法についての理り 計手法を理論的に るような生きたと が、ノンパラメー ウェアの使用法に	军を深め, 習熟 二理解するだけ ロ識を身に付け 、リック統計法,	する。問題演習でなく,実際の る。具体的にあ 、重回帰分析と	習を通じて,基本 ロデータ分析に活 は,相関と回帰,	
	心理学研究のための研究 演習	いて, クマ・ は 問 表 に 思 な 紙 る の は の れ な に れ る に り る れ る に り る れ る れ る れ る に る れ る れ る れ る れ る れ る れ	関連した心理学研 実際に質問概を作 析方法、事項に 心のあるる事項に 、科学的にいかしい すればいたい 変量解析につい といて とめて発表する。	F成することを などを学び検討 ついて、単なる と持った課題にア に講義、ソフト	通して,その基 していく。実際 「アンケート」 を収集するため プローチする。	基本的なテクニッ 祭に自分たちの興 としての調査で めにどのような質 また,分析に必	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育:	学部学校教育教員 科目 区分		科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
		ダイバーシ と社会	ティ時代の学校	な社会に ぶ。その 社会の 新する手 れらをふ	おいて多様性ために、経済に 課題の現状を 法と、その解 まえ、格差を	を認め合い共存す 的貧困・ジェンタ 学び、それらをう 失のための政策的	けることの大り ブー・エスニシ データにもとっ 対課題・方法に 対話の力を養き	ンティなどの現代 づいて客観的に分 こついて学ぶ。こ うためのダイバー	
		子どもとつ	くる教育方法学	く、子ど 学習とい では、ダ 代におい る。その	もたちが学ぶった学習観の った学習観の イバーシティー て、教師が子 際、これまで	転換がこんにちず やインクルージョ どもとつくり出す の教育方法学研究	って主体的にな とめられている はかという概念 け教育方法のも でと教育実践の	なる学習者中心の る。そこで本授業 念が注目される時	
		ダイバーシ	ティと学校経営	い、教職め、外国にして解	員や教育関係 にルーツのあ 説する。受講 ティの尊重に 経営課題の抽!	者の役割を考える る子どもが在籍す 者には、外国にん ついて検討できる	ることができる ける学校の経営 レーツのあるう る事例やトピッ	を発見する目を養 るようになるた 営課題を手がかり 子ども以外にもダ ックを選び、事例 うに、探究的な学	
		心理学の最	前線I	研究者を ついて理 識と対応 の今後の 動とその	招き、その領が 解し、またとでで 教育活動の質が 変容に対する に対する支援(或において最新の れらの内容を他の 互いの知識のより を向上させること 理解を扱う学習心	つ研究トピック の心理学に関連 の精緻な理解を でを目標とする 心理学, またに	第一線で活躍する 力と実践的展開に 車する授業での自身 を促し、本講義は、から は、、さまずまな は、心理学の領域	隔年
		心理学の最	前線Ⅱ	研究者を ついて理 識と対応 の今後の 涯にわた	招き、その領が解し、またそれがあることでで、教育活動の質がる発達の過程におけるる	或において最新のれらの内容を他の 見いの知識のより を向上させること こついて理解を記	つ研究トピック の心理学に関連 の精緻な理解を こを目標とする 式みる発達心理	第一線で活躍東南 クと実践的展開に 東京を授業での自身 を促し、講義は、 が表し、 大田で、 で自身 を促し、 で自身 を促し、 で自身 を促し、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	
		職業指導		ことを目だれる。学校である。て見つめ	標とする。また を支える基礎 の仕をを 学校・ 高等学 際 のフークを行	ず,職業指導・⅓ 理論を教授する₹ 代的な課題を説明 交・特別支援学材 自分の受けてきれ	選路指導・キャンともに、仕事けるもに、仕事けるととで、そびにおける教育で教育や自分自	それを踏まえて小	
		世界の道徳	教育	にするとを分析る。具体の関心に、	ともに、道徳 に、道徳 に、道徳 にとで、日本 には、日本 にで 諸外国 に そして、諸外国	教育をとりまく名 徳教育のあり方に の道徳教育の歴5 における道徳教育	S国の政治的経 こついて広い初 と的展開を確認 育について文献 の展開を比較材	の観点から明らか 圣済的社会的状況 見野から探究す をした後、受講生 としたを中心に調 を対することで、	
		教育探究ゼ	ミナールI	留意する。 ・テークの ・課程 が保証 に探 が保護 に探 が保証さは	。 究演習Iから 定となってい。 おける学校教 究が科学的方 れているか)	な育探究演習IVまるか。(グロー/ 育の現代的課題は 法に基づいている	での学修の成 バル社会・ダイ こ適っているか るか(論理性・	イバーシティ社会	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	教育学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
	科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	容		備考
		教育探究ゼ	「ミナールII	下・深・すずといいでない。下・深・すがいる。	論文の作成を行 文の執筆状況を 学的探究になっ 分が教師になっ 指導と生活指導 まとめとして、	う。その際、よっ 定期のか検討でいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいいではいい	以下の点に留意で表し、 で発表。 ける。 倫文の研究の成場 話かせるを行いを を を と を は は に に に に の の の の の の の の の の の の の の	容について議論を 果が、子どもに対	
	ICT教育コース専門 科目			講義では ミュニケ	、インターネッ ーション、犯罪	トの進化やメラ	ディアの変遷、 全の光と影につ	高まっている。本 それに伴うコ ついて、事例紹介 客ができることを	
		情報倫理		(118若れ 情報倫理 ビッグデ (108納E メディア	ータとAIの倫理 E 聡/8回) リテラシー、イ ービスと情報モ	術とセキュリラ 等について担当 ンターネット	当する。 と犯罪、ソーシ	報、知的所有権、 ンャルネットワー 学技術と倫理等に	
		情報処理演	诏	て、アル Pythonを 講義・演		ーチャートに ータプログラ には、これまっ	ついて学習する ミングの基礎的 で学習したプロ		
		情報と職業	i i	化が生じ 理解を深	ている中、学校	と企業における 半には、自らの	る情報に関する の働き方につい	弋社会に大きな変 る職業人としての いて検討するため 発表する。	
		教育メディ	アの表現	ついて学 互評価を セスにつ	ぶ。さらに、そ 行うためのWeb)	の基礎を用いた アンケートなど 習し、デザイン	ミコンテンツの の過程を通し ノの基礎や手沿	メディアの基礎に の作成や作品の相 て、作成のプロ 去を用いたコンテ	
		線形代数学	ia	的な計算のの出て いた いた いた いた いた いた いた いた いた のの 出 で り に り のの は の の の の の の の の の の の の の の の の	方法を学び、 項目を目標とす 計算ができる し法を使ってきる の計算ができる。 学は、現代の科	形代数学の基礎 る。 立1次方程式が 学技術を支える 解説する。具体	整的手法に習業 が解ける る数学の根幹を 本的には行列、	列式の概念や基本 熱する。具体的に 熱する。具体的に をなす。この授業 行列式、連立1	講義26時間 演習4時間
		微分積分学	ia	行う。 授業の到 1. 近 うになる 2. 連続	達目標 の理論を理解し 。 関数の基本性質	、イプシロンを、証明できる	・デルタ論法を るようになる。	とめ、演習問題を を使いこなせるよ 正明できるように	講義20時間 演習10時間
		線形代数学	:b	ではべク 値や行列	トル空間や線型	写像の基礎概念 扱いに習熟し、	念を解説する。 さらにベク l	をなす。この授業 具体的には固有 トル空間、線形写 りとする。	-# +* 00 P+ BB
		微分積分学	÷b	行う。 授業の到 1.多変 る。 2.陰関	達目標 数の微分法を理 数定理等を通し	解し、極値問題で、「変数」の	夏などに応用で D感覚を身につ		講義20時間 演習10時間

(教育学部学校教育	授	業	科	目	Ø	概	要	柏原キャンパス
科目 区分		, 業科目の名称			講義等の内	內容		備考
	計算機科學	<u>∵</u> †	算機の仕 ドウェマ 構 ウェナるの て 計 手 法 に 計 手 法 に た に た り た り た り た り た り た り た り た り た	組みをハードウの基礎として、各種装置の基本 基礎として、基礎として、ア機の動作を理解。	マェアとソフト 論理回路の構 動作と内部構 マセンブリ言語 マナる。 デジタル情報 の。また、CPUを	ウェアの面から成法について現成について理成について理解プログラミンクの体系や論理IE と中心とした計	での修得を通し 国路の解析法と設 算機の構成と動	講義28時間 演習9時間
	データサイ	イエンスI	に大きく 術の進歩 タの性能 発展があ 析、分析	なってきている に伴うデータ収 の向上など、大 る。この授業で 結果の解釈とそ	。その背景に な集のコストの ま量のデータを では、データの の活用という	は、ユビキタン 低下や、通信E 収集、保持、タ 収集・加工・タ データサイエン	±は、近年、非常 ス・IoTなどの技 対線、コンピュー 分析できる技術の 型理、データの分 レスにおいて重要 対についても紹介	
	プログラ: ワークI	ミングとグルー	理解する のソフト できる。 一般のソ	と共に計算機を ウェアに関する プログラミンク フトウェア設計	自由自在に使 講義で学んだ を理解するこ に役立たせる	いこなすことだ 知識をより深く とにより, その ことができる。	計算機の本質を ができる。計算を がで解することが で対象を で対象を で対象を では、 は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
							グ上の各種技法	
	プログラ: ワークII	ミングとグルー	理解するト でかまる。 一般に関 つきのソ つか野に関	と共に計算機を ウェアに関する プログラミンク フトウェア設計 する関心を拡け	自由自在に使 講義で学んだ を理解すること はでいるではる。 は、計算機を利	いこなすことだ知識をより深く 知識をより深く とにより,その ことができる。 用する意識を高	計算機の本質を ができる。計算機 く理解することが う考え方や技法を さまざまな応用 高めることができ ムの考え方、構	
					あげ,関連する	ら プログラミン	グ上の各種技法	
	情報理論		行う。 次に, エ ついて学 情報源モ	ントロピー・相	耳互情報量・ダ F号化について	イバージェン <i>ス</i> 学習する。	こついての復習を スなどの情報量に る。	
	プログラン	ム言語	こム ウェン 関 プログ プログラ	り、計算機を利 みを理解するこ 計に役立たせる げ、計算機を利 ムの考え方、構	J用して問題を としまり、きる。 ことがで意識を J用する意識を きた、理論的な あげ、その文法	解く本質を理解の考え方や技術の考えまざまない。 高めることがでいる。 側面について記		
	教育メデ	ィアの技術	う。次に る。最後 ジに組み		AIをそれぞれ, 作成やこれまて	用いたコンテン で作成したコン		
	代数学a		ぶ。 群論に関 る現代数	する文献の輪読 学の方法に慣れ いては、演算の	を通して、公 し、そのおもし	理から論理だ <i>に</i> ろさを感じるこ	つ初歩について学 けで数学を構成す こと。 削余類を扱った内	
			47 6 9 3	ō				

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	汝育学部学校教育教 員	養成課程)		1					柏原キャンパス
	科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	容		備考
		代数学b		初歩につい 群論・環記 構成する5 授業におい	ハて学ぶ。 論に関する文 現代数学の方 ハては、正規	輪読を行うことに 献の輪読を通して 法に慣れ、そのま 部分群と剰余群、 扱った内容とす	て、公理から おもしろさを 同型と準同型	- a理だけで数学を なじること。	
		幾何学		ことが出来の場合では、 とが出来の ました まんしん はんしん はんしん はんしん リング スークリング	来るようにな の関心を高め 身につけ、教 を持つ。 ッド空間の幾	ついて深く理解しる。 るとともに、数等 育への深い理解と 何学から始め、何ついて解説すると	学の他分野を学 と高い専門的知 立相幾何学の基	たぶ際に必要な複 コ識を習得するた 基礎(特に距離空	講義16時間 演習14時間
		解析学a		単下・・・・こなれの複初コ複のく素目関数・分子を表する。	漬分の積分計を目標とする。 を目標とする。 とのの複素としいでででは数のの積分がでは複数理でがでは複数ででは複数では複数ではできます。 では複数では複数では変数では複数では複数では、 を取りまする。 を取りまる。 を取りまする。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 を取りまる。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをした。 をとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをとをと	意味と理解する としての性質を理 と正則関数の基準	とを目的とする 里解する質を理 体的な性質素関数 する。複素、様々	。具体的には以 見解する な論は数学だけで	
		解析学b		の計算方法標とする。 ・孤立特別・留数定理 この授業で	生に習熟する 異点の性質を: 理を利用した では解析学aに	既念を理解する。 ことを目的とする 理解する 実積分の計算への 引き続き、複素 実積分の計算の習	る。具体的には の応用ができる 関数論の基礎	は以下の項目を目 っ	
		距離空間		が出来る。 幾何学への 考が出来る 「幾何学」	ようになる。 の関心が高ま るようになる。 の続きとし	て深く理解し、着るとともに、数学 で、距離空間論 、講義に加えて流	学の他分野を学・位相空間論に	ぶ際に、複眼思 おける連続写像	講義16時間 演習14時間
		情報通信ネ	ットワーク	クを介して 階層構造や なプロトニ クの動作原	て通信する仕; や各階層の原: コルの仕組み 原理を理解し	ータをはじめとて 組みを基礎から 理や特徴的な機能を学ぶ。本科目を ・将来のネットリ とが目標である。	学ぶ。具体的に 能に加え,各階 を通して,情報 フーク技術の発	ニ, プロトコルの 背層における主要 }通信ネットワー	
		ICTを活用し	した教材開発	アとりわけでは、ICT ぶ。また、	ナICTを授業で 活用教育でオ	の情報化がます。 で積極的に活用す とめられる教育理 と用いた教材作成 野く。	ることが求め 論や授業技術	られる。本授業 、著作権を学	講義18時間 演習12時間
		ICTを活用し	した学習環境構築	者側の視点 る。GIGA 用可能なす	点に立った際 スクール構想 サービス提供	た学習環境, との学習環境構築により広く普及し環境を, サーバをの環境構築の再格の環境構築の再格	こついて技術習 したSaaSのほか 構築技術の習得	得を目的とす 、小規模でも運 中の試験運用の実	
		データサイ	エンスII	収集・加二 (価値創造 ションの必 案力を育成	エ・分析→分 造)」をグル・ 必要性、自ら	に、データサイ= 折結果の確認→ ープで実際に体 の考えを自手に 、課題を自ら発り げる。	吉果の解釈・問 倹することで、 云える表現力、	題解決策の提案 コミュニケー 問題解決策の提	
				1					

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程)						柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	內容		備考
	データ構	造とアルゴリズム	構解ズ用こ計ア質選にで科リア 構造と本を野が機ゴと はで科リア	ルゴリズムを を理解する。 択・設計でき、 関もる。 学の基礎であり ズムの考え方し	受計することに、問題解決に際し、プログラムとは、計算機を対け、計算機を対し、より進いだいで、このいてが、そのには明で、そのには、そのには、そのには、そのには、そのには、そのには、そのには、そのには	より,計算機を ,適切なデータ して実現できる 効率的に利用す 科目の前提となる。最も基本的	I解する。データ を利用してアルゴルボータ は 構造とまざまが、 さる意識を はるデ重要な なるデ重要なな計算量 と はなな計算量	
	ロボット! ングA	教材とプログラミ	を学習す パーツの センサー フロー制 車を作成	る。 確認、プログラ からの情報の身 御のやり方を与	ラミングツール(見方、モーター(きび。) に動くことを:	のダウンロート の制御のやり力		
	ロボット! ングB	教材とプログラミ	ンドスト よう。 ロボを作っ 案をゴマイ ラミング	ームev3 や Sp 教材とプログラ てみよう。 ンドストームe 教育を考える。	hero を活用す ラミング A で学 v3 や Sphero :	るにはどうした 全習したことを などを用いて、	: して、レゴマイ : らよいかを考え 活用して、指導 ロボットプログ {察しよう。	
	システム	ソフトウェア	を理りるせコにフトはに算とこれ換になった機にとイすった。	る過程を理解できない。 りプログランでは、 のりできる。 高いではは、 のいかではない。 のいかではない。 のいかではないがある。 のいかではないがある。 のいかではないがある。	ける。コンパイ 言語の生成法を 軽する。言語理 た方や技法を一 言語で書かれた グ言語の処理:	ラを構成する野理解し、オート 理解し、オート 論とオフトトウン プログラムを がい。その を ない。その 技法	-マにプログラム 本	
	情報通信	ネットワーク演習	その技術 とを目的	を応用してサー とする。具体的	ービスの展開方 りに,仮想環境	法について演習 を用いて小規模	「利用する手順と 引を通して学ぶこ ミネットワークの ュトコルやネット	
	ソフトウ	ェア設計・開発	アを開発 トウェア の基礎知 た、横造 ング技法	するか、ソフト 設計・開発に開発に開発に関います。 職や考え方、これではないできます。	トウェアの運用 関する問題点は ノフトウェア開 ジェクト指向に ウェア評価手法	と保守はどうす 多い。この問題 発プロセスにつ 基づく分析・認	と計・プログラミ	
	データベ	ース演習	デキを求・で製用でデータが工義代れるのデータの	収集・編集して が は、 が は、 が が が が が が が が が が が が が	つデータベース タベース操作のシースの基礎知識 とるデータ操作 いて簡易な書籍 マオブジェクト	ベースで統合管から分析に応じ知識とスキルかがでいる。 知識とタイスキルができる。 できるでは、などを学ぶ。 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	理する知識とスト たまでしまない。 ではいいでは、はいいでは、 ではいいでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	演習16時間
	確率・統	計概論	確率論・ の正確な	統計学の数学的 定義や、公式の 正規分布とその)証明などを中	講義してゆく。 心に、確率変数	てうになる。 すなわち、言葉 女や2項分布・多 上げ、基礎概念の	

		授	業	科	目	Ø	概	要			
(教育学部学校教育教員 科目								柏原キャンパス 備考		
	区分	授業和	科目の名称		講義等の内容 TeX の構文の理解や GeoGebra のコマンドと Python プログラミンク						
		コンピュー	Þ	に関する LaTeX に 平行線・	を基礎を身に付い よる数式や図る 円・三角形の打	ける。	・ eoGebra を用い 成と Python を	いた曲線・軌跡・ €用いた条件分			
		ICT課題研究	;I	際、以下 ・ICT教 たテーマ ・課題 が保証さ 受講生は	の点に留意する 育に関する実践 対設定となってい でのでいるが科学的方 でれているか)	を行う上でこれ いるか。 生に基づいてい こついてゼミで	はまでの学修の るか(論理性・	思を行う。その 成果が反映され ・実証性・客観性 銭論を通して、卒	=		
				際、以下 ・ICT教 たテーマ ・課題招 が保証さ 受講生は	の点に留意するに関する実践で設定となっているが科学的方法がれているか)	を行う上でこれ いるか。 生に基づいてい こついてゼミで	uまでの学修の るか(論理性・	思を行う。その 成果が反映され ・実証性・客観性 銭論を通して、卒	Ē		
		ICT課題研究	ZII	筆を行う ・卒業 ・深に・対して ・対して ・対して がせる がせる がせる がれて を がれて を がれて を がれて がれて を がれて がれて がれて がれて がれて がれて がれて がれて がれて がれて	。 全文の執筆状況 科学的な探究に 対対対が 科学的なな 科学的な 対対対が は 対対対が は は は は は は は は は は は は は	を定期的にゼミなっているかやった時に、卒業 どのように活か、受講生による。	で発表し、内容ICTの活用に言 論文の研究成別 せるかを検討するなを会すい、		-		
		ICTを活用し	た教育支援	習を通じ具体 学習者の	にてその支援技行 に、ICTを活用し 習者のICT支援に の興味関心をひ 後、自分自身が	析や知識を修得 た授業現場をは 携わり, どのよ くことができる	することを目的 はじめとする教 こうに効果的に かどうかを体得 てどのようなま				
	国語教育コース専 門科目	小学校教科	内容(国語)	るととも 及び教材 でどのよ 科書教材	っに、特に言語 対開発に必要な こうに取り上げ	事項を中心に取 基礎的知識を講 られ扱われてい 的な読解活動に	り上げて、小学 義する。②当誌 るかを批判的に	の全体を概観す 対域国語科の授業 変事項が各教科書 に検討する。③教 足し、実践で活用			
		国語学概論	1	る到((と)(接() (と)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)(を)	口識を学ぶ。国 東 1本語を言語学は 1本語を関する 1を3 1を3 1を3 1を3 1を3 1を3 1を3 1を3	語学への入門で 的観点から捉え 音声、文法の基 車を考えること 項語事象、言語	ある。 ることができる	戦を身につけるこ 基礎的な事柄・知			

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分		科目の名称			講義等の内	1容		柏原キャンパス 備考
	国語学概論	а В	る (() () () () () () () () () (識を学ぶ。国語を学ぶ。国語を学ぶ。国語を言するの ・ 語を言するの ・ 語教育との関連 ・ の関連 ・ 語教の学びをに、語の ・ 語科ショな言語・ ・ 体のした。 ・ 講義内容に関する。	哲学への入門では 対観点から捉えの り基礎的な言語: 重を考えることに まえて国語では は ままえて 国な語の歴を は を またこの に な い は に の は に り い に つ は に り い に り に り に り に り に り に り に り に り に	ある。 ることがすできる。 がでについる。 がでについる。 がでについる。 がでについる。 がでについる。 は基本でにある。 は基本では、 は基本では、 はある。 はいる。 といる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	けることができ 対彙、表現、コ ☆事柄・知識につ か、、その分析を発	
	国文学概論	育A	大沢の童通と将得るの目の	おける電話文学 焦点を当てる。 焦点を当てる。 後に教科書等 学校から国語系 学学なるにあり 員となるに同り	学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	習する。作家の 和初期において されたものが多 書に掲載されて の基本的資質を る文学に関する 意見を交わす中	に、明治財から宮には、特には、特には、特には、特にできる。 特には、特には、特には、特には、特には、大きな、特には、大きな、特には、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	
	国文学概論	àΒ	の可能性 変化し続 た日本の	をさぐる。 ける世界の文(文学はいかなる	ととその現象の「	中で、古代から 能なのか、歴史	り未来に向けて はぐくまれてき 的変遷や近代批	
	漢文学概論	àA	白川静の 思想教材 しての『』 研究的な	漢字学説につい としての『論記 唐詩選』、おる 考察を加える。	へて概説する。 : 吾』・歴史教材:	また、現行の澊 としての『史記 『日本外史』等 訓読のリズムを	:』、藤堂明保と 文教科書から、 3』・文学教材と 6)を選び、教材 ・体得させるた	
	漢文学概論	àB	た後、孔 語』・『 クや暗誦	子から孟子・* 孟子』・『荀= 課題を設ける。	お子へと展開する 子』に即して解	る儒家思想の流 説する。その際 需家の思想的料	について概説し iれを、『論 ミ、グループワー f徴や個々の言葉	
	国語科教育	了入門A	ンについー まなり を を を を を を を を を の り を れ は せ て く く く く く く く く く く く く く く く く く く	てク支成コ現演う体形ユニン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	が歩として、主 式の活動を行う。 ニケーションの いについての自 りなレッスンを こよるコミュニー 目いた国語教材	こ身体表現活動通子のより と対象となり 出すた 能とがまた といり 化ョットラーションの 基礎解の 取る とが はい かっち とが ない かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しょう はんしゅう しょう はんしゃく はんしゃん はんしゃく はんしゃく はんしゃく はんしゃく はんしゃく はんしゃく はんしゃく はんしゃく	マニニケーションの は は は に に に に に に に に に に に に に	
	国語科教育	 了入門B	いうどて見材国る人活言例た私め究科語なり動	文化について名は 大化に古話では 大はが教がちんいない 大きない 大きない 大きない 大きない 大きなが 大きない 大きなが 大きな	分析的にたない。 計画を があり、 があり、 があり、 があり、 があり、 があり、 である。、 をがまけている。、 をがますが、 があり、 があり、 があり、 があり、 である。、 をがますが、 があり、 である。、 をがまり、 である。、 をがまり、 である。、 をがまり、 である。、 をがまり、 である。、 をがまり、 である。、 である。、 である。、 でいか。 でい。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいが。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でい。 でい。 でいか。 でいか。 でいか。 でいか。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが。 でいが、 でいが。 でいが。 でいが。 でいが、 でいが。	ための基礎的な かな物語では 本的ないれてに さい で実際に子がる でで、基礎に でで、基礎で でで、 がは がは がは がは がは がは がは がは がいれてに は で で で で で で の が が が が が が が が が が が が が	-マに始まる、子	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
教育学部学校教育	「教員養成課程) 「		1					柏原キャンパ I
科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	容		備考
	国語学特論	A	うち、日本 特徴を中心 (1)国 技能を身い (2)日本	本語音声学に関 心に取り上げる 語教育に応用で につけていく。 本語諸方言の音	する基礎知識さ う。 ごきるように、「	を学ぶ。国語学 日本語音声学の 理論的な枠組	日本語学)分野の 生特論Aでは語音 の基礎的な知識と 日みと音声事象と ですすめる。	
	国語学特論	В	うち、日本 特徴を中心 (1)日本 ついての (2)諸	本語音声学に関いている 本語の 上げる 本語の 韻律的 物知識を身に着けた ままま かまま かまま かいしょう しょう かいしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	関する基礎知識を う。 特徴についての関 ける。 ィトやイントネー	を学ぶ。国語学 関心を持ち、そ ーションの特徴	日本語学)分野の を特論Bは音律的 この特徴や機能に 対を知る。 日を考えることが	
	国文学特論	A	みの形と 品、文学 を を 数 ぎ ま だ ま だ お に お さ に お さ に た お に た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	それらから導き 教材について <i>の</i> , ,	送出される表現の の知識、素材の記 の諸形式や古典の	の可能性を考察 売み、分析のた 文学と現代文学	ながら、様々な読	
	国文学特論	В	となるにる 的には近 表をする。	あたって必要と 現代文学に関す ことによって、	なる文学に関っ	する知識の獲得 て、授業内にお 知識を更に深め		
	書道概論I る。)	(書写を中心とう	り方や、言整った字形 小学校書で 書けるよ	部分の組立て力 形で書くことが 写の目標をふる う、毛筆の基本	デを理解すると ぶできる。 ミえ、楷書体を「	共に、用筆の力 中心とした正し 部分の組立て力	基本的な字形のと 〒法を体得し、 しく整った文字が 〒や、字形のとり	
	書道概論II する。)	(書写を中心と	配列を学》 連続、省	ぶ。中学校書写 略の方法を理角 指導方法を会得	子で新たに学ぶ行 昇すると共に、行	う書の特徴であ う書の用筆を学	ト形のとらえ方や いる点画の変化や さび、筆脈を意識 、筆や硬筆を用い	
	国語科資質	・能力開発論I	し、教材で ができる。 小学校お。 る教材分析	を通して学習者 , よび中学校の記	が身につけされ 説明的文章教材に	せたい資質・能 こ焦点をあて、	女の観点から分析 ミ力を捉えること 複数の観点によ 単位での説明的教	
	国語科資質	•能力開発論II	けても文材料が的に、現一では数変用的で、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こので	学教材を取り」 分析を行う。を していく系統性 な資質・能力」 することが可能 つのかを考察す	上げ、小学校低 たの中で、それっ は等を見ような とどの「物の見っ る。その上で、 る。 ものな言語 ないな言語	学年から高学年から高学年の教材の教材の教材の教育の教育の教育の教育の教育の教育が表表方」と というないできまた「資子」という。 というないでは、「資子」という。 というないでは、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「資子」という。 できない、「できない。」というできない。 できない、「できない。」というできない。 できない、「できない。」というできない。 できない、「できない。」というできない。 できない、「できない。」というできない。 できない、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	かな国語教材、分な 知なと 対なと 持つ共通性、 対す課程に はして にして にして がして がして がして がして がして がして がして が	
	国語学講義	IA	スキルの て、話体 ジャンル、 する。 () を決めて て活用する	習得を主眼とし 論(文体、レー 、世代的なもの 2)音声言語 スピーチの練習	て、(1)日z 、リック)の観』 つ、方言等につい 表現のスキル向_ 習をする。そのご に資料作成のフ	本語の音声言語 点から、個人的 いて分析する力 上をめざして、 スピーチを分析		
	国語学講義	IB	の習得を認めないでは、一部資料と	主眼として、 , 世代的なもの 義する。(2) マを決めてスト して活用する。	(1) 日本語の つ、方言、教室 音声言語表現の ピーチの練習を	音声言語の諸村 言葉等について アスキル向上を する。そのスト 資料作成の方法	りな知識とスキル 目について、個人 ご分析する方法に いめざして、毎年 ピーチを分析の言 まを学び、作成し	

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育教	(員養成課程) 							柏原キャンパ
科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	容		備考
	国語学講義	ĮĮ	る。 (2)語 単位の (3)て 上げ達 (1)語 (1)言 (2)言 る。	、連語、文、ス 、東語、文、ス 、東について活語の に日常生活語の グループで検言 や語彙を意味。 を語表現における 科書教材のテク	で表現、談話・ころ。 一名。 シ言語事象や教材を行う。 ・語彙論的な語彙論的な語言語的意味と記	文章及び韻律的 科書教材を分析 現点から分析で 語用論的意味の	整的な知識を述べ 内な事象の各言語 斤対象として取り できる。 り区別が理解でき 倫的知識とスキル	
	国文学講義	ĔΙΑ	指更る明の文よとめうらに品いていた。	もに、くない。ととばいるとは、ととばないでない。ととばれるとはいいない。といいないは、これがいいい、これがいい、これがいい、これがいい、これがいい、これがいい、これがいいい、これがいいい、これがいいいいいいいいいい	、発表するこ。、文学に対するこ。にいく。で学史を特に児童関係している。場所している表を行った。	とを通じ、文学る関心を深め、 電文学作品に続 それぞれの時期 うことで、日本教員となるのに	る知識の獲得を目を が関わる。 を自ら調べ、考え に関わばがらる関すがのる。 を学生に関するとのでは、 を学生のでは、 を学生のでは、 を受いるでは、 を必ずのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるがのでは、 をができるができるができるができるができるができるができるができるができるができる	
	国文学講義	≹IB	の獲得を 国語教科 『徒然草	めざす。 書においてポ 』について作者 十二段、第百二	゚゚ュラーな古典』 ゚゚゚゚゚゙゙ ゚゚゙゙゙゚゙゙゙゙゙゚゙゙゙゙゙゙゚゚゚ヺ゚゚゙゚゚゙゚	文学教材として 字段、第四十-	のより高度な知識 で扱われている 一段、第八十九 室な語釈、解釈、	
	国文学講義	žII	しい技法 をめざす。 国語教科 の計画づ	,機器類も利用。 。 書で用いられて	した有効な古典 いる古典文学(れを発表する)	文学授業の形 作品を用い、3	る。さまざまな新 を開設すること 実際の授業の指導 こ向けた古典文学	
	国語科授業	(実践論	経緯につ やセット	いて理解する。 教材、論理、諸	説明的文章教権証に焦点をある。	オを対象とし、 てた教材分析と	D立場や歴史的な 「認識の方法」 と学習指導案の検 受業を実施する。	
	小中連携国	司語科学習開発諸	る一とれ今と自「物価「 る一とれ今と自「物価「 を教る齢はどに演材テ演	意室。期、のと習をク習作 はおけるでは、 といけらいでは、 といけらいでは、 といけらいでは、 とでいるととでいるとでは、 とでは、 とでは、 とでは、 とでは、 とでは、 とでは、 とでは、	対分学のでは、 大きのでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	こ院マー を に た な に た で に た で に た で に た で に た で に た で に た で に た の の に の の に の の の に の の の の の の の の の の の の の	うな二つの関連す き達をとらえること さいは大切になるに でからないであると でからいます。 でからいます。 でがいる。質では でがいる。質では でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがいる。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがい。 でがいる。 でがい。 でがいる。 でがい。	
	国語教育実	K践演習I	学/国文 究的に探 業実践の 講者それ 協働学習	学・漢文学に関究するための力 中で活用できる ぞれの関心領域 を通して実践的	まする基礎的な好 所法論について が法論について が能力を育成する はに基づいて、 がな探究の基礎	知識、またそれ 理解を深めるこ ることを目指す グループワーク 力を身につける	国語教育学/国語 いだれの領域を研 いだれの領域を研 け。そのためにった かにったる習といった かで、 は いった が は いった が は いった が に が に る に る に る に る に る に る に る に る に	
	国語教育実	長践演習II	学/国文 究的る 領域に と り の の は り の り の り の り の り の り の り り り り	学・漢文学に関 究するための力 を育成すること づいて、グルー 究の基礎力を与	する発展的な好法論に基づき、 注論に基づき、 ・を目指す。その ・プワークや演習 がにつける。探究	知識、またそれ 国語科授業等 のために受講す 習といった協働 求し研究成果と	国語教育学/国語研究 (国語教育学/国語研究 (国語研究) (国语研究) (国語研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国语研究) (国語研究) (国语研究	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育教員	養成課程)		T					柏原キャンパス
科目 区分	授業科	・目の名称			講義等の内	勺容		備考
	国語学研究I		る実践 (1) (2) (3) [(4) (漢1) [(共7) [(2) [(2) [(2) [(4) [内な知識とスキーストで、 で、大きな、スキーストで、大きな、スキーストで、 で、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	ルを身に着ける 諸研究課題を理 アプローチの性 語研りた論 に即した論 ないては、国語学 グループ討議を 学校の国語科授 えた教材開発に	解できる。 方・諸研究方法 を理解できる。 書き方を身に着 学諸分野の基礎 行う。 業における言語知識 資する言語知識	計ける。 的な文献を取り 野事項に関する理 我と研究方法を学	
	国語学研究I	I	到達目 中 名 (1) [(2) [(2) [票 受び 京の 等学と で の お語書数 音等 を と の で の で の お語き数 が の で の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の で の の の で の の の で の の の の の の の の の の の の の	ルを身につける 分野の研究の方 としての言語知 語教育との関連 論文を講読しグ ローチの仕方と	要な国語学 (日	本語学) に関す できる。 なを持つことがで すう。 た学び、自らの課	
	国文学研究I		精読を? がら、 ²	うう。それぞれ それぞれの作品	の作品について	、原典となった深く知り、発表	≅家の文学作品の 上作品と比較しな 長を通じて、それ ら解釈を深める。	
	国文学研究I	I	本文研究をめざい収集し、日本の行	究等を紹介し、 す。特に平安朝 自身の研究の 各時代に於ける	文学における最 方向を確定する	ための知識・技 新の研究動向に 。 れの諸作品、先)歴史、文芸学、 技術の確実な習得 こついての情報を 合行研究について	
	国語教育学研	F究I	るためいごや、ごや、切児期のたりに対している。	こ、文学的体験 遊びから文学的 っこ遊びの記録 の子どもたちの 文学作品の分析	の根源を幼児期 体験への道筋を の検討を通じて あそびの素材と	の子どものごっ 、具体的な児童 考察する。 なりうるような う。その中で、	のな視野を確保す のこ遊びに求め、 文学作品の分析 な絵本を中心とし 文学とあそびの	
	国語教育学研	Ŧ究II	析本る本願つしている。	具体的には、 担して分析するの側面の絵本を制 を反映した絵本 なから一貫して	「おしいれのぼ 。その際児童文 ちその本を手に 作し、子どもに である。この 分析を行い、そ 期へと子どもた	うけん」という 化財としてもの することを 届けることを たまな に なり ない が が が が が の り が り の り に の の に り の り に り の り り り り り り り	し上げ、詳細に分 は大較的 を構成的を構成を 質いを反い でしたるで はいまるで、ことを はいまるで、ことを にいく、 でいく、 にいく、	
	国語教育ゼミ	:ナールI	分野の記 必要な ¹ (2)	論文の形式の概 専門分野の基礎 順番制で発表し		ともに、自らの る。	関し読解し、関連 課題論文作成に ・演習する。	講義8時間 演習22時間
	国語教育ゼミ	: ナールII	(2) 4 (3) 5 討議を編 (4) 1 を深める	各自の課題・テ 頁目、節、章ご 経て修正してい 目的・方法・論 る。	<.	料等の活用を工 て積み上げ、発 し、論文全体の	こ夫する。 終表し、グループ)整合性・論理性	講義8時間 演習22時間

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
科目 区分	授業	科目の名称			講義等の	內容		備考
英語教育コース専 門科目	英語音声学	ï	的変遷、 選別 いての講 音声とし	とりわけ、大 祭共通語としての 解することを目 をでは、教科書 の基礎的知識を	母音推移ならび の英語にみられ 票としています 『英語音声学入 講義し、発音の	に発音と綴りの るさまざまなる 。 門』やと配布資 演習を行います	音声における歴史 の不一致、さらに 発音の多様性につ 資料に沿って英語 す。 その演習の ズ』を使い、発音	
		on to British an Literature	化についての以と・表・の歴史や	いての基礎的な: つディス学校及学びを中学を目標の さいまな。 さいまな。 では、 いきな。 では、 いきな。 では、 いきな。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 いきない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	田識を身につけ ヨンや発表を行び高等学校にお とする。 ルの著名な英米 の思潮や社会の の基礎的な知識	る。また、原3 う。 ける外国語科の 文学の作品を 動向など、イ ² を習得する。	リス・アメリカ文 文の講読や内容に の授業に生かすこ 売み、多様な英語 ギリスやアメリカ 自分なりの解釈を	
	Integrated	English I	業の基本 グ・ピア	本活動はグルー アフィードバッ コンである。積	プワーク・ペア ク・ディスカッ	ワーク・授業 ^に ション・ディイ	が求められる。授 中のライティン ベート・プレゼン を述べる事が求め	
	比較文化論		おかれるとでは、おからないでは、おからないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	女育機関からの で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	留学生も含まれ っては基本のない 養・ディスカッタ 者同士のことが とされることが	る。このためれ 英語コン・コーラション・ションションションが 別待される。 5 り上げることが	あるが、受講者者に 受業は英語で行力が テーシック・授業の ディング・体験を 通して、から提集大の でプレゼン でプレゼン	
	Speech Com English I	munication in	を置きな 業は全て (発表、 ミニ教育	ながら、英語の で英語で行い、 討論、交渉を	総合的な能力や 学生には積極的	技能の育成、向 にリーディング ることが求めら	ケーションに重点 句上を目指す。授 がやスピーキング うれる。クラスで 果題(ブックリ	
	Speech Com English II	munication in	を置きな 業は全て (発表、 ミニ教育	ながら、英語の で英語で行い、 討論、交渉を	総合的な能力や 学生には積極的	技能の育成、向 にリーディング ることが求め	ケーションに重点 向上を目指す。授 がやスピーキング られる。クラスで 果題(ブックリ	
	英語音声学	II	『英語音 義し、発	音声学入門』や 発音の演習を行		て英語音声学の 質習の一部とし	の基礎的知識を講 て、『英語でう	
	英文法研究		いいしてで教的読がいる書考で、	解し、英語伝統 解し、英語伝統 解し、英語のな 時にのが でいる にのは でいる でいる でいる でいる でいる でい でいる でいる でいる でいる	的文法と普遍文 去における歴史 文法の多様性に 変修した内容を います。 講義形式を採用 立ちについての	法ならびに文の 的変遷、さらい ついてきらい 英語学研究I・ します。毎回、 教科書あるいい 答の時間を設い	形態の仕組みの違の構造と派生につこことを は 国際共通 居とる ことを ままず と は IIに継続・発展 生成文法のよと まます。 定期 試験 します。	
	Integrated	English II	業の基本 グ・ピア	本活動はグルー アフィードバッ ョンである。積	プワーク・ペア ク・ディスカッ	ワーク・授業 ^に ション・ディイ	が求められる。授 中のライティン ベート・プレゼン を述べる事が求め	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教	教員養成課程	!)						柏原キャンパス
科目 区分	授	業科目の名称			講義等の内	內容		備考
	小学校教	科内容(英語)	表)」「記と習る語では、 これでは	売む」「書く」 もに、授業実 得理論、コミ ニックス)、 等の各領域の	の4技能5領域 践に必要な英語 ュニケーション 文字の書き方、	成における基本 力の向上を目打 、音声、語彙、 文法、うたやり	の)」「話す(発 的な事項を理解 旨す。さらに、第 音声と文字の関 見童用物語、国際 義と基礎的な指導	講義14時間 演習16時間
	中等英語	科授業研究	を身に付 業を行う	ける。そして ことで、さら	自身が授業の組 なる実践力を養	み立て方を学び う。また、評価	授業改善の視点 が、実際に模擬授 面について考えた ても議論していき	鎌羊15時間
	応用言語	学	開する。 ることを のやり取	受講者自身が 特に重視する りの機会を頻	学んでいる内容 ため、口頭での	を適切に言語(やりとりやLMS 業内容理解を最	を中心に授業を展 とできるようにな を用いた文字で 最大化して、授業 目指す。	
	Advanced	Communication	アワーク が求めら 英語力向	とグループワ れる。 J上には継続的 ation IとAdv	ークで自分の意 な使用が必要と	見や思考を積板 いう観点から、	が必要である。ペ 極的に表現する事 Advanced -年度に履修する	
	Advanced	Communication	アワーク が求めら 英語力向	とグループワ れる。 上には継続的 ation IとAdv	ークで自分の意 な使用が必要と	見や思考を積板 いう観点から、	が必要である。ペ 極的に表現する事 Advanced −年度に履修する	
	英語科評	- 価論	ストと観 スニング め、教育 学校の評	点別評価やラ の各評価の基 現場において 価法の問題点	イティング、ス 本や技能統合的 評価する方法に	ピーキング、! 活動の評価について指導を行 行の指導と評値	りには、CAN-DOリ リーディング、リ ついて知識を深 すうことにより、 ⊞の課題について	講義22時間
	小学校英	語科授業研究	Try! (中 Elementa して、小 た教材に 2. 4 に関する 3. 1.	学年向け)お ary (東京書籍 学校外国語教 必要な知識・ 支能5領域に対 教材を紹介、 2を踏まえて	よび高学年向け 新)、Here We G 育での教育内容 技能を理解する 対応し総合的な打 研究を行う。	検定教科書、No! (光村図書) や構成、児童の ・構成、児童の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	DテキストLet's ew Horizon の教材研究を通 D発達段階に応じ 材や異文化理解 数科書に関連した	
		of British and Literature	スたな自和ギスト時知分が表別がある。	み、その特質の 思潮や社会の 習得する。授 の意見かすこと に生メリカと となる歴史・	や多様な英語表動向など、英語表動向など、英語表業で学んだ内容 業構築し、中学を構築る。 学の代表的な作	現を学ぶと共にの歴史や文化にをもとに原文で 校及び高等学校 品を各時代から 理解を深めつい	やジャンルのテク こ、作品が書かれ こついての基礎的 で作品を精読し、 交における外国語 ら一つずつ取り上 の、原文の講読や	
	Introduc Linguist	tion to English ics I	める。英 内容は以 a) 英語学	語学の特徴に 下のとおりで の研究対象	ついて言語学や ある。 b) 人間の言語と	認知科学の観点 動物の言語の特	引き取る能力を高 気から学ぶ。学習 寺徴 c) 脳にお 通語としての役	

授	業	科	目	Ø	概	要	₩ ⋤ ⊁ :
				講義等のP	勺容		柏原キャンパス 備考
		きぶこうに るとの ると のる の な は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	こなる。特に に、人間の言 では英語を使 語学の特徴に 下のとおりで 義と記述主義	英語に焦点をあ 語の特徴につい 用し、英語での ついて言語学や ある。	て、英語学関連 て考察する力を レクチャーを 認知科学の観点	車分野について学 とつける。 引き取る能力を高 気から学ぶ。学習	
英語学研究	究I	立ちについ 下さい。 時間を設り	いての教科書 講義では、教 けます。定期	あるいは配布プ 科書の内容を日	リントを読んで本語で確認しる	で、授業に臨んで ます。質疑応答の	
英語学研究	究II	立ちについ 下さい。 時間を設 <i>い</i>	いての教科書 講義では、教 けます。定期	あるいは配布プ 科書の内容を日	リントを読んで本語で確認しる	で、授業に臨んで ます。質疑応答の	
Advanced III	Communication	アワーク が求められ なお本授	とグループワ れる。 業の履修はAd	ークで自分の意 vanced Communi	見や思考を積板 cation Iあるい	極的に表現する事 ^はAdvanced	
Advanced	Communication	アワーク。 が求められ なお本授美	とグループワ れる。 業の履修はAd	ークで自分の意 vanced Communi	見や思考を積析 cation Iあるい	w的に表現する事 いはAdvanced	
TEFL Stud	dies	ら考えて、 つけの語句 な英語句 識の獲得。	、これからの 語教員になる 学・TEFL研修 の向上だけで や模擬授業の	時代に求められ ために、Univer に参加する。高 なく、第二言語 実践と専門家か	る高度な英語技 sity of Victo 度な英語授業等 習得・学習者理	受業実践力を身に riaが提供する12 E践に必要な確か 里解等の理論的知	
英語教育*	学研究I	に常に最初でいて、これる新たり	善を尽くす英 英語教育」誌 これまでに学 な知見も交え	語教員となるの などで取り上げ んだ英語教育学 て議論して、日	を助けるべく、 られる最新の に関する知識や 々変化する日2	本授業では大修 ピックや課題に や文献等から得ら の英語教育にお	
英語教育等	学研究II	や真に効! ツールを! た上で活! の中で活!	果的な方法を 無闇に使うの 用できるよう 用可能性があ	英語教育の文脈 ではなく、その になることを目 るツールを取り	で学んでいく。 背景や学習効り 的として、特に 上げ、どういっ	数多く存在する 果を的確に把握し こ日本の英語教育 った学習者がどう	
英語教育等	学研究III	から、校科 小中高の名 おいて重要 キュラム、	種間の連携が 各校種におけ 要なことを学 、公立学校に	ますます重要に る英語教育が目 ぶ。検定教科書 おける校種関連	なってきている 的とするとこれ に見られる連携 の実例などれ	る。この授業では ろと、その連携に 鳥や一貫校のカリ いら、どの校種に	
英語教育等	学研究IV	の知識を学の授業での授業である。 一のでである。 一のでは、 一のでは、 一のでは、 一のでは、 でのまでは、 でのまでは、 のでは、 でのまでは、 でのまでは、 のでは、 でのまでは、 のでは、 でのまでは、 のでは、 でのまでは、 のでは	学習者が効果 は英語学に関 ・語法・文法 事例や第二言 いや学習者要	的に身につけら するこれまでの をどのように英 語習得の研究に 因にも注意を払	れるように導く 授業で学んだ知 語の授業で教え 基づき検討する	くことである。こ 日見に基づき、英 こるかを、これま る。また日本語と	
	所教員養成課程 授 Introduc Linguist: 英語学研 Advanced III Advanced TEFL Stud 英語教育・	授業科目の名称 授業科目の名称 Introduction to English Linguistics II 英語学研究I Advanced Communication III	「大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	接業科目の名称	接業科目の名称 「基礎的な言語知識から英語の情点についる。 「基礎的な言語知識から英語の情点についる。 「意とともには、人語語学を記憶集についる。 「必要英語教育を使についる。」。知識主義と記述主義。 「必要英語学のとおりである。 」 規載主義と記述主義。 「以下のとおりになる。 」 規載主義と記述主義。 「以下のとおりになる。 」 規載主義と記述主義。 「要語学研究」 「実語学研究」 「実語学研究」 「実語学研究」 「実語学研究」 「演習形式の授業で、現期試験では、基礎的な音話とします。 「演習形式の授業で、可ワークでは、のでは、変別が求められる。 「なお本授業の関係は私がなのでは、変別が求められる。 「なお本授業の関係は私がないのでは、変別が求められる。 「なお本授業の関係は私がないのでは、変別が求められる。 「なお本授業の関係は私がないののでは、変別が求められる。 「なお本授業の関係は私がないの時代に対してを修得していなお本授業の関係は本がないの時代に対している。」 「なお本授業の関係は本がないの時代に対している。」 「学びすがないまる。言語など、表別に任何を修得している。」 「おおいらなるの時代は単位を修得している。」 「おおいらならない。」 「学びま話といる。」 「学びま話といる。」 「学びま話といる。」 「学びま話といる。」 「学びまないだ英語のでは、変別を明まらいにである。 「学が、最善を表します。 「学の時代になく、ともいいす。これらいて、まに、表別を明まる。」 「学びまないだ英語となります。」 「学の対策ないといるというに、表別を明まる。」 「学の対策ないというにとない、対しているに、表別に、まに、表別を明まる。」 「学の対策ないというに、といるが、表別を明まる。」 「学の対策ないないない。」 「学の対策ないない。」 「学の対策ないないない。」 「学の対策ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	接業科目の名称	接着特別の名称 構築等の内容 基礎的な言語地職から東部の言語学的な特徴について理解し、設明できるようになる。特に東部に出てから表別の活音が関係とついて理解し、設明できるようになる。特に東部に出して参考する力をつける。とともに、人間の言語や特性について音響であるから、から、と語やの大きを入れている。との授業では英語を使用し、英語でのレクチャーを制造取る能力を高める。大語学の特徴についての対象に対してのとおりである。 の規範主義と記述主義。り英語の音声ンステム・英単語の構造の方案の構造 東義形式を採用します。 特別、生成文法の基本的な考え方、文の成り立ちについての教科書あるいは配布プリントを読んで、授業に臨るででもについての教科書あるいは配布プリントを読んで、授業に臨るででもについての教科書あるいは配布プリントを読んで、授業に臨るでいての教科書あるいは記布プリントを読んで、授業に臨るでいての教科書あるいは記布プリントを読んで、授業に関係を設します。 「講義形式を採用します。 范別、生成文法の基本的な考え方、文の成り立ちについての教科書あるいは記布プリントを読んで、授業に臨るでいての教科書あるいは記布プリントを読んで、授業に臨るできたいとつかを確認します。 「講義形式を提出します。 近別、生成文法の基本的な考え方、文の成り立ちについての教科書あるのは記します。「表現を表現を対しているとを条件とする。」 「大きな大変をの機能はAdvanced Communication III に対して、会社の主意を表しまる。大変な影響を実施した。とな条件とする。 「本の表語教育を「確かりか自然を発展していることを条件とする。」 本の表語教育を「確かりか自然を対していることを条件とする。 「本の表語教育を「確かりか自然を対している」とを条件とする。 「本の表語教育を「確かりか自然を対している」となると表情に対した。 「本の表語教育を「確かりか自然を対している」となると表情に対した。 「本の表語教育を「確かりか自然を対して、のまれなどの表別となる。」とないでは、ままなとて歌歌社になるとかし、Lutiversity of Victoriaが提供する12 切りの表別とないの表別を必要が必要が効果的よりにある。この表別を必要が効果的としての表別を含まれている。この表別をとしての表別をとなる。この表別を音楽が効果的としての表面を含まれている。この表別をとしての表別を言いまする。と表語を音を表れている。この表別をとしての表別を必要が効果的に関するとように表の表の音を表が表が表が表が表が表しまする。この表別を含まれていまなを表が表が表が出まれているとな表が表の音を表が表が出まれていまなを表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(考	教育学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
	科目 区分	授業	 			講義等の内	1容		備考
		英語教育等	学研究V	えば良い れる。 的・認知 への応用 特徴を踏	というもので <i>に</i> である。本授 的・社会的要 について考える	はなく、その効! はこれまで!	果と限界点を把 に第二言語習得 それらの知見の 環境での英語学	それらはただ行 型握した上で行わ 計における言語 日本の英語教育 習という日本の 英語教育を考え	
		英語教育等	学研究VI	集めてい Integrate 語教育に 中心の英	るTask-based ed Learningに おける導入時の 語指導ではなく	language teach ついて、その理 O留意点につい 、明確な使用	ningとContent 記論的背景や方 て検討する。従 目的の下で英語	「日本でも注目を and Language 法論、日本の英 £来のインプット Fを「使いながら Pにつけていく。	
		英語教育等	学研究VII	での実践; になるた。 に受容ス: 必要な理! 学生から	経験を踏まえてめに、集中的な おい(リーディ いで認と、	て、さらに高度。 は模擬授業トレー (ング・リスニン 学習者を意識した いクを基に、さ	な授業を計画・ ーニングを行う ング)に焦点を た模擬授業の実	□見や教育実習等 展開できるよう 。本授業では主 と当てて、実践に とり、講師や他の を実践力を向上さ	
		英語教育等	学研究VIII	での実践になるたに産出スに必要ないの学生か	経験を踏まえてめに、集中的だけ、 サル (ライティ 理論の確認と、	て、さらに高度 は模擬授業トレー マング・スピーニー 学習者を意識 、ックを基に、	な授業を計画・ ーニングを行う キング)に焦点 した模擬授業の	□見や教育実習等 展開できるよう 。本授業では主 気を当てて、実践 ○実施、講師や他 長業実践力を向上	
		英語教育1	セミナーI	究テーマ(までの流) しっかり: 指導教員	の設定、先行の れの確認、必要 おさえた上で、	研究や現状のま。 要な知識・スキル なぜその研究 いディスカッシ	とめから研究調 ルの指導を行う を今しなければ	経関階として、研 限題の特定に至る 。分野の背景を ばならないのか、 自分の言葉で	
		英語教育も	セミナーII	行研究を を解決する 分析に、最	さらに広範かるために必要ないで自己の研究	つ深くまとめて、 はデータの収集 では、アータの中間・スキルの打に課題と照らして に課題とのでは、	、最終的に特定 等に取り組み、 指導を行う。特 合わせた上で適	経験階として、先 された研究課題 結果をまとめて にデータ収集と 値切な手法を身に 自分の言葉で	
		Academic	Writing	み、分析り、適切	することで、る な卒業論文を作	らにクラス内 f成するための	での実践と相互 基礎を学ぶ。こ	F成した論文を読 Eチェックによ Cのコースは最終 E生のみに開講す	
	社会科教育コース 専門科目	小学校報は	31内穴(社会)	を持つこを実は地形式で資料ので、歴史	とができ、教 理、歴史、公 われる。小学 の収集方法、利 分野(第1回 分野(第8回・	才開発ができる。 民の分野を専門 交社会科の内容に 斗学的な考察の 〜第7回)では	ようになることとするになるの名とするでいる。 とするいで複数の各学 方法と教材作成日本の地理的報日本の歴史と地	科学的な考え方: を目標とする。 会目標とする。 を目標とする。 を目の野球 が表が講義され にはりりい事 を対したが は対したが は対したが は対したが は対した。 を対したが は対したが は対した。 を対したが は対した。 を対したが は対した。 を対したが はが はが はが はが はが はが はが はが はが は	
		7、子仪教	科内容(社会)	(61山近 社会科((78櫻澤 社会科() (20串田	誠/4回) 歴史的分野) (秀也/4回)	こついて担当するこついて担当する	る。		3 A-M

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育	「教員養成課程) 	l						柏原キャンパス
科目 区分	授業	 と科目の名称			講義等の内	容		備考
	地誌概論		の相互作 て認識し 本授業で 文化・自	用によって各地 , 地域を総合的 は, 地誌学的視	域の特徴が生 に理解できる。 点から日本を行 し、その地域の	成されることを ようにする。 含む各地域の反 の性格・特徴を	った人文的な条件 と、具体例を通し 成立背景や社会・ と捉える地理学的	
	世界史概言	Й	国につい ンドロス ア、イン の匈奴、 開や歴史	て、アッシリア の帝国、ローマ ドのマウリヤ朝 中国の秦漢帝国	をはじめ、アクラング 帝国、イラング ・クシャーナリー・隋唐帝国を る。特に日本	ケメネス朝ペル のパルティアと 朝・グプタ朝、 取り上げ、それ	世界史上の古代帝 レシア、アレクサ セサン朝ペルシ 中央ユーラシア いぞれの歴史的展 琴漢帝国・隋唐帝	
	社会学		宗教倫理 と医療、	と資本主義の精	神、ラベリン: 、流言とイン:	グと逸脱主体の ターネット等の	設の社会的原因、 ○形成、現代社会 ○社会学における ○習得する。	
	経済学		本的な特 今日の日 基本的な	徴を理解し、勢 本経済・世界経	えることができ 済をどのようり 論を教授しなっ	きる。 こ理解し、教え がら、日本経済	P経済に関する基 とたら良いのか。 な論、貿易論と為	
	哲学の基础	楚	る。さら 身につけ 哲学の古: がら、哲:	る。 典、プラトン 『 学的な思考力を	で議論するこ。 プソクラテスの 。 鍛えていく。	とにより、自ら 弁明』『クリト 受講生には発え	〇本質を理解す っ考えていく力を ・ン』を読解しな そ・発言の機会が 一分な予習が必要	
	自然地理等	学の基礎	得する。 世界の地 日本や世	震や火山分布、	プレート境界。	と山脈等の世界 そして地形と別	対材の利用法を習 ₹の大地形および ‡水や土砂災害等	
	人文地理等	学の基礎	業などを に日本、	含む地域の歴史 大阪平野を中心	的な発達の様 的な事例とした	子などを具体的 と地形図の読み	り環境や都市と産 りに取り上げ、特 メ取りを含めて総 質問は歓迎す	
	地理学概計	公	理学およ文 等、人 が はオムニ (59山田 自然地理 (61山近	びGISによる主	題図作成や世界 講義するとと。 のための作業を 回)	及び日本の人 もに,それらの	アメリカの自然地 口とその諸問題 ○事象に関する資	
	日本史概記	Ή	の日本の ていくこ	位置付けや、歴 とにより、歴史	史教科書の記述 教科書の記述	述内容にも注目 内容について、	特に世界史のなか 目しつつ、検討し その前提となっ ごきることを目標	
	法律学		社会で生 ことを目 丁寧に説	じる諸問題につ 標とし、法や法 明する。また、	いて、法的な、 学についての 現代社会で生	ものの見方がで 基礎的な知識や じる法的な問題	こと。教育現場やできるようになる P考え方について ICついて具体例 と検討できるよう	
	政治学		(民主主 で現代の 標とする。 現在、日	義と言い換えて 国家や政治を構	も良い) 」体制 成している制原 る自由民主主	制の形成と現場 度・概念が理角 養体制が成立す	は「自由民主主義 代を把握すること なできることを目 ける過程並びに現	

		業	科	目	Ø	概	要	
教育学部学校教育 科目 区分	教員養成課程) 授業科目(の名称			講義等の内	內容		柏原キャンパ 備考
	倫理学の基礎		て説明した 概念の理解 な考察を行	たり、考察した 解を必要とする	よりすることを の。また道徳的	行う。そのたる 諸価値につい ^っ	里学の概念を使っ めに、基本的な諸 で多面的・多角的 から社会的事象へ	
	歴史探究の基礎		究・教材 担当教員に 作成する。 中心とした	開発を行い、持 こよる講義を行 担当教員が	受業案を作成で fった上で、中 「学習内容の解 「教材研究」・	きるようになる 学校、高校それ 説」を行うとる	系化し、教材研 3。 れぞれの授業案を ともに、受講生を ・「授業案の作	
	社会調査		活用できる て使い分に 社会調査の	るようになる。 けられるように の基本的な考え	主な調査方法 なる。 方と基礎的な	の特徴を理解し 技法、調査デー	t、調査データを 、目的に合わせ	
	西洋思想概論		してトマス げ、それる	ス・アクィナン ぞれの思想家の 中心問題を考察	、近代思想の ラクストの抜	代表としてデス 粋を読みながり	中世思想の代表と カルトを取り上 ら、そこにおいて 求められ、十分な	
	倫理学諸問題		ニズム理ii に対するタ	論」を使って考 分析を行う。持	察し、社会の	存立構造の変化 社会の特徴を	後半は「フェミ ヒと倫理的諸問題 倫理的な概念を ことを行う。	
	社会科教育学基	礎論	行う。 前半は社会 の中から 後半はグノ	会科教育の歴史 著名な実践を即 レープに分かれ	とについて概観 なり上げて考察	した後で、各目 し発表する。 会科のカリキ:	ェクト型の学習を 自が社会科教育史 ュラムと授業実践	
	人間と宗教		業には、ない に日本の持つに いる は本人の にこ、 を いる に 、 を と に 、 を の に 、 を り に り れ に る に る に る れ る に る れ る に る れ る れ る れ	まずさまざまののままでは、 まずさまだの 実生活の いっぱい 大考 に 大考 に 大き に で いっぱい で いっぱい で いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	の諸宗教につい こある宗教につい 、間学的意味な たに関するテキ でする。ついで	て基本的知識をいて基本的知識をいて理解を深め どを学ぶとといる ストをもとに行 その説明に対し	存在してきた。授を獲得する。とく かる。あわせて、 もに、それが孕む 毎回、数名の発表 して、参加者が議 本的な問題まで論	共同
	社会科基礎演習	I	につける。 査の仕方が 社会科の名	特に、資料・ などを習得する 各分野にクラス	文献探索の仕	方や専門分野いれぞれの学問分	は知識・技能を身 こ合わせた各種調 分野の基礎的な研	#6
	社会科基礎演習	II	につける。 指す。 社会科の名 究方法を打	先行研究を踏 各分野にクラン	まえて、自身 、分けして、そ 賃生による報告	の研究課題を見れぞれの学問分	は知識・技能を身 見つけることを目 分野の基礎的な研 ながら、各自が研	共同
	自然地理学特講		る。 地球の環境 河分布と フィヨル	竟変化について 変動, 氷河変重	「, 二酸化炭素 かと海面変化と	と地球温暖化等 それに関わるb	する知識を習得す 等の気候変化,氷 地形(河成段丘、 こついてデジタル	
	人文地理学特講		の基本的 空中写真	な調査法を身に ・地形図・地域 地の分布と変遷	つけて、分析 成統計・行政主	を言語化できる 題図の調査法を	を読み、文献資料 る。 を学び、公営住宅 業都市の近現代地	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学	学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
	科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	容		備考
		地理探究の	基礎	域学習, うための	景観写真を用い教材作成法の	ハた身近な地域号 ハた世界の自然選 事例を解説し、ラ 数材を作成し、多	環境学習等、探 デジタル地図を	究的な学習を行	講義15時間 演習15時間
		日本史特講	ŧI	に基づい 館等で調 と本講義で 特に世界	て、さらに詳 査を行い、集 る。 は、幕末維新 史のなかの日	こついて、そのf しく説明できる。 めた情報を用いて 朝から1940年代f 本の位置付けや、 を絞って検討して	具体的事例を 、自らの議論 が半までの日本 歴史教科書の	取り上げ、図書 を組み立てるこ 近代史を扱う。	
		日本史特講	ŧII	に基づい 館等でで と本講義で に世界史	て、さらに詳 査を行い、集 る。 は、1940年代 のなかの日本の	こついて、そのf しく説明できる。 めた情報を用いて 後半から1970年代 の位置付けや、歴 交って検討してい	具体的事例を こ、自らの議論 代までの日本現 歴史教科書の記	取り上げ、図書 を組み立てるこ 代史を扱う。特	
		東洋史特講	ŀ	や出土文 げなかっ 秦・漢・ しては、	字資料を利用 た時代につい 三国・西晋時 文献史料・出	代の歴史的展開を した歴史的思考でき したも自学りと諸問 としてもの歴史と諸問 と と文字資料をもど に ないない。 と と と と と に と り に と り に り に り に り に り に	方法を身に付け さる。 重について考察 にして、秦の	、授業で取り上 する。諸問題と 統一政策、地方	
		西洋史特講	E	の「世界」に考察切に種々の研究動	史」記述の背 る方法を学ぶ 語る方法の一 作を取り上げ 向を検討する。	つつ、西洋におり	と理解する。も 様なアプローチ ける世界史叙述	のごとを歴史的 から世界史をよ の展開と、近年	
		社会学特講	:	意思決定 にゆく過	、日本の医療 程と医療)等、	統制、病気行動、 制度、医療資源の 社会学の特定の 社会学的思考を 社会学的思考を	○適正配分、認 ○領域にかかわ	知症と介護、死	
		哲学諸問題	ī	でなる考本約トでなるのではが議るで変します。	会とは何か」社会思想の基本参加することは、人力を身についていたりわけれるが、とりわけれるが比的に	社会的政治的な問「国家とは何か」 関家とは何か」 遊知識を習得して こよって、哲学・ する。 西洋の古代・中世 取り上げる。それ 加者同士で討論し	という問題を こいく。また、 倫理学の諸問 せ的な社会思想 いぞれの代表的	原理的に論究し 授業中に行われ 題について自ら と近代の社会契 な思想のテクス	
		公民科探究		発を行い 公民領域 プによる	探究的な授業	習内容に関して、 役計ができる力を 解説をもとに授業 才研究、教材開発 発表する。	とつける。 美研究を行い、	受講生のグルー	講義15時間 演習15時間
		社会科発展	演習Ⅰ	課題を設 社会科の	定して、それ 各分野にクラ	おいて卒業研究を ぞれの分野に合え ス分けして指導す 尊も行う。受講生	oせた研究を進 hる。研究論文	めていく。 や各種資料・文	
		社会科発展	演習II	て、卒業 ての指導	研究の指導を	続き、社会科の テう。研究論文ペ 生による研究発表 る内容とする。	?各種資料・文	献の読解につい	共同

	授	業	科	目	の	概	要				
(教育学部学校教育教員	養成課程)		1					柏原キャンパス			
科目 区分	授業	科目の名称		講義等の内容							
数学教育コース専門科目	小学校教科	∤内容(算数)	の説現る例るなに例「例例手例白係例るをす代。題」かな題怒題題く題玉)題こうる数例1 & 7 * 2 * 6 * 2 * 6 * 2 * 6 * 2 * 6 * 2 * 7 * 6 * 2 * 7 * 8 * 8	できた。 できた。 できた。 でで子・「このでで子・「このでで子・「このでで子・」では、「東上供・「での一世会数がでいた。」では会数がでいた。 では、「東上供・「での一世会数ができました。」にある。 では、「までは、「では、」では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、「では、」では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、「では、」では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	ものの個数 容義の できる できる できる できる できる できる できる かいて こので いかし がい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	を買ってあげ、で100点を取れ り束を破ったこと 「勉強する」と (→選択公理) り中にある赤 等関 が?(→対等関 新たなお客を泊め				
	線形代数学	≐a	的な計算 線形代数 では線用	算方法を学び、 数学は、現代の 形代数学の基礎	線形代数学の基 科学技術を支え	礎的手法に習 る数学の根幹 体的には行列、	可式の概念や基本 ぬする。 かなす。この授業 行列式、連立1				
	線形代数学	éb	ではべる 値や行る 像などの	クトル空間や線列の対角化の取 列の対角化の取の抽象的な概念	型写像の基礎概 り扱いに習熟し を体系的に理解	念を解説する。 、さらにベク することを目的					
	微分積分学	≑a	行う。 到達目 1. 近候 うになる 2. 連絡	票 以の理論を理解 る。 続関数の基本性	し、イプシロン質を、証明でき	デルタ論法をるようになる。	とめ、演習問題を を使いこなせるよ 正明できるように	講義20時間 演習10時間			
	微分積分学	≐b	行う。 到達目標 1.多 る。 2.陰間	票 変数の微分法を 関数定理等を通	理解し、極値問	題などに応用で		講義20時間 演習10時間			
	代数学a		ぶ。 群論に関 る現代数	関する文献の輪 数学の方法に慣 おいては、演算	読を通して、公 れ、そのおもし	理から論理だ <i>に</i> ろさを感じるこ	り初歩について学 けで数学を構成す こと。 削余類を扱った内				
	代数学b		初歩に 群論・ 構成する 授業に	ついて学ぶ。 環論に関する文 る現代数学の方 おいては、正規	献の輪読を通し 法に慣れ、その:	て、公理から記 おもしろさを履 、同型と準同型	論」と「環論」の 倫理だけで数学を 感じること。 ☑、準同型定理と				
	距離空間		が出来る 幾何学へ 考が出 「幾何生	るようになる。 への関心が高ま 来るようになる。 学」の続きとし	るとともに、数: て、距離空間論	学の他分野を学・位相空間論に	で数学を見ること さぶ際に、複眼思 こおける連続写像 ことその解説を行	講義16時間 演習14時間			

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教	員養成課程)							柏原キャンパス I
科目 区分	授業和	科目の名称			講義等の内			備考
	幾何学		ことが出 幾何学へ 眼思考を めの能力 ユークリ	来るようになるの関心を高める 身につけ、教育 を持つ。 ッド空間の幾何	5。 5とともに、数 5への深い理解 可学から始め、(学の他分野を学 と高い専門的知 立相幾何学の基	見点で数学を見る さぶ際に必要な複 口識を習得するた 基礎(特に距離空 者で理解を深めさ	講義16時間 演習14時間
	解析学a		単なの複項素等し素質を表現である。というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	積分の積分計算を目標とする。数の正則性の意数の複素関数と一の積分定を表している。 数の複素関数と一の積分にでする。 がのでは複素関数とででは複素関数ででは複素関数である。 理学や工学とも	に習熟するこ 意味と理解するこ こしての性質を こ正則関数の基 る 命の基礎を解説	とを目的とする 理解する 本的な性質を理 する。複素 関奏 いるため、様々	概念を理解し、簡 6。具体的には以 建解する な論は数学だけで な分野への応用	
	解析学b		の計算方 標とする。 ・孤立特 ・留数定 この授業	法に習熟するこ。 異点の性質を理 理を利用した質 では解析学aに	_とを目的とす。 里解する E積分の計算へ。	る。具体的には の応用ができる 関数論の基礎	型を用いた実積分 は以下の項目を目 る を解説する。特	
	確率・統計	概論	確率論・の正確な	統計学の数学的 定義や、公式の 正規分布とその)証明などを中	講義してゆく。 心に、確率変数	こうになる。 すなわち、言葉 女や2項分布・多 上げ、基礎概念の	
	コンピュー	Ą	に関する LaTeX に 平行線・	基礎を身に付け よる数式や図と 円・三角形の抗	ける。	・ eoGebra を用い 成と Python を		
	代数学c		ぶ。 環論に関 る現代数 授業にお	する文献の輪読 学の方法に慣れ いては、多項式	売を通して、公 い、そのおもし	理から論理だけ ろさを感じるこ 剰余類、環	こついて深く学 けで数学を構成す こと。 進同型、環準同型	
	解析学c		換上拡定 上拡定 上拡 に のの のの のの のの のの のの のの のの のの	性は一様収束性しも確かめやするルベーグ積分より簡便になるではルベーグ系がではルベーグ系解決するために	±の条件が課された。 □ものとは限られることがいれている。これがルベートを導入の理論を概算分の基礎を解する。 □はないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	れていた。しかないた。しかない。そこで、そこで、とによりのの利点をできる。 関連すること リーグ 積する こり はずする で、	の極限との順序交 かしこれは がしこマンに がしこマンに でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた でいた	
	確率論		る、とい 例を通じ 「確率」 <i>の</i>	う数学に触れる て理解する。 O公理的な取り	扱いの基礎から	そういう形をと 始め、測度の	友き出し解析す こるべきかを、実 構成などの基本 生質を見てゆく。	講義28時間 演習2時間
	算数・数学	教育論	の提えたが場所である を表する の表する の表する の表する の表する の表する の表する のまずる のもまする のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもまる のもる のもる のもる のもる のもる のもる のもる のも	,教具やICTのできるようにでの実務経験を容の系統性や数法について理解容の系統性や数ないで、教材研究ができる。	活用,発展的な する。 を基に,教材研究 女学的背景,児 な学的背景,児 な学的背景,児	教材の扱い方 究の方法論に信 童生徒のつます 童生徒のつます	(児童生徒の認識等)を身に付け 系る指導を行う。 『き,ICT活用等 『き,ICT活用等 『できる。	

	授業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分	教員養成課程) 授業科目の名称			講義等の内	·····································		柏原キャンパス 備考
	代数学I	を群の 群の作	合に作用してい作用によって理に用について学ぶ。 、対称群、交代	解することを目 , 群論のいくつ:	的とする。 か理論(中心化		
	代数学II	て、中 本授業 型群、	間体の個数を求べては、体の拡大	めることを目的 , 有限拡大、代	とする。 数拡大、体の同	D基本定理を用い 同型写像、自己同 E規拡大、ガロア	
	幾何学I	また抽 て深く 幾何空	理解し、幾何学	微分幾何学を素 の視点で数学を 可欠な多様体へ	材として理解す 見ることが出来	トる。曲線につい	
	幾何学Ⅱ	また抽 て深く 幾何空	理解し、幾何学	激分幾何学を素 の視点で数学を 可欠な多様体へ	材として理解す 見ることが出来	ける。曲面につい	
	解析学I	説する と し, 翌 ある「	。特に基本的な 指した授業を行 週冒頭ではその	事柄に対する計 う。理解の確認 解説・講評も行 ハて学び,特に	算・証明が出す のために,毎週 う。線型代数学	ቖ析」について解 終るようになること 過演習問題を提示 単の無限次元版で こ対する計算・証	
	解析学Ⅱ	「関数 明が出		解説する。特に ことを目指した	基本的な事柄に 授業を行う。	こ対する計算・証 里解の確認のため	
	応用数理I	計算、し、マ	母関数の定義と	計算や推移確率 義と実例を知り	の計算等、基準	○積や水位確率の は的な性質を講義 多確率や再帰性を	
	応用数理II	と Poi 列、再	sson 分布、推移 生理論等の基本 連鎖など、実際	な確率の計算、定 生質を講義し、	常分布、可逆 マルティンゲー	ら始め、指数分布 分布、待ち行 ール・連続時間マ 耳し解析できるよ	
	数理探究	ベルの る。 を 含 数 学 と 講者 と	数学・数理モデ 集中講義では、「)を実際に体験 して」深く理解	ルに基づいて設 ハくつかの具体 し、その背後に することを目指 (ボード) ゲー	計されたもので 例(講義担当れ 潜む数学・数理 す。その上で、 ムとその数理は	り中には、大学レ の数多く存在す 者からの模擬授業 里モデルを「大学 中高生を主な聴 こついて教授する	
	数学演習a	をすす的資料を表現している。	め, その成果を 思考力を養成 文献講読を通じ 研究やポートと コカッションに	まとめることにる。 てそれをもとに から自身の研究 してまとめてき	より、数学的な 各自の関心ある 課題を設定する た成果の発表と	て、主体的に研究 なものの考え方、 るテーマに関連する。毎回の授業でこそれをもとにし よりの成果発表の	
	数学演習b	とる数き 毎 で で で る で る で る で る で る り る り る り る り る	ことにより、数: 習aで進めてきた 追究させる。 授業では各自が	学的なものの考研究課題につい	え方、論理的原 いて以下のよう た活動の成果を		

		授	 業	科	目	の	概	要		
(教育	学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス	
	科目 区分	授業和	授業科目の名称 講義等の内容							
理	科教育コース専 門科目	物理学IA		学・電磁 扱い, 確認 式をたて	滋気学・波・熱 数員として必要 忍しながら解説	カ学・現代物理な知識を中学校で な知識を中学校でする。現象をイ	学である。物理 や高等学校で学 メージし,図を	○分野がある。力 担学IAでは力学を たんだ内容を復 ・描いて考え,数 ・プワークでの演		
		化学IA		溶液系で 気体分子 エネルキ	での自由エネル 子運動論、理想 ドー、エンタル	ギーの内容と課題	題を理解する。 反応熱、熱力学 ルギー等、物質			
		生物学IA		を目標と生物はれる。生物	とする。 つれわれヒトを 勿学にみられる	含め,基本的に 共通性と多様性	は同じしくみて に触れながら、	ようになること で成り立ってい 細胞・遺伝子・ 7学の基礎を固め		
		地学IA		ることを 動,海洋 学生同士	を目標とし、授 羊の構造と運動 上が協働しなが	業では,固体地 こついて説明す	球の概観, 地球 る。主に演習問 解を深める。そ	のため, 教科書		
		小学校教科	内容(理科)	いて、かないで、ないで、ないでの扱いにの大きので、大学をできます。	様々な観察・実 とめの学びを提 れている主な観 ける観察・実 情や安全上の配 行う態度を身に との情報共有を	験を実際に体験 共する。具体的の 察・実験を用意 の意義や問題解 載の重要性を知っ	し,その指導法 には,小学校理 する。それを用 快の過程を知る ること。自ら進 「を用いて学習」 快ができること			
		物理学IB		学・電磁 後半と 内容を 考え, 数	滋気学・波・熱 皮を扱い,教員 复習・確認しな	カ学・現代物理学として必要な知識 がら解説する。 手に説明するこ	学である。物理 職を中学校や高 現象をイメージ	の分野がある。力 単学IBでは力学の 毎等学校で学んだ ジし,図を描いて り,グループワー		
		化学IB		溶液系で 気相系で 平衡、希	での自由エネルでの化学平衡、 での化学平衡、 であるである	ギーの内容と課題 容液内の平衡、	題を理解する。 化学ポテンシャ での相律等、物	本系ならびに希薄 ル、溶液系での 変質を形成してい う。		
		生物学IB		について 生物学に 胞・遺伝	てあらためて考 こみられる共通	えることを目指 生と多様性に触	す。 れながら、動物	ヒトという生物 別及び植物の細 ル、大学の生物学		
		地学IB		て,他者 の形成と に演習問	者がわかるよう と進化、地球内 問題に取り組み, そのため, 教科	に説明できるこ 部の活動、地球 学生同士が協	とを目標とし、 環境問題につい 動しながら学習	問題の概要につい 授業では、地球 いて説明する。主 関内容の理解を深 (予習や復習) が		
		科学のための	の数学	ローリンできるようを理解する	ン級数展開がで ようになる。線 うになる。ベク ける。 な厳密さは無視	き、多重積分でで 形代数では行列 トル解析ではガ	変数変換を行っ 式を理解して行 ウスの定理とス 求する。定理の	対分積分ではマク ってガウス積分が 可列の対角化がで いトークスの定理 の証明よりも具体		

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	育教員養成課程)	l						柏原キャンパス
科目 区分	授業	 終科目の名称			講義等のは	勺容		備考
	物理学IIA	ı	学・電磁 気学を扱 を復習・ え,数式	気学・波・熱 い, 教員とし 確認しながら	力学・現代物理 て必要な知識を 解説する。現象 に説明すること	学である。 物 中学校や高等 をイメージし,	の分野がある。力 理学IIAでは電磁 学校で学んだ内容 図を描いて考 グループワーク	
	化学IIA		点から理 点性を養う 化学の 有機化合	解と、学理解と、アルックをでは、ないでは、からないでは、 でんしい かいいい ひんしい しんしい しんしん しんしん しん はんしん はんしん はんしん はんし	育に応用できる 、分子の性質おいを体験し、分の理解を深める	力を養う。周期 よび反応性の 子軌道の概念に 。 様式を電子論	様式を電子論的観 明表の見方(電気 予測に応用できる ご触れ、有機化合 り観点から掘り下	
	生物学IIA	1	う。生物 作用のな 個体レベ 形成まで	学の基本的な かで進化して ルでの動植物	仕組みを理解す きたことの学習 の生殖に関わる	るとともに生物を目標とする。 生命現象からみ	つりまでを取り扱 勿が環境との相互 ě生その後の形態 環境との関わり	
	地学IIA		の構造に地学で扱	ついて、空間 う分野のうち	スケールと共に 天文学と呼ばれ	全体像を把握する科学の一部門	本の諸階層と宇宙 ける。 引について、基礎 戈果も適宜紹介し	
	物理学実愿	ģΙ	はさほど を自分の これまで の操作を して学校や る。いく	行ってこなかれてこなかれてことしていまるの等学の高いのではでいた。 ではるの等をできるのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	った学生が多数 とらえ、 等で、 それる を計る でした できる できた内容に けんでほん に でいる に でいる に に でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	である。与えらればないである。与えらればない。これでは、いることを実験できる。では、とのようなない。これでは、いる関すると、物理には、いるには、いるには、いるには、いるには、いるには、いるには、いるには、いる	が、高等学校で られた実験テーマ なんのためにそ り物理法則と関連 きする。 マを用意してい よがいかにして求 したいても	共同
	化学実験Ⅰ		授せされずう高等を必必	行がし作要までででて成とででなるる須きるのでないでないでないでないのる、りりないのが、	と、実験内容に 力を養う。人が キルを実験に付け 力を、実験確告 全を事前に確保	より生徒に化き続んでわかるな、それを紙を通してきるスキルを実施を実施し、実験を実施し、	けけ、安全に実験学を正しく理解さ 文章を書くと知ら 文章を書子書類のい 大きででいる。 大きでである。 大きでできできできできできできできできできできできできできできできできできでき	共同
	生物学実験	ψ Ι	る技能を 植物 (葉 ランクト	養う。 、花、シダ植 ン、メダカ標	物、コケ植物等) 及び動物(d し、組織・細胞	こ行うことができ 上壌動物、淡水プ 包の基本的な形態 と行う。	# 🖂
	地学実験I		等気の天の (327学法・学習 ムー井(327学法・学習 ムー井(327学法・書学出 を (95本・・・・) 本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	のは身はソ バ‡地に 気る 天が気付天ト 大機をでして、に、フ ス 咲層の直象。桂体のい弘観 / 観報のい弘観 / 観察担3の 回のはりない。 全国記当回測) 仕	べる方法につい の側定原理と気 の仕方を戻すう。 15回) 11) 11) 12) 15回) 15回) 15回) 15回) 15回) 15回) 15回) 15回	て学ぶ。 象観測の方法を の基礎を学び、 め方、地質図・ 法、地上天気図	質図・地質断面図 と学び、気象観測 天文学について ・地質断面図の作 図の作成) につい エア演習) につい	オムニバス

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	育教員養成課程) 							柏原キャンパス
科目 区分	授業	美科目の名称 しょうしょう			講義等の内	容		備考
	物理学IIB	}	学・電磁 気学の後 学校や高 イメージ	気学・波・熱力 半と熱力学・野 等学校で学んだ し、図を描いて]学・現代物理学 見代物理学を扱い ご内容を復習・研	学である。 物 ハ, 教員として 確認しながら角 たて, 相手に記	つ分野がある。力 理学IIBでは電磁 て必要な知識を中 な説する。現象を 発明することがで なける。	
	化学IIB		ケン、芳 を理解し アルカン に学ぶも	香族の、命名治 て理論的に説明 、図示できる力 、アルコール、 のについて、電	まを系統的な説明できるように対 できるように対 で養う。 アルケン、芳香	明ができるよう よる。有機分 香族の代表的な ら掘り下げる。	アルコール、アル うに学び、反応性 その立体的な構造 な反応で高校まで 黒板や紙を媒体 と取り扱う。	
	生物学IIB	1	う。生物 作用のな 個体レベ 形成まで	学の基本的な信かで進化してき かでの動植物の	上組みを理解する たことの学習る 2生殖に関わる	るとともに生物 を目標とする。 生命現象から	つりまでを取り扱 物が環境との相互 巻生その後の形態 D環境との関わり	
	地学IIB		ビッグバ ついて138 地学で扱 発展的な 間接的・	ンにはじまりえ 8億年の時間ス う分野のうちま 概論を行う。 よ 併設的な目標と	ケールと共に理 天文学と呼ばれる 先端科学とし	延生にまでわり 解する。 る科学の一部 ての天文学も近 知識体系、科	ヽて理解する。 とる宇宙の歴史に 月について、やや 適宜紹介したい。 幹的方法論、科学	
	力学		うる導を を を りる ことれ 習行 はの 重心 の 重心 の 重心 の に の の の の の の の の の の の の の の の の の	ートンの法則が 目標とする。 さ ことを理解する。 多粒子系の ことによって、 体の運動を学習 動と重心の回り	らに、万有引力 うことを目標とす う運動は一見複数 簡単な運動に分 間し理解する。 同の回転運動に分	保存則が導かれ 力の法則が導かれ する。後半でら を が が が が で で で で る る る る る る る 。 後 や る る 。 る 。 後 や で る る る る る る る る る る る る る る る る る る	時に1粒子系扱 1ることを理解すた 1のではとのでは 1のではの力学を 1のででででいる。 1を標準ででは 1を標準をでは 1をできます。 1をできまする 1をできまする。 1をできままする。 1をできまする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできままする。 1をできまする。 1をできまする。 1をできまする。 1をできまする。 1をできまする。 1をできまする。 1をできる。 1をでもる。 1をでも。 1ををも。 1をできる。 1をでも。 1をでも。 1をでも。 1をでも。 1をでも。 1をでも。 1ををも。 1ををも。 1ををも。	
	電磁気学		の実験で 的に取り に把握し る。 主として	ある。また中等 扱っている。本 、数式を用いて 電流と磁場の即	学校理科では、電子 授業では電流のできるような できるようなり扱いを簡単が	電磁気学のあられる で磁場に付随し ではすることを な数式を用いて	意気の実験や磁石 らゆる現象を定性 した現象を定性的 と到達目標とす こ記述する。この ことを心がける。	
	無機化学力	人門	理解する。 説明でき	。簡単な無機物 る。無機化学の の基本となる事	物質の構造と物性)基本的な用語!	生について化学 こついて説明っ	子分子レベルから 対結合レベルから ごきる。 合や構造化学を中	
	物理化学		り立たな 性質を用 量子力学 特有の から さらに、	くなることを対いた量子力学がに基づく考えが生じる と発光が生じる、順を追って、	にし、ミクロなけるといい。 いいまり、であることではより、化学によりを電磁波の の理由を電磁波の分かりやすく負	世界の法則を理 とを示す。 結合による物質 の性質、原子の 解説する。	アロな世界では成 理解するには波の 質の形成や、物質 ひ中の電子の振る こ計算で予測でき	
	動物科学		それがど 言及し, 動物の細 化、発生	のように改変さ できるだけ最新 胞・組織・器官	されたのか,また 所の知見や課題で ずのつくりや仕組	と新たに設立る を学ぶ。 狙みを解説し、	りな概念を元に, された分類群にも 系統分類や進 こめてヒトという	
	植物科学		的に学習 達目標と 陸上植物	することにより する。 の起源と進化‡)、分類学・生態 3よび分化につい	態学の基本的化 いて体系的に記	直物の進化を総合 ±組みの理解を到 说明する。多様性 車性について紹介	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分)			講義等の内	7容		柏原キャンパス 備考
区ガ	気象学		の基礎的発音の特徴は 目標として 授業では、 容の理解・	知識・技能を値 について, それ て設定する。 , 主に演習問題 を深める。	を得することを いらの成因を関う でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	目的とし、大気 連付けて説明で 学生同士が協働	背景となる気象学 気現象の形態や構 できることを到達 助しながら学習内 や復習)が欠かせ	
	天文学		物理学の記載内容の 現代の字 陽系天体、	基盤となる種々の根拠を説明で 宙物理学を学る	の天体現象へできるようにないための第一歩 こどの基礎につい	の理解を深める る。 として、天体ヨ	ならに現代の宇宙 5。学校教科書の 記象の素過程、太 ごて学ぶ。理工学	
	地球学		学,惑星の に理解で 地球を構 を身につい	の物質科学につきるよう,実置 成する岩石・鎖 けていること、	いて基礎事項 冒を複数行う。 な物や太陽系の	を学習する。当 物質科学に関す る様々な物質に	後し、岩石・鉱物 全習内容が実感的 よる基礎的な知識 こついて、その特 よる。	
	物理学III	[礎を学ぶ。 自由度の して,高	。はじめに単振 振動から連続を 等学校物理の教	長動の微分方程 の振動,波動	式について復習 方程式を扱う。 つつ,本授業 <i>の</i>	りな取り扱いの基 習し,その後,多 授業の進め方と 〕参考文献等に	
	化学III		論的観点 溶媒の効 あるハロ を電子論	から理解し、学果を理解する。 アルカンを例に 的観点から取り	学校教育に応用 エ、求核置換反り ひう。	できる力を養う 応やSN2反応等	の反応性を電子 。反応における 、様々な反応性	
	生物学III	I	本となるi ムの変化i 概説し、	遺伝子や染色体がもたらしたが がもたらしたがより発展的な内	をゲノムの関係 そ合成生物の進行容を理解する。	係を解説し、糸化、新たな分類	のはたらきの基 田胞の誕生やゲノ 頂体系等について	
	地学III		物理学の記載内容の 現代の字句 現代の字句 河物理学、	基盤となる種々の根拠を説明で 宙物理学を学ぶ	の天体現象へできるようにないための第一歩 ことの基礎につい	の理解を深める る。 として、連星系	特に現代の宇宙 5。学校教科書の ると活動天体、銀 ごて学ぶ。理学系	
	熱力学		理解する。 シャルが ることに 基礎法則 定し、こ	。外的な制約を 導入されること よって熱に関す すなわち熱力等	で変えることに を理解する。 つる現象が理解 学第1、第2法 の現象の分子運	よってさまざま その熱力学ポラ できることを研 則を実験に基へ	び導かれることを をな熱力学ポテン テンシャルを用い 全認する。 がく原理として仮 は立ち入らずに熱	
	物理学実際	験II	ている。 実験Iで割 また実験!	これらに加え、 削り振られなか	現代物理学に ったテーマのう と小・中・高	関する実験や, ち、興味のあ	+測実験を用意し 受講生が物理学 るものを課す。)関わりについ	
	反応有機化	化学	デ に 理解 に 変 変 の に に と 、 に に に に に に に に に に に に に	ケトン、カルス 、学校教育に応 を理解し、分子 窒素化合物であ 性、反応性を電	ドン酸、エステル 用できる力を この性質および あるアミン類の ご子論の観点か	ルの結合様式を 養う。周期表の 反応性の予測に 塩基性を理解し ら説明できる 』	と合物であるアル と電子論的観点かり見方(電気気質 の見方(できる力を にが まるので に	
	化学実験I	II	してまとる 行うこと	めたものの提出 もある。レポー	はを課す。 実験	中、簡単なディ 『教育の一環と	食結果を報告書と ィスカッションを してMicrosoftの う。	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育教員 科目 区分		・目の名称			講義等の内	1容		柏原キャンパス 備考
	生命科学		術、再生 ゲノムの の発展だ	医療等、われ 構造や遺伝子 けでなく、エ	われの暮らしやき 発現の制御につい	未来に関わるst ハて解説し、む スやゲノム編集	ぬえ、クローン技 □職を得る。 近年の分子生物学 ■やクローン技術	
	生物学実験Ⅰ	I	につける 系統解析 活用や系 ヤドカリ	。 アプリやイン 統分類学の手 、ダンゴムシ	ターネットを利り 法や考え方を学り	用し,遺伝情幸 ぶ。 近な動物を材料	が態学の基礎を身 最データベースの ↓として,形態分	
	地学野外実習	5) 1	気象班は 果と気象 天文班を 天体を 機器の操	t,柏原キャン 情報を関連付 t,柏原キャン な際に観察し,	けて大気状況を パスにおいて天(小中学校で行う	象観測を実施し 考察する。 体観察を実施し 天体観察につい	を講する。 、、気象観測の結 、、本物の宇宙の いて、方法および 計にある天文学に	
	理科ゼミナー	-ルI	究方という たとジッった かい を 読が 読が まが まが	ついて理解を ,各分野の研)作成,ディス ,くために研究 理解するため こなせるよう	深めるための学で 究手法の基礎を カッションをお テーマを絞り, の教育を行う。	びを提供する。 り は は は は は は は は は は は は は	書や先行研究論文 専門分野の入門 ご用いた教科書や	共同
	理科ゼミナー	-ルII	究方法に 会は のは のは のは のは のは のは のは のは のは の	ついて理解を 先行研究論 、文献の 、文献の を で で で で で で で で で が で が で が で が で が で	深め,論文執筆注を読み,理解した を読み,理解した やレジメの作成, 索,収集,整理の が技法を習得さ	生の基礎を養う を上で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 、 、 、 、 、 、 、 、	執筆法やプレゼン	共同
技術教育コース専門科目	木材加工学I む。)	(実習を含	に必要な 環境保全 装)につ	:木材加工に関 :、木材の一般	わる基礎的内容。 的性質、木材の 。また、中学校 [*]	として、木質資 加工(切削、摂)専門科目の指導 資源、木材利用と 接着・接合、塗 5 導入題材を用い	講義24時間
	金属加工学I む。)	(実習を含	る。また 削加工と 金属を加 段などに	,金属を加工 の違いを知る。 I工するために ついて,やさ	する方法の一つ` , 知っておくべき, しい内容を講義]	である鋳造につ 金属の性質・ 形式で紹介する	基礎知識を習得す ういて実習し,切 評価法・加工手 5。本授業を通じ F業できるよう備	講義24時間 実習6時間
	情報基礎(実	ミ習を含む。)	身につけ る。 情報社会 と概念に	、現代社会で の文化を担い ついてテキス	活用されている	青報技術につい で生活するため こ、実例を挙げ	りに不可欠な知識 ずて説明してい	建学00元 問
	工学基礎		を理解す や物理の 力を培う ト」、「	るための予備 知識を用いて ことが目的で 「運動」、「」 「円・曲線運動	知識になる工業 、物体が運動や ある。授業の内? 撃擦」、「仕事。	力学に関して講 静止している場 容として、物々 とエネルギー」 学ぶ。各回の持	□学、熱力学など 構義を行う。数学 大態を説明できる。 はに生じている。 、「モーメン そ業では、講義後	講義16時間 演習14時間

	授	業	科	目	の	概	要		
(教育学部学校教育	『教員養成課程』)						柏原キャンパス	
科目 区分	授美	授業科目の名称 講義等の内容							
	工業数学	В	知識の習 数関数、 の後、偏 (一変数) 初等関数 きる。偏	得を目的とする 三角関数)の 微分・偏導関数)の微分方程 について、 で 微分について 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	る講義である。』 数分にでは 数分について学ぶ。 ではのかびででは では では では では では では では では では	最初に初等関数 ・定ででは ・ を を を を を を を を を を を を を を を を は り で を は き に す に す に す に す に す に す に す に す に す に		講義26時間 演習4時間	
	プログラ	ミング入門	的とする。 言語につい ついて取	。特に,近年活いて取り上げつ いて取り上げつ り扱う。習得し	舌用が盛んなWeb つつ,プログラ	で取り扱える ミング言語を用 こ,応用プロク	Oいての習得を目 プログラミング 引いた表現方法に 、ラミングの開発	講義26時間 演習4時間	
	工学概論		学・技能 る。 また、 分析・観察 を行った	についていく、 、身の回りの う。具体的に などの体験を 上で、いくつか	つかの具体例を月 製品の構造や仕組 は、実際の製品の 通して考察するこ いのテーマに適し	用いて考察しな 且みについて技 やサンプルを題 ことを行う。 最 した技術検討を	後に、技術調査	講義8時間 演習22時間	
	工業数学/	A	数、オイ する講義 到達目標 きる。実 ついて理	ラーの公式、へ である。各内名 は次の通りでも 験結果をグラフ	ベクトルと行列に 学について説明で ある。有効数字に かに正しくかける 算できる。ベクト	こついて理解す 後、課題・演習 こついて理解し る。複素数とオ	を有効数字、複素であるとを目的と対象を通して学ぶ。 でではいる。 でではいるでは、正しく計算では、一イラーの公式にいて平面上での		
	技術科内:	容論	各構中内書 (45を校の内 オルシン (45を (45を (45を (45を (45を (45を (45を (45を	中の術扱に バー 術材 一	での記述内容との記述内容との記述内容との記述さるに対するとのででに関いました。 (会の) おりかい (会の) はいい (会の) はいい (会の) はいい (会の) はいい (会の) はいい (会の) はいい (会の) はいい (会の) はいい (で) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい (ない) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい (ない) はいい (ない) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (ない) はいい) はいい (な	の対応を知り、こなる。 学習事要領の 計算要領に対応 計算要領に対応 事要領(解説) E)いて担当する について担当	する。		
	木材加工:	学実習	び高等学 な木工工 中学校技 導に必要 を用いた	校(工業)の専作法(主に手が 作法(主に手が 術・家庭科技術な木材加工に関 木製品の設計を	厚門科目の実習指 □工)を習得する 所分野及び高等等 週わる基礎的な□	音導において必 る。 学校 (工業) の E作法を習得す †をもとに、集	度庭科技術分野及公要となる基礎的の専門科目での指するために、板材 と関係であるというでは、板材となっています。	共同	
	製図I		て製作され うな製図 図法の基本	れる。この図面 法という規則に 礎について演習	ー 面は、だれが見て	ても共通した理 ている。JISに ける。	は図面に基づい 継解が得られるよ 基づいた標準製 な力を身につけ	講義16時間 演習14時間	
	製図II		の技術を 2D図面の	学校現場でどの 読み方及び描画	つように活用すっ	べきかを考える 解を深めるとと	:もに, 3D-CADソ	講義10時間 実習20時間	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	教育学部学校教育教員 科目 区分		科目の名称			講義等の内	予容		柏原キャンパス 備考
		金属加工学	·実習	と般すダいにうすとると持め記るな。ス外い板。体さ、せ加さるな。ス外い板。体さ、せ加さるな。でた、録いれるないでは、最近には、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	そ作性よ切材加品すに品こ情度 の機械上なり 、あなで切り期間である。 を を は を は り り り り り り り り り り り り り り り	に盤、板、上板返るしを精実どすがきをつい利こめ部験がしよるール銀行り盤しに座をき時ずしよれたのにいてやういました。ほのにでいたりないといいでは、いいでは、からないといいでは、からないないといいでは、	手のの。穿お,っで一ほ」。ツー 世人用断,機面鋼曲部だ製「う,識 加法や械取板が品内品タ数各を がのの、のたっ、 の保り製作の、のなとす体的の、がた が成れていができる。 がのないでする。 がのないがあるとでといた。 で保り繋作のが、があるとでといた。 というが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	を を を に の に に の に に に に に に に に に に に に に	共同
		機械工学I		な問題が 機械工学 学)の中 わせて履	解けるようにな を学ぶ上で基礎 で,材料力学と	る。 となる3力学 流体力学につ ましい。メー	(材料力学,流向 いて概説する。	ともに,基礎的 体力学,熱力 機械工学IIも合 ・基に具体的事例	
		機械工学II	ſ	また,機株 た簡単な材 機械工学」 機械要素に 械設計問題	滅を構成する機 機械の設計がで Iに続いて,熱ラ	械要素の基本 きるようにな か学について根 る。また,修 する。	を理解し,これる。 既説したあと,材 得した知識を用	ルを理解する。 いらを組み合わせ 機械を構成する いて、簡単な機 講義する。	
		電気工学I		を理解する静電気の情報を電気の	ることができる 性質、コンデン の相互作用、コ い数式を使用せ	ことを目標と サの働き、磁 イルの働き、	する。 石の性質、電流 鉄の磁化現象な	く、現れる現象 近の磁気作用、磁 さどについて解説 職が十分得られ	
		電気工学II	Ī	に駆使で 記号法に。 理、等価値 回路や過	きる素養を持ち よる交流電気回 電源への変換な	うることを目 路の計算や重 どについて、 合や発送配電	標とする。 ね合わせの理、 分かりやすく解	ない、これを自由 テブナンの定 評説し、また共振 し、電気に対する	
		電気工学実	験	に駆使でき 電気工学に れなかった とめ方、	きる素養を持ち に関する基礎的 た基本概念の実 レポートの書き	うることを目 な物理現象の 感を可能とす 方、測定装置	標とする。 十分な理解、特 る実験の実施と の使用法等を教		
		栽培I(実社	習を含む。)	い術と植どく畏援ら理が、となるをの物を生敬業が、となるをの物を生敬業が、の野収をはいる。	の学、関すいを初な、 教習生年、るる自そのようとないにできる自そめなりです。 日本のなの 時ででは、の 存にどの までい とない は、 の 実を教	学習知・さる。作と生態系・ に取り に に 取り に に 取り に に 取り に で 変わり に で で で が 関いて に 取り に で が 関いて に が 関いて に が 関いて に が は かい に かい に かい に かい に かい に かい に かい に かい	作物の大きなら、 作物にというでは、 特能に、 地理えと、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	語等がは、 は、 がは、 がに物を分とて命い。 での自分し生の、 での自分し生のが、 での自分し生のが、 でのは、 でのは、 でのが物は、 ないでする。 でのがある。 でのがある。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でのでする。 でい。 でいる。	講義 8 時間 実習22時間
		栽培II		術導具基的性畜 を が体験を は を は を は を な お を な お を を な お を を な る た る た る た る た る た る た る た る た る た る	日容 B 生物育成られている内容 B 生物育成られている内容 到達目標は、畜管理作業がわかができるように 生命に対する畏休、水産に関す	(作物の栽培・ について学習 産、森林産習 る。作物の含ま もなる。生物育 なる。を自身を る体験実習を む。)につづい	畜産・漁業を対する。 する。 ならびに漁業に 培管理・収穫も 成実習する。 、で、教材園に	技術・家庭科 技 取り扱う)で指 こついて考え方や はび画場の基場 、倫理観や規範 、倫理として実 おける作物の栽	講義 8 時間 実習22時間

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程)							柏原キャンパス
科目 区分	授業科	∤目の名称			講義等の内	1容		備考
	情報基礎実習	되 -	基礎的といいたというでは、そのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	知識を実習を りをするプロ で理解・説明 で術科での情報 家電で使われ	通して身につけ グラムとマイコ ・設計ができる。 分野の指導に繋 るマイコンのプ ークと使ったプ	る。簡単なネッンを使った電子 いる基礎として ログラミングに		
	データ処理		その後、 プログラ 取り扱い	さまざまな数 ミングでの実 いの実際を説明		する。手法の診 り扱い、その重 を通じて、教科		
	木材加工学I む。)	I(実習を含	て、主にる。さらな使用方	使用する木材 に、簡単な木	加工用施設・設 製品の機械加工 の中学校技術室	備とその保守管 実習を通して、)専門科目におい ・理法を解説す ・木工機械の安全 ・た安全管理・安	講義16時間 実習14時間
	機械工学実駅	β	織の顕微験、エン学で学んて、理論	対鏡観察、ポンジンの負荷試いだ知識の理解 と実験結果と	プの効率の測定、	ビッカース研 野撃試験等の実 実験レポート 文章にまとめ		
	木材加工学I	II	基づき、 技術・家 立案した する。試	この指導計画 庭科技術分野 指導計画での は作終了後には		製作題材が開発 加工の技術」 取り扱う製作題 講造、加工法、	きできる。 における各自が 動材の一例を試作 製作工程などの	講義18時間 実習12時間
	金属加工学I む。)	I(実習を含	実習によ 用できる 金属加工 使い方に	り,加工目的 能力を育む。 において使用 ついて説明す	に合った工具を する手工具や旋	適切に選択し, 盤等の切削機に 的な知識の習得	けいた作品の製作 正しく安全に利 こついて,特徴や ないたて,金属 して実習する。	講義 4 時間 実習26時間
	金属加工学I	II	どのよう は,代表 りその理 研究現場	な組織である そ的な材料試験 と解を深める。 そでどのような	法や各種観察手 加えて,それらの	くことが重要で 法について解説 の結果が英語論 いるのかを学び	がのくらいあり, である。本授業で もと体験実習によ ま文として実際の が、材料研究の一	
	電子計算機		単な回路 デジタル 説する。 してマイ	S設計とプログ √電子計算機の 次にディジタ	ラムの作成が出 基礎となる論理[ルICを紹介し、	来る。 回路と個別部品 実際に回路動作	ェンを利用した簡 品による実現を解 ≤を確かめる。そ な要なプログラム	
	情報処理		をコンピ 主要なプ 情報処理	°ュータで処理 °ログラミング の基本知識、	するプログラム 言語やコンピュ	を作成すること ータシミュレー		隔年
	制御・情報コ	工学	と関係を プログラ 制御技術 するセン	·理解すること ・ミングについ ・ ・ ・ ・ アクチュ	ができる。また て理解できるよ してPID制御を含	フィードバック うになる。 む古典制御を いて講義と,耄		隔年 講義15時間

授	業	科	目	の	概	要	
教員養成課程)		<u></u>					柏原キャンパス
授業	 (科目の名称			講義等の内	容		備考
電子情報分	支 習	き、簡単なて学ぶ。最大でででは、 できない できない こう できない こう でんしょう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう こう	な電気回路・電 最初に回路シミ 品の性質をみて ランジスタによ ついて実験を通	子回路を設計で ュレータを紹介 いく。センサと る発振回路とり して学ぶ。その	できることを にした ことを にし、回路シミトランジスタ 増幅回路とターの後、各自のラ	目標に実習を通し ミュレータを使っ アの性質について イマーICを使った	
職業指導		ことを目れたとその場合で見る。その例である。これである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	票とする。まず を支える基礎理代 学校・ 登際 で で で で で で で で で で で で う る と り で り で う る と り に り に う に う に う に う に う に う に う に う に	,職業指導・過 論を教題すると 的・特別支援を説明 分のとで,職業才 によって、職業才	性路指導・キャ とともに, 仕事 月した上で, そ 交における教育 と教育や自分自	マリア教育の定義 事への移行と雇 されを踏まえて小 育実践を分析す 自身の進路につい	
技術教育資	寅習I	解を深める当ないで、主に変して、対象に変して、対象に変して、対象に変して、対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対	ると共に研究活 り研究倫理、研 説明する。その 紹介、実験や製 る。ゼミでは研	動の基礎につい 究発表の場と別 後、学生は各E 作等を進め、そ 究テーマの近い	いて学ぶ。はし が式(口頭発見 すのテーマに関 それらの進捗や で学生や指導	ごめに卒業研究担 長・学術雑誌等) 関連する文献調 ○成果をゼミ形式 数員と議論する。	
技術教育道	寅習II	解を深める。	ると共に研究活生は各自のテー 生は各自のテー め、それらの進 の近い学生や指 に論文作成につ ポスター発表の	動を卒業論文に 要に関連するで おいて おいて は で は は は は い で は り に 関連するで い が 成果を ぎ い う に り れ り に り に り に り に り に り に り に り に が れ で で れ で で れ で で れ で が れ で が れ が れ で が れ が に が れ が れ が れ が れ が れ が れ が れ が が れ が れ	こまとめる。 技献の る。 支献 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表 表表	技術教育演習Iに 状紹介、実験や製 ける。ゼミでは研 算教員から研究発 O内容を口頭発表	
	学Ⅰ(家庭経済学を	のた的になる経・になる経・会でで変して、になる経・会で変して、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	造の特徴を理解 設計とり、 と上で多り、生活を 要を といる を を といる といる といる といる といる といる といる といる といる といる	し、その社会はネットの社会はネットの社会があり、その社会が表した。 ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	付背景について 公要性を理解する 大況に関いをする 計すするとと まを、生活といって また、についって で欠となる。 -	に説明できる。を記述しています。 まだい 生活経経に 生生活経 活経 にます。 のまます。 のまます。 のまます。 の要では、 できる。 の要では、 できる。 の要では、 できる。 の要では、 できる。 のまる はいます いいき いいき いいき にいいき いいき いいき いいき いいき いいき いい	
生活経営等	žΙΙ	分のキャーのよう。 でられる。 心を持ち、 生活経営で につる。一部である。	リアを展望した ア生活を包含に 生とりまで をとり直す。 でで でで で で で で で で を と り で で で で で で で で に が り で に り で り で り で で の で の で の で の で の で の で の	長期的な経済 に捉えた上で、 える影響を多角 な社会変化を明 学習を導入する	+画に基づくう 生活を取り着 角的に考察する 取り上げ、個力 るため、事前の	ライフプランが立 巻く社会状況に関 ることを目指す。 人・家族の生き方 D準備が不可欠と	
被服学I		様々な機能 被服を構成 て、主に被	能を正しく理解 成する天然繊維 波服材料学と被	する。 ・化学繊維から 服衛生学を中心	5布、衣服の性	生質、機能につい	
被服学Ⅱ		上で、現代 る。 主に衣服り	代社会における こついて講義を	衣生活の課題に 行う。被服に対	こついて説明す	トることができ 更に深まるよう和	
住居学I		居の役割、 などの基础 者の視点が	. 住居の変遷、 遊的知識を習得 から捉え、これ	住文化・住様式する。各分野を	弋、住居の計画 と家庭生活との	■、家族と住まい ○関わり及び生活	
住居学II		に住居の 居住政策 及び生活	室内環境、住居 などの基礎的知 者の視点から扱	の構造と安全、 識を習得する。	住居の維持電 各分野を家庭	管理、居住環境、 医生活との関わり	
	数量 表式 模式 模式 技术 技术 技术 技术 技术 技术 本数 全含 生含 生 被服 技术 技术 経常 学工 工 工 学工 工 工 支付 工 支付 工 大 工 大 工 大 工 大 工 大 工 工 工 <td>教員養成課程) 授業科目の名称 電子情報実習 職業指導 技術教育演習II 技術教育演習II 生活経営学II 被服学I 住居学I</td> <td>数員養成課程) 授業科目の名称</td> <td> 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学</td> <td>教員養成課程) 授業科目の名称</td> <td>放員養成課程) 授業科目の名称 簡単な電気回路・電子回路の回路図を理解して動作さき、前単と電気回路・電子回路の回路図を理解して動作さき、前単と電気回路・電子回路で到路がまったとれて学家、最初に回路やミュレータを紹介し、回路できて、安動尾地の性質をみている。センサと中隔の自由の路域というとなり、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、リーカーの作者のとから自の作品製作を指揮するともに、「電業措導の目のと方法を理解し、それを実際海教育・などともに、「中野物」と現代社会と現代の表現を観を設定がにおける場合で、日本の名のと方法を理解し、それを実際力を治かる。とき、職業指導・キューカーが物の仕組みと現代の表現を観を設定がにおける場合で見つめるワークを行うことで、職業指導・たったする。その後の学生は各目のデーマの技術教育に対する方とから、から、それらを対して見つめるワークを行うことで、職業指導について説明する。その後、学生は各目のテーマの技術教育が解を探めるとまは研究学ーマのエルデーマを持続について説明するとで、中学を進め、それらを地の表でから、学生の中華で記述、大きないは研究学ーマや業がで報告する。とは当教員よの事件事をであるとまに研究活動が国金がでのデーマの技術教育がおきたり、大きないないので、学生の中華で記述、大きないとので、学生の主ないでは関連するとから、生活を含まれていて指導を受け、などの表現を表したのと要性を理力で報告が、学生を担合ないては指導を受け、などの表現を受け、などの表現を対したとないを対したといくを対しているとも目指型するとは一般が高端を対している場合では、またについて、大生活経営学「、家庭経済学を含むとよりまないでは、大きないのでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないので、大きない</td> <td>接条料目の名称</td>	教員養成課程) 授業科目の名称 電子情報実習 職業指導 技術教育演習II 技術教育演習II 生活経営学II 被服学I 住居学I	数員養成課程) 授業科目の名称	大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	教員養成課程) 授業科目の名称	放員養成課程) 授業科目の名称 簡単な電気回路・電子回路の回路図を理解して動作さき、前単と電気回路・電子回路の回路図を理解して動作さき、前単と電気回路・電子回路で到路がまったとれて学家、最初に回路やミュレータを紹介し、回路できて、安動尾地の性質をみている。センサと中隔の自由の路域というとなり、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、トランジス学び、リーカーの作者のとから自の作品製作を指揮するともに、「電業措導の目のと方法を理解し、それを実際海教育・などともに、「中野物」と現代社会と現代の表現を観を設定がにおける場合で、日本の名のと方法を理解し、それを実際力を治かる。とき、職業指導・キューカーが物の仕組みと現代の表現を観を設定がにおける場合で見つめるワークを行うことで、職業指導・たったする。その後の学生は各目のデーマの技術教育に対する方とから、から、それらを対して見つめるワークを行うことで、職業指導について説明する。その後、学生は各目のテーマの技術教育が解を探めるとまは研究学ーマのエルデーマを持続について説明するとで、中学を進め、それらを地の表でから、学生の中華で記述、大きないは研究学ーマや業がで報告する。とは当教員よの事件事をであるとまに研究活動が国金がでのデーマの技術教育がおきたり、大きないないので、学生の中華で記述、大きないとので、学生の主ないでは関連するとから、生活を含まれていて指導を受け、などの表現を表したのと要性を理力で報告が、学生を担合ないては指導を受け、などの表現を受け、などの表現を対したとないを対したといくを対しているとも目指型するとは一般が高端を対している場合では、またについて、大生活経営学「、家庭経済学を含むとよりまないでは、大きないのでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないので、大きない	接条料目の名称

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育 科目) 業科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
区分	住居学演	習I(製図を含	住宅図面を記録計算においます。	として表現する 製図の初歩的打 設計計画力・倉 を段階的に提え して提案できる	ために必要な好で 係について指導 過造表現力・プロ し、受講生が性	知識と技術の習事する。製図技術など 対域で住みやではなどでは、本授業では、	主生活・住空間を 習得をめざし、住 技術のほか、空間 どの習得を目的と いい住宅・住空間 住宅の平面図の	
	住居学演習	習II	住宅図面 宅の設計 把握力・記 した課題 を図面と	として表現する 製図の初歩的打 設計計画力・倉 を段階的に提え して提案できる	ために必要な好で 係について指導 過造表現力・プロ し、受講生が性	知識と技術の習事する。製図技術など とせい技術など とので住みやで 本授業では、	主生活・住空間を 習得をめざし、住 技術のほか、空間 ごの習得を目的と いい住宅・住空間 住宅の計画・設	
	保育学I		発達の特別 またよう 育またる 育り 一部 1. 現代社 意義につい 2. 保育学(長とそれらの系環境としてのいませんでの歴史についる保育のありよくにおける子といて解するといる子とない。	達課題や生活の 庭や家族の在り でも理解を深め うについての野	の在りようについた。 の方、社会のこれを かられるように かられるように 理解を得られる を確認し、子と る。 での基礎知識を での基礎知識を	ごもの価値やその と得る。	
	保育学II		ムやその おける保 到達目標 1. 保護者 2. 子ど知り 3. 社会全	歴史についても 育のありように や家庭の在りガ の育つ社会環境 、それらの課 体で子どもを豊	理解を深められたのでででは、このいての理解をできます。 でいて理解を でんしい で理解を でんしょう やき の要因についる	れるようにする を得られるよう を得る。 を育てを取り その関、家庭科 なに、家庭科	巻く社会問題につ	
	小学校教和	科内容(家庭)	科学の立地を対象を表する。実際である。	場から、小学校 、小学校 、小学を対 、いう所型型所 、いう選手 、 、いう選手 、 、いう選手 、 、いう 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	家庭科の授業を ペートフォリオ きである。小学村 ・食・住の生活 いた教科の目標 いたちの生活課 またちの生活課	と支える基礎的 (資料集)とし 交家庭科の内容 」「C消費生活票をふまえ、 質をふまえたA 食(衣・住)	て概説する。専門 りな知識が何まとめ して各とまり「A をのまとまににまりにない が現存をましたとめ BCを統合さ意義や に活を扱う意義や	
	家族関係的	学I	る。またま ように対 家族を学	現代的な家族観 忘していくか,	見を踏まえて, る 一人一人の問題	どのように家が 題意識を基にタ	±について学修す 実をとらえ,どの }析する。また, 「「し,その実践課	
	家族関係等	学II	る。また ように対 家族を学	現代的な家族観 忘していくか,	見を踏まえて, る 一人一人の問題	どのように家が 題意識を基にタ	±について学修す 実をとらえ,どの 分析する。また, 「し,その実践課	
	被服製作等	実習I	的態度を の始末を記 で適切に記 種々の製化 来る基礎的	身につける。 選択し、実践出 説明出来る。 作を行うことに	4体的には、① 3 3 3 3 3 3 5 5 5 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	製作物に応じたの手順をプリン 皮服領域におり	所を習得し、実践 と縫い方や縫い代 ント、板書、口頭 ける実習を指導出 浅的態度を育成す	
	被服製作乳	実習II	て快適な想 法を理解する 衣服を製作 し、環境に	衣生活を主体的 することができ 作できる能力を に配慮した快通]に考えることだる。 :る。 :身につけ、製作 !な衣生活を送る	が出来る。又、 作を通じて物の る力を身につい	フォームを通じ 作品の評価の方 う大切さを理解 けさせる。又、教 せ、問題点を理解	:

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育	育教員養成課程) 							柏原キャンパ
科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	可容		備考
	食物学I(を含む。)	栄養学及び食品学	と生理的意 基礎的知識 握できるこ 健康的な食	(義を正しく理 域を習得することを目標とす	解し、日常摂 とで、現代の る。 るうえでの基	取する食品の性 食生活における 礎的な知識につ	経素の役割、代謝 性質と食品衛生の は課題を正しく把 いて、主に栄養 う。	
	食物学II		の基礎につ を科学的に 植物性食品	ついて学び、現 二理解する。 品及び動物性食	代の生活にお 品の食物学的	ける食事設計の 特徴と利用等、	栄養学と食品学)意義と実践方法 栄養学と食品学 、テストを行う。	
	調理学実習	³ I	その原理 まできるよう 毎回実習を	さよび背景を科 になる。 そ行い、配布し 行う。ワークシ	学的に理解し たワークシー	、リスクの予測 トを完成させる	ける調理の基本と 川と時間の管理が ら。前の週に次週 にポートフォリオ	
	調理学実習	HI	の面白さを 解する。 調理学実習 理(炒飯等	理解し、伝え Iの内容を踏ま	られるように ミえ、日本食 ピラフ、洋菓	なる。実習の段 (天ぷら、和菓	見野に入れて調理 と取りについて理 子等)、中華料 いら1回分の作業	
	保育学実習 む。)	習Ⅰ(家庭看護を含	習を通じて 体験的な学 きるように	て、子どもと保 全習から基本的	育についての な保育の現場 体的な家庭看	実践的な理解を において保育指 護の演習を通し	関わりに関する学 と得る。その上で 音導がある程度で ごて、子どもの安	
	保育学実習	#II	と実践の両人の一人では、大きない。のでは、大きない。のでは、大きない。のでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、	可面から学ぶ。 可における子を全 二具体的な子術 情、保育での で見場でのもと でいると でいると でいると でいると でいると でいると でいると でいる	具体的な子ど 事をとのなる をとのなどしない。 はないでいる。 はないでいる。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいない。 はいるい。 といる。 といる	もとのかかわりを進め、実践的な理解を行送もたちとのよりをといる理解を行どもたちとのほ実践的な理解を	表育について理論 う方や、保育施設 うな技術の習得を 哲動を行い、保育 である。 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	被服学III		衣生活領域 に深めるこ 実験実習に	成の実験実習、 とができる方 における注意点	グループワー 法について解 、問題点を説	ク等について、 説する。 明し、洗濯や約	授業で取り扱う 知識の理解を更 裁維についての理 -プによる討論を	
	住環境と多	? 全	①バリアフ 可能な課題 ②高齢者の て対応が必 この授業で	題)居住施設の整 公要な課題	全な住まい方 備、大規模災 両方の点から	など、居住者が 害後の住宅復興	のります。 ぶある程度は対応 種など、社会とし っ交えながら、住	
	保育学III		設や地域社 養育者の役	L会などを取り と割について概	上げ、それぞ 説する。具体	れの場における 的な保育場面の	○場である保育施 5乳幼児の育ちや う視聴・実践を通 け授業展開をす	
	生活機器論む。)	(情報処理を含	に参画する に,表計算	が態度・情報モ 算処理ソフトや	ラルについて プレゼンテー	基礎的な事項を ションソフトな	通信ネットワーク ご取り上げると共 ごどの応用ソフト こして取り扱う。	講義16時間 演習14時間
	家庭科基礎	港演習	心に基づいたというでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	いてテーマを設 により解決した 関査などについ ら。追究した成 いて理解させ	定い、このでは、このでは、このでは、といて、といいでである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	容について理角 にさせる。文 角的視点から名 値の整理、図ま 作成させる。 昇	と行う。各自の関 解を深めさせる。 大研究、実験、大学のの 所の研究方法を そ化等の表現の仕 を後に全体で発 手検討し、改訂を	共同

(教育学如学长教育	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分		目の名称			講義等の内	1容		柏原キャンパス 備考
	被服学実験		実験、デ [・] 実験を行	ータ分析、考察 うための教材~	そ行う。また、	家庭科衣生活した簡易な実験	7法等を解説し、 5領域での授業で 食も取り入れ、実 是出させる。	
	被服製作実習III			具体的には が必要とするな に応じた材料を に適した経い力 の成り立ちを 実習I、被服作を ま上衣の製作を 、技術を深める	区服を総合的に 正しく選択で を選択・実践 関解し、作成手順 成実習IIでの学 行う。立体であ	設計できる。 きる。 できる。 順を説明するこ 習を基礎とし る人体へ生活を	構成が理解・説明 ことができる。 て、被服構成実 する衣服の構成 と充実させ、家庭	
	食物学III		ついて理解 講義では 毒の基礎 かん、日本な	解する。 食物アレルギー 知識とその対応 食の有用性と歴	-と食品表示、(に、食情報のリ	建康食品とサラテラシー、フー ウみ、栄養教証	と食文化、食育に プリメント、食中 - ドファディズ 俞との連携、現代 う。	
	食物学実験		の描き方法 度計を用い 分の分析	から中和滴定、 いた分析、糖質	糖質・たんぱ ・たんぱく質	く質・脂質の気 ・ビタミン・ミ	つとり方、グラフ E性実験、分光光 ミネラル・嗜好成 E験をレポートに	
	調理学実習II	I	生活習慣が 礎的な調理力を育り IIIでは、 レルギース て、加工の	病などを持つ <i>月</i> 理力の育成と子 成することに主 ライフステー などに対応する	まで多様であったともが調理を E眼を置いたが、 ジ別の食事とそっための食事と こついても実習	る。調理学実習を全に遂行する。 で全に遂行する。 それらを踏ま の調理、生活 その調理につい	のに、健常者から 引・IIでは、基 うためのリスク管 えた、調理実習 習慣病や食物ア いて学ぶ。合わせ か外食に依存しす	
	環境安全論		とともに、 害などの。	、代表的な環境 基礎と、それら ながら、最新の	間題である温い が人間生活に	暖化、森林減り 及ぼす影響を、	等つことを目指す >、大気汚染、公 主に健康面に焦 ₽事例を交えつつ	
	保育学演習		をてるをる保いでいる。そのでは、そのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	とができるようを持ち、それらある研究スタイ理解をし自らの 践の経験を活用 献研究や研究に	になる。また[たっいての理解 かいで手法などの研究についての 目して授業を行こついての発表、 保育、家族等に	司時に自らのの解や概念形成が について、先行の広い知識を得 う。それぞれの 、討議について	はについての理解 研究テーマについ いできるようにな 可研究や論文購読 することができ の関心・テーマに の理解やスキル にのな知識や概念	
	家庭科教育学	演習	解説する。 授業におい て説明を	。グループで ^妻 いては、教材の	対が作成できる 検討・評価や9	るよう、助言指 SDGsに関連した	ぶや教材について 言導する。 上教材分析につい 上後教材の改良に	
	生活研究論I		理解を深る 生活を総合 野からの記 題と福祉し	める。 合的に研究する 家政学、生活研 に関する話題を	う家政学の学問 でなりでである。 であるでは、「ないないできます。」	理論から、生活 生生活、家族の	関わりを通して 舌の変容や国際視 0生活、消費者問 亍う。	
	生活調査研究	法I	るための 活調査研究 の実践的 し、調査を 画と設計の の調査項	社会調査法にて 究法Iでは、ま 手法を習得させに関する倫理に の基本的な考え 目の概念や、貿	oいて、講義、注 ず問題関心に適 ける。具体的には こついて説明する 方について概	寅習を主として 直した調査を調査の企 は、様々な調査 る。それを 脱する。 更に 大 に 大 に な に に に に に に に に に に に に に	ミえて、調査の企 関査票作成のため 持徴等の基礎知識	

(±4-	支 类如带拉 <u>*</u> ** 本 ** =	授	業	科	目	Ø	概	要	拉原セ いいご
(教	育学部学校教育教員 科目 区分		美科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
		家庭科発展	展演習I	領域それ 能評させる し 計論を も せる。 最	いぞれにおける。 フィールドワ っ。それぞれの いぞれの課題に でって、課題の	家政学的研究手派 ーク、教材開発 課題(テーマ)を おける問題の所存 研究手法を決定し	去(実験、アン 等)について記 を決定し、国内 生を明らかにす し、具体的な砥	学や家政学の研究 ンケート 対明し、特徴を理 対外の資料を収集 いる。文献研究 大る。 大法を考 大法を考 大の進め方に 大の進め方に 大の進め方に	共同
		家庭科発展	展演習II	実 ア て で で を 定 デ ー が を に が ま を に が に た に た に た に に た に に に に に に に に に に に に に	F究を進める。 - ト調査、官能 i 実験、予備調 本実験、調査 - し、追加実験	査等を行って、 等を実施後は得り 、調査の有無を制 書を作成させる。	自で決定したのドワーク、教材 ドワーク、教材 本実験、本調査 いれたデータの 削断する。最終	研究手法(実験、 オ開発等)につい 監等に向けた調整 O集計、有意差検	共同
		生活研究認	âII	学」の学 個人・家	学問的特徴を理 で族・地域社会の	解し、生活を学り	問的に捉える∛ する問題意識を	と高めるため受講	
		生活調査研	开究法II	実際に調になる。 実際に関いた という という まん という はい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい	関査を行う。調ユーディング、は ユーディング 更にいるという ロス集計等 こびソフトウェム こでいるための基	査後のデータの動 データクリーニン 、データの入力 のデータの分析 ア操作を含む技法	整理法として、 シグ、入力・分 まと平均・分 ・集計にかかれ まを実践的に る。これらを 路	た調査票を用いて 一ドブックの 養などの実践的、相 め、標計的手法の 習得させた上で、 が 音見で、分 で で で で で で で で で き で き で さ が き で さ が き が き が さ さ が さ が さ が さ が さ が さ が さ	
	保健体育コース専 門科目	運動生理学	ŽI	の基本的 ポーツ現 授業は基 よる影響	事項に基づき 場において運 本的に講義形 および効果が	生理学的に理解で 動生理学的考察を	する。また、写 を加え指導でき その内容として 各系・骨格筋系	さるようにする。 て特に身体活動に K・呼吸循環器	
		運動生理学	žΙΙ	ポーツ現 ツ現場に 授業 は基 立つ知識	思場で役立つ知 おいて運動生 本的に講義形 基礎的な内容	理学的考察を加; 式により行う。 より、特に学校の するための学習	す。また、実際 え指導できる』 その内容として の体育現場やス	祭の運動・スポー ようにする。	
		衛生学及び	び公衆衛生学I	に, 学生 を当てる 衛生学・	の特性を踏ま	増進のために生涯 視点から学び,第	しての健康増進 重にわたり運動	構義するととも 単についても焦点 かを行う重要性を 受する人間となる	
		衛生学及び	び公衆衛生学II	生学IのF な,運動 健康の維 衆衛生学	内容を発展させ かを通しての健 維持増進のため	は講義する。特に 康増進についてが に生涯にわたりず	,保健体育教 焦点を当てる。 運動を行う重要	断生学及び公衆衛 員として必要 要性を衛生学・公 こなることを期待	
		水泳		る。さら 効果的な 導法を習 講義では	かに、将来、小 な指導ができる 習得し、模範泳 は、泳ぎのコツ	ことを念頭に置る ができるような打	での水泳指導にき、知識を深ぬ き、知識を深ぬ 支術および能力 イントおよびれ	こおいて、安全で うた上で正しい指	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程)							柏原キャンパス
科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	內容		備考
	器械運動		を技法に悪くない。を技法に要しては要しては要しては要しては要しては要しては要しては要しては要しては要しては	、更には具体に や体系、実施 ても学習し、 はマット、鉄 成されている)	的な指導法など 上のポイントや 器械運動の指導 奉、跳び箱など 運動である。こ とと同時に、技	についても学習 起こり得る怪我 をする上で必要 の器械、器具を の講義では器	対能および知識 引する。具体的な はの可能性や対処 とな能力獲得を目 に使った「技」に は運動における基 方法、補助の方法	
	体つくり運	動	動」を取 高 め る 動 く ピ ラ を 取 実 と り え い え い え に り え り え り え り た り た り た り た り た り た り た	り上げ、運動が 動として、身か を高める運動 イス)、動き り入れた実践	の意味や行い方 本の柔らかさを (エアロビクス) を持続する能力 を行う。 ぐしの運動、体	について説明す 高める運動(ス)、力強い動き を高める運動	o、「体つくり運 つる。体の動きを くトレッチ)、巧 で高める運動 (ジャイロキネシ のの運動の指導の	
	スポーツ教	(育原理	すること。 毎回「体 チング」 「精神」 「医学」	。 育」、「スポ [、] 、「技術」「打 「こころ」「 .	ーツ」、「スポ [、] 技能」「戦略」 身体」、「武道 「ストイック」	ーツ科学」、 「戦術」、「/ ・舞踊」、「詞	を質について理解 「教育」、「コー パラリンピック」 活書」の効用、 -イズ」など主要	
	スポーツ社	:会学	てスポー の普及と	ツの社会的意 いう視点におい	義、役割を考え いて、スポーツ:	る。また地域に が持つ魅力や役	限題の認識を通じこおけるスポーツと割について再認で理解を促す講義	
	体育指導法	演習	行い、さ の中で行 などにつ	らに生涯スポー われる各種スス いても実践・	ーツの観点から ポーツのための	、自らの体力へ 様々なトレーニ た集団行動の様	『心として実習を がくり、学校体育 『ング・表現運動 後式や集団で行う	
	運動学I		評価では 動の質と 自己観察	、運動経過に して捉えるこ	おいて運動の形! とを学習する。 ど、体育・スポ	態に現れるさま また、運動類線	る。運動の質的 さざまな違いを運 は必要ででででででででででででででででででででです。 だった。 できるでは、 できるでは、 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	
	運動学II		運動学の 「運動学」 化されて	理論を学習す。 I」の内容を発 ゆくプロセス	る。 :展させ、コツと (形成位相論)、	カンの特性や覚える身体知	重要となる発生 動感運動が形態 である「創発身 さどについて学習	
	学校保健I		すて、 理解は、 全 を と し で と に で で に で を が で を が で を が で を が で を が で を が で と の で に が で と の で に が と し に で と し に の に と し に と し に と し に に と に と に に と に に と に に と に に と に に と に に に と に に と に に に と に に に に に に に に に に に に に	もに、発育発 保健、学校安: 学校保健の基礎 急処置を含むに 行う。各自に	幸や,児童およ 全及び救急処置 遊的な内容から, 内容を取り扱う。	び生徒の健康の 使康頃 を含む、各領域 小児保健、料 、スライド映写 手にしてほしい	平頂について理解 対象に関し がの概要と課題を 情神保健、学校安 に、資料配布を中 いため、テキスト 引する。	
	学校保健II	[ネジメン 料配布を	トの視点,保(中心として行	建教育を含む内 う。各自にあっ	容を取り扱う. た参考書を手に	校保健活動のマ スライ映写,資 としてほしいた に授業を展開す	

(教育学部学校教育	授業	科	目	Ø	概	要	柏原キャンパス
科目 区分	授業科目の名称			講義等の内	容		備考
	陸上競技	た論て授・る・・に・た論で授・る・・に・	いて解説 する。 する。 計する。 標 計 計 は 神 は 神 い い で が 動 い し 、 を と と と れ ル ル の で が り で が り の り 、 り に り た り た り た り た り た り た り た り た う と う と う と う こ と う こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ こ ろ と ろ こ ろ と ろ こ ろ と ろ こ ろ こ	競技の運動特性 らに、実践的道 を通して人の道 法を身につける 法技の運動特性。 について導致 大切な指導技術	生,教育的特性 重動手段・方法 重動の基本技術 る なでいいができた。 することをあるとある。 するである基本重	生,基本技術の理 去,指導法につい 析を習得・向上す る。 を理解し学校体育 きる。 動作・技術を習	
	ダンス	現及びf (1) 舞 (3) 舞 に実習の 舞台上の	作品の創作ができ 踊の各ジャンルの 師作品発表のたと のまとめとして、	ることを授業の 表現技法の習 めに舞台製作(舞台上で作品を 果を含めた舞台	D目的とする。 得、(2)舞 企画・運営等 と発表するとい 台実習を行う。	補作品の創作、を行う。さらいう機会を設け、各実習を通して	
	ソフトボール	しり授ソをソ解へる運がした。またりである。これでは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学のは、大学の	ボールにおける基が体活動によってがきを意識するとを目標とする。まず有酸素的運動を併 トボールに必要な	男女を問ない健 ポピュラーカー カイルのウを リーカーカー 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 か な ち と も た と も た 、 と も た 、 と も た 、 と も た 、 と も た 、 と も た り た 、 と も た り た ら た ら た と き た き た き た き と き た き と き た き と き と	康運動としてついます。 東運動との一ついます。 ボーミン にいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる で	も認めるという。 も認めるとしたり向いまする。 でを実施職のでもいたり向いまする。 でもいるでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	剣道	人たせ(1)種(2)と(3)学も(4)5)相(5)	能について、大学 回授業終了時には の伝統的身体文グ の比較しながらクロによる所作を今 の基本的所作を学りを用いた剣道の。 るとともに、中学 道一級」相当の技	や連盟での指導 「ポートフォ! とである剣道の におは、(形)を ではま」(形)を をする。 基本動作と、それ を程度の生徒に対 たるになる力 にないない。	算経験に基づい リオ」(学修の 特性について 気から知識を 学び、剣道に の応用として 対する指導の 。	深める。 おける礼法と形	
	柔道	知りませい。おりませい。また、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	指導方法を習得す 対人的技能(投技 習する。特に、柔 多く、この観点か を対象とした柔道 うに授業を実施す	るために授業を ・固技)・試会 道の技は力学的 ・おり ・おり ・おり ・おり ・ ・ ・ 一 の 大 は 力 学 ・ ら の 指 導 方 法 と う た う た う た う た う た う た う た う 、 そ う 、 う 。 、 う 、 う 。 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、	を展開する。 を 会および試合の 内原則に基づい と投技の系統的 いく。但し将 で で で で で で で で が に で の で の の の の の の の の の の の の の	内実技能力・基礎 基本動作(主に対して とのでは、主に対して とのでは、 とのでは、 とのでは、 をでいる。 とのでは、 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。	
	スポーツ心理学	運動・ 学びまっ を振りi	スポーツ場面にお す。自身の体育や	けるスポーツル スポーツでの約 とで、体育授業	∆理学の役割。 経験とスポーン 養やスポーツ‡	旨導・支援の場面	
	スポーツマネジメント論	育と果、育経常	率を高めていくた	ツ活動における 理論の援用に。 めの方策につい 事業論を理解す 、スポーツ事	5実践的意味/ よって講じる。 いて講じる。 けるともに、 美の効果的なオ	こついて講じると スポーツ経営の効 一般経営学の理	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程》)						柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	內容		備考
	体育史		文はクツらをポキ中の経、化スラツを校義	史を遡ると体育見いた。 という という という という という という という という という という	より、現在の育 中の東地の中で、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	スポーツ界をおまる 大型で 大型で 大型で 大型で 大型で 大型で 大型で 大型で	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	武道指導	論	育科武道 中学校保 に武道の 行い、武	領域の指導案が 健体育科で必修	作成できる知 となった武道 業では、講義 授業つくりを	識とスキルを獲 領域の授業つく 、実技、グルー 体験する。	、、中学校保健体 隻得している。 、りができるよう -プワークなどを	
	スポーツ	コーチング論	者育成に 用、るコロ 導実は講 授業は講	必要とされるシ 競技力の向上に チング哲学につ 役立つような知	ステム、ICTを 向けた日本の いての理解を 識を身につけ ト講師を招聘	・駆使したスポ 取り組み、さら 深め、将来、竟 る。 し、関連分野の	*をはじめ、競技 一ツ科学の活 っには今必要とさ き技スポーツの指 の最新情報につい	
	保健体育等	学研究各論演習A	お学らを研究のこのである。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	礎的な学識を基 るトピックスに 、学術的資質を 保健体育やスポ い、その概要を	とし、学校教 一ででででででいる。 といてことを対している。 との科学の学のでは、 との対している。 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでは、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というでも、 というと、 というと、 というと、 というと。 というと、 というと、 というと。 というと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 とっと。 と	育および保健体 当教員が専門と 指す。具体的に に関連するテー ゼンテーション	ペーツ科学分野に な育やスポーツ科 でする研究観点から には、各自が異味いる では、各自がです。 ではいて文献 ででい、 でが明確になり研	
	保健体育学	学研究各論演習B	びがす関ンを習いたと体と体るシしり	育やスポーツ科する研究観点が する研究観点が 的には、各自が テーマについて ョンを行い議論 、結果のまとめ	学に関するト ら考究時し、学 興味研究を行った 文ででであることに加 方で解釈の仕 設定、調査や	ピックスについ 術的資質を高め 保健体育でやスポ い、て、簡便なけ 方につい計画の仕 実験の計画の仕	ペーツ科学分野に とまとめてプレゼ が法で調査や実験 ぶ。この一連の学 上方、データのま	
	小学校教徒	科内容(体育)	に講義(学生育科の や教具に いった各	実技実習を含む まける体とである 目標とるお問題、 関わる。また 単元の指導方が 単元の指導方が) することに 一様知識体的なと 一様の方法と 神運動や 神運動方法な で評価方法な	よって、小学校 る。具体的に導 育方法(指導言 ど)を講義で運動、陸上運動 どを学ぶことで	終括的かつ総覧的を数論を志望する を教諭を志望する は小学教材の準備 けっと水泳運りの が大運動の が大運動の実 が大運動の実 が大運動の実 が大運動の実 が大運動の実 が大運の が大運動の実 が大運の が大運動の をとない。 が大運動の をとない。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	サッカー		イント、 フェンス	ヘディング、シ 、作戦の立案)	ュート) ・戦 をゲームと関	術(集団的オス 連付けながらま		
	バスケッ	トボール	個々のス するく、と 学として と と る り 習 り る り と り る り る り る り る り る り る り る り る	キルに対する指 法を学習する。 画・運営を行え て身につけてお 時間ごとにテー	導を行えるよこ。 またた力を表して、 るに、 るに、 るに、 るに、 るに、 るに、 るに、 るに、 るに、 るに	うにするほか、 おいて単にゲー 。 ットボールの基 人練習やグルー	、指導者として 実際に集団に対 - ムを行うだけで 医礎技能・戦術に - プによる練習に - うとともに、授	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程)						柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	容		備考
	バレーボ	<i>−,</i> ル	ク, ブロ を基本的 業を通じ	ック、サーブ) 」な技術・戦術、	・戦術(集団的 集団的な技術・	ウオフェンス・ ・戦術として習	「ーパス、スパイ ディフェンス) 胃得していく。授 牙・戦術を理解し	
	スキー実	~~	キーの 楽しつで 楽しいで ので で で を の で を が を が と に で に に で の を に で に で に に に に に に に に に に に に に	少しの身体の(通してスポー) 宿泊合宿で仲 する。 ア・ウィンタ もにスキーを ぶ。スキーで(ツを実践する楽し 間づくりの楽しる ースポーツの代え 通してスポーツの	よりに技術が上 しさを獲得する きを体験し、将 をであるスキー の指導滑走なと いまつれ	・レンジするス ・達するスキーの ら。また、大自然 子来の生活に役立 ・を学ぶ。スキー 日研修の大切さに デプライベートス	
	学校と地	域スポーツ	を構成し スポーツ 学校があ また、教	ていく。 庁の行政の考 <i> </i> ち。教員目線	えと児童生徒・倪 でスポーツの今後	R護者の思いの 後の在り方を考	終表する形で授業 の実現場所として 終えてもらう。 関して考えること	
	スポーツ	と栄養	て理解した のな食学 の栄養	、スポーツ時 、自己の栄養 活のあり方に 基礎的事項、 学についての	こおける栄養の重要取状態を振り近 でいて検討する前 運動・スポーツの	重要性を説明で 図りつつ、スポ と力を身につけ りための栄養学 いて説明し、過	ペーツ現場や健康 ける。 ≅および健康のた 運動・スポーツ時	
	発育発達	学	について 児・児童 を習得す 小児の心 た、小児	充分理解し、・ ・生徒・学生 る。 身の発育につい の発育に関し ぼす影響につい	それらを評価すると、発育段階ごと、発育段階ごといて、形態面およて栄養面から学習	る方法を習得す との運動・栄養 よび機能面から 習するとともに	をに関しての知識	
	保健体育	学ゼミナールI	おける基育保健研究には、習したこ	礎的な学識を やスポーツ科 領域の観点か 健体育学研究 とを基礎とし、	基とし、各自が興学に関連する研究 うテーマを設定し 各論演習Aおよび	型味を持った学 紀について、指 ン学術研究を実 保健体育学研 设定、文献研究	ペーツ科学分野に 対象育あるいは 音導教員が専門と と と と と と と と と と と と に と に に に に に に に に に に に に に	
	保健体育	学ゼミナールII	できた 保 年 を ま の で お お よ び で で お よ び で に に に に に に に に に に に に に	健体育やスポート 中では はなけった学術に はないて、指導 学術研究を実 保健体育学研究 保健体育学研究	算教員が専門とで 践する。具体的に 各論演習Bで学習 したデータを分	るける基礎的な 保健体育やスポ ける研究領域の こは、保健体育 習したことを基	な学識を基とし、 ペーツ科学に関連 の観点からテーマ で学研究各論演習 を遊とし、保健体	
	ハンドボ	ール	し、ゲー 戦術的原 ル指導上 個人・グ	ムを計画した 則を理解する の問題意識を	ことができるよう 高めることができ はチームによる記	解決等ゲームを うになる。併せ きるようになる	:規定する要因や けて、ハンドボー	
	ラグビー		せ、身体 解説し、	接触を伴うタ 指導法を身に タッチフット	つけさせる。また	ム等についてに こ、安全面を考)技術を習得さ は、その危険性を が慮した、タグラ 「必要な知識と実	

(教育学部学校教育教	授 業 員養成課程)	ŧ 1	與 目	Ø	概	要	柏原キャンパス
科目区分	授業科目の	名称		講義等の内]容		備考
	テニス	三 に 本 1 か 2 3	スを楽しむための おける指導法の書 授業の到達目標は ・ アニスの用具・ ・ アニスのルーバ ・ テニスの基本的 ・ テニスを楽しむ	アナー、基礎的な技行 の知識や技能を総合的 習得を目指します。 は、以下の通り 施設の特性やマナー を学び、試合進行の がな動作を学び、適い のな動作を学び、適い のなあために、ストロー	的に学びます。 ーを学び、安全 の指導ができる 別な指導ができ	さらに、授業等 全なプレーの指導 る きる	
音楽教育コース専門科目	ソルフェージュ	度 に ン 組	を実践力を身についます。 ででででは力とも でいフェージュ、2	を学ぶことによっけることを目標とりけることを目標と を術力を評価する。 2. 声対位法の聴音、利 で、カロデモンストレック	し、講義に対 和音の聴音に	する理解力ならび 関する基本的な仕	:
	創作表現I	た イ 講	仕組みの講義と作 ションと演奏の理	- 作曲、アレンジと表 目の発表と考察を名 関解を深め、演奏力を 日ならびにアレンジ	亏い、それぞれ を身につける。	hのデモンストレ	
	演奏基礎 (こえ)	をお学到し、からと	養う。 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	医礎的技能を育成する 在音楽の歌唱に触れる と基に培った教授法 必要な基礎的技能を な音楽の発声や音楽 ができる。 ル活動を通して、実 ニングやアンサンコーングをアンサンコーングをできる。 を使った実践課題に 所を聴きながら歌う。	る。 を生かした指導習得する。 の形式、伝統 践方法や指導 ブル活動に積析 こより、音とす	算を行う。 音楽の歌唱につ 法を考えること 動的に取り組むこ 音の重なりを聴き	
	ピアノ伴奏法	音音	楽科指導経験をも 、短調の和音、ま	かな知識や技術、表現 かとに具体的に指導 におかる にはないで にはないで になった。 にはないで にないで にないで にないで にないで にないで にないで にないで に	する。主要三れ VIの和音、i	和音、属七の和 副属七の和音等の	
	音楽学I	解 に 諸 と	することができる 関わる文化のあり 民族の音楽を事例 もに、音楽だけて	こうに捉え、表現して 5。日本を含めた世 5。日本を含めた世 5)方の基礎知識を習る 別に、様々な「音楽」 でなく文学(言語) 5)方」について提示	界各地の音楽の 得することが、 のかたち」に、 や演劇など、	のかたちと、それ できる。 ついて解説すると	,
	小学校教科内容	(音楽) 案	が進め方、評価方法 材である歌唱作品 一画(指導案の作品 を作成する。子と 、実際の授業場品	ける指導方法についた はについて学ぶ。教 品、器楽作品の演奏: は)について基礎的が主体的に学ぶ。 ではなか主体的に学業展 にに合わせた探業展 のいて深く探求させ	対研究においた および鑑賞を行 な考え方を学び ために必要なす 開や、学びの	ては、小学校共通 行う。また、授業 び指導計画や指導 指導方法を理解	
	管絃(雅楽)I	雅る雅もる	É楽器の練習及び伝 う。 É楽の歴史的変遷と うりき)、龍笛(り	な事項について理解 は承の方法である「『 は使用楽器について があるでき)、 鳳笙 は、雅楽器演奏の は、雅楽器演奏の	昌歌 (しょう) 解説し、管絃((ほうしょう)	が)」を体得す D3 管「篳篥(ひ 」の教授法であ	
	アンサンブル指揮	20 シ 指 猛法 作)世紀と21世紀の作 (ヨンと応用の理角 指接の基本と応用 (揮法を修得する。	上対する理解力ならで	と21世紀の作品	品の考察を交えた	

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育 科目) 業科目の名称			講義等の内	 Pi容		柏原キャンパス 備考
区分		(ピアノ)	クを、第 ソロ曲を には前回	9回〜第15回 取り上げなが に課題を指示 り入れ、自身	ては主にピアノ こおいては中学 ら演奏能力を高 する。すべての	を弾く上での基 校・高校音楽の める。新しい誤 授業においてア	基礎的なテクニッ)教材曲やピアノ 果題に移行する際 アクティブラーニ か果的な練習方法	
	合唱指導	法(混声)I	・ル歌を到(能(取(こ(が(れてう目)を)こ)が)を)とうでいて、いて、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	養う。まだでである。学校でである。学校でである。学校ではまに、からいではまたがでいまる。 アンサン かった できなり かん 活動 はまれる かん にいまれる かん にいまれる かん にいまれる かん にいまれる かん にいまれる かん にいまれる かん にいまれる はいまれる はいまれる はいまれる はいまれる はいまれる はいまれる しょう はいまれる はいまれる はいまれる はいまれる しょう はいまれる はいまれる しょう はいまれる はいまれる はいまれる はいまれる しょう はいまれる はい はいまれる はい はいまれる はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はいま はい はい はい はい はい はいまる はい はい はい はい はい はい	者民族、ポップ 者民族、ポップ 力指導経験を基 唱曲を学習する その指導法を学 、音楽の形式や 動における指導 動や全体での運	ス、一般に広くに培った教授を 6中で、声によられて、事による。 5年で、声によられて、背景、歌詞 算法を、授業実 営活動に積極的 に、音と音の動	こよるアンサンブ (歌われている唱 法を生かした指導 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える 的に取り組むこと 這なりを聴き合う	
	合唱指導法(混声)II			、声によるれて、声によるれて、下に、大くのれて、 大くの同様に、	ンサンブル能力 ている唱歌にも した指導を行う 唱曲を学習する その指導法を学 、音楽の形式や 動における指導 動や全体での運	を養う。また、 触れる。学校で 5中で、声によ 5年で、 5年で	現代の合唱曲に 諸民族、ポップ での指導経験を基 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える かに取り組むこと 気なりを聴き合う	
	合奏I		おとなるとはおります。おれている。おります。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	分の表現と結びを含まれて音がある。 を習得し、個々ることができる。 では、各種打がの紹介を交えない。	バつく奏法を工 終(アンサンブ やの主体性を引 る。 終器の基礎無 設計 といい といい にいい にいい にいい にいい にいい にいい	夫し演奏できる ル、合奏)を を き出し、コミ = 、基本奏法、 を 中心に行う。	ロで作曲者の意図 らようになる。 ドり上げていく知 ニニケーション能 特性を理解できる また、打楽器の ナンブルの紹介を	
	演奏表現	(こえ) I	また、他 した演奏 る。	者の演奏につい を再生し、自身		行う場を設ける 的に評価できる	ると同時に、録音 るような場を設け	
	演奏表現	(こえ) II	また、他 した演奏 る。	者の演奏につい を再生し、自身		行う場を設ける 的に評価できる	ると同時に、録音 るような場を設け	
	演奏表現	(ピアノ) I	演奏法を ピアノ曲 践を通し の生い立	修得する。 の演奏方法の て具体的に研究	基本について, 究する。アクテ を調べ知識を深	様々な形式・ イブラーニンク	様式に対応した が態の楽曲を、実 がを通して作曲家 用し、知識およ	:
	演奏表現	(ピアノ)II	演奏法を ピアノ曲 て、具体	修得する。 の演奏方法の 的に研究する。	基本について、	様々な形式・刑 は古典派ソナタ	様式に対応した が態の楽曲を通じ について研究 」を高める。	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
牧育学部学校教育 科目 区分	育教員養成課程) 授業	科目の名称			講義等の内	內容		柏原キャンパ 備考
	創作表現II		用力を身り の関係に。	こつけることを よる作曲の基本	目標とし、分 的な仕組みの	析を基にした化 講義とベート-	比組みを理解し応 作曲や分析と和声 ーベンの作品の考)理解を深める。	
	合奏II		おときを記述した。おは、おおりのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	分の表現と結びを合います。 を合いるでは、 を習いるでは、 を習いるでは、 でのでは、 でのででででいる。 でのでででいる。 でのででいる。 でのでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいる。 でいるでいるでいる。 でいるでいるでいる。 でいるでいるでいるでいる。 でいるでいるでいるでいるでいる。 でいるでいるでいるでいるでいる。 でいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるでいるで	べつく奏法を工 (アンサンブ) の主体性を引 。 基本奏法、特 中心とした作	夫し演奏できるル、合奏)を作き出し、コミュ き出し、コミュ 性を理解させる 品の紹介をし、	Pで作曲者の意図 るようになる。 作り上げていく知 ュニケーション能 る。打楽器のため アンサンブルの ☆での発表に繋げ	
	音楽教育学	:	は、学校カリキュラ 受講者自身各班のプロ	音楽教育の歴史 ラム、教材、教 身が問いをもち	、原理、目標、 で育方法、世界 、それについ	、教育課程にお の音楽教育の動 て調べる課題研	せる。具体的に らける位置づけ、 め向などを扱う。 肝究の形をとる。 スカッションを組	講義10時間 演習20時間
	和楽器アン	゚サンブルI	く、礼儀の 得出来る。 後半では	作法に始まり楽 ように指導し、	器の扱い方、 教育現場にお	歴史背景など約 いて困らない。	○奏法だけでな 総合的に知識を習 よう指導する。 自で調弦をして演	
	スコアリー	ディング	フと移調さむことが	楽器の理解と実 できるようにす	習を行い、異る。	なるクレフで書	₹習、異なるクレ 書かれた楽譜を読 里解力を評価す	
	音楽学II		いて取り_ いるのかり	上げ、音楽文化	がどのように 社会、思想、	形作られてきた 形式の三つの初	地域的拡がりにつ たか/形作られて 見点から解説して た発表を行う。	
	演奏表現((こえ) III	また、他をした演奏を		て意見交換を変の演奏を客観に	行う場を設ける 的に評価できる	ると同時に、録音 るような場を設け	
	演奏表現((こえ) IV	また、他をした演奏を		て意見交換を初の演奏を客観に	行う場を設ける 的に評価できる	ると同時に、録音 るような場を設け	
	演奏表現((ピアノ)III	演奏法を何 ピアノ曲の 践を通して の生い立ち	修得する。 の演奏方法の基 て具体的に研究	本について, する。アクテ 調べ知識を深	様々な形式・H ィブラーニンク	様式に対応した ジ態の楽曲を、実 ブを通して作曲家 用し、知識およ	
	演奏表現((ピアノ) IV	て理解を活ビアノ曲の践を通しての生い立ち	架め、様式に対 の演奏方法の基 て具体的に研究	応した演奏法 本について, する。アクテ 調べ知識を深	を修得する。 様々な形式・用 ィブラーニンク	様式の変化につい が態の楽曲を、実 がを通して作曲家 用し、知識およ	
	創作表現II	I	用力を身り 20世紀のf の基本的フ	こつけることを 作品を基にした	目標とする。 作曲、20世紀 と作品の考察	の作品と和声 <i>0</i> ・発表を行い、	t組みを理解し応)関係による作曲 それぞれのデモ	

	授	業	科	目	の	概	要		
教育学部学校教育 科目		科目の名称			講義等の内	7次		柏原キャンパン 備考	
区分	創作表現IV		応用力を 20世紀と2 した和声	身につけるこ 21世紀の作品 の関係による	の基本を学ぶこ とを目標とする	とにより音楽の 。 と20世紀と21† 講義と作品の。			
	同声合唱I		ルま学到(能)(取)(こ)が)き を諸の標 多養 とってこうが)き (能)(な)(こ)が)き) (が)(エ)が)き)	中世、ルネサンスから現代の合唱曲に取り組み、声によるアンサンブル能力を養う。また、諸民族、ポップス、一般に広く歌われている唱歌にも触れる。学校での指導経験を基に培った教授法を生かした指導を行う。到達目標 (1) 多くの様式の合唱曲を学習する中で、声によるアンサンブル能力を養うと同時に、その指導法を学ぶ。 (2) (ア) 楽譜から、音楽の形式や、背景、歌詞(言語)を読み取ることができる。 (イ) アンサンブル活動における指導法を、授業実践の中で考えることができる。 (ウ) アンサンブル活動や全体での運営活動に積極的に取り組むことができる。 (エ) 歌唱力を向上させることと同時に、音と音の重なりを聴き合うことや、周りの音を聴きながら歌うことができる。					
	同声合唱II		声ま学到(能(取(こ)が)き)にた校達(1)を)について、で目のでは、で目のでは、では、では、のでは、でででででは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	同声合唱Iに続いて中世、ルネサンスから現代の合唱曲に取り組み、声によるアンサンブル能力を養う。また、諸民族、ポップス、一般に広く歌われている唱歌にも触れる。学校での指導経験を基に培った教授法を生かした指導を行う。到達目標 (1) 多くの様式の合唱曲を学習する中で、声によるアンサンブル能力を養うと同時に、その指導法を学ぶ。 (2) (ア) 楽譜から、音楽の形式や、背景、歌詞(言語)を読み取ることができる。 (イ) アンサンブル活動における指導法を、授業実践の中で考えることができる。 (ウ) アンサンブル活動や全体での運営活動に積極的に取り組むこができる。 (エ) 歌唱力を向上させることと同時に、音と音の重なりを聴き合ことや、周りの音を聴きながら歌うことができる。					
	合唱指導法	₹(混声)III	取ま学到(能(取(こ(が(知、で目)を)こ)が)き) (能(なて)に)がいき) (なて)に)がいき)	、 下による。 声による。 声による。 大民 に ボッをを (ア) との に 楽 は で せ で せ か に か ら で せ か ら か で せ か っ か で も か っ か で も か っ た も か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か ら か	ンサンブル能力 ス、一般に広く こ培った教授法 唱曲を学習する その指導法を学 、音楽の形式ペ 動における指導 動や全体での運	を養う。 歌われている いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる いる い	ら現代の合唱曲に 書歌にも触れる。 尊を行う。 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える 内に取り組むこと 重なりを聴き合う		
	合唱指導法(混声)IV			み、声によるプルトでは、 大民族、経験をは、は、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	アンサンブル能ス、一般に広く、 こちった教授法 唱曲を学習する その指導法を学 、音楽の形式や 動における指導 動や全体での運	力を養う。 歌われている『 歌われている『 を生かした指導 ら中で、 声によ らい。。 背景、歌詞 算法を、授業実 営活動に 音と音の『	ら現代の合唱曲 書歌にも触れる。 尊を行う。 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える 内に取り組むこと 重なりを聴き合う		

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部等	学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
科 区		授業和	科目の名称			講義等の内	容		備考
		舞台表現演習む。)	習(伝統音楽を含	やで伝に学 で伝に学 (104浦び (22 104浦 (104浦)	ジカル等の実実との表現の表現の表現の表現の表現の表現の表別を含める。 対力導経験を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	に培った教授法を 15回) IP IP IP IP IP IP IP IP IP IP IP IP IP	会表現について) 組むことがで) と生かした指導 と生かした指導 ける。 いて担当する。	理解することが さる。 がはすると同時	オムニバス
		和楽器アンさ	サンブルII	力を深め 筝の知識 ンサンブ	うる。 はだけで無く、 バルを通じて表	楽器のアンサンプ 三絃や17絃など作 現力を高め、小中 有用な知識を身に	也の和楽器の知 中学生の音楽授	見を広める。ア	
		合奏III		おは、お他職力各を担いる。おおりのでは、おおりのでは、おいます。これでは、おいますが、おいますが、おいますが、おいますが、おいますが、おいますが、おいますが、おいますが、おいますが、これが、おいますが、	分の表現と結びを合わせて、個かることでは うることではいできる。 その基礎知識 といるに基礎練習 といるに表しまでは というとはできる。 それである。 とれである。 それである。 とれでも、 と、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも、 とれでも とれでも とれでも とれでも とれでも とれでも とれでも とれでも	奏法と特性を理解 びつく奏法を工分 楽(アンサンプ/ 々の主体性を引き る。 基本奏法、、特性 を中心にアンサン	たし演奏できる レ、合奏)を作 と出し、コミュ 生を理解できる また、打楽器の	ようになる。 り上げていく知 ニケーション能 よう楽器の紹介 ための作品ある	
		合奏IV		お他識力各の実活がとがある。	分の表現と結びを合わせて、 ででは、ででは、できることでは、できることでは、 では、では、では、 では、では、 では、では、 でおいない。 では、 ででおいる。 では、 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででおいる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 ででは、できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	、基本奏法、特性 を中心とした作品	たし演奏できる レ、合奏)を作 5出し、コミュ 生を理解させる 品の紹介をし、	ようになる。 り上げていく知 ニケーション能 。打楽器のため アンサンブルの	
		音楽教育学研	研究各論演習I	ての関心 の問題意 究主題の	を基盤として 識を発展させ	育学との関係につ 考察することを見ることを軸として 法の選択、論文材	目的とする。具 て、卒業論文作	.体的には、各自 .成に向けて、研	
		音楽教育学研	研究各論演習II	ての関心 の問題意 構成の仕	を基盤として 識を発展させ 方、探究の方 をとる。随時	育学との関係にへ 考察することを ることを軸として 法について指導す 、論文テーマにも	目的とする。具 て、卒業論文作 トる。授業はゼ	.体的には、各自 .成に向けて論文 ミおよび個人指	
		音楽教育実践	践演習	を行い、 音楽科の	それに基づい 教科内容の特	楽科の基礎理論を た学習指導案を4 質(指導内容の4 材研究を基に、担	F成し、模擬授 1 側面及び音楽	業ができる。 と他媒体とのか	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分) 業科目の名称			講義等の内	容		柏原キャンパス 備考
	合唱指導	法(混声)V	取スに到(能(取(こ(が(知)、培達1)を)こ)が)き)がりき)にのでエンがいき)がりき)がりき)がりき)がりきがない。	、声によるアンに広くいます。 声によるわれては、 教授法を生かし 多くの様式の合いできる。 アンサンブル活動 シーンサンブル活動	サンブル能力がいまり、 いる唱歌を行う。 昌曲を学習するの指導法を学習 音楽の形式や 動における指導 や全体での運算	を養う。また、 性れる。学校で 中で、声 歌 歌 宗 、 背景、授業実 対話動に積極的 こ、音の重	の現代の合唱曲に 諸民族、ポップ での指導経験を基 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える かに取り組むこと なりを聴き合う	
	合唱指導	法(混声)VI	取スに到(能(取(こ(が(知)から)を)を)にり、培達(1)を)こ(が)き) (取(こ)が)き)	、声によるアン 声によるアン に広く歌を生かし 多くの様式の合。 うと同時譜が、ら、 ができる。 アンサンブル活動 ンサンブル活動	サンブル能力を いる唱歌を行う。 昌曲を学習する の指導を形式や 動における指導 や全体での運動。	を養う。また、 主養う。また、 なまた、 中で、 声 歌 歌 実 法を、授業実 営活動に積極的 こ、音の重	現代の合唱曲に 諸民族、ポップ での指導経験を基 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える かに取り組むこと 気なりを聴き合う	
	同声合唱』	III	声ま学到(能(取(こ(が(な))き)を)がの標う後とでです。)をしていがいき)でエンがいき)がいき)	アンサンブル能 大変 大変 大変 大変 大変 大変 大変 大変 大変 大変	力を養う。 、一般に広くいい。 ・一般に広くいい。 ・一般に広くいい。 ・一般に広くいい。 ・一般に広くいい。 ・一般になった。 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般における指導 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般にある。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般においる。 ・一般にある。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	飲われている『 を生かした指導 中で、声によ 。 、背景、歌詞 法を、授業実 営活動に積極的 こ、音と音の重	晶曲に取り組み、 晶歌にも触れる。 草を行う。 るアンサンブル (言語)を読み 践の中で考える 的に取り組むこと 這なりを聴き合う	
	同声合唱』	IA	みま学到(能(取(こ(が(エ)が)き)を検達(1)を)こ)が)き)がでエ)がでエ	指導経験を基に 多くの様式の合い うと同時に、そ (ア)楽譜から、 がンサンブル活動 きる。 ンサンブル活動 。	ル能力を養う。 、一般に力を養う。 場った教授法さ 書曲を学習する の指導法を学習 音楽の形式や 動における指導 や全体での運営	飲われている『 を生かした指導 中で、声によ 。、背景、歌詞 法を、授業実 言活動に積極的 こ、音と音の重	昌歌にも触れる。	
	和楽器ア	ンサンブルIII	る。 受講生を スクイ爪 各回にお	など右手奏法及	教える立場にた び左手押手な 」の練習を行い	なり、箏の扱い 奏法の指導方法 い、各自で調弦	、楽譜の見方、 まを学ぶ。 なをして「六段の	
	和楽器ア	ンサンブルIV	掘り下げ アンサン 史を深く 三絃の扱	て解説出来る。 ブルを通し仲間 学ぶ。	と共に演奏技術方法を学ぶとも	析を高め、日本 ともにパート欠	品の取り扱いなど ☆音楽の伝統や歴 ♪けを行い、課題 ☆行う。	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育等	学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス
	科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	1容		備考
		合奏V		の紹介を 品あるい の中で指 後期は合	交えながら基 は打楽器を中 導する。 奏を中心にし	遊練習を中心に行 ひとした作品の	行う。また、打 アンサンブルの グループ発表、	学できるよう楽器 T楽器のための作)紹介をし、演習 評価会を通して	
		合奏VI		おおとは高りない。おおります。おおります。これでは、おおります。これでは、おいります。おいります。これでは、おいります。これでは、おいります。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	分の表現と結音を習る器とはいる。 からででは、でいるのでは、でいるのでは、でいるでは、でいるでは、でいるでは、でいるでは、でいるでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	びつく奏法を工 楽(アンサンブ) 々の主体性を引 る。 、基本奏法、特 を中心とした作	失し演奏できる ル、合奏)を作 き出し、コミコ 生を理解させる 品の紹介をし、	で作曲者の意図 らようになる。 ちり上げていく知 ニケーション能 ら。打楽器のため アンサンブルの 琴会での発表に繋	
	- 審道教育 美術)コース専 門科目	小学校教科作)	4内容(図画工	な材料、作品づく 技術では	技法、道具等 りに取り組む。 なく、表現方 を楽しむこと	こついて認識を 生を磨くことで、	架めた上で、自 図画工作の授	と目的とし、様々 目由な発想による 受業内容を充実さ ぶ有効かを体験を	
		絵画・彫刻	刊表現基礎A	造形要素が題を深め、使った造を出す。)についての 、感受したこ 形では、トゥ 各課題とも出	とを色や形で表	自然を描く」を す課題を出す。 ーションによる を相互に鑑賞し	テーマに自ら主 コンピュータを 動画制作の課題	
		絵画・彫刻	刊表現基礎B	て、創造の 体表基本 立体を概観 方に型取	的な構成を工 基礎的な素材 的事項、マナ 刻表現の基礎 する。その後	・技法体験(塑造 一の習得を目標 的な参考資料視り 表現のための 作品化へ展開す	見する構想を網 造制作)、様々 とする。 徳を行い、具象 構想から実際に	表。そのため立 な造形活動に通 な的な表現の在り に制作体験し、さ	
		デザイン・	・工芸表現基礎A	識と,表 分割比に 作品の制	現実技の基礎 よる平面構成 作、線の表現	的能力を身につい 立方体の展開	ける。 図から考える切 複数分野の実技	京法等の基礎的知 切り取られた立体 友を体験し、制作	
		デザイン・	・工芸表現基礎B	と,表現 木工、染	実技の基礎的 色、金工等の	工芸分野ついて, 能力を身につけ。 基礎技法や材料。 それぞれの制の	る。 の特性とその扱	みい等、工芸の複	
		日本美術虫	史概論	美術史の 仏教美術 鎌倉時代	概観を理解す の基本を学ん 初期までを代	る。 だ上で日本の飛	鳥時代、奈良時 の詳細な考察か	日本・東洋古代 特代、平安時代、 いち、当時の人々	
		デッサン語	ĠĦ	について について デッサン 察する。 を目指し、	検証し、主体 関連する多様 とは何かにつ 多様な意味に 、技能、表現	な意見を述べる な事項に関心を いて、現代の状 おいて美術表現の	ことができる。 広げ、問題意識 況、またその ^同 の基盤となるラ 知識だけでな	「能性について考 ゛ッサン力の獲得 よく、実際に人物	

	授	業	科	目	Ø	概	要			
(教育学部学校教育教 科目		•			745 246 february 1			柏原キャンパス 備考		
区分	授美	業科目の名称		講義等の内容						
	図法		ることがで 作実践に近 平面からこ 想ができる	できる。また、 適用することが 立体、また立作 るように、講	基礎的内容を ができる。 本から平面と双	理解することに 方向から「形」 基本的な道具	: 技術を身につけ こより、自身の制 や「空間」の発 (直定規・コンパ			
	絵画・彫	刻表現研究A	描くことの なテーマで とからはし	の意味や内容である。 目前の	を問う。そのた の生きた存在を の表現が各々の	め人体は、美術 どう感じ、どう	通して、私たちは 所の勉強では重要 が描くかを問うこ つながっている			
	絵画・彫	刻表現発展研究A	に取り組む その週で5 ピールし、	つ。 完結させる制作 意見を交換 ⁻	乍と、数週にわ する時間も含め	たる制作を交え る。制作活動 <i>0</i>	毎回の提案課題 ながら自作をア)展開に重点を置 つる様子に着目す			
	絵画・彫	刻表現研究B	ど様学度後や術点ない。	関連する工具 形活動に応用 での実際に則 ついてまでに された一までに ックアを美し や社会を客観	具や道具の取りできる基本的基本の表別できる基本の技法ます。 習得した造形のである。 との構想をして	扱いについて習項の経験と習得の経験と習得、作業の 可習得、作業の 力を活用し、与 いく中で、生活 術、地域社会と 題を生み出す力				
	絵画・彫	刻表現発展研究B	ム美視で前やす後催表の半パ、な実でブーで最ででしている。半をまでです。半をまです。 は終し	リックアート 大会や 大会や 大会や 大会や 大会や 大会や 大会や 大会や	などの構想をする しくせい しく性を もしく性を もします。 したデール に おりで は もりで に た が に き り に き り に き い の の の の の の の の の の の の の の の の の の	ていく中で、社会では、 大学主題を生みし、特別を生みし、特別を活用の制作には、 の、作品品の信機の、 で、社会では、 は、 で、社会では、 の、 で、社会では、 で、社会では、 で、社会では、 で、社会では、 で、社会では、 で、、社会では、 で、、社会では、 で、、社会では、 で、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	学校ミュージア 三活や社会の中ののまとのですかなが、現場 本校ミュージアム 丘動をしていきように 一力を養い、現場 本校ミュージアム に動きしていき、 に動きしていき、 は関金、展示発 にお、本講義は、			
	デザイン	・工芸表現研究A	出し深める ト作品、約	る。平面及び 幾何学的レリー	立体デザイン分	野の実技を研究 、針金、天糸、	の表現方法を見 ピし、平面ユニッ 布など他素材を)。			
	デザイン 究A	・工芸表現発展研	ザインから ぶ。 明確な目的 あそびの写 で考え、ラ	う制作までのi 的を持ってデ 実践として、	過程を通し、デ ザインし、グル 身の回りにある 乍過程の計画を	ザインの必要性 ープで協力して ものを使ったま				
	デザイン	• 工芸表現研究B	出し深める 陶芸分野の 板づくりん	る。 の基本的な実績	支を研究し、ひ 乍、くり抜き技	もづくりによる	の表現方法を見 うカップの制作や 陶芸の制作を行			
	デザイン 究B	・工芸表現発展研	ける複数分ら作品完成 ひもづくり 法を追求し	分野の基本的 成まで一貫し り及び板づく	な技法を用いた た作業が出来る のによる立体作 数分野の中から	作品制作が出来 。 品制作を通して	イン・工芸にお そる。デザインか て、各自の表現方 より高度なデザ			

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教	故育学部学校教育教員	養成課程)		1					柏原キャンパス
	科目 区分	授業和	科目の名称			講義等の内			備考
		美術理論I		な作品 通して 辻惟雄 の物語。	について理解を 、プレゼンテー 監修『日本美術	での東洋・西洋美での東洋・西洋美深める。加えて、ション能力と考察・中』及びエルンフ、毎時間、各章を解を深める。	毎時間行う発 客力を培う。 スト・H・ゴン	を表と質疑応答を ブリッチ『美術	
		材料研究A		視点に の可能 をもと	立脚した空間表 性を探らせ表現 に培った教材化 おいて各学生が	的な造形要素の料現を習得させる。 の広がりを理解さ のための素材の活 自らの作品の制作	実制作を通し なせる。教育明 5月方法につい	レて様々な描画材 見場での指導経験 >て指導する。鑑	
		材料研究B		の制作 ける。 染め,	を通して理解を 織りの基礎技法	ついて,主に染絹 深め,自分自身⊄ を体験したのち, 組み研究レポート	を現を研究する 各自繊維造形	トる姿勢を身につ 彡 (ファイバー	
		日本東洋美行	術史	し、日 日本の 存遺例	本・東洋美術史 中世以降に制作	世における仏教美の概観を理解するされた仏教美術、 造示しつつ解説する。	う。 特に浄土教美	美術について、現	
		美術科応用码	研究I	立と、· の研究 [・]	その研究に必要 テーマの確立と	実験・制作等を路な基礎的研究能力 、その研究に必要 究トレーニングを	コの習得を到達 要な基本的な研	を目標とし、各自 研究能力の習得・	
		美術科応用	研究II	研究を 達目標 と、卒	視野に入れたべ とし、各自の研	がを踏まえ、各自 ースとなる研究・ 究テーマに沿った きる研究・実験・ 発表を行う。	実験・制作の基本的な研究)成果の獲得を到 E能力の習得確認	
				時期の	特徴を理解する 主にデザイン,	史について,主に 。 後半は工芸につい 造形的特徴等を解	いて、主要作品		
		デザイン・ご	工芸史	(1712) デザイ (28佐)	ニバス方式/全 E藤 亮/8回) ンについて担当 藤 賢司/7回 ついて担当する	する。)			オムニバス
		美術表現の	基礎	ことかて体験で アート	らはじめ、絵画 する。グルーフ な美意識が存在	り、身の周りにあ ・立体・デザイン での共同制作を行 することを知る。 アールプリュット る。	vの基礎を、鑑 fい、コミュニ 古典的な美術	監賞と実習を通し ニケーションの中 所のみならず、	
		絵画基礎演	낌	唆し、 最クつす。 題を 関を	各自それぞれの 視覚芸術とは切 ップ形式で再記 「アクショーの後に絵画の 出します。 授業	ら体験し、「絵画答を出すように仮っても切れない 識を促します。そインティング」の本で通して自分の思 記録することを考	eす授業です。 「光」と「色」 この後、作品を O体験で新しい と「paint」 思考と技術力の	について、ワー と作り出す身体に い発見を促しま 、最後に人体の	
		彫刻演習		る。平 を修得 現の探	面プランから心 する。更に、対	塑造制作の実際的 棒制作、粘土によ 象の構造や量感の また、石膏などを る。	る制作へと、)把握に留意し	塑造制作の過程 、塑造による表	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	育教員養成課程)							柏原キャンパス
科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	容		備考
	コミュニデ	・イとアート	能性などに、アート、実施を自っトをすどについて、	について理解する よる地域力の中で いいではないでは いいではないでは にいいではないでは にでいる。 について、 について、 について、 について、 について、 について、 について、 について、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいて、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいしは、 にいし、 にいし、 にいし、 にいし、 にいし、 にいし、 にいし、 にいし	「る。地域社会に 、プへ可能性を理 でのワークショッ で捉える視点を犯 にユニティの現れ ほに地域の中での	こおけるアート 単解する。 ・プ等の企画す 養得する。 たやワークショッ フワークショッ	-クショップの可、活動の有効性、 尾施を行い、それ ロップの可能性な マブ等の実施経験 け化する場を提供	
	デザイン演	音	た思考を 伝える、 る。 自分	得る。 使う目的や機能 を伝えるポスク	旨を考えた上で 表	長現することの ○制作に取り約	且み、合評会での	
	工芸制作I		陶芸の基準くることが	本的なひもづく が出来る。ガラ	ラスの特性と道具	って、用と美を 【類の基礎的知	・兼ねた作品をつ	
	工芸制作II	[指導を行っ 造形表現は 個々の技技 性・思考を 課題を通り の技術の の技術の	うに必要十分なたでいます。 についても幅点 能面だけではな 方法などについ して、学校教育 木工作品の機 大工作けでなく	は知識や技能を習れている。 はい技能を習得する。 はく、他の学生のいての考察を深めている。 では場で使用する。 では、構造について、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	習得し、木材の つることが表できる いるこれとが表できる。 本工機械や道 で解説・指南する	通して、個性・感	
	美術史演習	ÎI	獲得する。 い見識を 受講生は	。さらに、美術 養う。 各自、担当する	所史を体系的・約 5 寺院や博物館・	総合的に学習す 美術館に赴き	目的知識と技術を 一ることでより広 な、作品の鑑賞及 そと質疑応答を行	
	美術史演習	łII	しじ出理解深良すの報み底どにて易す解く意いるりに得力うどの報子はるのやの報子はるのやのようがである。	でしたのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ではなった。 ではなった。 ではを字でいり、ないました。 であるに、そい対ノかにする。 でかったので文品で含ま提示。 であるま、 であるま、 であるま、 であるま、 であるま、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	これにでなった。とれた面でなって、ははいれて、でなった。とれて、でなった。といれて、は、は、でなった。といれて、は、は、では、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、ないのでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	記録や 記録や は は は は は は は は は は は は は	
	美術理論[]	[たる際、記製西各地の	説得力を持って の博物館・美術	「授業を行える」	、う、実践力を ミ地見学をメイ	として指導に当 と身に付ける。 ′ンとし、各見学	講義18時間 演習12時間
	美術科発展	è研究I	究テーマ! 研究テー でのディン	に基づいた活動 マと研究方法に スカッションを	かを深める。 こついて、各自の)研究活動に対 限題や疑問点か	まえ、各自の研 けするゼミナール いらの各自の研究	
	美術科発展	e研究II	の研究成果 最終報告 い、個人	果を得る。 会に向けてゼラ対応により適宜	を発展させ、卒 ミナール内での発 国内容、方法を変 4作成し、成果を	きまやディスス で更、修正した	リッションを行	

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育教員	養成課程)		1					柏原キャンパス
科目 区分	授業科	目の名称			講義等の	勺容		備考
美術・書道教育 (書道) コース専 門科目	仮名書法研究	ΈI	る。 『高野切 を中心と	の古今集』の中で こした学習を通し	で「第一種」「 して、仮名文字	第三種」を取り の発生と生育が	生の基本を習得す) 上げ、その臨書 過程を理解させ、	
	楷書法研究I		古に理再業料で残りのでは、	に臨書を行う。 表現できるようで 見を受ける。また 富書作品の批評を と整理を行う。名 に対して にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。また にがいる。 にがい。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがい。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがい。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがいる。 にがい。 にが	その技法につい 受業時間内に数 とのででは とうない。 とうでは とうでは とうでは とうでは とうでは とうでは というで とうでは とうでは とうでは とうでは とうでは とうでは とうでは とう	て解説する。ラ 度の添削を受い 復習をし、次回 グループを作り の3回目の授業 の授業は、各5 werPointで発え	う。 表講生はその内容 対、古典の特徴を 可の授業の初めに り、学生同士で授 使の発表内度に続い 近10分程度にき続い 近10分程度にき続い 近20の程 で全15回の授	
	小学校教科内	勺容(書写)	ら単と具((小づ(小文(小学の)))	ot で 対 対 対 対 対 は が は に で を に で を に で を に で を に で を に で を に で る で と で れ で と で れ で と で れ で を り で と で り で り で り で り で り で り で り で り で り に り で り に の に る に る に る に る に る に る に 。 に る に 。 に に に 。 に 。 に に	R容を 系統業特で 5回) Pop を 神子 中 中 シャー か の を 神子 で や か で か で か で か で か で か で か で か で か で	て分析し解説での検討を行い、ような、とうな、とうな、とうな、とうな、とうな、といいとは、といいとは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	のあり方について おける毛筆の位置 いて担当する。 画の書き方指導、 当する。 ほにおける縦書	
	国文学概論A		大沢の童通と将得わ正野中話じす来をるの目知には、るの目知	こおける童話文学 に焦点を当れる。 は、後に教科書等 い学校から高等等 で高等学校 るにあれ は、となるに同し	生史を中心に学昭 中心に学昭 大学で期して語を 学校教 中の教 で品とし で品とと で品とと で品とと でいく でいく でいく でいく でいく でいく でいく でいく でいく でいく	習する。作家の和初期においてされたものがき書に掲載されてものがる書に掲載されての基本的資質を る文学に関する意見を交わする	当て、明治特別がいた。 の中では、れた電子が、特にできるいる。ないでは、ないでは、れた電子が、特にはないできる。ないできる。ないできません。ことをできません。 のでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	
	国文学概論B		の可能性 変化し続 た日本の	±をさぐる。 売ける世界の文化	ととその現象の 5位置づけが可	中で、古代から 能なのか、歴5	ごり未来に向けて らはぐくまれてき む的変遷や近代批	
	漢文学概論A		白川静の 思想教材 しての[研究的な)漢字学説につい すとしての『論詞	ヽて概説する。 吾』・歴史教材 こび日本漢文(その際、漢文	また、現行の複としての『史記』 『日本外史』等 訓読のリズムを	字』、藤堂明保と 漢文教科書から、 己』・文学教材と 等)を選び、教材 と体得させるた	
	漢文学概論B		た後、孔 語』・[ク や 暗誦	L子から孟子・春 『孟子』・『荀-	5子へと展開す 4』に即して解 ことによって、	る儒家思想の液 説する。その際 儒家の思想的特	代について概説し だれを、『論 宗、グループワー 寺徴や個々の言葉	
	書道概論I(る。)	書写を中心とす	り方や、 整った字 小学校書 書けるよ	部分の組立てプ マ形で書くことが 書写の目標をふる	がを理解すると ができる。 もえ、楷書体を □ 点画の練習や	共に、用筆の力 中心とした正し 部分の組立て力	基本的な字形のと 方法を体得し、 しく整った文字が うや、字形のとり	
	書道概論II する。)	(書写を中心と	配列を学 連続、省	学ぶ。中学校書 ²³ 首略の方法を理解 、指導方法を会得	すで新たに学ぶ 解すると共に、	行書の特徴であ 行書の用筆を学	ト形のとらえ方や ある点画の変化や さび、筆脈を意識 ト筆や硬筆を用い	i

	授業	科	目	Ø	概	要			
(教育学部学校教育	教員養成課程) 						柏原キャンパス		
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容						
	中国書道史	析する。 古典作品 授業の到 (1)中国((2)中国(中国の書を研 品や石碑を取り 日達目標 の書道の歴史の の書道の歴史の		の基礎的な力を 養い技法を学る 代表的な作品 特徴を理解す	を覚える。 る。			
	日本書道史	析する。 古典作品 授業の到 (1)日本((2)日本(日本の書を研 品を取り上げ、 別達目標 の書道の中で、 の書道の中で、	代の特徴を理解 究していく上での 鑑賞力を養い技 各時代の代表的 各時代の特徴を 品程における時代	の基礎的な力を 去を学ぶ助けと Dな作品を覚え 理解する。	こする。 る。			
	行書法研究I	に理再度に理再度に乗り、 で表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に というで表別に をいるまりに をいるました をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいると をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいるまと をいる をいると をいる をいると をいると をいる をいると をいる をいる をいる をいる をいる をいる をいる をいる	臨書を行う。 長現できるる。ま 見を受けるの批評 主整理を行うの特 に対しては、	受業時間内に数別 する。授業後は行 た、3人前後の会 を行い、各古典の 各古典の3回目の 数をまとめてPow 放書作品を制作	度の添削を受け 复習をし、次巨 グループを作り の3回目の授業 の授業は、各到 verPointで発表	を講生はその内容 け、古典の特徴を 可の授業の初めに り、学生同士で授 を表内をに ほ10分程度に きする。引き続き そ業で全15回の授			
	草書法研究I	に理再度に理再度に乗り収集といる。	に臨書を行う。 表現できるる。ま 見を受けるの批評 整理を行う。 に だは に ない に に に に に に に に に に に に に	受業時間内に数別 する。授業後は行 た、3人前後の会 を行い、各古典の 各古典の3回目の 徴をまとめてPow 放書作品を制作	度の添削を受け 复習をし、次回 グループを作り の3回目の授業 の授業は、各到 verPointで発表	を講生はその内容け、古典の特徴をは、古典の特徴を回の授業の初めにの、学生同士で授 、学生同士で授業の発表内容の材 は0分程度に臨書 でする。引き続き で全15回の授			
	書道と文字学I	は、漢字 まな歴史	Pの成り立ち・ P的キーワード	六書による漢字の	の分類など漢字 る。それらを通	ている。本授業で 学に関わるさまざ 通じて、書道の芸 受業を目指す。			
	書道文化論I	特 (① ② (③ (3) (本 (3) (本 (5) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	理解することを 隷・草・楷・行 ・書写・習字・ 別四宝について では、漢字の成 ぐまな歴史的キ	中心に学ぶ。以 計書について成立 書法などの用語 基礎的な理解を り立ち・書体の	下を到達目標と 過程を理解す の理解をする。 する。 変遷など漢字の て考察する。 書	る。			
	楷書法研究II	に理再業料で残りの残りので	に臨書を行う。 表現できるる。ま 見を受ける。 塩書作品の批評 整理を行う。 にだ古典の特	受業時間内に数別する。授業時間内に数別する。授業後は行た、3人前後の変を行い、各古典の3回目の数をまとめてPow版書作品を制作	度の添削を受け 复習をし、 がループを で の る回目の 授業は verPointで 発表 を を の の の の の の の の の の の の の	を講生はその内容 け、古典の特徴を 可の授業の初めに の、学生同士で授 後の発表内容の材 班10分程度に臨書 でする。引き続き 受業で全15回の授			
	行書法研究II	に理再度がに理再度が収集ができます。この表別には、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	臨書を行う。 表現できる。ま 見を受ける。 監書作品の批評 整理を行う。 に だは に ない に に ない に に に に に に に に に に に に に	受業時間内に数別 する。授業後は行 た、3人前後の会 を行い、各古典の 各古典の3回目の 数をまとめてPow 放書作品を制作	度の添削を受け 复習をし、次回 グループを の 3回目の 授業は、 A verPointで発表	を講生はその内容を 対、古典の特徴を 可の授業の初めに の、学生同士で授 をの発表内容の材 近10分程度に臨書 で全15回の授 受業で全15回の授			

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育 科目					** 芝炊 のよ	ı ibi		柏原キャンパ
区分	授弟	○ 科目の名称	士曲が作	られた奴締め	講義等の内		受講生はその内容	備考
	草書法研究	ΈII	に従って 理解を 再度 業内に 料収 り上 で 残りの時	臨書を行う。 まで まで まさ まる る。 おまで ままで の 、う ままで の 、う ままで の 、か 、う 、う 、まず 、まず 、まず 、まず 、まず 、まず 、まず 、まず	授業時間内に数別 する。授業後は行 た、3人前後の会 を行い、各古典の 各古典の3回目の 徴をまとめてPow 放書作品を制作	度の添削を受い 復習をし、次區 グループを作り の3回目の授業 の授業は、各野 verPointで発え	と解析によっている。 とは、これでは、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、一般では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	
	仮名書法研	开究II	る賞技術をないかなので、そのでは、	松では、「活のは、」「活のは、大きなでは、このでは、これでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	魅力であり、かっ 」の書美につい 要素である散ら 継色紙」を臨書	てその伝来や「れらの伝来や「れらのかな古いな作品を制作して理解することし書きて表現るさせ、伝学習を近ながら学習を近ながら	内容を調べ、観 産の用筆や運筆の していできる。 された平安古筆で 背景を考慮直添削	
	篆刻法演習	걸	できるよ 高め、書 きる。 印の歴史、	うになる。 作品への使用 、様式と使用 、刀法」につ	らには,篆書等の 法を知ることに。 法について解説	の知識を広げ, より鑑賞の幅を する。さらに,	を理解することが 作品制作意欲を を広げることがで 篆刻三法「字 内な学習を組み立	
	板書実践打	旨導	子供たちのフィトボー要領を学	の学習理解を ード用筆記 ぶ。本授を 数字など き・横書きな	の特徴を踏まえ、 通して、漢字・ 察して整った字	. 分かりやすい 平仮名・カタフ を書く技術を身		
	漢字作品制	引作I	る。 制作ノー すいよう	トを作成し、 に、全制作工	制作の方向の明 程を記録する。	確化と技法の習 制作ノートをも	톨風は各人が決め 習得度が分かりや もとに学生は制作 目互で検討する。	,
	仮名作品制	引作I	筆の基本 様々な散 も行い、 く。そう	的な古典の中 らし書きの様 仮名細字作品	からどれかを選れ 式を探求してい に現代的な感覚 作の過程を考察	択し、その古明 く。また、現 の盛り込み方	等の平安仮名古 典をベースとして 代作家の作品臨書 を身につけてい 分の求める細字仮	:
	書鑑賞論		た、書人 できるき 古典 お れた い 其体的な	の作品を取り 本授業では、 ことを目標と 作品を取り上 の成立状況を	巻く環境や状況は 書人の古典作品でする。 げて、「作品」の 考察し、書風の 自ら考えることで	こついて問題ゑ を鑑賞し、自9 の成立と特徴を 生成にかかわる	を理解できる。まま意識をもつことが分なりの感想が表を解説する。残さる要因をさぐる。こするため、適宜	
	篆書法演習	N E	ついて各 書を行う。 授業の到 ・篆書の ・篆書法 ・いろい	班で調査・分の で毎回標 でのででででででです。 でとるでできる。 でとるできる。 でとるできる。 でとるできる。 でとるできる。 でとるできる。 でとるできる。 でとるできる。	析し、その内容 最初に前回の臨	を発表する。 う 書課題の添削を 得することがで とができる。	できる。	
	隷書法演習	B	ついて各書を行う。 授業の到: ・隷書の! ・隷書法・いろい。	班で調査・分。 連目標 事目標 理の 理の 理の 理解が でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	析し、その内容を 最初に前回の臨	を発表する。 5 書課題の添削を 得することがで とができる。	できる。	

	授	業	科	B	の	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程)							柏原キャンパス
科目 区分	授業和	科目の名称			講義等の内]容		備考
	漢字作品制化	乍II	ドバイス 個別指導 制作や書 プワーク	を行う。 が主であるが、 について考え、 、プレゼンテ・	. 受講生同士が . 切磋琢磨でき	批評できる場を るように授業を 制作ノートを作	品・論文作成のア →設け、多角的に →進める(グルー ⊧成させ、長期に	
	仮名作品制化	乍II	書きする 特の度を 現代作 形、 文字造形	細字仮名作品 書美の多様性: 持つことがで: の大字仮名作。 についての基: や現代作家の	制作の活動を通 を知り、そこに きる。 品の制作法に依打 本を身につける。	して、平安古筆 現代的感覚を盛 処し、大字仮名 それを基本に こしながら、作	こおいて、古筆の F品制作の過程を	
	書論研究		実践的な機)の相 を心中に 中国の代 る論点を	知恵を学ぶ。 関関係が理解 鮮明に描くこ 表的な書法の 選んで講読し、	文字の形態(空下を理解し、また、 との大切さを学。 理論書、唐の孫)	間的契機)と筆 書く前に文字 ぶ。 過庭の『書譜』 を考察する。そ	さの美的イメージ を現代にも通じ さの学びを今後の	
	書道研究基础	ĚΙ	ドバイス 個別指導 制作や書 プワーク	を行う。 が主であるが、 について考え、 、プレゼンテ・	. 受講生同士が持 . 切磋琢磨できる	比評できる場を るように授業を 制作ノートを作	品・論文作成のア と設け、多角的に と進める(グルー F成させ、長期に	
	書道研究基础	遊II	ドバイス 個別指導 制作や書 プワーク	を行う。 が主であるが、 について考え、 、プレゼンテ・	. 受講生同士が . 切磋琢磨でき	批評できる場を るように授業を 制作ノートを作	品・論文作成のア と設け、多角的に と進める(グルー	
	書道と文字学	学II	の作品制 漢字は表 り立ち・ 的キーワ	作の際に漢字。 現力に富んだ 日本への漢字の ードについて	への理解をどの構 芸術としての書の の流入の歴史なる	策に表現するか の基底になって ど漢字に関わる らを通じて書道	ている。漢字の成 るさまざまな歴史 道の芸術性とは何	
	書道文化論は	II	美を考え パッケし では、 そういっ	る。例えば、 ジに書くか、る のような文字	「吉野葛」なら、 あるいは「饂飩 がその美味しさる れている文字に	どのような書体 (うどん)」 を伝えるにふさ	生活の中での書 本やデザインを 「蕎麦(そば)」 らわしいかなど。 川作実習すること	
	書道自由研究	究I	ドバイス 個別指導 制作や書 プワーク	を行う。 が主であるが、 について考え、 、プレゼンテ・	. 受講生同士が . 切磋琢磨でき	批評できる場を るように授業を 制作ノートを作	品・論文作成のア 会設け、多角的に と進める(グルー F成させ、長期に	
	書道自由研究	究II	ドバイス 個別指導 制作や書 プワーク	を行う。 が主であるが、 について考え、 、プレゼンテ・	. 受講生同士が . 切磋琢磨でき	批評できる場を るように授業を 制作ノートを作	品・論文作成のア ←設け、多角的に ←進める(グルー ⊧成させ、長期に	

	授	業	科	目	の	概	要	
枚育学部学校教育 教員	養成課程)						柏原キャンパ
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の	内容		備考
	実用書式の	の研究	上こ授・の・で手と業鉛、仮きるの。	く"だけでは にって、知識を 川達目標 ボールペン、 達的な知識と基 楷書、行書の まの書に関心を	なく、自らの能深め、技術を高 深め、技術を高 筆ペンなど、日本的な技術を身 、字形の整え方	力に応じた実践 められる授業を 常生活で必要と たつけることか を学び、実生活	なる実用的な書	
特別支援教育専門 科目	特別支援	教育総論	解教育」 過去と現 え方、特	の意義につい 見代の比較・国 持別支援教育の	て理解を深める 内外の比較を通 教育システム・	。 !し、障害観・人 教育課程・学習	「捉え、「障害理 、間観や発達の捉 習指導要領・個別 と新の動向を伝え	
	インクル・ム基礎論	ーシブ教育シス [・]	動向と実 歴史的展	践について紹 関関及び、イン ーマに分かれ		は、日本におけ システムの動向		
	手話学習(聴覚障がい児(者)のコミュニケーション手段としいて、歴史やろう文化手話言語研究、教育現場での課題を知る。 「手話」の実技演習を通して、適切にかかわろうと身につけることで、「情報保障」や「手話」の在り意識を持つ。 数育現場での経験を踏まえて、「手話」の言語性に文化、手話言語研究、手話学習の現状や課題等を紹える。 「手話」の実技演習をする。						講義16時間 演習14時間
	点字指導	法	②点字の ついて述 ③パソコ ついて特 ④様々な)読み書きの実 さべる。 ロンを使用した 特徴や留意点を	点訳について様 含めて述べる。 [°] ログラムや教材	字の特徴および 々な点字ソフト	oいて述べる。 水点字の表記等に 、や点訳ソフトに 見覚障害者という	講義20時間 演習10時間
	障害理解	教育論	や 廃 発 度 に で で で で で で で で で で で で で	はなぜ必要なのし 後事例を紹説かる のでイスカーズ でイスカーズ	かについて解語 ながらて、 。加えて、 。 コンを行う。 :15回) 回) 実際及び模擬 授 回) カニズム、 障 電 カニズム、 で	する。また、隣解を促進するた理解教育の内容 理解教育の内容	きするための教育 管害理解教育内容や こめの教育内容や ないで ないで ないで はする。 はする。 は、 で について はする。 はずる。	オムニバフ
	視覚障害	アセスメント論	得をする 覚障害者 教育に携	。特別支援学 fである児童に g わる教員の知	校小学部・中学	部学習指導要領 う特別支援学校 を習得する。	対知識と技術の習 質の第2章の「視 支」で求められる 折技能を説明す	
	聴覚障害	アセスメント論	の仕組み 器特性測 また、言	、等、基本的基 则定法、補聴器	礎的な内容も講 適合に関する内 能検査について	述する。聴力検 容についての実	りな事項、聞こえ 検査法および補聴 ミ習も実施する。 ዸ障害児のアセス	: : : 講義18時間

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(教	有学部学校教育教員 科目		目の名称			講義等の内容	容		柏原キャンパス 備考
	区分	視覚障害教育		三、	た知見を取り 和見を取り 相標の 表別 を取り 標明 表別 を 明明標明 所解しるる。 章を といる できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	型の基礎を解説している。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	記し、理解が深 等では、支援 のな事項と眼の程 がを含めた教育 で、特別支援 で活動の指導内 の連携の必要	学校での指導経	
		聴覚障害教育	5	教育課題、 覚障害及び 実際の教育	実際のコミュニ バ聴覚障害児に関	ニケーション方 関する基礎的な ヽて講述すると	が法や授業の実 対職理解と関	の教育課程及び 際について、聴 関連づけながら、 生相互に情報共	
		知的障害教育	s.	理解に関っる。また、 の現状と認知的障害の 形態の特徴	ける講義を通して 特別支援教育に 果題を理解する。 り定義や踏害特別 数などを踏まえ、 ともに、講義に。	て、具体的な指 こおける知的障 生、発達段階、 具体的な教育	道字を提案する 連書のある児童 新学習指導要 で支援方法と発	基本的な知識・ 方法を獲得す 生徒の教育支援 質における指導 展的な知識を講 ループワークな	
		肢体不自由教	育	傾指まケ複らの病理の情報によるかは、ストラのはあります。	客になってきてま 削意工夫が、より いたアを必要と がかするなど、別 削意工夫が必要し で自由児の教育し	のり、幼児児童の一般の の一層では の一層では の一層では の一層では の一層では の の の の の の の の り の り の の の の の の の の	生徒一人一人 している。 は障害児が学校 で教育課程の このような現 」・基本的事項 ・カリキュラム	編成はより一層 以状を踏まえなが 「の肢体不自由児 ・マネジメント	
		病弱教育		個別の指導 弱教育の基 自立活動の	算計画、教育課程 基礎について解詞	呈の類型、カリ 说する。また、 里解教育等につ	キュラムマネ 病弱教育の教 いても、具体	的事例の提示や	
		視覚障害歩行	·指導法	(Orienta 1970年代は 着し、点写 あることが		y: 定位・移動 ある高校生の必 D科目は視覚障 る。この授業で	b) がある。ア な修科目として 宣害のある生徒 では視覚障害教	メリカでは、 O&Mの指導が定 にとって必要で 育を担う教員の	講義14時間 演習16時間
		言語指導法		援に関する する。 日本 る。 授業に	る事項について、 体語指導に焦点を	具体的な支援 とあて、実際の こ、グループワ	事例等も取り 受業場面を想	およその獲得支 上げながら講述 見定した内容とす り入れ、教材の	
		特別支援教育ター基礎論	「コーディネー	接たでので説するとう。 でんしょう でんしょう でんしょう でんしょう とり かんしょう かんしょう とり かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょう かんしょう はんしょく はんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	マンターとしてで 6年ので書名権利 支援教し大学を を担保を を担保を との特別大国 との特別大国 との特別 との特別 との特別 との特別 として はいる との はいる といる といる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	り機能を果たす 削条約の批准に イネーターは本 ることにディネー 質立援教育総合 タベース(イン	ことが義務付 関連する一連 人・保護等か の役割が言及 ターに必要な が研究所の「イ グルDB)」を	での検討会の中 らの合理的配慮 された。本講義 知識について解 ンクルーシブ教 活用しながら、	

	授業	科	目	の	概	要			
(教育学部学校:	教育教員養成課程)						柏原キャンパス		
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容						
	言語障害教育	や評価に するため らを通し 育支援計	ついて理解した に、発表やディ て、さまざまた	上で、適切な スカッション は困難性を示す 音導計画の作成	指導法・支援力 を取り入れた抗 言語障害児への から具体的な抗	章害の特性・症状 対法について検討 受業を行う。それ D適切な個別の教 計導方法・支援方			
	発達障害教育	程との関う	連について学んな個別の教育す 法・支援方法に	ンだ上で、さま を援計画及び個	ざまな困難性を 別の指導計画の	西、特別な教育課 シ示す発達障害児 O作成から具体的 案を深めることを			
	重複障害教育	になってが、 意工、重複 理大、重理 方、 複障害児	きており、幼児 、より一層求め 障害児の教育に 、教育課程編成 法等について到	見児童生徒の 見児童生徒の こ必要な基礎の 方法と力と での方法と力 でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	一人の実態に即 一人のような現れ ・基本的事項の キュラム・マネ ワーク (演習)	様化の傾向が顕著 即した指導上の傾向が顕著 けた路まえなが の重複障害児の考え きジメンう。 を行う。 を行ういて 実際			
	視覚障害心理	点を理解 おいて欲 視覚障害	する。15回の講 しい知識を学る	構義を通じて視 ぶ。 ≥的領域の話題	覚障害教育の教 について説明っ	夏を心理学的な視 対員として知って ける。また、授業			
	視覚生理・病理	念につい 次に、視 能、代表 神経心理	て学習する。 覚障害を理解す 的な眼疾患と優	るための基礎 建康管理につい に、中枢神経	として、人のII て学習する。 さ 系の障害に起因	ミデル、QOLの概 艮の構造と視機 さらに、脳科学や 団する視空間認知			
	聴覚障害心理	て、発達 ら解説し できるよ て、心理	心理学、臨床心 、独自の人間観 うにする。また アセスメントの	は理学、教育心 見および教育支 こ、聴覚障害の の基本を理解し	理学など様々な 援観を構築して ある人への心理 、人間学的心理	マの心理につい な心理学的観点か こいく手がかりと 里的援助につい 理学を中心とした りな対応力を培			
	聴覚音声生理・病理	害、そし リハビリ 用につい	てコミュニケー テーションにつ	-ション障害の いて、また、 聴覚障害や音	病態、検査・誇 病理面と生理 声障害に関する	住障害、音声障 評価法、治療法や 面の特徴と相互作 る支援及び実践す			
		そして、 害の背景知的障害のアセニ深める。 する。	知的障害に関え にある生理学的 の障害概念、障 スメント方法を	つるアセスメン 的・病理学的要 章害特性、心理 ご学習し、その	トを理解する。 因について説明 学的特徴の概要 結果に基づくま	、て説明できる。 さらに、知的障 月できる。 夏を学ぶ。知的障 支援方法の理解を 夏因について学習			
	知的障害者の心理・生理病理	(オムニ (302鈴木 知的障害 言語の発 (67大内 中枢神経)	達、発達検査 <i>、</i> 田 裕/8回)) 三義、認知発達 知能検査等に X脳機能(前頭	ついて担当する 葉機能・側頭類	: 学習の仕組み、 5。 寒機能・頭頂葉機	オムニバス		

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	汝育学部学校教育教員	養成課程)		_					柏原キャンパス
	科目 区分	授業	科目の名称			講義等の内	內容		備考
		肢体不自由理・病理	3者の心理・生	動職授1) 財職授1) は 1 () () () () () () () () () (の 対 対 が は が は で が は で が は で は で が は で は に で は に の ら は に の ら は の に の ら は の に の ら は に の よ は 、 だ に の ら は 、 だ に が に に が に に が に に が に に が に に に が に に に が に に に に に に に に に に に に に	ズの全体性がある。 理の生体性がある。 理の性がある。 理の性がある。 理のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	本を でム理が理 理 害い 系の に が とさ が で で など じ で など じ で など が 事 と す に が で ない 事 と す に で の 体 が で の 体 が で の 体 が で の に か じ が で の に の 体 が で の に の 体 が で の に か に か に か に か に か に か に か に か に か に	できる。 ているかを理解 きる。 、ICFに基づく 運動・不随意運	オムニバス
		病弱者の心	› 理・生理・病理	のて各じ10い((病者等)(病者等)(67大者で、ム平の前に大者で、ム平の前に大者で、大者で、大者で、大者で、大者で、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	これ これ これ これ これ これ これ これ これ これ	るととももに、	校内外との連携 の5回では、病 説明し、病弱 者を医学的に扱 やその支援方 と その心理 か を を を を を を を を を を を を を を を を を る の の 、 の も の も と も る と る と る と る と る と る と る と る と る	i, および病弱者 の重要性につい i弱の子どもに生 の生理・病理の う小児医学につ :(入院中の病弱 レスや自尊感情 :疫機能、感染	オムニバス
		障害児アセ	アスメント論	理アセン 特別支持 く上で	スメントの理論 爰教育の対象と 必要な理論と技	と技法について なる幼児・児童	学ぶ。 ・生徒の診断・ する。さらに、	評価に必要な心 評価を行ってい 各種心理検査に つける。	
		病弱者の心	か理と健康行動学	病弱教育 「教育 る。 各回のう 提示し,	育のあり方につ 視」および,「 テーマに沿って その中で生じ	いて考えること 建康観」を形成 病弱者の行動	ができる。各自 していく手がか から心の働きを 題やその支援力	援教育におけるの「人間観」・いの「人間観」・いりを獲得でき 理解する視点を法について、個	
		障害児のキ	テャリア教育	て移「る障が画が画がった。	解と就労の現状 要計画について し」に着目して ができる。 かある方がその 支援する「職整 や社会環境の整	を知る。ネット 知る。社会福祉 、職業生活全体 意思と適性に応 リハビリテーシ	ワーク型の支援 の視点から障害 を支援する必要 じて就職し、社 ョン」の視点か る。身体・知的	その意味につい システム・個別 のある方個々の 性について考え 会経済活動への らら障がい者の社 」・精神・発達等	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程))	1					柏原キャンパス
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	內容		備考
	障害者の	心理・生理・病理	上複的理 ((障る(62)は (24)に (24)に (24)に (24)に (24)に (24)に (24)に (25)に (本員・・ バ の い 由田のをいるとがを株病 ス健心 利者健者 生史者哲なるれ不に 式/2 中 一心郎びが・ 東子型 中心郎びが・ 東子型 中心郎が・ 京/2 中 一心郎が・ 京/2 中 一心郎が・ 京/2 中 一つに2 時間に回生の上では、	5回) 病理、聴覚障が ついて担当する。 可) その心理につい こついて担当する。)))	1		
	特別支援	教育実践論	は模授・別る・自を・自・ル授の学教 D児め学小学教 D児め学小学校	プを達基支 発病こ及校校のかれた。 と・ 見理を達して、 と・ 見理を表す に、 と・ 見理を表す に、 と・ 見理を支援を表す。 といるで、 と・ と・ と・ と・ と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく と・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こ・ しゃく こうしゃく こうしゃく こうしゃく こうしゃく こうしゃく こうしゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく	習指導案を作成 司支援学校専門門の 別の指導計画の 見覚導につい、 に対している。 に対している。 はずれる。 はずれる。	し、その作成し 実習に向け、ま 作成と活用に、ま 覚障機を害児、ふま 覚験の作成についる 葉楽を作成成する	をした後、受講生り とした後、受講生り ととなりには、 を言課程解を、 を言いて理解を、 を言いて理解を、 を言いてをはいていた。 では、 では、 では、 では、 でいれたでは、	共同
	特別支援	教育研究法	教育に関っておきない。おいましたが、対しているでは、だったが、対しているが、だったが、だったが、だったが、だったが、だったが、だったが、だったが、だった	する研究を進めた。 すいて基礎的な がらに所属する当 を行う素地を	っていくうえで、 な内容を学ぶ。 の内容の文献や を生間同士で相 をう。基本的な で目的に沿った。	必要な情報・資 卒業論文のテー 情報にアクセフ 互にその内容を 分析方法につい	でする。特別支援 資料の収集と整理 での設定をを意味 でし、それらられる。 できる力もできる力も できる力も できる力も	共同
	視覚障害打	指導論	知視る視徴を (大育め(現)の世界に対して、 大育の(現)の世界に対して、 対ので、等のでは、 対ので、等のでは、 対ので、等のでは、 対し、 対のでは、 がのでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 がのでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 対のでは、 がのでは、 対のでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、 がのでは、	験教 教課現 バー は 関ウ が 表 で	理解を深め、視覚がます。 対象を関としての はいるのでは、 からでできます。 をできますが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできままが、 をできが、 をできがをでが、 をできがをでが、 をできがをでがをでが、 をできがでが、 をでがをでがをでが、 をできがでが、 をできがをでがをでがをでがをでがでがでが、 をできががでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがで	覚支援教育の	なでのキャリア教 5法、授業のまと □等教育、自立活	オムニバス
	聴覚障害抗	指導論	ると共に, き, その 聴覚障害! て概説す	,アセスメン 計画に基づいて 児の言語能力の ると共に,日本 に授業計画のご	、結果に基づいた 実際に指導で シアセスメントし ご話の読み能力	た授業計画を立 きる。 に用いられてい の検査を実際に	について理解す で変することがでいる諸検査につい 体験する。検査について体験する。検査につて指導力の向	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教 科目)			講義等の内	1宏		柏原キャンパス 備考
区分	知的障害打		内的視では、知識のでは、大変では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	的障害教育の授 尊の基礎を幅広 いく中で、これ 論を深める。 の根本的な症状 役割に関して多 受業研究を演習	育の形態と役 業とその無に 学ぶ。特に からの知の感」 でな式で をなれて り 形ながき でなれて で り で り で り の り の り の り の り の り の り の り	別及び様々な指々な指々な指されていて関心を 今後はインクル き教育に求めら に関する障害を 解を探業等によい だけでなく、ヌ	音導法と具体的ないただができます。 はだなが教育がかられる役割についる役割についです。 はいては、学校的な事がでいいでは、動画では、、意見交流できまった。	
	肢体不自日	由指導論	基が、発表の対象を表現である。	知識を学習する。 活動、AT、教科 達目標 自由教育の基礎 自由による学習 夫ができるのか 取りあげた内容	。それらを基 指導などをキ 的な歴史、専 上、生活上の 考える。	遊として、コミ ーワードに学習 門用語を理解す 困難に対し、考	冒を深める。	
	病弱指導調	綸	課題につい 支援学校 実践例か 特別支援 事等の取	いて解説する。 と地域校(前籍 ら、その課題と 学校の教育実践	病気の理解と	教育的支援に~ 福祉との連携に 介し、理解を図 科指導や自立沿 ーションやロー	現場で生じる各種 Dいて、病弱特別 こよる復学支援の 図る。さらに病弱 計動、主な学校行 ールプレイ等、グ	講義20時間 演習10時間
	ユニバー *	サルデザイン授業	きで階ら、しかっというででは、 はない という はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はい	作りと生徒 かっと 生徒 おっと 生徒 おっと 生徒 おっと 生徒 おっと 生徒 おっと きょう かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい	の場合や一ラ 回 題バイ 意関係 というでは、 いったは、 いったは、 いったが、 いっとが、 い。 いっとが、 いっとが、 いっとが、 いっとが、 いっとが、 いっとが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、 とが、	する。ユニバで、 指導教育のいたでの はでいてでのいたでのいたでのいたでのいたができる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	多様性に対応だけでは、 一サルな配に対応をが 一サル理的にしな業を関する。 と題が、 を選び、 を選び、 を深いますが、 とないまが、 とないないまが、 とないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	オムニバス 講義20時間 演習10時間
	発達障害抗	指導論	スメント?要とそのにて、応用1連携の重要	が求められる。 結果の解釈、それ 検討する。後半れ 行動分析学を用い	そこで、前半に れに基づいた は発達障害児 いて検討する。 個別の指導計	は知能検査を中 「個」に応じた が示す行動に対 本講義を通し 画や個別の教育	型握のためのアセ 中心に検査法の概 中心に検査法の概 と指導内容の選定 けする対応につい して、他機関との う支援計画、学習	講義22時間 演習8時間
	特別支援素	教育ゼミナールI	と課題に関う。と思想に関うでは、メールを対している。というでは、メールを対している。	見つけ方、研究 する研究論文の すの精読を通し プレゼンテ接 がだ特別支援も がで意見をもっ ない視野及び柔!	手法、論証の 中から、各自 て、概要や研 ョンツールに 育に関する専 て積極的に議	方法などを踏り 対法などををいる 発意をある。 発言を ができる になる になる になる になる になる になる になる にな	が、論文の読み方 で、論文の読み方 でで、特別支援 ででいるなどにない。 ではない。 ではない。 でいる。 を対している。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。	
	特別支援都	教育ゼミナールII	味や関心の つけ出し、 業論文に 卒業論文の 所属する	のある内容から、調査や研究等本での表表をある。 まとめる。 まと成を目指す。 学生間での議論 ための論理構成	テーマを絞りう を通じてその 的には、指導 。また、卒業 等を通して、	込んで、その認 課題を深く考察 教員との対話や 論文の執筆過程 卒業研究の内容	教育に関する興 関や問題点を見 長し、 最を通じて、 と通じて、 はの字の、 にない、 にない、 にない。 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	共同

	授	業	科	目	の	概	要		
(教育学部学校教育教員	養成課程)							柏原キャンパス	
科目区分	授業	科目の名称		講義等の内容					
学校図書館司書教諭資 格取得科目	学校経営と	学校図書館	法「校司を公司を公司を公司をとうとうとうでのです。とりでは、これをいる。 とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり	「学校の教育 書館の選問を 事連携・学経協力と としてを 実例を まが でして、学校 として、学校	『課程と学校図書 『際』「学校図書 : 将来像」など、	書館」「学校図書館の学習指導学校図書館を位置づごより」「パス 些ができるよう	への支援」「学 総論を学ぶ。 けるための具体 ファインダー」		
	学校図書館	メディアの構成	校図書館の とでは、 とでは、 でででででででする。 でででする。 でででする。 でででする。 でででする。 ででできる。 ででできる。 でできる。 でできる。 でできる。 できる。	が機能を発揮する 構成・組織では 図書きとを 図書とと で主とを 重類・特性・ 選書と 手と で で で で で で で で で で で で で で で り で で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り り し り し	つるためには、十 されていなければ の構成・組織化 ら目的として行う 選択・収集からそ PCスライドの明	一分な学校図書 ばならない。そ に関する理解 し。授業では、 たの組織化と評 な写をまじえて	及び実務能力の 学校図書館メ		
	学習指導と	学校図書館	学校図書館 ダーシップ 小中学校の かし、学習 の習得を図						
	読書教育と	図書館	書館におけるというでは、、もかりでは、、もかのでは、ともか図のができません。	ける 「	:は何かを考えるされば何かを考えるされば 関いに関わるいで、 で選択したり、ディアを選択を使ったといいでは、 ではないでは、 ではないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できることがでいる。 では、 できることができます。 では、 できることができます。 できることができる。 できることができる。 できることができる。 できることができる。 できることができる。 できることができる。 できるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	らことができる まざまなよりで 語書活動を体験 いか、どのよう である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	よって、学校図。 イアの特質を理 きるようになる。 し、それらにな考 な読書教育が可 るのか、具体的 育のありようの		
	情報メディ	アの活用	用方法を理 法に対し も技能ディ による情幸	理解する。すな て学んだうえて 習得する。 ィアの特性, そ	さわち,情報を収 で、コンテンツを この教育利用につ 5月を支援する力	又集し,分析す と作成し公開す いての方法と	ついて,その活 る際に必要な手 る方法について 制限,児童生徒 義し,演習を通		
卒業研究	卒業研究		研究計画を記し、 は作曲 平						

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようと
- する場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとす る場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

育学部学校教育 教	授品类出现	業	科	目		概		
月子郡子仪叙月叙			• •	Н	Ø	11976	要	エエキャッシッパフ
科目 区分		科目の名称			講義等の内	容		天王寺キャンパス 備考
教職基礎科目	幼小連携教	女育論I	の保育・教育 稚園、小学村 におけるカリ 本授業では、 自覚的な学び	育をめぐって# 交の現場ではタ リキュラム開タ 幼小連携の呼 びへの移行に^	議々な問題が生 力児・児童の3 路などの取り約 数策の流れや5	Eじている。 ₹ を流、教員同日 Bみが行われぬ カ児期の遊び₹	台めている。 と通した学びから	
	幼小連携教	女育論II	育・教育を終 まれての場所が は、具体のい 在り方につい 等が可能であ	めぐる様々な問めぐる様々な問めた。 が見などについている。 はないでは、実際には、実際にあれば、実際にあれば、実際にない。	問題、そしてそ 交流、教きして で学・教育のられる ないです。 で学・教の でいる で で で で で が が が で の で り で り の で り の で り の り の り の り の り	たの解決に向に たの交流、場合の そこでを取り上に もなったでいする。 でいれている	けて現場で取り組 売期におけるカリ ト連携教育論Ⅱで が、政策や学びの なお、社会状況 学校園を訪問し、	
	人権教育の)実践	における人林 障の必要性、 現代の教育 受講生のこれ 別の現状、 で理解を深め	を教育の歴史と 集場ででの歴くりの 見場ででのとる いまでのの生活 子ども。授業は うる。	と実践を踏まえ の観点と手体のた いれる関をべいる いかで いたので に が いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた いた	と、子どものと 人権学習の約 は実践的指導力 くの一として つ考察を通じ、	さらえ方、学力保 編成と展開など、 力を培う。 て、人権侵害や差 人権教育につい	
教職専門科目	道徳教育論	Э	まえて学習技道徳に必要な	旨導案を作成る よ基礎的知識と	させることで、 と基本的技能を	道徳教育なら	っびに特別の教科 せる。講義内では	
	総合的な学法	≠習の時間の指導	や役割を理解 の時間の時間 たる的な にる合的方法に 一切を が して に で が が が が が が が が が が が が が が が が が が	解するとともに 算案並びに評価 対量の時ではいる といている といことに でいてとに は がいてといる は でいる と と も も と も は いっこ と は り の に いっこ に う の に いっこ に う の に り の に り の に り の に り に り に り に り に り	こ、実践事例の 面の方法を構想 くいました。 とはいる。 とはいる。 とはいる。 というではいる。 といるではいる。 というではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないるではないる。 といるないる。 といるない。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるないる。 といるな。 といるな。 といるな。 といるな。 といるな。 といるな。 といるな。 といるな。 といるな。 といる。 といるな。 といるな。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。	り検討を通して 見し、 関し、 を が内容がみから でイス でイることを でくる	て、総合的な学習 ともって指導にあ や指導法並びに評 していく。先行事 コン等を通じて協	
	特別活動論	में	解するととも 評価の方法を う。 特別活動の意 ついて、に読ん プごとに読ん 計画等を具体	らに、実践事体を構想し、見述 意義、目標おい。 意義、目標おい。 で実践を読みらい ないで実践的に ないでは、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、というには、 は、これでは、 というには、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 は、これでは、 とれな とれでは、 と、 とれでは、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	別の検討を通し 動しをもって打 よび内容をないないないないないないないないないないないないない ディくることを こつく	ンて、特別活動 当導にあたる とや指導法並び としていい ション等を通し ション等を通し	かの指導案並びに 実践的力量を培 がに評価の方法に た行事例をグルー こて協働して指導	
	教育相談の)理論と方法	題には別様には別様には別様には別様には別様のでは、現代を担め、 1)を理解してはできます。 2)をは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	対処するには、 対処するには、 対心な対応を理的 目標 子うる。 が、 で で で で で で で で で で で で で で で で の で で の で で の で で の で り で の り で の り で り で	状況を理論的 う必要がある。 ・発達的諸問題 旨導と援助につ リングを含む)	がにとらえ、更 こうしたこと この理解と援助 ついて、心理等 など教師が行	理論的理解に基づこから本講義でから本講義でから本講義でかける法を学ぶ。 か方法を学ぶ。 学の基礎的な理論 でするでは援助の	
	幼児教育課	果程論	義と役割を望る。 この授業では 案し、実践で変遷や思想を	学び、保育をラ は、幼児にふる できる資質を勢 を踏まえ、既成	デザインする さわしい遊びを 築くことが目的 戏の教育課程等	基礎的な力の電子中心とした力である。カリ等を客観的に分	育成を目標とす カリキュラムを立 リキュラムの史的	
	教職専門科目	対小連携者	道徳教育論総合的な学習の時間の指導	(に 表	(おいき ((におけるカリキュラ人開発などの取り流れや突 自党的な学びへの移行について理解を含り方を考えていく。 幼小連携教育論1では、幼稚園からいて、	はにおけるカリキュラム開発などの取り組みが行われて を接筆では、幼小連携の政策の流れや別児別の遊び 自覚的な学びへの移行について理解を深め、接続期別 り方を考えていく。 カ小連携教育論11	自発的を学びへの移行について理解を深め、接続期の保育・教育のあり方を考えていく。 切・維殊を育論1では、幼稚師から小学校への核練期の子どもの保 育・教育をめばる様々な問題、そしてその解決に向けて現場で取り加 まれている幼児・児衆の交流、最長同土の交流、接続期におけるカリ キュク人開発などについて学んできた。そこで、幼小連携教育におけるカリ もこう人開発などについて学んできた。そこで、幼小連携教育を記し 場所が高世をわれば、実際に幼小連動が行われている今校園を削しし、 場所が高せるれば、実際に幼小連動が行われている今校園を制度した。 場所であせる状は、実際に幼小連動が行われている今校園を制度した。 における人権教育の歴史と実践を含まえ、子どものとらえ方、場合 原かの愛受性、集団からの観点と手法、人権学等の確成と提供など、 現代の教育規度で要とされる見かに、人権教育をと提供など、 現代の教育規度で要とされる見中的文実践的情報方を含む、 現代の教育規度である。 と実施は過去とかて、つの等なをし、人権教育を必 現代の教育規度である。「接触に講義とグループワークを中心に進め、毎時間 小レポートの機能を求める。 を関係なる「接触に対して、をの事を与した。 選値が発音を作成されることで、遺働を行なといる。 第個でカープワークを行わせることで、協働性の向上も図る。 またて等習指導案を作成させることで、協働性の向上も図る。 またて等習指導案を作成させることで、協働性の自己も図。 またて等習指導案を作成させることで、協働をのよりました。 第個を分かして、生の作業はとまから、ティスカッション等を の方法について、生行実践を表が成めがも原理していく、生行事 を合かな学習の時間の意義、目標および内容、教育課程における歴史を を合かな学習の時間の意義、目標および内容、教育課程における歴史を を告かな学習を作りまましたとを目由す。 を合かな学習を発力を対していることを目由する。 またる理論がよるとともに、実験事例の検討を通して、等の計画象述びに 評価の方法と信し、実施して経過し、見通しをもって特別を必要がある。 で、大行実践を高か成めから保護としていて、先行事例をグルー デンとにお外を助かなから、ディスカッション等を通して協力 がある場合を発を理解することを目前する。 特別活動論 特別活動論 特別活動論 特別活動論 特別活動論 特別活動論 特別活動論 特別活動論 特別活動論 が育相談の理論ととも、現まではのに関を指したことも、理論的理解で がよることもに、実施の自己を対して、その作業にある理論 を実施している。 うり、教育権関係ので、こうしたことから、理解していて理解している。 またいので理解していて、 と理解している。 またいの理解していて、 と理解している。 またいの理解しないでは解していて、理解している。 環境を選を目標とないの理解したいで、は解している。 環境を関係によりるの問題行動について理解している。 現実を発力に対しながある。こうしたことがある。 と理解している。 またいの理解していて、 と理解している。 と理解している。 またいの理解したとしたカリキュラムの史的 発性になった。 と理解している。 と理解している。 と理解している。 またいの理解しないでは解しためには関係である。 を理解している。 またいの理解しためには、など、 を理解している。 またいの理解しためには、など、 を理解している。 またいの理解しためには、など、 を理解している。 またいの理解しためには、など、 を理解している。 またいの理解しためには、など、 を理解している。 を理解している。 を理解している。 を理解している。 を理解している。 を理解している。 を理解している。 を理解している。 を理解しないる。 を理解してい

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程)						天:	王寺キャンパス
科目区分	授業	美科目の名称			講義等の内	容		備考
	基本小学校	交教育実習	り・実 をて4 リン別6施 指・・実 認習知事習実きの月授スス活月)授 導 実3 事習実し課む前前習い学頃業夕と動頃 業 教 習週 後終習て題 と	其尊度終り果「客さと習生「親とり尊多り質問確とという。」 アンス・関連を対している。 アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・アンス・	後 育 グ 後 目 エ の ル 多 ドエ の 準 。	ける。 長会」 大きををかけい。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きをできる。 大きをできる。 大きをできる。 大きをできる。 大きをできる。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををかける。 大きををがける。 大きをできるできなできる。 たらできるできる。 たらできるできるできなできなできなできなできなできなできなできなできなできなできなできなできなで	園において実 ける。 経験や成果を確 できなかった学	
	幼稚園教育	育実習	事り・実 をて4 リン別6施 指・・実 認習前組事習実きの月授スス活月)授 導 実4 事習実し課指む前前習い学頃業クと動頃 業 教 習週 後終習て題導。指年をた習:観対実・: 参員 間 指了前、を	東尊度終り無「察応習生「親」との 尊後の 関紹 利た質を育子メ加指育 後 :回をと習も夕心お習 の 明上間ま実どンの導実 観 し 等 頃生 明生 明生 明生 の の の の 、 の の 、 の の の の の の の の の の の の の	,後 育グ後目エのル多ドエ の (本) 発生のアン様はアースで 中認 (本) 大力ス様をデース 中認 (本) 大力ス様をデー 中認 (本) 大力ス様をデー 中で (本) 大力ス様をデー 中で (本) 大力ス様をデース 中で (本) 大力ス様をデース 中の (本) 大力ス 本ををとして (本) 大力ス 本ををとして (本) 大力ス 本ををとして (本) 大力ス 本ををとして (本) 大力な 本ををとして (本) 大力な 本ををとして (本) 大力な 本をとして (本) 大力な 本ををとして (本) 大力な 本ををとして (本) 大力な 本をとして 日間) とう (18日間	上)の実習に取 での経験や成果 での経験や成自け やマー・スティー・大きでは、 大権である。 を受けおいて実 はなる。 はなる。 はなる。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない		
	併修中・高	高校教育実習	上) 事習い実 着 異 お と 実	習に取り組む。 尊 4月頃:「教 他) 観,参観の記録 と面談し,実習 の実署等を行う	育実習オリエンの作成を中心 と 準備の確認を行	/テーション」 とする講義を受 すう。		

/ 1		授	業	科	目	Ø	概	要	TT++. \
(3	牧育学部学校教育教員 科目 区分		科目の名称			講義等の内容	<u> </u>		天王寺キャンパス 備考
		教職実践演	習(幼・小)	どを題成の指第2で出いった。 とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり	て身に対けた資にしています。 でしたが、 はなりないでは、 はないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	質能力について 習で身につける るためのミニ講 に、指導教員と 認する。 ク「ガイダンス 」で個別課題に	自べ座の 一さを受談 の でじた に で に に に に た に き で き で き で き で き で き で き 。 さ う し う し っ し っ し っ し っ し っ し っ し っ た っ し っ し っ	E践的教育活動な 売けい、放果と課題で 表記ではまる演習のです。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	フラッグシップ指 定科目	教育データ	の活用II	複数の測な配慮に	度について, そ ついて解説する	れが測定しうる 。また,少数デ	内容,実践的 ータからの推	ために利用可能な 力な活用, 倫理的 能論や, データに 万を含めて解説す	
		学習者中心 II	の授業デザイン	学習者中で、理解を深いた。本授の原理	心の授業である 善に必要となる が業要をもと が業ととと が業とと が表して がまる。 がまる。 である標 は、 である標 になる。 である標 になる。 である標 になる。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	「主体的・対話 ・内容中的・方法の 学習者に関する知 の授業デザイン とともに、学習	的で深い学び 関する基準的 業改善に向け を対します をつくの授業	目標・内容・方 食改善に向けての	
	初等教科教育法科 目	初等国語科:含む。)	教育法(書写を	ることを 国語科の / 読むこ 検討を通	目的とする。 目的や方法とい となどの各領域	った原論から、 論を具体的な国 的には、国語科	聞くこと話す 語教材の分析	(視点を身につけ -こと/書くこと - こと/書くこと - 下や、授業記録の - 医際を構想するた	
		算数科教育	法	明するこれが算数し、力を外ができません。これが算数にのなる。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	とができる。 や児童理解、授 科におけるとがで 目標や内容等に	業設計など指導 構想や授業展開 きる。 ついて講じる。 基づいた授業設 協働的な学修を	方法について 、授業評価な 計のための知 展開する。	こどの実践的指導 ロ識及び技能を身	1
		初等理科教	育法	て実験活 実践的に 以下の事 1) 小する 2) 教材 入れた授	動を実際に 理理 項校と 理理を 理科が でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで	ないながら、グ を促す。 模擬授 する。 主な内容とその 教科書やICTの うことができる	ループワーク 業や研究協議 構成を理解し 5月、問題解	、教材研究とし、を取り入れつつ。 後を実践的におこ 、学習指導案を 決の活動を取り か協議をすること	
		初等音楽科	教育法	の学習指 業の体験 導案を作	導案が作成でき を通して、具体	るようになるこ 的な授業像が描 ストにそって講	とをねらいと けるように講 義を進め、学	、て小学校音楽科 : する。モデル授 ‡義する。学習指 幸習指導案の作成 ₹行う。	
		図画工作科	教育法	グループ 画・指導 者・学習	案を作成、模擬	のテーマを設定 授業を実践する 業への改善点を	し、ICTを活 。振り返りに	:行う。 用した指導の計 こおいては、授業 :もに、テーマに	

		授	 業	科	目	Ø	概	要	
(孝	教育学部学校教育教員	養成課程)						;	天王寺キャンパス
	科目 区分	授業科	目の名称			講義等の内	內容		備考
		初等英語科養		外との講示講入授価を は、 を	中・高に等学では、一中・高に等学では、一年を表している。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	交の外の 交の が での での のの での のの での での での での での	の目授語深た一返活。書変標、時間理が大一返活。書、内間理び形イ動及際、中間理び形イ動及際が形で動及際動とでいました。とので、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、と	語は導になった。連携語は導になった。でを関すたいでは、法には、法には、法には、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	
専攻専門科目群	幼稚園教育専門科 目	表現指導演習	₽I	稚るてく・り・計と・関。指授幼、幼画相演教ま導業児表稚を互習を互習の現ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、ので、の	現の基本と 関の 基本と 関の 関の 関の 関の 関の 関の で 一の に ので 一の に ので 一の に ので 一の に ので 一の に ので 一の に ので 一の に ので 一の に ので ので 一の に ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	ながり やをを を	な事例や写真・ 中さ・た のできるった保育 のできるったのできるったがのでいた。 がの表けいは がのでいたがのでいます。 がの表けいまから がのでいまがいる。 はいまない。 といまない。 はいまない。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 とい。 と	可能性を説明すい 境の工夫につい いくのかを知 理解し、指導のについて保護者 る。 ニケーションカ	
		幼児教育分析	斤演習	前半はKJJick TEM(Trajed 質概ル後質デラことなるが が が が が が が が が に ブ は 研 り の の の が る 一 半 的 ー 。 こ り の の の の の の の の の の の の の の の の の の	E、TEA(Trajectory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equificatory Equification Equipment Equification Eq	nality Modelity Modelity Modelitum T理解を進めた一句という。 Modelitum T理解除習 The Letum Fall	ality Approach ng)を取り扱う。 うえを取り扱う。 うえを用いて、 うっを明いて、 eorization)をでも理解いてを明いて、 を可以及がある。 MAMのである。 MAMのである。 MAMのでは、 MAMのである。	EMの特徴や基礎 アワークとグ 対り扱う。 いSCATによる 的に演習を行 し、教育実践か 実際の保育現場	オムニバス
		幼児教育プロ	コジェクト演習I	実践概念ある数では、	説明する。また。 うえで、のかった。そのない。 複数の園やかい。 をと、幼児の教育される。 いっと、 いっと、 いっと、 いっと、 いっと、 いっと、 いっと、 いっと、	た、その場に同場で行われているを設を紹介し、 村 > 学に関する論文を 静で行われている。 を認を紹介し、 村 > 学に関する論文を と関する論文を を解する。 禁に、シンポジ	際に、その実践行し、共同できることについて 実際に何か所かの検索を支援す。 ウム等を行う場際の留意点など	る部分は共同する、解説をする。 を訪問する。 る。議論の際 合、その企画・	

(数3	育学部学校教育教員	授	業	科	目	Ø	概	要	天王寺キャンパス
(32)	科目 区分		目の名称			講義等の内	7容	,	備考
		幼児教育プロ II	1ジェクト演習	「ジ行をも く幼議 く海外下説を くり はいのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	后動をさらに はどを行う。 まずを行う。 まずを かが かが かが かが かが かが かが かが かが かが かが かが かが	展開させる支援 見場での観察なの して、遠隔地の 舌動からの課題 学などに関する ニークな着眼を 祭に、シンポジ	をする。実践の どのために、授 圏 で 関 や自治体など 探索 > 書籍の検 評価する。	ふまえて、プロ場の紹介、同 場の紹介、同 は業時間外の活動 でを訪問する場合 な索を支援する。	
		幼児臨床学		園での保育 《学びのボラ がのまり方 後後業の ターとして	研究会等を介 を輩への提示) デンティアでの についとして ・ンターとして 、グループ!	検討をもとに、 ての力量形成の て活動する。後	教育相談」の学った幼児の姿の後輩への明恵の場合を 基礎〉「幼児理輩の話では る。後輩の動画	びを再確認し、)理解、および支 行う。 と解と教育相談」	
		家庭地域連携	粤の政策	況、子育でることがで 地域子育で るとともに	「家庭を支えるできることが」 「支援施設なること) 「大援施設なる」 「大人」	目標である。幼どにおける家庭 という というではない。 というである。 はいまである。 はいまである。 はいまである。 はいまである。 はいまである。 はいまである。 はいましています。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 はいます。 といま。 といます。 といます。 といま。 といます。 といま。 といます。 といます。 といま。 といます。 といます。 といま。 といま。 といます。 といま。 といます。 といま。 といま。 といま。 といま。 といま。 といま。 といま。 といま	て理解し、自分 椎園や保育所、 支援・地域連携 められる役割に	巻く社会的状かなりの考察をする 認定こどを解しまる。 の実際を解説する。 の機会を積極的	,
		保育内容実践なからだ)	長演習I(健やか	康や安全を発展につい に、実際の 題をグルー	· 支援する方法 · て、実践から · 子どもの観	まを学ぶ。また、 ら整理した考え、 祭記録をもとに、 と踏まえて明ら	、乳児からの仲 方を学び、実践 、仲間関係や遊	び、またその健門関係や遊びの に生かすため でにないての課 でについての課 指導計画にどう	· !
		保育内容実践やかなそうそ	桟演習II(伸び ごう)	表現活動の る。また教 「サイエ、 で行い、そ び・活動理	のあり様を知り 女材研究の視り ス」の可能し のプロセスを 理解を深めてい)、個々の幼児 点も加えつつ、(生を探求してい	理解と保育の関保育内閣 保育内容におけ く。全ての教材 ンテーションし る。すべてのド	る「アート」と 研究は演習形式 ていく事で、遊 キュメンテー	
		保育内容実践りあうドラマ	以供白111 (茶//*	演出方法・ 分かれて実 絵本やお記 読み聞かせ 導する。子	スタッフワー 実際に小作品 話について、 む、おはなし さどもの遊び	-ク)についてからいた創作しながら を創作しながら を史と種類・現 シアターの製作	解説する。さら、 、理解を深めて 場での実践を解 や実演を通して ジ)の世界の関	磁・演技指導・ に、グループに いく。後半は、 説する。素話や 、実践方法を指 が連から、子ども)
		保育内容実践あうハーモニ	表演習IV(響き)	もに、指導 授業では、 発声への応	算法について。 呼吸法の必要	ら考えていく。 要性を学ぶ発声 めの童謡の歌唱	練習や歌詞朗読	術を高めるとと 発声からの歌唱 題曲を授業内で	i
		保育とダイノ	ベーシティ	先生方が、 ではなく、 るのかを構 し、将来の	その領域のよう後の保育の情想するための保育実践のる	最先端を講義すり現場において の議論の場を準めり方について	る。学生がそれ 自分がどのよう 備する。最先端 考える機会を提	の分野に詳しい を理解するだけな実践を展開する の実践事例を通り と供する。それそ 語りを聴いて質	

	授業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	育教員養成課程)					:	天王寺キャンパ』
科目区分	授業科目の名称	必要に応 について 実践研 実践研 ユニー / 授業の言	なじて、実践研究 て、解説をする。 究をする際に生じ 究に関するる理論や かな着眼を評価す 計画 ・授業形態等	た問題を解決で研究の検索をある。	る。その場で行 するための支援	受を行う。	
	幼児教育実践研究II	とについ 実践研究 実践研究 ユニーク 子どもだ	ども園、幼稚園、 いて、解説をする にをするでを関する理論で でな着眼を評価する でな着いである。 でなっている。 では、 がいープに分かれ う。	。 た問題を解決 ^っ 研究の検索をう る。 保育者の援助/	するための支援 支援する。議論 こついて、体駅	€を行う。 ♠の際の、学生の €を通して学ぶた	
	表現指導演習II	ンさ で まして さい まま かい さ で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で	丁楽器の紹介、 ・ 楽器の ・ 水学で ・ 水学で ・ 大学 ・ 大学で ・ 大学 ・	の特性を生かり の特性を生かずれる。 が数種が表現のデーー(景)の概念を表現のできます。 回)法を担当する。 。)	したリズムやギー ラノリコ器パインの楽が での楽がスール、習得する 関面を習んでいる。 理解し、そのだ	千色の違いを体感 -を用い、その基 さされる基本合奏 引いてその音楽の 。	
	幼児教育学特講	や保育内 としてオ を振り込	カ児教育の特質に 内容の中心である 材められる専門性 返りながら検討で 社会性の発達にも	遊びについて魚についても、 についても、 きるように授	解説を行う。ま 自身の実習やは 業を展開する。	た、幼稚園教諭 ドランティア経験 また幼児の言語	ì
	幼児教育探究演習I	成2た3() (見教育会の 受する。の見い を を を を を を を を を を を を を を を を を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を の を り の を り の を り の を り の を り の を り の を り の も り の も り の も り の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の ま の	に回生ニーロットでは、 に回生ニーロットでは、 に回生ニーでは、 に回生ニーでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	支法・分子を 大手にる。 が本にる。 関番は I 」与支うに のでは、	をや倫理的配慮の 型動している。 2 支援を行うこと る。合わせたい。 いいはさらにほか 世解できない場合	
	幼児教育探究演習II	成して、 幼児教育 技法や倫	育に関する論文や 発表・検討・演 育に関する論文の 命理的配慮のため 祭の、学生のユニ 西する。	奏・制作をする 作成のために、 の指導を行う。	る。 論文作成のフ	プロセスに即した	
	保育內容特講	スト「F 技や変 寿	業は現場に出る前日本の子供の歌」 その仕方、歌と動 系のまとめを行い	を使用し、様々き、そして呼	々な曲の弾き駅 吸の関係などを	いによる演奏実	
	幼児教育実践研究III	について 実践研究 ゲスト計 獲得する 実践研究	なじて、実践研究 て、解説をする。 完をする際に生じ 講師から幼児理解 る。 宅に関する理論や りな着眼を評価す	た問題を解決を深める手立	するための支援 てについて学び	そを行う。 が、知識・技能を	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育教員 科目 区分) 業科目の名称			講義等の内	可容		天王寺キャンパス
Δπ	幼児教育乳	実践研究IV	ンティアのというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	・保育園・認定、 で活動に参加する を密まます。 では、するで、実践な面の でいて、実践する でいて、実践する。 でいて、では、 でいて、 でいて、 でいて、 でいて、 でいて、 でいて、 でいて、 でいて	ることで、実践 ることで、実の 克服のために、 究の場を紹介す 実践研究をす 研究に関する理	研究を行うたと記録からの考察 先輩から支援を る。その場で行る際に生じた問論や研究の検索	りの課題意識を注 素を深める。この を受けるなどのご 行われているここ 引題を解決するご	だった。
小学校教科専門科 目	英語(ICT	『の活用を含む。	画を立て を多く取 せる。中	の小学校の教科 こ、導入・展開 なり入れて授業を なりででいる。 なり ないでは、 ないでは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	・まとめの流れ を進め、その取 交教師としての	を意識した模 り組みについて 指導経験を活た	疑授業などの演 て振り返りを行 いして、小学校	国 b
系列専門科目	教育学研究	究Ia	理解し, 今後の学 広田照幸 (日本図	目では「教育問題 メディアを批判 学校教育で必要が を・伊藤茂樹編録 とのといる。 とのといる。 とのといる。 とのは、「教育問題」 といるでは、「教育では、「教育を関係している。」 といるでは、「教育では、「教育を関係している。」 といるでは、「教育を関係している。」 といるでは、「教育を関係している。」 といるでは、「教育を関係している。」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 といるでは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 は、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 は、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 は、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、「教育をは、」 は、「教育をは、「ない、「ない、」」、「ない、「ない、「ない、「ない、」」、「ない、「ない、「ない、「ない、」」、「ない、「ない、」」、「ない、「ない、「ない、」、「ない、「ない、「ない、」、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、」」、「ない、「ない、「ない、」、「ない、「ない、「ない、」、「ない、「ない、「ない、」、「ない、「ない、」、「ない、「ない、」、「ない、「ない、」、「ない、」、「な	判的に受容する な情報教育につ 著『教育問題は	にはどうすれば いて考える。 なぜまちがって	ばよいか考察し, ご語られるのか。]
	教育学研究	究Ib	理解し, 今後の学 映画作品 題」構築	目では「教育問題 メディアを批判 学校教育で必要を 品『しらゆき姫 発について考察 パートを作成し	判的に受容する な情報教育につ 投人事件』を題 し, 今後の教育	にはどうすれた いて考える。 材に,メディフ	ばよいか考察し, アによる「教育	問
	教育学研タ	究IIa	する化るし、講者間のでは、	の目的は、教育の の方法や施策を すの現代的課題の で、能力の質が、 にいるで、 にいるで、 の課題に関するを にて、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で	を受講者間の対 の具体例として 持続可能な開 かが購読を実施 文献購読を実施 里と論これによ	話を通して探究は、子どもの教というという。 子どもの教理・明のにはいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	ですることであ 資困、教員の多 資など課題では いた論点にのいい ではないない。 ではないである。 である。 である。 であるとである。 であるとである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	t 1
	教育学研タ	究IIb	するため 現代的 能力の で 関する を行う。	の目的は、教育店 ための方法や施と 根題の具体例と 育成、持続可能。 のなかから読と文献 がいるでは、そので では、そので では、これでで受います。 では、「おいてででいる。」 では、「おいてででいる。」 では、「おいてでいる。」 では、「おいてでいる。」 では、「おいている。」 では、「おいない。」 では、「ないない。」 では、「ないない。」 では、「ないないない。」 では、「ないないない。」 では、「ないないない。」 では、「ないないない。」 では、「ないないないない。」 では、「ないないないないないないないない。」 では、「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	を研究する方法 しては、子どの は開発の実めのと 者の興味関心に 歌内で取り上げ 文献内で取り上	を理解することの の貧困,教育などが題い 応じて課題を通 られている研 がられている研	である。教育でかる。教育でかられた。 で多性化、資質がある。これ 選択し、その課題では では、 では、 である。 である。 である。 を である。 を である。 を である。 を である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	- D - C - C - C - C - C - C - C - C - C - C
	応用行動分	分析学a	分析学の 用いて と解い と が と が と が と が り で 取 り で り で り で り で り で り で り り り り り	か分析学の基本に か分析学の基本体 から義と簡単な形 いう観点からあい がよる。本本講義 シークルケリ」「 大条件づけ」「 やは にでいることが にでいる にでいる にでいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる に	歴史の紹介から 中の紹介から では基礎と「が題と でデザ操作」「「東 を はまれた」「刺 を を を と を と を と を と る は は る で が が は え い し に は れ い し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し 、 し	始まり、「行動を捉えている。」 を捉えして、いい、キペラント条件へ激性制御」「ほりをある。 はいいでは、はいいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	めと環境の相互(という枠組みに 持に「行動の測) づけ」,「レス: 問題行動の機能 理解し支援してい いては巡回相談!	有つ定ポール員
	応用行動分	分析学b	「問題」 説する。 る」アフ ティブ行 を参考に について	か分析学aで学ん。 をどのように、 特に「効果的は プローチを中心は テ動支援についっ 、、応開説する。 、 、上げ、グルーニ	アセスメントし こ教える」アプ こ,「罰的な対 て学ぶ。また, 近学の実践をど なお,講義にお	,支援していく ローチと「問題 応の問題点」を 「障害の社会っ のように進めて いては巡回相認	くのかについて 直行動を支援す を踏まえたポジ ミデル」の考えていくべきなの 炎員の経験を基し	好 かいこ

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分)			講義等の内	容	;	天王寺キャンパス 備考
	心理学研究	究法a	よポす論たらる。 おりこう かんしょ かんしょう かんりょう かんりょう かんりょう いっぱい かんしょう いっぱい かんしょう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう はんしゅう はんしゅう しゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	法論を用いるの 結立の書き方をと を主要際し必要な 理学の基礎的な で で で で で の で の の の の の の の の の の の の の	かを具体的にませます。 習得すること、 している。これ は基礎を磐石ない は実験を2つ行い を心理学レポー を研究・統計に、	里解すること、 (3) 統計的を いらの目的のとする。こ い(知じ心理ら トとして書く	食定の基礎を習得 を成により、卒業 この目的の達成の 全、認知心理学が	
	心理学研究	究法b	よポす かトこを 、かりら たから る。	法論を用いるの 結論文の書き方をと を主要際し必要な 理学の基礎の すっ、その実 での、その実	かを具体的にま で習得すること、 こしている。これ は基礎を 2 つ行い でを心理学レポー が新計に、	里解すること、 (3) 統計的を いらの目的のと いく社会心理 いくとして書く になるでする。こ	食定の基礎を習得 達成により、卒業 この目的の達成の 学、発達心理学	
	心理学特訓	購a	ルこす。文験を る実験で としまする との を を して との との との との との との との との との との との との との	完成させること り、卒業論文を 的には、(1) 関 探すことができ 画をたてること	: 執筆する力を確 調心のある心理等 でる, (2) 上記の ができることを デーマを持ち	心理学研究の 確実に身につい 学の研究テーマを い研究テーマを と目指す。複数	査や実験をグラ流れを把握するう流れを把握するすることを見事指するにいる調査するとないではないではないができます。 対象の学生が記述を検証の学生が記述を検証の学生が記述を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	
	心理学特訓	講 b	ループに ナーと まっうる にて いて にてい してい	完成させること り、卒業論文を 的にできる、(2) を考察すること が手助けできる	・執筆する力を確計画をもとに実 得られた結果を ができる,こと ができる、こと がのまる、実際に	心理学研究の 権実に身につい 際にデータを をもとによりら とを目指す。 でデータ収集を)流れを把握する けることを目指 収集し、分析を きい教育へと繋け	
	学校インク	ターンシップI	課題や目 の継続的 活動の実 講義に合 教職への	標を定め、小学に に訪問し、授業 際に関わる。そ 計5回出席し、 展望を持つ。な	学校または特別 学参観や授業補助 の際、事前・事 教職を目指すれ	支援学校のいす かなどの支援活 事後指導や体験 者としての自覚 とに担当教員が	5理解に関しての ずれかに20日以上 5動を通して教育 6の報告会、特別 6や技能を高め、 51名つき、受講	:
	ものづく!	り教育研究a	る。 接のまりに 要ル素 のたりに 習しる と が と が と が と で と の た の た の た の た の た の と の と の と の と の	は, ものいてくり ものいれる あってにする あってになり が。。 起なしながっ はなを考 がなさせる。 でしている。 といる といる。 といる といる。 といる。 といる。 といる。 といる	の素材となる* を	低、木材や竹の 着剤の種類と月 土組みとそれら 衰と危険防止に こ重点を置きず ヤビネット図	を校教材を作成す の特徴や性質と、 用途、はさみ、彫っの取り扱い方法 こついてのシミュ 見場での事故防止 などの投影図や	
	ものづく!	り教育研究b	る本質まスて実レと併でそ材刃。にョよのでのでである。	は, ものづくりつくりの加工するになる を加工する加工する加工する加工する加工する加工での加工を 物などの起こる はケガおこなせる。 Dアプリを	の素材となるこういて学ぶ。 いて学ぶ。 いに必要な、接着 真の仕組みとそ が原因やその対策 たがら安全教育に	プラスチックペ 着剤の種類と月 それらの取りも 衰と危険防止に こ重点を置きす ャビネット図	を校教材を作成す や金属の特徴や性 制途、ペンチ、ヤ みい方法にについ こついてのシミュ 乱場での事故防止 などの投影図や	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教	員養成課程)						天王寺キャンパス
科目 区分	授	業科目の名称			講義等の内	容		備考
	ICT教育⊄	D実践研究a	手とプい授第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	プるのとは、 アース で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ける準備学習・持 /ョン (授業概要 考え方 : 順次処理) 返し処理 +判断	なプログラミン 手続き型プロ 受業形態等を含	ングをおこなうこ ログラム言語を用 含む)	
	ICT教育の	D実践研究b	プロで初次そサ は 理 が も 回 が の の し を 目 り の し る は 理 後 を 目 り の の し る し る し る し る し る し る し る し る し る	ミングラン ボし繰いと プロボッグ グラート 直返件 いてり返件 はんしてること かったしてること かった しゅう かんしょう しょう かんしゃ かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしゃ かんしょ かんしょ かんしょ かんしゃ かんしょう かんしょう かんしょう かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ かんしゃ	した内容と併せて	交現場で広く月 希望する動作を ての基本学び、 このを である。 や8の字走行な いまでした。 であることを であることを であることを であることを であることを であることを であることを であることを であることを であることを であることを である。 であることを である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	用いられているフ とおこなうことか 2回目以降は順 などを経て、セン ながらゴールを目	t and the state of
	国語科学	習指導研究a	素 (形・・ (字謎を与え 題 集 』 の和訳の	音・義),漢 文字占い・創 ,グループワ 百人一首』) 具体例を挙げ	現の特徴を検討で字の成り立ち、終 字の成り立ち、終 作漢字)、漢字。 一ク形式で検討さ の漢訳と漢詩(、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	英和辞典の使い と仮名の関係に させる。さらに 『唐詩選』・	ヽ方,漢字遊び こついて種々の誤 こ,和歌(『万葉 『唐詩三百首』)	1
	国語科学	習指導研究b	語』に対 牛疾の, 『論語』 じ等)を	する概説を加 」・「自らを 語』の言葉の 入門教材や『	の一つとして『『 えるとともに,『 限る者』・「司原 普遍性についてす 論語小学生と一緒に で小学生と一緒に 創作を行う。	下村湖人の『請 馬牛の悩み」等 髣察する。 さら ズ(かるた・F	輪語物語』(「値 穿)を精読しつ らに,日本各地の ∃めくり・おみく	
	社会科学	習指導研究a	が程ば韓合告そグ受職、次は竹、質一は、で、しのル諸島他間プは	てくる。そもく 文科学、テーレー 文科学、テーレー と ・ 地理を ・ 地理 領土 の 受 講生 は 必 に を そんの けん で と かん に を かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん	科で 中 を で を で 科で が で が で の は の は の に の に の な を で で で で で で で で で で で で で	全員が報告、記 ことが、報告を記 ささて、報告をを きたか、プは関 に がすると と で で で で で で で で で で 、 で 、 で 、 で 、 で	対論をしない。 は は すって を は な は で は に が で に の に が で が で が で が で が で が で が で が で が で が で が で が が が が が が が で が で が ま に が な よ に な よ に な よ に な よ に な よ に な よ に な よ に な よ に な よ に な よ に に よ に に に よ に に に に に に に に に に に に に	1 2
	社会科学	習指導研究b	で ボーベ人のの告 ボーベ人のの告 大で、経報ので、 を行り、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 で、というでは、 でいる	てくる。それして文科学ないでは、大学ないでは、大学ないでは、大学ないでは、大学ないでは、大学ないでは、大学ないでは、大学ないでは、大学などのでは、大学などのでは、大学などのできない。これでは、大学ないできないできない。これでは、大学ないできないできない。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	科の公民・経済管 で、長・経済を を を を を が が で が に と の に と の に と の に の に の に の に の の に の の の の の の の の の の の の の	全員が報告、 記号とで、 はとて、 ととて、 ととて、 世帯の で報告し、 質別で では では に で は に に に に で に に に に に に に に に に に に に	対論を で で で で で で で で で の で の で の で の で の の の の の の の の の の の の の	

	授	業、	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育 科目 区分) 業科目の名称			講義等の内	容		天王寺キャンパス 備考
	英語科学	習指導研究a	中域心学時間である。中域心学にはいる。中域ではいる。中域ではいる。	を踏まえた英語 した技能統会型 マとして選び、 で行われている た指導法を身に 、チャンツ、副	語授業実践法に [~] 型指導法を理解 実践・分析し、 3授業についさらい こつ活用した、 数を活用した、	ついて学ぶ。 ま し、て学ぶらのしい アデオ等童のという で、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、	要領を理解し、/ また、4 技能5を 真域か・チをして行っている 5 となっとについて活動を - ムアの向上も - 本語力の向上も	ter : tal t
	英語科学	習指導研究b	み理・になって 理・になるを を対を るかで、 を対を るかで、 のがで、 の	を理解する。されても学でである。これではいても当れても指す。活力に、絵本では、実際には、実際に	また、小学生が が、第二言語習行 特に、小・中 引かせモデルの打 と題材としたコニ に言語活動を計画	言語活動に参加に参加に参加に参加に参加に参加に表がままた。 いまでも いまでも にいまいました。 にはいまれた。 にはいな。	括動への授業の組 □したくなる原 □指導ができるよう必要と問めている ・おりる質問の仕力 □ン活動を作成する。ICT等のデジ リットについても	i i
	数学入門:	a	られた たで 論 ・数 の の 範 の の も の も の も の も の も の の も る ら る る ら る ら る る ら る る る る る る る る る る る る る	件を取り扱うな 業では、各数等的に正確に運用 事項としては、 も含む)につい	公要がある。 学的事項の意味を 目できるようにで 集合、函数、7	を学習者が理角 する。 亍列等の基本的	り事項 (高校まで	
	数学入門	b	られた 条授 理 的 む も か も む か む む む む む む む む む む む む む む	件を取り扱うな業では、各数等的に正確に運用をしては、) について学	必要がある。 学的事項の意味を 目できるように 微分・積分等の	を学習者が理解 する。 の基本的事項	(高校までの範囲	
	数学・数	学教育演習a	進特・・事尚を 事当を を を を を を を を を を を を を を を を り を り を	での数学を含む 観点から、算数 とする。 内容の理解を り入れ各自で	少大学教養程度の 女の学習内容の 深めることを念 设定したテーマ	の数学について 考察を深める 頃に置いた演習 (数学的事項を	桟について講義を て振り返り 習(発表・議論) む念頭に置いた巻 習指導し、纏めさ	τ
	数学・数	学教育演習b	進める。 を を を を を を を を を を を の に で の に で の に で の に で の に で の に の に の に の に の に の に の の に の に の に の の に の の に の の に の の に の の に の の に の の の の の の の の の の の の の	に、受講生にに 設定・選択させ 内容の理解を終 り入れ各自で記	は、数学の面白させ、その背景等に といることを念録 では、そのではない。 では、数学のは、数学のは、数学のは、数学のは、数学のは、数学のは、数学のは、数学の	さ・意外性・存 こついて考える 質に置いた演習 (数学的事項を	线について講義を 有用性を感じさせ させていく。 習(発表・議論) ♪念頭に置いた教 習指導し、纏めさ	- -
	理科の実	験Ia	に付ける 指導する なること 析・考察	こと、さまざる 上での問題点や を目標に、グル を行う。「電気	Eな科学現象の『 P注意点を探り』 レープごとに実馴 『と磁気』をテー	原理を理解する 適切な実験指導 険を行い、得ら ーマに、小学校	の操作方法を身 ること、小学校で 算ができるように られた結果の分 交で理科を指導す と選んで取り上け	-
	理科の実	験Ib	に付ける 指導する なること 析・考察	こと、さまざる 上での問題点を を目標に、グル を行う。「振り る上で失敗し	Eな科学現象の♬☆注意点を探り↓ ☆注意点を探り↓ レープごとに実馴 ♪子」、「光と†	原理を理解する 適切な実験指導 険を行い、得ら 音」をテーマに	の操作方法を身 ること、小学校で 算ができるように られた結果の分 こ、小学校で理科 らい内容を選んで	- - -

(教育学部学校教育	授	業	科	目	Ø	概	要	ミ王寺キャンパス
科目 区分		科目の名称			講義等の内	内容		備考
	音楽科学習	引指導研究a	習も取りた比較・検証は何かにはいずれいしかし、名	入れ、音楽教育 討しながら、音 関する既成概念 も音楽教育を相 各内容を解説。	育における「認 音楽とは、芸術 念の再吟味を求 構想・実践する	識」の立場と とは、表現と める。本講義で 上で重要なもの るだけかみ砕き	て講ずる。一部演 「行為」の立場を は、そして教育と で取り上げる思想 つばかりである。 を、「難しいこと	
	音楽科学習	習指導研究b	践編と位記れたん、社とは、私たものなので	置づける。音楽品だろうか。それである。 音楽はとても またちの身近に多いである。本講義	楽の正体とはい そのどちらでも 誰しく、遠い存 Ě生し、その場	ったい何か。 かない。楽譜や作 在になってしま に居合わせる/ 「いま」「ここ	本講義はその実 業譜だろうか、そ 作品を前提にした まう。むしろ音楽 しくに共有される こで」生まれる現 で考察する。	
	図画工作科	科学習指導研究a	表す活動, 究をおこれ	, 美術, 工芸の なう。また, ク	り領域から研究	テーマや題材を を通して,教材	表す活動,工作に 記設定し,作品研 才研究や技法研究	
	図画工作科	斗学習指導研究b	表す活動, 究をおこれ	, 美術, 工芸の なう。また, ク	り領域から研究	テーマや題材を を通して,教材	をす活動,工作に と設定し,作品研 付研究や技法研究 なり組む。	
	体育科学習	習指導研究a	いて解説 研究の収集 味関心のる Polar社製 モニタリン	・演習を行う。 集方法や文献材 ある体育スポー ものハートレー ングし、データ 折する実習を行	研究課題とな 検索の仕方につ ーツ関連の国内 トモニタを装え タの収集や得ら	る問題の所在をいても解説し、 外の文献購読を しながら活動 れたデータを	ための手法につ と探るための先行 実際に自身の興 と行なう。また 中の身体情報を 充計分析ソフト 体験的な学習を基	
	体育科学習	引指導研究b	いて解説 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ に ・ に が に に に に に に に に に に に に に	演習を行う。一ツ科学に関す。また、動作的を用いて、実際の読み取りや	運動やスポーナる研究のアン 関析ソフトや映 際に運動場面で 青報処理につい	ツの動作を分れ ケートを作成で 像分析ソフト、 のデータ収集を て体験的な学習	るための手法につ 所する手順や、健 ける手順について テキスト分析ソン を行ない、得られ 習を基本に進めて の教材開発を行な	
	学校保健学	źa	して果たっともことを考してもあることを表して知ることを表して知る。	す役割の課題を 身の健康管理を とができること 知っておきたい 現場の実態を	とその重要性を や健康教育実践 とを目標とし、 トテーマに関す 具体的に取り上	理解する。学校に対して関心を 現代の子どもの る基礎的知識と げる。	たに、教育職員と 文教育における子 と持ち、主体的に の健康に関わる教 こそのテーマに関 ける保険管理を取	
	学校保健学	Éb	しど考員す解行鬼をうから、	す役割の課題と 身の健康管理 ⁸ とがでおきさん 知場の実態を見 る方法として、 徒の心身の健履	とその重要性を や健康教育実践 とを目標とし、 いテーマに関す 具体的に取り上 ケースメソッ	理解する。学校においます。 学校では、 できまれる といっと はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	ない な教育職員と子 と特ち、主体のの教 と特ち、に関わって的教 ともないのの基演習等 をはいているない。 とはないののが、 とはないののが、 とはないののが、 とはないののが、 とはないののが、 とはないののが、 とはないののが、 とはないののが、 とないが、 とないが、 とないののが、 とないが、 とな	
	生活科学a		からると、それである。とは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	、これを理解した到達目標とする を到達目標を基準の各分野の知識 素できる能力を について説明し	し、応用し、さける。 ける。 本的事項を理解 後を取得し、名 を身に付けること。 また、双方	らに改善の提言 すること、食品 生活における間 とを目指す。負 向的な授業を8	東を科学的な視点 言ができるように 品・栄養・食品衛 問題を発見し、改 食生活に関す習やグ 受業を心掛ける。	

	授	業	科	目	の	概	要	
(教育学部学校教育教員	養成課程)							天王寺キャンパス
科目区分	授業和	科目の名称			講義等の内	容		備考
	生活科学b		かな特環の実施を表現のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	、これを理解した を到達目標とする 環境学・応用を ででは でで で で で で で で で で で で で で で で で で	り中に見られるさら 、応用し、さら たる。 界面科学を人間の はいに関する造計 の理解のために、 いれた内容とする いれた内容とする	のに改善の提言 の密接環境としてのインテ を深めること 講義形式の授	ができるように ての美容・近接 リアなどにおけ を目指す。生活	
	課題研究I		材開発に 各繋が 考査制作	関する基礎的類 味や関心のある ための文献講言 指導する。 の進捗状況に	らたって、研究の 田識・能力を身に るテーマを決め、 売や先行研究の ついて、発表を行 な作成に必要な訳	ご付ける。 論文や作品の 間査を行えるよ 行い、グループ	制作、教材開発う、方法論や参	
	課題研究II		適宜進捗 通して自	状況について幸 らの論文や教材	識・能力を活か 限告を行い、ディ オ、作品をより ダプレゼンテーシ	ィスカッション Ě展させていく	、や指導・助言を 。	
	学校インター	ーンシップII	題続の1世標的には10世紀の19世紀の19世紀の19世紀の19世紀の19世紀の19世紀の19世紀の19	を定め、小学村間し、授業補助関わる。その間し、教職を目打望を持つ。な	のふりかえりか 対または特別支援 がやまたどもへのす いまるでは、事者としてごと は、実際には、 のよりではできる。 のよりでは、 のまりでは、 のまり	受学校のいずれ を接活動などを 音導や報告会、 目覚や技能をい に担当教員が10	かに20日以上継通して教育活動 特別講義に合計 っそう高め、教	
	理科の実験]	IIa	こと、身 小学校理 ついて学	近な生活素材で 科の化学分野の ぶことを目標	ご用いる実験器具 シ用いて理科実験 D内容およびその こ、実験と演習を 温度・圧力と体利	検を実施する方 ○内容と中学校 ○行う。扱う内	法を学ぶこと、 理科との接続に 容は物質の三態	
	理科の実験Ⅰ	ΠΡ	こと、身 小学校理 ついて学	近な生活素材で 科の化学分野の ぶことを目標!	で用いる実験器具 を用いて理科実駅 の内容およびその こ、実験と演習を 容液と金属の反応	策を実施する方)内容と中学校 と行う。扱う内	法を学ぶこと、 理科との接続に	
卒業研究	卒業研究		だし, は作指の を 各	技に関する分野は制作ができるを受けながら、 を受けながら、 ただし、実技し ーマに基づきが による指導・野	所論文を執筆するなり、 を表するないになることではないになる完善に関奏者にの研分付は、 に関奏者に従いは、 はになるになる完善に関奏者に従い、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	業論文に相当 ととする。 -マに基づき, いては, 指導 由又は制作する 美論文執筆また	する演奏若しく 卒業論文の執筆 を受けながら、 ものとする。 は卒業論文執筆	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようと する場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとす

る場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

		 授	業	科	目	の	概	要	751M - 2 - 11/C-11/
(孝	教育学部学校教育教員 科目 区分		夜間)) 斗目の名称			講義等の内	容		備考
教養教育科目群	導入科目	大学入門ゼミ		レポートをルートで、シ能力を	の書き方を含む 専攻の専門分野 ークや発表等の 批判的思考力や	アカデミックラ に関する導入的 アクティブラー コミュニケーシ 学で主体的に学	ライティング ウな内容への ウニングを通 ノョン能力、	情報の利用方法や 等について学ぶ。 理解を深める。 グ じて理解を深める プレゼンテーショ め、今後5年間の	
	分野別科目(思索 と芸術)	文学入門a		対する理 を暗誦で 江戸時代 正成と正 的に紹介	解を深める。併 きるようにする ・明治時代を中 行,信玄と謙信	せて,教養とし 。 心とする,富士 ,太田道灌の和 の体操として,	て必要な日 に山の詩歌, 口歌等の日本 いわゆる字	り、個々の作品に 本漢詩や関連詩歌 漢詩「原爆行」、 漢文の世界を具体 謎(漢字クイズ)	
		文学入門b		対する理 を暗誦で 江戸時代 誌』,『 寓話』等	解を深める。併を深める。中のでは、からに代を明治のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	せて,教養とし 。 心とする,『近 新編』,漢訳「 界を具体的に紹	て必要な日 「古史談』, 『源氏物語』 習介する。毎	り,個々の作品に 本漢詩や関連詩歌 『本朝虞初新 漢訳『イソップ 回,頭の体操とし 嘆文に対する興味	
		芸術a		験にのを音展歌の音という。	, 生き表現 いう自会 いう自分 のにすす のにすす のと にすす のの の の の の の の の の の の の の の の の の	音楽を活か、音を活か、音を活か、音を作り、そのはいからく。組みるるげの明心ををるば、 とり をいる はい をいる はい をいる はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	音導を行う。	学校での指導経 楽譜を演奏して音 等を利用して学生 という一連の流れ の多角的な理解と 無理のない発声へ 聴くという姿勢を	
		芸術b		をす皆指音展歌の音楽見いがる現目行を聴	生きた事楽,音う表現で う表現章。 にする発達でで、 関が身ででいる。 にすい姿が声器でいる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	楽を活か、音 を一方、音 作り、 たく。 をして、 そ をして、 そ をして、 を を の の の の の の の の の の の の の の の の の の	算を行う。楽 F成ソフト等 に再生すると まとして音楽 異し、児童の	学校での指導経験 普を演奏して学生の にを利用して学生の いう一連の流れを の多角的な理解と 無理のない発声へ 聴くという姿勢を	
	分野別科目(国際 と地域)	言語表現と: ションa	コミュニケー	about more scenes from the scenes from the scene	vies and visua rom many famou nd the techniq スでは、映画や 要な基本的な語	l storytelling s and influen ues presented ビジュアルスト 彙を紹介します	g. We will I tial moves in class. ヘーリーテリ ト。クラスで:	to help us ングについて話す	
		言語表現と、ションb	コミュニケー	about more scenes from scene	vies and visua rom many famou nd the techniq スでは、映画や 要な基本的な語	l storytellings and influen ues presented ビジュアルスト 彙を紹介します	g. We will I tial moves in class. ハーリーテリ ト。クラスで:	to help us ングについて話す	

教育学部学校教育 教	授	業(夜間))	科	目	Ø	概	要	
科目 区分		(科目の名称			講義等の	为容		備考
	大阪学a		史資料の とする。 体験的な して、最	の活用法など) また、大阪の よ学びを通して	を巡検(上町台 文学に関する読 、大阪学に関す 題解決の成果を	1地周辺) をとれ 書や和食の実践 る問題をみずれ	れた成果(知識や さして自分のもの 銭や芸能に関する いら設定する。そ プでお互いに発表	
	大阪学b		史資料の 等)をと 和食の 題をみす	の活用法など) とおして自分の 実践や芸能に関 げから設定する	を巡検(中之島 ものとする。ま する体験的な学 。そして、最終	、大阪天満宮、 た、大阪の文学 びを通して、2	れた成果(知識や 天神橋筋商店街 学に関する読書や 大阪学に関する問 解決の成果をワー する。	
分野別科目 (歴史 と社会)	日本国憲法	ŧ	かという 人権や ながら角	うところから丁 充治の仕組みに	寧に説明する。 ついて、裁判例 場や社会で生じ	その後、日本国や現実社会の重	のような法である 国憲法が保障する 助向等を例に挙げ について考える	
	人文・社会	会科学入門a	より深また授業を	まるように,個 を行う。テキス 実践例や論文を	人発表とグルート「経済教育実 読み込むことも う授業に活用す	·プディスカッミ 選践論序説」のi う行う。また,写	こついての理解が ションを組み入れ 前半各章と関連し 実務経験を生かし 案をつくりながら	
	人文・社会	会科学入門b	より深また授業を 育実践記 とも行う	まるように,個 を行う。人文・ 倫序説」の後半 う。また,実務	人発表とグルー 社会科学入門al 各章と関連した 経験を生かして	·プディスカッ? に引き続き、テ :授業実践例やi	こついての理解が ションを組み入れ キスト「経済教 倫文を読み込むこ 見をどう授業に活 こする。	
分野別科目(人間 と生活)		ンティと人権a	と た ア 差 別 し て と た ア が よ り し て こ で と し に 、	車で捉え直し、 既念として、人 人権とは何か? 「現代日本の て多様性を生か	自分の一社会的立 一社会的立 一社会的立 一社会的立 作、「舞り」ない。 一位では 一位では 一位で 一位で 一位で 一位で 一位で 一位で 一位で と し で し で で も に で で で で で で で で で で で で で で で で	場について認記 」・公正などを ・人権」、「社会 「をテーマに学え 「服しようとして	ある多様性を差別 歳を深める。その 「ダイバーシ 会にある多様性と ぶ。社会がどのよ てきたかを知ると るのか、その具体	
	ダイバーシ	/ティと人権b	との関連 ための差別 「身の世 差別構造 多様性を	車で捉え直し、 既念として」、 別と公正」、った とのとのとりつい と生かしつのと がどのように他	自分の社会的立権・特と会的立権・等と公司をというという。 一般をはいるできたが、 一般をはいるできたが、 自然をはいる。 というできたが、 自然をはいる。 自然をもな。	場について認言 」・公正などを いぐるさまざまか 「社会し に学ぶ。社会か としてきたかる	ある多様性を差を発している多様性を差である多様性を必要を通している。 「事をできるでは、まない。」 は、これでは、まないでは、ま	
	心理学入門	¶a	る心の側基本的なる。 心理学の る。授業 学への興	動きについて、 なトピックを取 の各分野におい 養を通し、心理 興味が深まるこ	心理学の歴史と り上げ、心理学 て基礎的な知見 学的なモノの見 とを期待する。	研究法、知覚、 の基本的な知り を近年の動向で 力を身につける	テ動とそれを支え 学習、認知等の 見への理解を深め も含めて教授す るとともに、心理	
	心理学入門	¶b	る心の ピックを 心理学の る。授業	動きについて、 と取り上げ、心 り各分野におい	情動・人格、教理学の基本的な 理学の基本的な て基礎的な知見 学的なモノの見	で育心理、発達等 知見への理解を を近年の動向	テ動とそれを支え 等の基本的なト を深める。 も含めて教授す るとともに、心理	
分野別科目(生命 と環境)	生物の情報	₩a	命科学の 生命現象 学ぶ。ま	の進歩と人間社 象に見られる様	会の関係につい 々な情報とその を対象とする生	て理解する。 伝達について、	するとともに、生 遺伝子レベルで がもたらす私たち	

教育学部学校教育 教員	授 員養成課程(必	業 5間))	科	目	Ø	概	要	
科目 区分		目の名称			講義等の内	內容		備考
	生物の情報b		命科学のi 生命現象は 体レベル、	進歩と人間社会に見られる様々 に見られる様々	会の関係につい な情報とその	て理解する。 伝達について、 、生命現象を対	るとともに、生 細胞レベル、個 †象とする生命科 ,学ぶ。	
	健康と科学a		上げ、生活 部科学省 幸福で豊富 の基礎知識	歴における健康 が示す「する かな生活を得い 識を理解させ	表と体力の重要 ・みる・支える	性について解説 (育てる) スポ ーツの役割や選 する時事問題に	をと機能等を取り でする。特に、文 でプリンを通じて の必要性とそ でいて情報収	
	健康と科学b		上げ、生活 部科学省 幸福で豊富 の基礎知識	涯における健康が示す「するかな生活を得かな生活を得かる	表と体力の重要 ・みる・支える	性について解説 (育てる) スポ ーツの役割や選 する時事問題に	行習慣病等を取り だする。特に、文 ペーツ」を通じて 運動の必要性とそ こついて情報収	
分野別科目(数理 情報と自然)	数学概論a		式、三角	関数を題材と	しながら、数学	を理論的に考え	引数、軌跡と方程 こる力を基礎から - ト問題を用意す	
	数学概論b		と写像を見	題材としながい がるように養原	っ、数学を理論	的に考える力を	引数、数列、集合 : 基礎から応用、 見を用意するので	
	身の回りの和	斗学a	質習で 1、発え。 (で) 1、を) 1、を) 1、を) 1、を) 1、で) 1、で) 1、で) 1、で) 1、で) 1、で) 1、で) 1、で	金属, 水, 葉 空は を 回付回え回版中と を に と と と と と と と と と と と と と と と た い に っ と の 学 に し た い に っ よ の き に し か み る い か み る い か よ か よ か よ か よ か ま か よ か ま か ま か ま か ま	えと温度」等) ま構成と温される。 ま構成を観察し、そのを いるとものいめる でいるとものいめる でいると のでいる。 でいると のでいる。 でい。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。	を取り扱う。 静験、演習、発表 の中から「問いて、驚きや 関いて、驚きや 関の解決のため、 強法を考えたり、	「「水溶液の性 達義、実験、演 そはグループ単位 い」を発見する態 つ学びにつながる かに、情報を整理 仲間と議論した 重した自分なりの	
	身の回りの和	补学b	方」、「 方」、「 大」、「 大」、「 大」、「 大」、「 大」、「 大」、「 ま」、「 を」。」、「 ま」、「 と」、「 ま」、「 と」、「 な」、「 と」、「 な」、「 と」、「 も」、「 と」、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し	然は 回付回え回版口とを焼焼 の仕さ 生ころのこのでした のののののでした 生立に教えてのに を立てかみこのをとりがしていがしていいでしたいに かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	実験、演習、、 実験、演習、、 く観察し、その にこと にこと にさる問いや課題 のである の	う。講義、実験発表はグルーフの中から「問い用いて、驚きや関の解決のため、法を考えたり、	6、演習、発表等	
分野別科目(教育 とキャリア)	大阪の教育実	尾践 a	ことから の平谷小 通して、	スタートする。 学校) の現場(そして、他県の 体験や大阪府の における」大阪	の村の小学校 の人権教育の実	理解してもらう (長野県下伊那郡 医際に学ぶことを 問題への理解をさ	
	大阪の教育実	譯践 b	育の実地(の教育の材)	体験学習や大 格差課題の解?	反の人権教育に 央に向けて、チ 大阪の教育に	関する振り返り ヤレンジしたい	における人権教 を通して、大阪 ・大阪の教育実践 いらの自己の実践	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
教育学部学校教育教員 科目		夜間)) 科目の名称			講義等の内	内容		備考
区分	キャリア教	育a	そい設計し分設 自で自な将過で の実デ職しす のあるの で自な将過で の実が でので での での での での での の の での の の の の の の	を意味する。これでは、一般では、一般では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	キャリアデザイ職ことでいる。活かったがある。活かったがある。活かったがある。活かったがある。活からながる、 き見つめ を達成する と 横さき、 自分の	ンとは、将来的 業や人生全体を の授業では、自 世る大学生活を した大学生活を アリアと関連づ トるために、ど	*、個人の生き方 切に自分のなりた と主体的に構築、 自分自身を深また、 とどるための目標 けて考えること のような力が必 めに「今」大学	
	キャリア教	育b	そい設計しかと の変計しかと が2 要3 で自な将過 で自な将過 でのあるのる。 でののでであるののでである。 でのであるのでである。 でのであるのでである。 でのでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	を意する。これでは、	キャリアアティン アデリア アナー こと 中 アナー アナー アナー アナー アナー アナー アナー アナー アナー アナー	ンとは、将来体を 業や人生全体を を投業で検えている。 からしている。 からしている。 アリアと関連づ トるために、ど	で、個人の生き方 がに自分のなりた。 に主体的に構築、 自分自身を深く来に 日子につながる。 けて考えること のような力が必 めに「今」大学	
分野別科目 (多様 性と共生社会)		コミュニケー	の能力を テキスト し、よっ て、実技	育てコミュケー 「発達障がいり ブメント教育	-ション能力を 見の育成・支援 ・療法の理論と いを理論的に裏	身につける。 とムーブメント 実技を同時に学		
	身体表現と ションb	コミュニケー	の能力を 身体表現 技をおこ	育てコミュケー とコミュニケー なう。その上っ 成し、指導者	ーション能力を ーションaに続い で自分たちでム	身につける。 \て理論を学ん ーブメント教育	こつけ、他者理解 だ上で実際に実 ぼ・療法のプログ 指導する時の技術	
	ジェンダー ティa	とセクシュア	ドラマ・ テーマに ついて少 人として	スポーツとジェ 人数グループ [*] 自分自身を問い	ェンダ等のテー で話し合い発表 い直すことがで	マについて考え する。 きるようになり	とば・映画・TV とる。授業では)、その上で教員 とを目標とする。	
	ジェンダー ティb	とセクシュア	等のテー で話し合 人として	マについて考えい発表する。 自分自身を問い	える。授業では い直すことがで	テーマについて きるようになり	トの理解と防止 (少人数グループ)、その上で教員 を目標とする。	
グロー バル教育科目	英語IA		身近なテージャンでは を を を は の 発音 で な り に の 発音 で を り に の の で で で で で で で で で で で で で	一文で、スピー 英文目標 達トレ様々といいでは、 をいいないでは、 をいいないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	チを準備し、読 期に4回、多話、英 明に4回別会、 サット がをがる。 ナッキがある。 ナッキがある。 トッキャー マント でローテストル はアントル といった といった といった といった といった といった といった といった	発表してもらう シートを学期オ スピーチ、ド 語に親しみ、身 テーションやス 動・外国語科で こおいてネイテ	ラマ、多読、英 実践的な英語力を トーリーテリン	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
教育学部学校教育教 科目					建業炊のは	1/53		/
区分	授業 英語IB	養科目の名称 -	を う。 業出 (文) (文) (文) (文) (文) (文) (文) (文	また、身近として、 外の課ことでなっている。 を書しているでいる。 を書しているできません。 を記しているできません。 では、からないのでは、またいのでは、ま	- 一マで、スピ - 、	を用いて、発音 一チを準備し、 学期に4回、多 スピーチ、ド 語に親しみ、実 ・ーションやス 動・外国語科で こおいてネイテ	ラ読シートを学期 ラマ、多読、英 医践的な英語力を トーリーテリン	備考
	英語II(タケーション	外国語コミュニ ン)	4技能を 人の学習 る宿題等 ムに組み	(プレゼンテー の準備を含む)	果題を設け、ペーションの原稿 を通して、英 シタラクティブ	を書いたり話す 語を実践的に学 な学習課題で、	アープワーク、個 準備をしたりす ぶ。カリキュラ 毎回、仲間と英	
ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	IA	文章を聞 動詞の現 を中心に	き取ることがで 在人称変化や名 ドイツ語を授業	ごきる。 A詞の性と格変 きする。あいさ	化、定冠詞と不 つ等の簡単な会	つける。簡単な 「定冠詞等の文法 話練習もする。 1することが求め	
	ドイツ語I	ΙΒ	詞、動詞 文法を学 るように IAで学ん	の三基本形、過 ぶ。ドイツ語を なる。	過去人称変化、 可級の文法知識 こなるため、判	再帰代名詞、再 を身につけ、簡	離動詞や接続 「帰動詞等の初級 「単な会話ができ っったら、IAまで	
	ドイツ語Ⅰ	II	形、過去 詞、関係 使用した	の表現、現在完 代名詞等のさら 教科書を引き終 することができ	E了形、形容詞 っに高度な文法 売き使用し、簡	の格変化、比較 事項を学習する 単なドイツ語文	動詞の三基本 表現、指示代名 。ドイツ語Iで ご章を話したり、 「し、正確に理解	
中国語	中国語IA		中国語の 生活習慣中 と と い と い い に い に い に い に い に い に い に い	発音と基本的な を と を と い る 。 ③ り る 。 ③ り る 、 る の な の る の る の る の る る の る る の る る る る	う。 うていく上で、1 可国語のピンイ 可国語検定準4 まを習得する。(5) にする。(5)日	以下の基礎知識 ンと簡体字を習 級の合格に必要 ④辞書を用いて	の歴史、文化、 技を身につけるこ 2得する。②中国 技な50語の語彙 、簡単な文章を ケーションの能	
	中国語IB		に学とをの発し ・ 理解し、 理解し、	している。①中 ができる。③中 , 基礎的な文法	生活習慣など つていく上で、 可国語のピンイ 可国語検定準4 まを習得する。 のにする。⑤日	も紹介する。 以下の基礎知識 ンと簡体字を習 級の合格に必要 ④辞書を用いて	教えると同時 表を身につけるこ 得する。②中国 建な500語の語類 、簡単な文章を ・ケーションの能	
	中国語II		法を習得 勉強を通 検定準4	した上で、会話	舌・作文・閲読)理解力と正し 旨す。 また、授	による語句・表 い表現力を養う 受業は教科書の		
韓国語	韓国語IA		語への第 字構造、 ラルな自	ーステップとし 読み、書きを学	ンて、韓国語の [≜] びます。ネイ	基本になる母音 ティブによる発	きますが、韓国 ・子音などの文 音練習でナチュ けする不安をなく	
	韓国語IB		基礎を固 ニケーシ ながる表	めながら、大意 ョンなどやさし	がでいるります。 い一般会話か リスニング、リ	スニング、意思 ら始めます。生	きますが、主に を伝えるコミュ きた韓国語につ かを入れます。授	

		授	業	科	目	Ø	概	要			
(教	(育学部学校教育教) 科目					344 345 Feb '			備考		
	区分	授業	科目の名称	十松茶汀	講義等の内容 本授業は韓国語 I 、もしくはそれに相当する韓国語の能力を有してい						
		韓国語II		る 人 を 対 芸 も は 関 に 、 BTS の に 、 は 関 に 、 の は に 、 の は に に 、 の は に に に の に に の に に の に に の に 。 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	象とする。 んで書いて話 み重ねが、言 Moodleでパワッ を解くことで、 の歌詞を使用す	すことが基本でで 語の定着になる。 ポを使用して説明 理解を深める。 る。 メールで提出して	す。 授業方法とし 月を聞く。文治 また、発音網	ンては、対面授業 法事項について、			
-	国際協働学習	国際協働学	꿥	めテに留学をでいた。 おいかん かっこう いっと まてい 生を かってい かってい かってい かってい かってい かってい かっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう い	を目指す。全8 ン(文献紹介) 学ぶ。そして、 ら出身国の社会 ける、文化、 がり、文化、	回のうち、最初 とディスカッシ 続く3回では、 会、文化、そして は海外の協定大学	の5回は受講生 ションを通じる 世界中・教育に で学校・ 学の教員、情報 するし、	解」のスキルを高 とによる文化共生的 に「多る文化共生」 ているて講義と でいるて講義と こたちとよび意見交 にたおとよび意見交 になるとが になるとが になるである。			
-	体育科目	スポーツ実	· 技I	を動かす ボールゲ を培う。 きるよう	運動の楽しさ ームの実践をi また,スポー	を知る。 通して,生涯スス ソを行う上での/ では,クロール <i>]</i>	ー ポーツとして道 レールやマナー	加量を判断し,体 運動に親しむ能力 -を学び,実践で Om (1泳法25mで			
		スポーツ実	技Ⅱ	た体力を スポート 理解トボンスポーツ	今後のスポート 実践できる。 践できる。 ール、サッカー 実践を通して,	ツ体験に活かし, また,スポーツる -、バレーボー/ 体力の向上を	生涯スポーツを行うためのマレ、バスケット 図り,各種スポ	表を通して獲得し /として継続的に /ナーやルールを ボールの球技の パーツの技術や戦 を意識させる。			
-	情報活用科目	情報活用基	碰I	わち, 大 仕組れらと る で と に に た た に に に に に に に に に に に に に に に	学のICT環境や情報セキュリー他者に説明できる。 けるICT環境の	マメディアリテラ ティ対策等の基準 きることをPCを 活用に関して習	シー, PCやイ 体的なテーマに 舌用した実習を 得した後,基	通して身につけ			
		情報活用基	·谜II	用実践力 活用につ 本学が利	を身につける。 いて,実習をi 用可能なクラワ こついて,クラ	ことを目標とする 通じて様々な表現	る。具体的に, 見方法の獲得を した後,受講者	首間で交流可能な			
		情報活用基	碰III	データ活 AIやデー 得した後 理を行うロ	用とAIの仕組。 タの利活用事作 、表計算による。 最終的にAIC グラミングの	列やAIの公平性, るデータ分析やこ の活用やデータ	SAIの活用につ ELSI個人情報 プログラミンク ナイエンスを是 データ活用の事	ついて取り扱う。 最保護について習 でによるデータ処 類材に、データ分 事例をグループで			
教職教育科目群	教職基礎科目	人権教育の	基礎	本を場で講の別では、要の状を	おける人権教社会と個人のとされる人権にとれるの体に、子どもの生	育の歴史と実践を関わり、子どものこ関わる基礎知まる基礎知まるを学習をベース 舌背景についてのは講義とグルース	を学ぶことによ のとらえ方など 識や実践的指導 スの一つとして の考察を通じ、	取ります。 取り現代の教育現 はじめ現点は で、現代の教育現 はで、現代の教育現 はで、現代の教育現 はで、現代の教育 はで、まで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで、はで			
		特別支援教	育の実践	もの教育 ASD児)の また、障 おける 発達につ	について、通信の理解と指導を害理解教育やよ ま理解教育やよ 践的課題を中心のある子どもでいて理解を深い	常の学級で学ぶる 中心に概説する ユニバーサルデ! ひに解説する。 を中心に、特別が	発達障害児(A 。 ザインの授業等 なニーズのある	等、通常の学級に 6子どもの理解と			

		 授	業	科	目	の	概	要				
(教	文育学部学校教育教 員	養成課程((夜間))									
	科目 区分	授業	科目の名称		講義等の内容							
		発達障害教	育論	と支援の もの自立 う、講義	内容・方法につ と支援のありす にグループディ	oいて解説する。 方について具体的	さらに、発達 り方策を述べる と組み入れて行	る子どもの指導 障害のある子ど ことができるよう。授業におい 考察を行う。				
		保育と子ど	[*] t	るで、教知の経 と子育児経 実得にと りまれる と の で 、 教知の と と 、 教知の と と 、 、 と 、 、 、 り に り に り に り に り に り に り に り と り に り と り と	に、保幼小の着 に、保幼小ので もしての資質 育・保育、実践事例	放育の連続性にで 対方の姿を明確に 対方の姿を明確に 対方の多基礎を対対で 対方の実際に 対を中心に解説で でながる指導力	ついて関心を広 に想像でき、子 きう。 こついて、保育 トる。さらに一	本的な理解を図 げる。その中 どもに寄り添っ 園と幼稚園での 般的な知識の獲 、グループで協				
		人権教育の	実践	本を場では、要の別で理解を	おける人権教育 社会と個人を関 とされる人権に これまでの体制 、子どもの生活	育の歴史と実践を 引わり、子どもの に関わる基礎知識 食や学習をベース 舌背景についての は講義とグルース	と学ぶことによっとらえたとうとらえたおり はや実践的指導 なの一つとして の考察を通じ、	教育をはじめ日 り現代への視点 、現代の教育現 、力を培う。 、人権教育につい 、人権教育に一 、人権教の、 に進め、 に進め、				
	教職専門科目	教職へのと	びら	等につい するよう 習をする る教職の	て身に付け、素 を培う。 な学校を担う、 ことが求められ	数職への意欲を高 どのような教師 るのかという問 歴史的変遷、教師	写め、教師とし 市になるために 引いのもと、世	の学習のあり方 ての学びを実践 、どのような学 界と日本におけ 像、教師の学び				
		教育総論		目育解会め本考行がは、て	値、教育の内名 法規、健康・名 とによって、考 ダイバーシティ まず、人間と考 教育の根底にあ	安全、人権・福祉 対職に対する関心 社会における等 対育とのかかわり ある基本的な考え 校・家庭・地域	・評価、教師像 此など)を歴史 いを広げ、現代 学校教育に対す)を人間学的・ たを考察する。	(教育の意義・教育とという。 会子・体系ので観点にいるでは、のが問題では、 のが問題では、 を使いでは、 を使いでは、 をのでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 をでいるでは、 でいるでもでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでと でいるでは、 でした。 でして、 でいるでは、 でしるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 では、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でい。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、				
		特別支援教	で育の基礎	組みを理育の対象障害とは念や仕組	解する。障害額 となる児童生術 何か,特別支持 みを解説した	見・人間観につい 走の教育支援の野 受教育やインクバ	いて理解を深め 見状と課題を理 レーシブ教育に で学ぶ特別な教	関する制度の理 育的ニーズのあ				
		学校の役割	と経営	くりに向 現代の学 題克服の について	けた意欲と視点 校が直面してい 道筋を学ぶとと 実践的に学ぶ。	気を身につける。 いる課題について こもに、課題克服	て講義と演習に 限を支える学校 也域との連携及	、未来の学校づ より整理し、課 の経営の在り方 び協働について				
		発達と学習	dの心理学a	習・認知 分類類 (1) 幼児 的のの(2) (1) わせた支	・社会性・情質 徴やその支援 以以下の2つで 見期・児童期・ 関する基礎的が 学的な方心理学 援が必要な子と 援が必要な子と	法についても学習を を到達目標とする 青年期を含む人 は理解とともに、 のいて基礎的な理解 的な子ども理解 ごもを含む、さま	に授業する。ま 習と発達の観点 5。 間の学習メカニ 子どもの学習 単解をもつ ・人間理解を ま ま ま ま ま ま ま ま で ま で も の と も の と も の と も る と も も て ど も り と も も て と も て と も と も て と も て と も と も と	た、発達障害の から授業する。 ニズム及び心理 や発達を知るた				

	授	業	科	目	の	概	要			
(教育学部学校教育	教員養成課程	(夜間))								
科目 区分	授美	業科目の名称		講義等の内容 発達と学習の心理学aで得た理解をもとに、乳幼児期・児童期・青年						
	発達と学	習の心理学b	期にかけて 基礎につい を接法につい 本授業はに (1) 対別見 的の心心 (2) (1) つ わせた支援	のそれぞれの いても学習と いても学習と 以・児童期・児童 関・兄墓礎的が で得たと で得たと要な子。 が必要な子。	D時期にまいて、 養する。またいで、 養を達の観点かられる 到達目標を含むに、 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	学習・認知学 学習・認知 発達障害の分業 受業・間の学もも習の学 目の学ももつの 生いを間まなり まざまざい。	・児童期・青年 ・児童性・情動の 夏や特徴やその支 ニズム及び心理 るや発達を知るた もとに、個に合 ちへの指導や援助 きえることができ			
	ICT活用の)理論と方法	経緯や意義 した学習指	、理論、今行 消事や児童生行	後の方向性を理解 まによるICTを活	解する。教員に 用した学習な	て、その歴史的 こよるICTを活用 どについて、講 倹的な学修を進め			
	生徒指導	綸	な生徒指導 導を明し 強を明し標 1:今日に を身につけ 2:「いじ	実践を共同で がけを理解した にしていく。 おける生徒 る しめ」等の問題	で分析することで ながら、生徒指導 指導上の諸問題に	を通して、教育	ともに、先駆的 育課程上の生徒指 医践する視点と方 とま践的な知識 と具体的に構想す			
	進路指導語	<u>公</u>	な進路指導 導の位置づ 法を明らが 到達 1 : 今日に を身につけ 2 : 特別な	「実践を共同ではないという。」 まけを理解していく。 こおける進路打る。 ここーズのある。 、この、進路指述である。	で分析することで ながら、進路指導 皆導上の諸問題に る子どもや不登れ	を通して、教育 算を構想し、写 こ関する理論的 交の子どものこ	ともに、先駆的 育課程上の進路指 長践する視点と方 り・実践的な知識 ことにも想像力を るための洞察力の			
	教育相談(の理論と方法	題に適切に くより効果 は、児童到 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	対処するにに 性的な対心理的 生標 活行う。 が、(カウン・) が、理解してい で理解してい	は、状況を理論的 すう必要がある。 内・発達的諸問題 の指導と援助にな フリングを含む)	的にとらえ、ま こうしたこと 質の理解と援助 ついて、心理等 など教師が行	カ方法を学ぶ。 学の基礎的な理論 テう子ども援助の			
	学校安全。	a.	下で過去に について理 めの効果的	発生した事(解する。その な教育教材の	‡・事故・災害 り後、児童・生行	事例から得られ 走の安全実践前 成方法と教職員	圏と、学校の管理 1た教訓の重要性 と力を育成するた 員の危機対応能力			
	学校安全的	0	下で過去に について理 めの効果的	発生した事(解する。その な教育教材の	牛・事故・災害 り後、児童・生行	事例から得られ 走の安全実践前 成方法と教職員	響と、学校の管理 れた教訓の重要性 と力を育成するた 員の危機対応能力			
		論(カリキュラ ジメントを含	の歴史と原 計画な教育に 理解も 理解を考察す	理を講ずる。 を検討し、 おける教育 習指導要領 る。その特	ともに、具体的 カリキュラム編成果程の意義及び終 の変遷をはじめる	的な実践事例 成を理解する。 扁成のあり方の 今日の教育改造 交の実情や子と	の基本的な知識を 革や教育実践の特 ごもたちの実態を			
	道徳教育	a 倫a	を踏まえ、 の下に行動 基盤となる	自己の生き し、自立した 道徳性を育り	ちや人間としての と人間として他	の生き方を考え 者と共により。 である。本講	と教育の根本精神 と、主体的な判断 よく生きるための 食では道徳教育の			

	授	業	科	目	の	概	要	
教育学部学校教育	教員養成課程	(夜間))	1					
科目 区分	授業	(科目の名称			講義等のは			備考
	道徳教育諸	a b	校道徳の打 案、模擬打 授業実践	授業の構想に 授業などによ 力が磨けるよ	ついて取り上げ り、実践的な授	、教材研究や学 業力を身につい		
	総合的な学法	学習の時間の指導	や役割をおのたる自動を対した。そのたる自動を対した。その方法に一切をして指述して指述を	理解するとと 指導案並びに 的力量を培う。 学習の時間の について、先 一プごとに読 導計画等を具	もに、実践事例 評価の方法を構 意義、目標およ 行実践を読み深 み深めながら、	の検討を通して 想し、見通しを び内容、歴史や めながら探究し ディスカッショ でくることを 近	展程における歴史 に、総合的な学習 ともっており おりますにあ や指導法並びに評事 にいて、近代であります。 では、近代であります。 では、これでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	
	特別活動請	侖	解すると。 評価の方 う。別活動の ついことに 計画等を 計画等を	ともに、実践 法を構想し、 の意義、目標 先行実践を読 読み深めなが	事例の検討を通見通しをもって および内容、を お深めながらながらながらながら、 でつくること	して、特別活動 指導にあたる 史や指導法並び 究していく。 ジョン等を通し ション等を通し	5歴史や役割を理 力の指導案並びに 民践的力量を培 ドに評価の方法に 行事例をグルー でて協働して指導 で背景にある理論	
	教育方法語	â	解し、今 育の技術の まえた指 程の き る と と も し	日求められる の特徴を考察 導技術を提起 及び編成のあ	資質・能力を育する。その特徴を することができり方の観点から 実践事例(教育	成するための教 をはじめ子ども ることを到達目	医本的な知識を理 対育の方法及び教 かたちのの実態を必 がたちのま教育課 歴史と原理を講ず 可など)を検討	
	教育実習I		り組む。第 ・事前指 実習当年 授業観察 スク対応、 スと実 活動・生活	実習終了後に 導 度 9 月頃:「 ・子ども観察・ メンタルへ、 参加の心得、	事後指導を受講 教育実習オリエ の方法と記録の ルスとアンガー 多様な子どもに	する。 ンテーション」 取り方,情報セ マネジメント,	マキュリティ, リ コンプライアン 、権・福祉, 特別	
			・事後指達 教育実習	で育った教師	力(教育的実践	力)の交流。 自己評価を行う	j.	
	教育実習Ⅰ	I	り組む。了 実事事当年 実業 関 業 業 業 対 実 ス ス と と る る ろ ろ ろ と ろ と ろ ろ と ろ と ろ と ろ と ろ	後に事後指導 (連集) (連) (連) (連) (連) (連) (連) (連) (連	を受講する。 教育実習オリエ の方法と記録の ルスとアンガー 多様な子どもに	ンテーション」 取り方,情報セマネジメント,	人上)の実習に取 マキュリティ, リ コンプライアン 大権・福祉, 特別 そける。	
			・事後指導			自己評価を行う) ₀	
	教職実践演	寅習(小)	に付けたう 課題を補いし、第3	資質能力につい い、発展させ、 ブロックにおい	ハて自己分析し るために第2プ ハて、指導教員	、成果と課題を ロックの「ミニ	て教職実践演習	

<u>→ 37 45 37 11 32 → 12 = </u>	授	業	科	目	Ø	概	要				
育学部学校教育教員 科目 区分		夜間)) 科目の名称		講義等の内容							
フラッグシップ科 目	ダイバーシ	ティと教育	的理念を概説 の姿を想定し た、ダイバー	する。多様 かながら、受い ながら、受い シティ教育が 生)を重視	生を認めあう。 講者ひとりひ。 がめざす、子。 する学校教育の	共生社会の構成 とりの理解と位 どもの多様性は	後性尊重)の基本 対員としての教師 対験を促す。ま はび、社会的包 が価値について、				
	現代社会と	子どもの権利	具体的には、 にはどのかを学さた えられる子ども に子どもの身 行使主体とな	子なとのない。それである。それである。それである。それである。これである。これでは、おいいないでは、おいいないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	利の基本的概念 り、子どもの概念 代社会における えつつ概観を理解する。 全を保障)を守 成長を促す大	権利がどのよう る子どもの権利 理解する。また さらには、う る大人として	、子どもの権利 に守られてきた は、現代のように捉 、現代の権利(権利の 、さらに権利の ごもの心身を脅か				
	インクルーシブ教育の理念とインクルーシブ教育に関する制度的の基礎を理解する。多様な子どもたちが在籍する通常の学級にポインクルーシブ教育の取り組みを理解する。インクルーシブ教育の理念とは何かを理解し、通常の学級にも存ている発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等によ特別かつ個別的支援を必要とする子どもと、障害のない子どもとに達成感をもちながら学ぶことができるよう、他の教員や関係機連携しながら組織的に対応していくための知識や素養を身につい						の学級における の学級にも在籍し に障害等により、 い子どもとが共 な員や関係機関と				
	外国人の子援	どもの理解と支	徒の学習上又 て、教職員や ために必要な 国籍や日本語	は生活上の 関係機関、低 、基礎的な知 力の程度を 題を取り上に	困難を理解し、 保護者と連携 知識や支援方活 問わず、外国 が、指導や支持	個別の教育的 しながら組織的 法を理解する。 人児童生徒等や 爱の政策動向や	り児、児童及び生 カニーズに対し かに対応していく かその保護者を取 の事例、指導関係				
	教職のため	の省察入門	個別具体的な 教師へと立場 はどうしたら	学校現場の線を転換し、 を転換し、	経験から学び約 数職に向かっ いう問いのも。	続けるための素 て自分らしく学 と、学校現場の	性に照らして、 長地を形成する。 さび始めるために つ実際的体験や自 文革の展望を得				
	教科横断と:	探究学習I	活の課題を探を経験し、教身に付ける。 探究的な見方 義やそこで育る	究する学び? 科等横断と打 ・考え方を(みたい能力)	を実現するたる 架究学習を指導 動かせて横断的 こついて知り、	めに、具体的に 算するための基 的・総合的に学 、教科内及び	、実社会・実生 上探究のプロセス 表礎的な構想力を や習することの意 女科等を横断する 1識・技能を身に				
	教育データ	の活用I	集,理解と分ながら解説する。 ながら解説する。 性を具えた測 それをふまえ り扱う。	析の基礎になるとともに,。データ収り度を用いる。 を個人差の	ついて,学校* 実際にデータ 集にあたってで ことの重要性, 七握,指標間の	で取り扱う学力 タを分析し、そ の倫理的配慮ペ 数量データの 数関連性を捉え	は的なデータの収 可調査を題材とし たれをふまえた考 の、妥当性・信頼 の分布の広がりと こる方法などを取				
	ファシリテ [・] 教員I	ーターとしての	ファシリテー	ションの理 て具体的な	論的な背景、 教育活動におい	基礎に関する知 ハてファシリラ	ーションを通し				
	学習者中心	の授業デザイン]	の学習者中心学びの関係に 育から学習者 本授業では、 と原理を講ず	の授業へ向に はどのよう。 中心の授業 学習者中心の るとともに、	ナた学習観・打 な構造と歴史は な善の原理に の授業デザイン 学習の目標	受業観の転換に 的な変遷があり ついて説明でき ンの観点から、	教育実践の歴史 ら見た授業デザ				
	教職専門性	と省察	教員研修の意 を実践してい 教師(大人) という問いの	義および制原る。 として学び原 もと、教師の	度上の位置づい 成長していく7 の発達と学習い	けを理解し、考 ためには、どう こついての理論	fiの学びを支える が師としての学び したらいいのか は、および教師の に理解を深め、実				

<u> </u>	授	業	科	目	Ø	概	要	
育学部学校教育教 科目 区分		(夜間)) 業科目の名称			講義等の	内容		備考
	学習者中。	心の授業デザイ	学習者中 た授業を深 理解を深 を考えた 本授の原理	いの授業であ な善に必要なも とととも では、学習者では、学問者で して では、学問者で では、学問者で では、	る「主体的・対 標・内容・方法 、学習者中心の 育評価に関する 心の授業デザイ	話的で深い学 に関する基礎 授業改善に向 知識・技能を ンをすると 習者中心の授	す目標・内容・方 業改善に向けての	
初等教科教育法科 目		科教育法(書写	ることを 国語科の /読むこ 検討を通	目的とする。 目的や方法と となどの各領	いった原論から 域論を具体的な 終的には、国語	、聞くこと話 [*] 国語教材の分	/視点を身につけ すこと/書くこと 折や、授業記録の 実際を構想するた	
	初等社会名	科教育法	お援目社え、会科の活動をいる。	経留意点を踏ま の実施を自立的 の教育課程上の を校社会科の学 を変ま施する でいかにといる でいかに組織する	え、教材研究、 に行うことがで 意義、特徴並ひ 習指導計画を立 にあたり、学習 えるか、教材を	児童理解、学きる能力を身に実践上の留に実践上の留に実践上の留いをすることが、目標をいかに、 といかに選択・いかに選択価	社会科授業実践に 習指導案作成、模 に付けるための科 意点と課題を踏ま できまるるか、児童 構成するか、学習 するかなどの点に	
	算数科教	育法	明するこのでは、またので	とができる。 下や児童理解、 対科におけること つ目標や内容関 で学習指導理論 らため、実践的	授業設計など指 業構想や授業展 できる。 について講じる	導方法につい 開、授業評価。 。 設計のための を展開する。	る観点について説 ての基本を習得などの実践的指導 知識及び技能を身 う。	
	初等理科	教育法	て実験活 実践的に なう。 以下の事 1) 小ずる 2) 教材 入れた授	s動を実際にお理 理科指導の を対します。 を対します。 を対します。 を対します。 を対します。 を対します。 を対します。 においます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないます。 にはないまななななななななななななななななななななななななななななななななななな	こないながら、 解を促す。模擬 とする。 、主な内容とそ。 ル教科書やICTG なうことができ	グループワー 授業や研究協 の構成を理解 の活用、問題解 る。	り、教材研究とし クを取り入れつつ 議を実践的におこ し、学習指導案を な決の活動を取り や協議をすること	
	生活科教	育法	たとびの材用標学材のと選を、と、講研、と習分にとびの材用標学材が、と習が、といいいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、といいのは、	ト、大きな、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	自自うも習行とで、経動をといる。とは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これを	わりに気づきかけ、意欲や、自標にしていくカリキュラ・模擬授業、ICの授業実践力が、教材研にTCT機器の活用	を育成さる。まする。まする。まする。ますで、、まず学、こ数には、ないがイン、、をでいる。ないでは、、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	
	初等音楽	科教育法	の学習指 業の体験 導案を作	音導案が作成で ●を通して、具 ■成しながらテ	きるようになる 体的な授業像が	ことをねらい 描けるように 講義を進め、	して小学校音楽科 とする。モデル授 講義する。学習指 学習指導案の作成 で行う。	
	図画工作	科教育法	グループ 画・指導 者・学習	プごとの題材研 算案を作成、模	擬授業を実践す 授業への改善点	定し、ICTを活 る。振り返り	を行う。 所した指導の計 においては、授業 ともに、テーマに	

		授	業	科	目	Ø	概	要	
(孝	改育学部学校教育教員	養成課程 ((夜間))					T	
	科目 区分	授業	科目の名称			講義等の	内容		備考
		初等家庭科	4教育法	することが 小学校「新価方法は した教材を	ができる。 家庭」の教育意 について解説す	義、教科特性 る。児童の生 ュラム構想力	生、目標、内容、 生活実態や現代的 つ、授業設計力を	えた授業を提案 指導方法および お生活課題に即 よ身に付けること	
		体育科教育	活	考え方をF ことがで 体育科の 示してい	理解し、学習記 きるようにする 目標および内容 く。また学習内 容を系統的に示	価と学習指導 。 『について、ご 『容についてに	算過程の関係性に 対すされた学習指 は、個別運動領域	こついての基本的こついて理解する 計算要領に基づき 成、保健領域それ 長開の仕方につい	
		初等英語科	↓教育法	外国語科 との教義では 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型	、の特いラ、親当だる。高に意うない。本の特のラ、親当だらングル動情をある。となる。となる。となる。となる。となる。とは、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	での外国語科の 講えの外国語行う。 いる はないが はない は に は に は に は に は に いる は に が いる は いる に いる に いる に いる に いる に いる に いる に	日標、内間標、内間標、内間の 長業時間の 言語で深い。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	ҍめる。また、受	
	学校インターン シップ科目	学校インタ	ーンシップ体験	業参観やする。その間はお、受力をお、受力をおいる。	受業補助などの 際、説明会を含 教職を目指す者	支援活動を通 む事前・事後 としての自覚	重して教育活動の 後指導や体験の報 記を高め、教職へ	発告会に合計5回	
専攻専門科目	小学校教科専門科 目	国語a (書 ² を含む。)	写及びICTの活用	当する教 まな言語 国語常識	員に必要な基本 活動をとおして	的な知識や書 、受講生の言	書字力を身につい 言語生活の向上を	た校の国語科を担けさせる。さまざい図るとともに、 記や理解の能力を	
目群		国語b (書 ² を含む。)	写及びICTの活用	当する教 読み聞かる の言語生活	員に必要な基本 せや創作活動な 活の向上を図る	がいいい かいれい かいれい かいまい さまざま とともに、 国	書字力を身につけ まな言語活動をと	:おして、受講生 ほんご」の活用に	
		社会a(ICI む。)	『 の活用を含	の軌跡と 役割と国際 収集や教材	貿易および今日 際社会の課題に 材作成等にも触	的課題につい ついて検討すれる。	ヽて論じる。国道 トる。また、ICT	日本経済の成長 事の国際機関の を活用した資料 最めることができ	
		社会b(ICI む。)	「の活用を含	ぶ。自然る。また、	と人文現象が初 、ICTを活用し の地域に接して	合している場 た資料収集や	易としての地域に 教材作成等にも		
		算数a(ICT む。)	『の活用を含	1変数の 質・グラン 主として、 受講者の み入れる。	変化の割合に関フとの関わりに フとの関わりに 、変化率の計算 理解のために、	する変化率の ついて理解す 等について講 ICT 機器をし 習するいろし	構義をする。 更う練習も兼ねて いろな概念が未履		
		算数b(ICT む。)	『の活用を含	の定義・作を表して、一定用と講える。一定要のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、一定のでは、	性質などについて関数・グラフ、図形の面積や 理解のために、	・図形におけ ・図形におけ ・図形におけ ・体積の求積法 ICT 機器を使 いろな概念か	ける種々の量を算 法等について講義 もう練習も兼ねて	1 1 / = 0	

	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育	教員養成課程	(夜間))	T					
科目 区分	授美	業科目の名称			講義等の内	容		備考
	理科a (Iv む。)	CTの活用を含	生命領域の主 ICTを活用した 小学校理科で させる。 小学校理科に 供たちに指導	な 観察・ 実に 実に するるな な を も も も を も を も を も を も を を も を を を を を を を を を を を を を	験を用意し、	学生に行わせる の交流を促進っいて講義を行 や顕微鏡の操作 の精妙さに気付	する。 い,学生に演習 法を習得し、子 いてもらう。	
	理科b(Iu む。)	CTの活用を含	察・実験を用が ICTを活用した 小学校理科でする させる。 小学校理科に 供たちに指導	意し、学生 実験・観察 特に理解が 関でもるるなどを 植物なを	に行わせる。 琴や学習者間で 必要な内容に [*] 的な実験器具 [*] になる。 観察し、自然 ⁶	の交流を促進っいて講義を行 か顕微鏡の操作 の精妙さに気付	い, 学生に演習法を習得し、子いてもらう。	
	生活a(Iu む。)	CTの活用を含	スタートカリ: 果たす役割を れる気付きの るようにする。	キュラムに 考えられる 意義につい かしながら	関する議論を過 ようにする。 る てワークショップ ークショップ	通して,生活科 また,体験や経 ップを通して実 こおいては,適	1プロブレムや が幼小接続期に 験のなかで生ま 感的に理解でき 宜,外部の専門 を活用した教材	
	生活b(Iu む。)	CTの活用を含	義を通して概 また、身の回 クショップをi できるように	説する。 りの生き物 通して,な する。なお ・協力しな	や植物, 人やは 験や経験を通し , ワークション がら活動を進る	也域との関わり した学びの意義 ップにおいては	接続について講についてのワーを実感的に理解:,適宜,外部のTを活用した教	
	音楽a (Iu む。)	CTの活用を含	授業では第一にいかに獲得する。 幅広い視野に らに第三に、	に、楽譜に るかについ 立ち様々な 楽曲を分析	関する諸規則で理論・実践に時代・ジャンパ するだけに止き	を知り、読譜・ 可面から講ずる レ・文化の音楽	楽譜である。本記譜のスキルを。また第二に、 。また第二に、 を比較する。さ 演奏・創作の各 とを目指す。	
	音楽b(Iu む。)	CTの活用を含	調性に関する またコードに 講ずる。第二は 伴奏法に触れる	事項を取り 合うメ材材 に、 がら、 供 は が は に た に た の は に 、 は に 、 は に 、 は に た り と に り に り に り に り に り に り に り に り に り	上げる。その_ ィを選ぶ視点に を中心に、既原 奏することの 致した伴奏を 動	上で、メロディ こついて、理論 対の伴奏譜に止 興味深い世界を 建盤楽器で自ら	なコード進行と についる。 にったのでは、 にったのでは、 にったのでは、 にったのでは、 にったのでは、 にったのでは、 にいるのでは、 には、 にいるのでは、 には、 にいるのでは、 には、 にいるのでは、 にいるの	
	図画工作む。)	a(ICTの活用を含	る。主とにすい 力とですい を目標をはい ・すで・するを図ると。 ででに、 ででに、 ででに、 ででに、 ででに、	造形では大きない。 造形が は で が で が で が で が で が で が で が で が で が	工作による作品 る。ICT (デジ 理解を深める。 な表現活動と 動の指導方法やラ 料や用具など! 得をめざし主信	タル教材やデジ 監賞活動の基本 支援方法につい す近な素材の種 本的な表現活動	法を理解させ表現 ジタル教科書な 的な事項を理解 で考えることが 類や特性を理解 をすることがで 資質能力を高め	

(教育学部学校教育教	授	業(夜間))	科	目	Ø	概	要			
(数月子の子校教育教 科目 区分		業科目の名称		講義等の内容						
	図画工作む。)	b(ICTの活用を含	る能用到・すで・すき主身て目学とる画と。とに教標校と。工と	して絵や立体につけたさせる。] 科内容の理解 図画工作の多れもに、表現活動作で使用するももに、技術の資	CT (デジタル教 を深める。 様な表現活動と	を通して、思考な材やデジタル を対象を対象を対象を 監賞活動の基本 支援方法についます。 身近な素材の利 体的な表現活動	法を理解させ を表現力、技 教科書など)を 本的な事項を理解が がで考えることが 種類や特性を理解が がですることがで を質能力を高め			
	家庭a (I む。)	CTの活用を含	の紹介やする 形態。 家庭者者 ことが	実習を取り入る。また、ICI 義、あり方なる 義をもって多り きるようになっ	れて、理論的・? を活用した資料 どの基本的な事事 角的な視座から? る。具体的には、	実証的な講義を い集や教材作 頃について理解 家庭の位置づけ、小学校の家庭	活について、事例 と中心とした授業 成等にも触れ ないないであるとともに、 はいでは、			
	家庭b(I ⁱ む。)	CTの活用を含	て、事例 も を を を を を を を る ま る き る き る き る る る る る る る る る る る る	の紹介や実習。 形態とする。 義、あったない あって多いである。 きるようになったない。	を取り入れて、ままた、ICTを活用 どの基本的な事事 角的な視座からる。具体的には、	理論的・実証的 した資料収集 頃について理解 家庭の位置づけ、小学校の家庭	正活と家族につい のな講義を中心と や教材作成等に するとともに、 けと課題を捉える 手科で取り扱われ 乗要と課題を説明			
	体育a(I [·] む。)	CTの活用を含	陸上運動 めての教 器械運動 求められ	を取り上げ, i とともに, 学 材化の方策や と陸上運動に	習者自らの技能の その指導方法について, 小学校 でいな でいな でいな でいな でいな でいる である である である である である である である である である であ	意味や行い方に の習得を目指し ついて習得する 低学年の運動遊	こついて理解を深 , 小学校体育授			
	体育b(I む。)	CTの活用を含	ボール運 深めてい 授業への 表現運動 に求めら	動を取り上げ, くとともに, ⁴ 教材化の方策 ⁴ とボール運動!	学習者自らの技能 やその指導方法に こついて,小学村 段階的な指導	の意味や行いた 能の習得を目指 について習得す 校低学年の運動	がについて理解を 針し、小学校体育			
	英語a(I [®] む。)	CTの活用を含	る。演習 どのよう 校教師と	を多く取り入れた。 に役立つのかり しての指導経験	ιて授業を進め、 こついて振り返	、英語の 4 技能 りを行わせる。 小学校英語と中	の在り方を学ばせ き5領域の向上に 中学校・高等学 中学校英語におけ			
	英語b (I	CTの活用を含	方を学ば た模擬で の立 経験を活	せる。単元計 業などの演習 り返りを行わっ かについて考	画を立て、導入 を多く取り入れ せる。英語の44 察させる。中学	・展開・まとめて授業を進め、 技能 5 領域の向 技・高等学校教	方、及び、作り たの流れを意識し その取り組みに はいとしての指導 な授法ついて一緒			
系列専門科目	教育学研	究Ia	理解し, 今後の学 広田照幸 (日本図	メディアを批 校教育で必要 ・伊藤茂樹編	判的に受容する(な情報教育につい 著『教育問題は	にはどうすれた いて考える。 なぜまちがって	しるという主張を 『よいか考察し, 一語られるのか』 し、講義を通して			

(数字学如学+****	授	業	科	目	Ø	概	要	
(教育学部学校教育: 科目 区分		(夜間))			講義等の内	7容		備考
	教育学研究	究Ib	理解し, 今後の学 映画作品 題」構築(メディアを批 校教育で必要 『しらゆき姫	判的に受容する(な情報教育についな情報教育についる) 殺人事件』を題れている。 し、今後の教育()	にはどうすれた いて考える。 材に, メディフ	れるという主張を ばよいか考察し、 アによる「教育問 よ情報教育をテー	
	学校インク	ターンシップI	課題や目標の継続的に活動の実際講義に合意を	標を定め、小に に訪問し、授 際に関わる。 計5回出席し、 展望を持つ。	学校または特別 業参観や授業補 その際、事前・ 教職を目指す	支援学校のいっ 助などの支援活事後指導や体駅 者としての自覚 とに担当教員が	っ理解に関しての デれかに20日以上 舌動を通して教育 食の報告会、特別 きや技能を高め、 「1名つき、受講	
	ものづく!	り教育研究a	る。 本授工素材で のまた素片いった。 でに で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は、ものできた。 は、 ものできた を加工する アップ を でいてる アップ かい でいる アップ かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい かい	りの素材となるが ぶ。 めに必要な接着が め、ドリルの仕が る原因やその対象 ながら安全教育	紙、木材や竹の 剤の種類と用え 組みとそれらの 策と危険防止し で重点を置きま ・ャビネット図	学校教材を作成す の特徴や性質とそ 念,はさみ,彫刻 の取り扱い方法に こついてのシミュ 見場での事故防止 などの投影図や	
	ものづくり	り教育研究b	る。 本質と 変 また また また まが り が る い い る い う い う に り っ い う い ら に り し っ い ら し し し し と し し と し し と し と り と り と り と り	は, ものづく が加工方法についる を加工方法であた。 などの加工しまでがいる はケガおこさせき はなを考察リを学習の のでする。	りの素材となるいで学ぶ。 いて学ぶ。 めに必要な接着 具の仕組みとそれる る原因やその対けながら安全教育に	プラスチックを	学校教材を作成す や金属の特徴や性 金、ペンチ、ヤス ・方法にについて こついてのシミュ 見場での事故防止 などの投影図や	
	社会科学管	習指導研究a	が、で、は、で、は、で、で、で、で、で、で、し、の歴島ので、で、しののでは、質の一生ののでは、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、質が、	てくる。そしてくる。そしてくる。それでは、それではないのでは、からない地理をといる。というないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	科学では、 学学ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	全員が報告、。。 全員が報告をとこきさいで報告をを きたか一プ。ととが、報告を がい一プ。とり 上員がまといる。この でいくこのこの でいくこのこの でいくこのこのこの でいくこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこのこの	対論をしていく過 ようになる。例え 行ってもらう。日	
	社会科学	習指導研究b	げ、 で、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	てくる。それでなる。それでないです。それでは、それでは、それでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	料学を深く学ぶ こついて調味ので との融、内の容を いってでいる いってでいる いっている いる いっている いっている いっている いっている いっている いっている いってい いってい	全員が報告き 会 と と と で も と で も と で も 、 し 、 質 と で も 、 し 、 質 し 、 質 し 、 質 し で り し で り し で り で り で り で り で り で り で	対論をしていく過 ようになる。例え 行ってもらう。市	
	数学・数学	学教育研究a	距離空間できるよ ても考察 について	や位相空間に うにする。ま する。時間に も解説する。	関する演習を通 た、必要に応じ 余裕があれば、	じて、数学の妻 て、教科担任# 距離空間におり	う。具体的には、 基本的概念を理解 間との関連につい ける不動点定理等 思考力を養うため	

	授	業	科	目	Ø	概	要		
(教育学部学校教育 科目					# 芳炊 の山	u tier		備考	
区分	授業	科目の名称	名称 講義等の内容 講義等の内容 数学教育の研究について、解析的視点から指導を行う。具体的には、						
	数学・数学	教育研究b	微分積分 うにする。 する。時	学に関する演。また、必要間に余裕があっては、数学的	習を通じて、数学 に応じて、教科技 れば、微分方程式	学の基本的概念 担任制との関連 式論についても	た。 京を理解できるよ 連についても考察 が解説する。受講 なっている点も重		
	理科の実験	Ia	に付ける 指導する なること 析・考察	こと、さまざ 上での問題点 を目標に、グ を行う。「電	や注意点を探り道 ループごとに実験 気と磁気」をテー	見理を理解する 適切な実験指導 険を行い、得ら ーマに、小学校	ること、小学校で 算ができるように		
	理科の実験	Ib	に付ける 指導する 析・考察	こと、さまざまと、さまざ点 とでの問に、グ を目標に、 「振 を行う。 「振 る上で失敗し	や注意点を探り道 ループごとに実験 り子」、「光とす	見理を理解する 適切な実験指導 険を行い、得ら 音」をテーマに	ること、小学校で 算ができるように		
	学校保健学	a	して果た される ここ きょう とし ままる して ままる ままる して ままる ままる からし こうしゅう こうしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	す役割の課題 身の健康管理 とができるこ 知っておきた 現場の実態を	とその重要性を理 や健康教育実践/ とを目標とし、野いテーマに関する 具体的に取り上/	里解する。学校 こ対して関心を 見代の子どもの る基礎的知識と げる。	のに、教育職員と 交教育における子 と持ち、主体的に)健康に関わる教 とそのテーマに関 する保険管理を取		
	学校保健学	b	しど考員す解行児 生のこて育め 生	す役割の課題 身の健康管理と知っての実 りがでていての実とし 現場方法とし 徒の心身の健	とその重要性を現るとその重要性を現るとを目標とし、現るのででは関するというできます。 また はい かい とい ない とい かい とい いい とい いい とい いい とい いい とい いい とい いい とい いい とい いい とい いい い	里解する。学校を は対して子と、 関外では、 関係では 関係では 関係では 関係では 関係では 関係では 関係では 関係では	かないない。 な教育は体的の教 を持ちに、に関うして、 を持ちに、に関うして、 をはないでは、に関うして、 をはいないでは、 をはいないでは、 では、に関うして、 では、に関うして、 では、に関うして、 では、に関うして、 では、 では、に関うして、 では、に関うして、 では、に関うして、 では、に関うして、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では		
	生活科学a		かな特生・第を事事	、これを理解と を理解と を目に を に り い を に り り り り り り り り り る で う い さ に り れ り れ り る り る り る り る り る り る り る り る	し、応用し、さら する。 本的事項を理解で 識を取得し、食 を身に付けること	っに改善の提言 すること、食品 生活における問 とを目指す。 負 向的な授業を	を科学的な視点 言ができるように 品・栄養・食品、 問題を発見し、る基 食生活し、演習やグ 受業を心掛ける。		
	生活科学b		かな特境の電気のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	、これを理解と 、これ達学・アレ を環のと解れる で学のと解れる で学の では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	し、応用し、さらする。 界面科学を人間の ヨン・近隣環境と	かに改善の提言 の密接環境とし としてのインラ 指を深めること 講義形式の摂	を科学的な視点 言ができるように しての美容・近接 テリアなどにおけ とを目指す。生活 受業に加え、演		
	教育学研究	IIa	する化るし受受がいる。	の方法や施策 の現代の現代の ・ の現代の ・ の に の に の に 思題の な は 関 に 関 に り る に 関 に り る に り る に り る り る り る ら る た る る と る り る ら る り る ら る り る た る ら る ら る ら る ら る ら る ら る の ま る の ま の ま の る の る の る と の る と の る と の る の る と の る と の る と の る と の る と の る と の る と の る と の る と の る と の る と の る と の も と の る と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と の も と う と の も と の も と う と の も と う と の も と う と る と る と る と る と る と る と る と る と る	を受講者間の対認の具体例としています。 一持続可能な開発がから受講者の明 対対は講話を実施で では講読を実施で 理と論点提示を変	舌を通して探察 ま、子とのといる といる は、のためのに は、のため、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	資困、教員の多忙 育などが挙げられ ごて課題を選択 売にあたっては、 れた論点について に対する理解を深		

<u></u>	授	業	科	目	Ø	概	要		
育学部学校教育 科目 区分	育教員養成課程(夜間)) 授業科目の名称			講義等の内容					
	教育学研	究IIb	するため 現代的課 能力の課題の に関する を行う。	本講義の目的は、教育の現代的課題に対する理解を深め、それに対応するための方法や施策を研究する方法を理解することである。教育の現代的課題の具体例としては、子どもの貧困、教員の多忙化、資質・能力の育成、持続可能な開発のための教育などが挙げられる。これらの課題のなかから受講者の興味関心に応じて課題を選択し、その課題に関する文献講読と文献内で取り上げられている研究手法の調べ学習を行う。そして、その文献内で取り上げられている研究手法の妥当性や代替方法について受講者間で意見交流し、教育学研究の方法を理解する					
	応用行動	分析学a	分析学の 用いと解説 に解説 がまいま が取り上 を方法を	定義と簡単な うする。 を観点、本講義 がかけいで を はいで で で で で が が が が が が が が が が が が が が が	歴史の紹介から にから でがない にいる にいる にいる にいる にいる にいる でが は といる でが 操作 といる ない はいる はいる はいる といる といる といる といる といる にいる はいる といる といる といる といる といる といる にいる といる といる といる といる といる といる といる といる といる と	始まり,「行動を捉えていくと をなるとして,り のラント条件・ 激性制御」「問 がもの行動を お、 講義におい	対する。 ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ に ・ に ・ に ・ に ・ に ・ に ・ に ・ に		
	応用行動	分析学b	「問題」 説する。 る」アブ行! を参いて	をどのように 特ロのように がないで がない がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい がい	アセスメントしに教える」アセスメントした教える」アカスの「罰的なた」で学の実践をがなお、講義にお	,支援していく ローチと「問題 応の問題点」を 「障害の社会っ のように進めて いては巡回相記			
	心理学特	講	場の実際理の表別では、またのでは、ま	に基づき概説 学」と概で の理論をで概で え方「学習性が で、学校が	する。具体的に 学習・本講義でも関係 、対人関係 、対力のでは 、対して 、対して 、対して 、対して 、対して 、対して 、対して 、対して	は,まず「教 (女・教師) 介する理論の を踏まえて, 野 医帰属理論「1 影響として「看	た行研究や学校現 育現場で必要とさい。 ・家ななるの。 ・家ななるの。 ・家ななるの。 ・ないではない。 ・ないではない。 ・ないでは、 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と		
	心理学特	i养b	方, 子どと てとこと で子ども 情の社会	もの気持ちの 実践を指導す たいこと・伝 の心として「 化」について	引き出し方に関 る。具体的には わることの違い 自我関与」「来	わる,心理的で ,大人の送信と 」「自己開示」 談者中心法」 ングやグループ	子どもの話の聴きアプロチに関すと子どもの心ととを、大人のの「感」「短期療法」「宛期療法」「ディスカッショ		
	心理学研	究法a	調究の方するの方するの。	ー・の作り、作り、作り、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	成方法について て,文献講読法 「心理学研究法 に必要な変数に の設定と研究計	指導する。具体 よび文献講読いの基礎」として 関わる基礎的知 画の立案」として 調査用紙の作品	研究計画の立案と本的にはまず「研 と基づく仮説生成 て、量的研究法の お職について概説 して心理学におけ 、 として、調査		
	心理学研	究法b	いて,理 論文執筆 二要因分 該分析を 法」「結	論的かつ実践 に最好析と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	的に指導する。 な基礎統計とし して理論的に学 また心理学論文	具体的には心理 て, t検定・一 んだうえで, う における「問題 の書き方につい	データを用いて当 題と目的」「方 いて, データ解析		
	学校イン	ターンシップII	題や目標 続的に訪 の実際に 5回出席 職への展	を定め、小学問別の大学をできた。 授業の 授業を しいる。 教職を 引きる はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた はいまた	校または特別支 助や子どもへの 際、事前・事後 指す者としての	援学校のいずれ 支援活動などを 指導や報告会、 自覚や技能を に担当教員が	解に関しての課 いかに20日以上継 を通して教育活動 特別講義に合計 いっそう高め、教 1名つき、研修生		
	国語科学	習指導研究a	素(形・ (字謎・ 題を与え 集』・『	音・義),漢 文字占い・創 , グループワ 百人一首』)	字の成り立ち, 作漢字),漢字 ーク形式で検討 の漢訳と漢詩(漢和辞典の使い と仮名の関係い させる。さらい 『唐詩選』・	には, 漢字の三要 い方, 漢字遊び こついて種々の課 こ, 和歌 (『万葉 『唐詩三百首』) ることによって,		

	授	業	科	目	Ø	概	要		
(教育学部学校教育 科目 区分		(夜間)) 業科目の名称		講義等の内容					
	国語科学	習指導研究b	語』に対 牛疾あり つ, 『論 『論語』 じ等)を	する概説を加 」・「自らを 語』の言葉の 入門教材や『	えるとともに, 限る者」・「司, 普遍性について? 論語』関連グッ で小学生と一緒!	下村湖人の『請 馬牛の悩み』等 考察する。さら ズ(かるた・F	上げ, 孔子や『論 論語物語』(「伯 等)を精読しつ らに, 日本各地の 日めくり・おみく つできる魅力的な		
	英語科学	習指導研究a	見をもだい を目やうと がうとう を現めて を現って を現って を現って を見いて を見いて でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。 でした。	に学校教育に 、理論とと 体的な指導を グを含む)を 英語教育につ	おける英語科教に、実際に教室 に、実際に教室 術を、演習形式 活用した英語教 いても学び実際 業についてビデ	育の現状と課題で英語を教えるで学ぶ。また、 育、他教科と追 こ教材を開発	習得理論からの知 直を把握すること 5 ための様々な活 ICT機器(プロ 連携した深い学び ける。実際に学校 こにより、実践に		
	英語科学	習指導研究b	見を動グを返にで立とに具ンすめけ擬実	に、体が大変では、体が変数では、体がを発して、体がをできれた。とは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	おける英語科教室に術を表際に関する実際ででは、またいというでは、したが、これでは、いいないが、できないが、これできないが、これではいいが、できないが、これできないが、これできないが、これではいいが、これできないが、これではいいが、これではいいいが、これではいいが、これではいいが、これではいいが、これではいいが、これではいいが、これではいいがいが、これではいいができないが、これではいいいができないが、これではいいができないが、これではいいができないができないができないができないができないができないができないができ	育の現状と課題で英語を対していません。 で英語を多またというでででいる。 ででする。 ででいる。 でででいる。 でででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 ででいる。 でいる。	習得理論からの知り 質を把握を を がること活 で があるとなった。 で を が が が が が が が が が が が が が		
	理科の実	験IIa	こと、身: 小学校理 ついて学:	近な生活素材 科の化学分野 ぶことを目標	を用いて理科実 の内容およびそ(験を実施する力 の内容と中学校 を行う。扱う内	作・扱い方を学ぶ 方法を学ぶこと、 交理科との接続に 対容は物質の三態 程度など。		
	理科の実	験IIb	こと、身: 小学校理: ついて学:	近な生活素材 科の化学分野 ぶことを目標	を用いて理科実際	験を実施する力 の内容と中学校 を行う。扱う内	交理科との接続に		
	音楽科学	習指導研究a	習も取り、比較・検は何かにはいずれしかし、	入れ、音楽教 討しながら、 関する既成概 も音楽教育を 各内容を解説	育における「認言 音楽とは、芸術。 念の再吟味を求る 構想・実践する。	職」の立場と とは、表現とだめる。本講義で 上で重要なもの るだけかみ砕き	に講ずる。一部演「行為」の立場をは、そして教育とで取り上げる思想りばかりである。		
	音楽科学	習指導研究b	践編と位れとも作とたん。とは、私ものなの	置づける。音 品だろうか。 音楽はとても たちの身近に である。本講	楽の正体とはい そのどちらでも; 難しく、遠い存 発生し、その場!	ったい何か。 ない。楽譜や作 在になってしま に居合わせる <i>」</i> 「いま」「ここ	本講義はその実 業譜だろうか、そ 作品を前提にした まう。むしろ音楽 しくに共有される で」生まれる現 で考察する。		
	図画工作	科学習指導研究a	表す活動究をおこ	, 美術, 工芸 なう。また,	の領域から研究	テーマや題材を を通して,教材	をす活動,工作に と設定し,作品研 す研究や技法研究		
	図画工作	科学習指導研究b	表す活動 究をおこ	, 美術, 工芸 なう。また,	の領域から研究	テーマや題材を を通して,教材	をす活動,工作に と設定し,作品研 す研究や技法研究 なり組む。		
	体育科学	習指導研究a	いて解説 研究の収 味関心の Polar社集 モニタリ	・演習を行う、集方ななで、集あるからないでは、デールでは、デールでは、デールでは、変習を	。研究課題とな 検索の仕方につい ーツ関連の国内か - トモニタを装着 タの収集や得られ	る問題の所在をいても解説し、 いても解説し、外の文献講読を いたがら活動 れたデータを終	中の身体情報を		

		授	 業	科	B	の	概	要		
(孝	枚育学部学校教育 教員	養成課程	(夜間))					T.		
	科目 区分	授業科目の名称			講義等の内容					
		体育科学習	才指導研究b	いて解説 康・スポット ない たデータ	・演習を行う。 ーツ科学に関 。また、動作 を用いて、実 の読み取りや	運動やスポーツする研究のアンク解析ソフトや映像 際に運動場面での 青報処理について	ノの動作を分析 ケートを作成す 象分析ソフト、 Oデータ収集を て体験的な学習	ための手法につける またい できない できない できない できない できない できない できない できな		
		課題研究I		卒 材格に 考 強 の が と が は か と き が は か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で ま か と き で か と き で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で						
		課題研究II		適宜進捗: 通して自	究を進める。 ハや指導・助言を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
学村	交図書館司書教諭資 格取得科目	学校経営と学校図書館		や経緯かする。実に解説する。 学生が学れ	ら、学校図書6 践等から具体で る。 校図書館の意 ジできるよう	館の意義や理念、 的な学校図書館紹 義や経営について	現状や今後の 経営や司書教証 で理解し、豊か が果たすべき	ずる。歴史的背景 か課題を明らかに 前の職務について いな学校図書館像 な役割や学校図書		
		学校図書館	育メディアの構成	校図書館にいた。 校図書館にいた。 では、学校 育成を図 ディアのき を、教科	の機能を発揮化 構成館を発揮化 ることを を を は を は を を 性 と ・ 特 資 と ・ 特 管 と ・ 特 管 と ・ 特 管 と ・ 特 と り た う に う に う に う に う に う に う に う に う に う	するためには、十 されていなけれに アの構成・組織化 る目的として行う 選択・収集からそ . PCスライドの明	一分な学校図書でない。それではない。それではない。それでは、ではののという。の組織化と記るではといる。	異及び実務能力の 学校図書館メ		
		学習指導と	: 学校図書館	存在か解 力を育成	説する。学校 しているのか、 場で活用でき	図書館が、教科の 、小中学校で実際)学習活動の中 祭に行った授業	がいかに重要なって、どのような を例を紹介する。 と習などの実習も		
		読書教育と	: 図書館	のにえ授・応明・義・る。 ・を業子じで学や生かのどたき校可涯 ・では、を変えるのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	可能性を考のない。可能性を考例なまる。 ではませいでは、 ではませいでする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 できる。	. 豊かな学校図書 紹介しながら講 めぐる状況を理 ができるように、 学を 変を探り、 学を えることができる	書館を作ること とし、また、ク ないまた、ク ない。学校図書 を図書館はおい ないますべき役割 ないますが、またすべきである。	バループ討議で考 書館が発達段階に - ビスについて説 ける読書教育の意 別について理解す		
		情報メディ	アの活用	用方法を 法 法 技 後 後 後 後 き で が に だ に だ に に に に に に に に に に に よ に に よ く に に よ く に に よ く に に よ ら に に よ ら に に に と う に に に と う に に と う に に と う に に と う に に と う に に と う に に と に と	理解する。すれで学んだうえ、 で学んだうえ、 習得する。 イアの特性,	なわち,情報を収 で,コンテンツを その教育利用につ 舌用を支援する力	双集し,分析す と作成し公開す ○いての方法と	こついて、その活 一る際に必要な手 一る方法について ・制限、児童生徒 幸義し、演習を通		

	授	業	科	目	の	概	要			
(教育学部学校教育教員養成課程 (夜間))										
科目 区分	授業	 き科目の名称		講義等の内容						
卒業研究	卒業研究		だし, は作 研究指。 各 も り も り も り も り も り も り も り も り も り も	研究計画を実行し、学術論文を執筆することができるようになる。ただし、実技に関する分野においては、卒業論文に相当する演奏若しくは作曲又は制作ができるようになることとする。 研究指導を受けながら、各自の研究テーマに基づき、卒業論文の執筆を行う。ただし、実技に関する分野においては、指導を受けながら、各自のテーマに基づき演奏若しくは作曲又は制作するものとする。 指導教員による指導・助言に従い、卒業論文執筆または卒業論文執筆に相当する演奏若しくは作曲又は制作を計画的に行うこと。						

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようと する場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。